金沢城史料叢書15
金沢城公園整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書6

金　沢　城　跡

—二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓Ⅱ—

2012

石川県金沢城調査研究所

金沢城跡 —二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓Ⅱ— 二〇一二 石川県金沢城調査研究所

金沢城史料叢書15
金沢城公園整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書6

金　沢　城　跡

—二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓Ⅱ—

2012

石川県金沢城調査研究所

例　言

1．本書は、石川県金沢市丸の内地内に所在する金沢城跡（二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓）の埋蔵文化財調査報告書（第２分冊・Ⅱ）である。

2．本書では、二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓に係る調査のうち、下層遺構調査及び出土遺物について報告する。上面遺構調査及び石垣解体調査については第１分冊・Ⅰにおいて報告した。

3．調査原因は金沢城址公園整備事業（当時）であり、同事業を所管する石川県土木部公園緑地課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4．調査は、平成９年度は石川県立埋蔵文化財センターが、平成10・11・13～16年度は石川県教育委員会の委託を受けた財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施した。報告書作成・刊行は、石川県金沢城調査研究所が担当した。

5．調査期間及び担当は次の通りである。

現地調査

平成９年度

期間　　平成９年４月21日～同９年12月25日
担当部署　石川県立埋蔵文化財センター　調査第三課
担当者　　栃木英道（調査専門員）、兼田康彦（講師）

平成10年度

期間　　平成10年６月29日～平成11年３月31日
担当部署　財団法人石川県埋蔵文化財センター　調査第４課
担当者　　北野博司（課長）、三浦ゆかり（主任主事）、滝川重徳（主事）、端　猛（主事）、熊谷葉月（主事）、土田友信（講師）、湯川善一（嘱託）

平成11年度

期間　　平成11年４月１日～平成12年３月７日
担当部署　財団法人石川県埋蔵文化財センター　調査第４課
担当者　　北野博司（課長）、滝川重徳（主事）、端　猛（主事）、熊谷葉月（主事）、土田友信（講師）、湯川善一（嘱託）

出土品整理

平成11・13～16年度　財団法人石川県埋蔵文化財センター　企画部整理課

6．報告書は、滝川重徳（調査研究専門員）、布尾幸恵（嘱託）、多間　聖（嘱託）が作成し、執筆は第４章を除き滝川が行った。なお、第４章第１～３節は株式会社パレオ・ラボ（松葉礼子・黒沼保子・藤根久・米田恭子・竹原弘展）、第４節は株式会社九州テクノリサーチ（大澤正己）による分析報告である。また同章第５節については、西山要一氏（奈良大学文学部）より玉稿を賜った。

7．調査に関する記録・遺物は石川県金沢城調査研究所で保管している。

8．調査・報告に際して、次の方々から指導・助言並びに協力を賜った。

石川県立図書館　石川県立歴史博物館　金沢市立玉川図書館　学習院大学史料館
東京大学総合図書館　財団法人前田育徳会　文化庁記念物課　吉川弘文館
金森安孝　北浦　勝　北垣聰一郎　北島俊朗　北野博司　楠　正勝　久保智康　沢田正昭
庄田知充　千田嘉博　善端　直　田中哲雄　田村昌宏　成瀬晃司　新谷洋二　橋本澄夫
平井　聖　藤澤良祐　堀内秀樹　松尾信裕　森　毅　森島康雄　森田　守　横山隆昭
吉岡康暢（五十音順、敬称略）

凡　例

1．本書の水平基準は海抜高を表し、東京湾平均平面水準（T.P.）である。

2．方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の日本測地系第Ⅶ系に準拠した。

3．石垣については、金沢城内で統一したID番号が付けられており、それを採用した。

4．遺構名は次の略号を使用した。

SB：建物　SD：溝　SK：土坑　P：柱穴・小穴　SX：不定形大型遺構

なお、番号付けは調査区単位で行った。

5．遺物名は次の略号を使用した。

P：陶磁器　G：ガラス容器　T：瓦　W：木製品　M：金属製品　S：石製品

6．遺物実測図図版（第45図～第142図）・遺物写真図版の遺物番号は、明朝体が実測番号、ゴチック体が本書報告番号を示す。

7．遺物番号は、本文・観察表・遺物実測図図版・写真図版において共通する。

8．遺構・遺物実測図の縮尺に関しては各図中に示した。

9．引用参考文献は、原則的に一括して最後に掲載しているが、第4章は節毎に記載している。

目　次

第1章　調査の概要 …… (滝川) … 1
第1節 概要 …… 1
第2節 経緯と経過 …… 1
第3節 歴史的環境 …… 1
1. 金沢城と周辺の歴史 …… 1
2. 金沢城及び二ノ丸内堀・五十間長屋・橋爪門続櫓の沿革 …… 2
第4節 上面遺構・石垣解体調査の概要 …… 2
第2章　下層遺構の調査 …… (滝川) … 31
第1節 橋爪一ノ門・内堀橋北詰下層遺構 …… 31
1. 概要 …… 31
2. 中世～近世初期の遺構 …… 31
3. 古代の遺構 …… 33
第2節 五十間長屋台下層遺構 …… 33
1. 概要 …… 33
2. 第Ⅴ面の遺構 …… 34
3. 第Ⅵ面の遺構 …… 35
第3章　遺物 …… (滝川) … 62
第1節 概要 …… 62
第2節 陶磁器・ガラス容器 …… 62
1. 概要 …… 62
2. 出土地区・地点別の様相(陶磁器) …… 62
3. ガラス容器 …… 69
第3節 瓦 …… 70
1. 概要 …… 70
2. 出土地区・地点別の様相 …… 70
第4節 木製品 …… 73
1. 概要 …… 73
2. 種類別の様相 …… 73
第5節 金属製品 …… 75
1. 概要 …… 75
2. 種類別の様相 …… 75
第6節 石製品 …… 79
1. 概要 …… 79
2. 種類別の様相 …… 80
第4章　自然科学的調査 …… 225
第1節 金沢城跡出土橋脚と櫂干親柱の樹種同定 …… (松葉) … 225
第2節 金沢城跡五十間長屋等出土木材の樹種同定 …… (黒沼) … 227
第3節 金沢城跡五十間長屋等出土漆器の塗膜分析 …… (藤根・米田・竹原) … 232
第4節 クサビ・カスガイの金属学的調査 …… (㈱九州テクノリサーチ 営業技術部・TACセンター) … 240
第5節 金沢城跡出土金属製品の組成成分分析 …… (西山) … 257
第5章　総括 …… (滝川) … 271
第1節 遺構の特徴 …… 271
1. 旧地形 …… 271
2. 遺構の性格 …… 271
第2節 遺物の特徴 …… 273
1. 遺物組成 …… 273
2. 陶磁器組成 …… 274
3. 土師器皿の様相 …… 276

引用・参考文献 …… 285
報告書抄録 …… 288

写真図版

図版目次

第1図 金沢城跡の位置と周辺の遺跡 …… 3
第2図 金沢城絵図 …… 5
第3図 金沢城跡発掘調査位置図(～平成23年度) …… 6
第4図 調査区全体案内図 …… 9
第5図 内堀(西部・東部)平面図 …… 11
第6図 内堀(中央部)・菱櫓・五十間長屋・
橋爪門続櫓遺構図 …… 13
第7図 石垣面名称・解体・修築範囲 …… 15
第8図 石垣立面・石材番号図1 ホ面(2140N) …… 16
第9図 石垣立面・石材番号図2 ニ面(2140E) …… 17
第10図 石垣立面・石材番号図3 オ(2140W)・
ル(2140S)・ヌ(2130W)・ワ面(2130S) …… 18
第11図 石垣立面・石材番号図4 ハ面(2130N) …… 19
第12図 石垣立面・石材番号図5 ロ面南(2120E) …… 20
第13図 石垣立面・石材番号図6 ロ面中(2120E) …… 21
第14図 石垣立面・石材番号図7 ロ面北(2120E) …… 22
第15図 石垣立面・石材番号図8 チ・ワ面北(2120W) … 23
第16図 石垣立面・石材番号図9 チ・ワ面南(2120W) … 24
第17図 石垣立面・石材番号図10
イ(2110N)・ヘ面(2110E) …… 25
第18図 石垣立面・石材番号図11 ト面(2110S) …… 26
第19図 五十間長屋台東西土層断面図 SP9ライン …… 27
第20図 五十間長屋台東西土層断面図 SP10ライン …… 29
第21図 二ノ丸内堀調査区 下層遺構全体図 …… 38
第22図 二ノ丸内堀調査区 下層遺構位置図 …… 39
第23図 内堀東部南岸土層断面図1 …… 40
第24図 内堀東部南岸土層断面図2 …… 41
第25図 橋爪一ノ門下層遺構図1 SK01～03 …… 42
第26図 橋爪一ノ門下層遺構図2
SB01・02 P01～03 SD01 …… 43
第27図 橋爪一ノ門下層遺構図3 SB01 …… 44
第28図 橋爪一ノ門下層遺構図4 SB02 P04・05 SX02 … 45
第29図 内堀橋北詰下層遺構図 SX01 …… 46
第30図 五十間長屋台調査区 下層遺構全体図 …… 47
第31図 五十間長屋台調査区
第Ⅵ面遺構位置図・遺構図 …… 48
第32図 五十間長屋台調査区 第Ⅵ面遺構位置図 …… 49
第33図 五十間長屋台南北土層断面図1－南 …… 50
第34図 五十間長屋台南北土層断面図1－北 …… 51
第35図 五十間長屋台南北土層断面図2－南 …… 52
第36図 五十間長屋台南北土層断面図2－北 …… 53
第37図 五十間長屋台南北土層断面図3－南 …… 54
第38図 五十間長屋台南北土層断面図3－北 …… 55
第39図 五十間長屋台第Ⅵ面遺構図1
SD01 sp1付近 P01～04 SK03・04 …… 56
第40図 五十間長屋台第Ⅵ面遺構図2
SD01 sp2付近 SX01・02 SD02 …… 57
第41図 五十間長屋台第Ⅵ面遺構図3
SD01 sp3付近 SK01 …… 58
第42図 五十間長屋台第Ⅵ面遺構図4
SD01 sp5・6付近 …… 59
第43図 五十間長屋台第Ⅵ面遺構図5
調査区南端 P05・06 …… 60
第44図 土師器皿の器形・胎土分類 …… 83
第45図 出土遺物実測図 陶磁器1 …… 84
第46図 出土遺物実測図 陶磁器2 …… 85
第47図 出土遺物実測図 陶磁器3 …… 86
第48図 出土遺物実測図 陶磁器4 …… 87
第49図 出土遺物実測図 陶磁器5 …… 88
第50図 出土遺物実測図 陶磁器6 …… 89
第51図 出土遺物実測図 陶磁器7 …… 90
第52図 出土遺物実測図 陶磁器8 …… 91
第53図 出土遺物実測図 陶磁器9 …… 92
第54図 出土遺物実測図 陶磁器10 …… 93
第55図 出土遺物実測図 陶磁器11 …… 94
第56図 出土遺物実測図 陶磁器12 …… 95
第57図 出土遺物実測図 陶磁器13 …… 96
第58図 出土遺物実測図 陶磁器14 …… 97
第59図 出土遺物実測図 陶磁器15 …… 98
第60図 出土遺物実測図 陶磁器16 …… 99
第61図 出土遺物実測図 陶磁器17 …… 100
第62図 出土遺物実測図 陶磁器18 …… 101
第63図 出土遺物実測図 陶磁器19 …… 102
第64図 出土遺物実測図 陶磁器20 …… 103
第65図 出土遺物実測図 陶磁器21 …… 104
第66図 出土遺物実測図 陶磁器22 …… 105
第67図 出土遺物実測図 ガラス容器 …… 106
第68図 軒丸・軒平・軒桟・腰瓦分類 …… 107
第69図 出土遺物実測図 瓦1 …… 108
第70図 出土遺物実測図 瓦2 …… 109
第71図 出土遺物実測図 瓦3 …… 110
第72図 出土遺物実測図 瓦4 …… 111
第73図 出土遺物実測図 瓦5 …… 112
第74図 出土遺物実測図 瓦6 …… 113
第75図 出土遺物実測図 瓦7 …… 114
第76図 出土遺物実測図 瓦8 …… 115
第77図 出土遺物実測図 瓦9 …… 116
第78図 出土遺物実測図 瓦10 …… 117
第79図 出土遺物実測図 瓦11 …… 118
第80図 出土遺物実測図 瓦12 …… 119
第81図 出土遺物実測図 瓦13 …… 120
第82図 出土遺物実測図 瓦14 …… 121
第83図 出土遺物実測図 瓦15 …… 122
第84図 出土遺物実測図 瓦16 …… 123
第85図 出土遺物実測図 瓦17 …… 124
第86図 出土遺物実測図 瓦18 …… 125
第87図 出土遺物実測図 瓦19 …… 126
第88図 出土遺物実測図 瓦20 …… 127
第89図 出土遺物柘木 瓦 刻印1 …… 128
第90図 出土遺物柘木 瓦 刻印2 …… 129
第91図 出土遺物柘木 瓦 刻印3 …… 130
第92図 出土遺物柘木 瓦 刻印4 …… 131
第93図 出土遺物柘木 瓦 瓦当1 …… 132
第94図 出土遺物柘木 瓦 瓦当2 …… 133
第95図 出土遺物実測図 木製品1 …… 134
第96図 出土遺物実測図 木製品2 …… 135
第97図 出土遺物実測図 木製品3 …… 136
第98図 出土遺物実測図 木製品4 …… 137
第99図 出土遺物実測図 木製品5 …… 138
第100図 出土遺物実測図 木製品6 …… 139
第101図 出土遺物実測図 木製品7 …… 140
第102図 出土遺物実測図 木製品8 …… 141
第103図 出土遺物実測図 木製品9 …… 142
第104図 出土遺物実測図 木製品10 …… 143
第105図 出土遺物実測図 木製品11 …… 144
第106図 出土遺物実測図 木製品12 …… 145
第107図 出土遺物実測図 木製品13 …… 146
第108図 出土遺物実測図 木製品14 …… 147
第109図 出土遺物実測図 金属製品1 …… 148
第110図 出土遺物実測図 金属製品2 …… 149
第111図 出土遺物実測図 金属製品3 …… 150
第112図 出土遺物実測図 金属製品4 …… 151
第113図 出土遺物実測図 金属製品5 …… 152
第114図 出土遺物実測図 金属製品6 …… 153
第115図 出土遺物実測図 金属製品7 …… 154
第116図 出土遺物実測図 金属製品8 …… 155
第117図 出土遺物実測図 金属製品9 …… 156
第118図 出土遺物実測図 金属製品10 …… 157
第119図 出土遺物実測図 金属製品11 …… 158
第120図 出土遺物実測図 金属製品12 …… 159

図版目次 **頁**

第121図 出土遺物実測図 金属製品13 …… 160
第122図 出土遺物実測図 金属製品14 …… 161
第123図 出土遺物実測図 金属製品15 …… 162
第124図 出土遺物実測図 金属製品16 …… 163
第125図 出土遺物実測図 金属製品17 …… 164
第126図 出土遺物実測図 金属製品18 …… 165
第127図 出土遺物実測図 金属製品19 …… 166
第128図 出土遺物実測図 金属製品20 …… 167
第129図 出土遺物実測図 金属製品21 …… 168
第130図 出土遺物実測図 石製品1 …… 169
第131図 出土遺物実測図 石製品2 …… 170
第132図 出土遺物実測図 石製品3 …… 171
第133図 出土遺物実測図 石製品4 …… 172
第134図 出土遺物実測図 石製品5 …… 173
第135図 出土遺物実測図 石製品6 …… 174
第136図 出土遺物実測図 石製品7 …… 175
第137図 出土遺物実測図 石製品8 …… 176
第138図 出土遺物実測図 石製品9 …… 177
第139図 出土遺物実測図 石製品10 …… 178
第140図 出土遺物実測図 石製品11 …… 179
第141図 五十間長屋台下層出土主要木製品1 …… 180
第142図 五十間長屋台下層出土主要木製品2・
金属製品・石製品 …… 181
第143図 敷金等寸法分布 …… 182
第144図 観察表凡例
(陶磁器・瓦胎土表記 瓦・敷金計測部位) …… 184
第145図 内堀橋橋脚・欄干親柱組織顕微鏡写真 …… 226
第146図 金沢城跡五十間長屋等出土木材の
光学顕微鏡写真(1) …… 230
第147図 金沢城跡五十間長屋等出土木材の
光学顕微鏡写真(2) …… 231
第148図 塗膜表面赤外分光スペクトル図 …… 236
第149図 金沢城跡五十間長屋等出土漆器の
塗膜構造(a)と反射電子像(b)(1) …… 237
第150図 金沢城跡五十間長屋等出土漆器の
塗膜構造(a)と反射電子像(b)(2) …… 238
第151図 金沢城跡五十間長屋等出土漆器の
塗膜構造(a)と反射電子像(b)(3) …… 239
第152図 出土地点・出土状況 …… 245
第153図 供試材の外観写真 …… 246
第154図 クサビのマクロ・ミクロ組織 …… 247
第155図 クサビの厚み方向(横断面)の硬度測定結果 … 248
第156・ クサビの鉄中非金属介在物のコンピューター
第157図 プログラムによる高速定性分析結果(1)(2)…… 249
第158図 クサビの鉄中非金属介在物の
特性X線像と定量分析値(1) …… 250
第159図 クサビの鉄中非金属介在物の
特性X線像と定量分析値(2) …… 251
第160図 カスガイのマクロ・ミクロ組織 …… 252
第161図 カスガイの厚み方向(横断面)の硬度測定結果‥ 253
第162・ カスガイの鉄中非金属介在物のコンピューター
第163図 プログラムによる高速定性分析結果(1)(2) …… 254
第164図 カスガイの鉄中非金属介在物の
特性X線像と定量分析値(1) …… 255
第165図 カスガイの鉄中非金属介在物の
特性X線像と定量分析値(2) …… 256
第166図 成分分析グラフ1 …… 262
第167図 成分分析グラフ2 …… 263
第168図 成分分析グラフ3 …… 264
第169図 成分分析グラフ4 …… 265
第170図 成分分析グラフ5 …… 266
第171図 成分分析グラフ6 …… 267
第172図 金属製品X線透過写真 …… 268
第173図 分析試料実測図 木製品・漆器 …… 269
第174図 分析試料実測図 金属製品 …… 270

図版目次 **頁**

第175図 遺構変遷略図 …… 272
第176図 土師器皿の変遷 …… 282
第177図 土師器皿口径分布図 …… 284

表目次 **頁**

第1表 周辺遺跡地名表 …… 4
第2表 金沢城跡発掘調査一覧1 …… 7
第3表 金沢城跡発掘調査一覧2 …… 8
第4表 主要下層遺構一覧(上)
遺構面・地山面の標高(下) …… 61
第5表 鎹・楔形敷金(非実測分)一覧表 …… 183
第6表 出土遺物観察表 陶磁器1 …… 185
第7表 出土遺物観察表 陶磁器2 …… 186
第8表 出土遺物観察表 陶磁器3 …… 187
第9表 出土遺物観察表 陶磁器4 …… 188
第10表 出土遺物観察表 陶磁器5 …… 189
第11表 出土遺物観察表 陶磁器6 …… 190
第12表 出土遺物観察表 陶磁器7 …… 191
第13表 出土遺物観察表 陶磁器8 …… 192
第14表 出土遺物観察表 陶磁器9 …… 193
第15表 出土遺物観察表 陶磁器10 …… 194
第16表 出土遺物観察表 陶磁器11 …… 195
第17表 出土遺物観察表 陶磁器12・ガラス容器‥ 196
第18表 出土遺物観察表 瓦1 …… 197
第19表 出土遺物観察表 瓦2 …… 198
第20表 出土遺物観察表 瓦3 …… 199
第21表 出土遺物観察表 瓦4 …… 200
第22表 出土遺物観察表 瓦5 …… 201
第23表 出土遺物観察表 瓦6 …… 202
第24表 出土遺物観察表 瓦7 …… 203
第25表 出土遺物観察表 瓦8 …… 204
第26表 出土遺物観察表 瓦9 拓本刻印 …… 205
第27表 出土遺物観察表 瓦10 拓本刻印 …… 206
第28表 出土遺物観察表 瓦11 拓本瓦当 …… 207
第29表 出土遺物観察表 瓦12 拓本瓦当 …… 208
第30表 出土遺物観察表 木製品1 …… 209
第31表 出土遺物観察表 木製品2 …… 210
第32表 出土遺物観察表 木製品3 …… 211
第33表 出土遺物観察表 木製品4 …… 212
第34表 出土遺物観察表 木製品5 …… 213
第35表 出土遺物観察表 金属製品1 …… 214
第36表 出土遺物観察表 金属製品2 …… 215
第37表 出土遺物観察表 金属製品3 …… 216
第38表 出土遺物観察表 金属製品4 …… 217
第39表 出土遺物観察表 金属製品5 …… 218
第40表 出土遺物観察表 金属製品6 …… 219
第41表 出土遺物観察表 金属製品7 …… 220
第42表 出土遺物観察表 金属製品8 …… 221
第43表 出土遺物観察表 金属製品9 …… 222
第44表 出土遺物観察表 石製品1 …… 223
第45表 出土遺物観察表 石製品2 …… 224
第46表 金沢城跡出土種別と
欄干親柱の樹種同定結果 …… 225
第47表 樹種同定結果一覧 …… 227
第48表 器種別集計 …… 229
第49表 塗膜分析を行った漆器試料とその詳細‥ 232
第50表 主な無機顔料等を含む塗膜のX線分析‥ 233
第51表 生漆の赤外線吸収位置とその強度…… 233
第52表 漆器試料の塗膜構造と材料…… 233
第53表 供試材の履歴と調査項目 …… 245
第54表 供試材の化学組成(メタル定量)…… 245
第55表 金属製品試料一覧 …… 257
第56表 金沢城跡出土金属製品の成分分析表1・ 260
第57表 金沢城跡出土金属製品の成分分析表2・ 261
第58表 陶磁器組成表 …… 275
第59表 土師器皿組成表 …… 279

写真図版目次

写真図版1 ……二ノ丸内堀調査区1
写真図版2 ……二ノ丸内堀調査区2・五十間長屋台調査区1
写真図版3 ……五十間長屋台調査区2
写真図版4 ……五十間長屋台調査区3
写真図版5 ……五十間長屋台調査区4
写真図版6 ……五十間長屋台調査区5
写真図版7 ……五十間長屋台調査区6
写真図版8 ……出土遺物　陶磁器1
写真図版9 ……出土遺物　陶磁器2
写真図版10 ……出土遺物　陶磁器3
写真図版11 ……出土遺物　陶磁器4
写真図版12 ……出土遺物　陶磁器5
写真図版13 ……出土遺物　陶磁器6
写真図版14 ……出土遺物　陶磁器7
写真図版15 ……出土遺物　陶磁器8
写真図版16 ……出土遺物　陶磁器9
写真図版17 ……出土遺物　陶磁器10
写真図版18 ……出土遺物　陶磁器11
写真図版19 ……出土遺物　陶磁器12
写真図版20 ……出土遺物　陶磁器13
写真図版21 ……出土遺物　陶磁器14
写真図版22 ……出土遺物　陶磁器15
写真図版23 ……出土遺物　陶磁器16
写真図版24 ……出土遺物　陶磁器17
写真図版25 ……出土遺物　陶磁器18
写真図版26 ……出土遺物　陶磁器19
写真図版27 ……出土遺物　陶磁器20
写真図版28 ……出土遺物　ガラス容器
写真図版29 ……出土遺物　瓦1
写真図版30 ……出土遺物　瓦2
写真図版31 ……出土遺物　瓦3
写真図版32 ……出土遺物　瓦4
写真図版33 ……出土遺物　瓦5
写真図版34 ……出土遺物　瓦6
写真図版35 ……出土遺物　瓦7
写真図版36 ……出土遺物　瓦8
写真図版37 ……出土遺物　瓦9
写真図版38 ……出土遺物　瓦10
写真図版39 ……出土遺物　瓦11
写真図版40 ……出土遺物　瓦12
写真図版41 ……出土遺物　瓦13
写真図版42 ……出土遺物　瓦14
写真図版43 ……出土遺物　瓦15　拓本刻印
写真図版44 ……出土遺物　瓦16　拓本刻印
写真図版45 ……出土遺物　瓦17　拓本瓦当
写真図版46 ……出土遺物　瓦18　拓本瓦当
写真図版47 ……出土遺物　木製品1
写真図版48 ……出土遺物　木製品2
写真図版49 ……出土遺物　木製品3
写真図版50 ……出土遺物　木製品4
写真図版51 ……出土遺物　木製品5
写真図版52 ……出土遺物　木製品6
写真図版53 ……出土遺物　木製品7
写真図版54 ……出土遺物　木製品8
写真図版55 ……出土遺物　木製品9
写真図版56 ……出土遺物　木製品10
写真図版57 ……出土遺物　木製品11
写真図版58 ……出土遺物　木製品12
写真図版59 ……出土遺物　金属製品1
写真図版60 ……出土遺物　金属製品2
写真図版61 ……出土遺物　金属製品3
写真図版62 ……出土遺物　金属製品4
写真図版63 ……出土遺物　金属製品5
写真図版64 ……出土遺物　金属製品6
写真図版65 ……出土遺物　金属製品7
写真図版66 ……出土遺物　金属製品8
写真図版67 ……出土遺物　金属製品9
写真図版68 ……出土遺物　金属製品10
写真図版69 ……出土遺物　金属製品11
写真図版70 ……出土遺物　金属製品12
写真図版71 ……出土遺物　金属製品13
写真図版72 ……出土遺物　金属製品14
写真図版73 ……出土遺物　金属製品15
写真図版74 ……出土遺物　金属製品16
写真図版75 ……出土遺物　金属製品17
写真図版76 ……出土遺物　金属製品18
写真図版77 ……出土遺物　金属製品19
写真図版78 ……出土遺物　石製品1
写真図版79 ……出土遺物　石製品2
写真図版80 ……出土遺物　石製品3
写真図版81 ……出土遺物　石製品4
写真図版82 ……出土遺物　石製品5
写真図版83 ……出土遺物　石製品6
写真図版84 ……出土遺物　石製品7
写真図版85 ……出土遺物　石製品8
写真図版86 ……出土遺物　石製品9・木製品赤外線写真
写真図版87 ……土師器皿・石製品　調整・加工痕
写真図版88 ……土師器皿・瓦胎土

第１章　調査の概要

第１節　概要

本書は、平成 22 年度に刊行した『金沢城跡−二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓Ⅰ−』に後続する第２分冊であり、下層遺構の調査と出土遺物について報告するものである。本章では第１分冊の内容のうち、調査の経緯・経過、歴史的環境、調査の成果等について概略を記した。なお第１〜20 図・第１〜３表は上記第１分冊に掲載したもので、歴史的環境（第１図）・城絵図（第２図）・金沢城内発掘調査（第３図）・本調査区概要（第４〜７図）・石垣立面（第８〜18 図）・長屋台断面（第 19・20 図）に係る基本的な図表であるため、一部追加・編集・修正を施し再録した。

第２節　経緯と経過

本調査の原因は、金沢城公園整備事業であり、同事業を所管する石川県土木部公園緑地課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

平成９年度の段階では、当時半ば以上が埋没していた二ノ丸内堀と、明治 14 年（1881）に焼失した菱櫓を復元・整備する計画であったが、平成 10 年５月には菱櫓に連続する五十間長屋・橋爪門続櫓まで復元整備する方針が決定された。またこれらの上面遺構のみならず、櫓（長屋）台石垣の解体も併せて実施することとなった。

発掘調査は平成９〜11 年度にかけて実施された。平成９年度は石川県立埋蔵文化財センター、平成 10・11 年度は（財）石川県埋蔵文化財センターが調査主体である。平成９年度は二ノ丸内堀全体と菱櫓上面、平成 10 年度は五十間長屋・橋爪門続櫓上面と石垣解体、平成 11 年度は石垣解体と長屋台下層の他、二ノ丸内堀西部北岸等補足調査や三ノ丸第３次等付帯工事に係る調査がそれぞれ対象となった。出土品整理は（財）石川県埋蔵文化財センターが平成 11 年度から実施し、途中中断はあったが、平成 16 年度で完了した。整理後の出土品収納箱数は約 460 箱であった。

第３節　歴史的環境

１．金沢城と周辺の歴史（第１図・第１表）

本項では、とくに近世初期までの様相について、概略を記すこととする。

金沢城は、犀川・浅野川に挟まれ、南東の山地帯より舌状に伸びる河成段丘（小立野台地）の先端部分に立地する。城は段丘起源の崖・平坦面を巧みに利用して築かれたことが推察される。

金沢城周辺の近世以前の遺跡としては、金沢城下町遺跡前田氏（長種系）屋敷跡地点（大手町遺跡）・同広坂地点等が知られている。広坂地点では８世紀代の瓦が出土しており、寺院の存在が確実視される。同地点では中世においても堀や礎石建物等の遺構が認められる。

16 世紀中葉には、金沢城の地に金沢坊（金沢御堂・尾山御坊）が創建され、加賀地域における政治・宗教・経済の拠点となったことが知られているが、この時期に近い遺構は、上記広坂地点の他、県庁跡地等の事例を除きほとんど知られていない。金沢城の南側に位置する県庁跡地（近世には堂形と呼ばれ、米蔵・馬場等藩の施設があった城の外縁部）では、共伴遺物に恵まれていないものの、館ないし寺院の区画施設と推定される溝・土塁が検出されている。

天正８年（1580）に金沢坊は陥落し、織田信長政権の城郭として改められることとなる。天正 11 年（1583）には前田利家が入城し、以後金沢は加賀前田家の本城・城下町として発展するが、この時期の遺構として確認できる事例はなお少ない。城下では慶長４年（1599）に内惣構、慶長 15 年（1610）に外惣構が構築されるが、城下で広く遺構が確認されるようになるのはこれ以後元和年間頃（1615〜

1624）のことである。天正～慶長期の城下については、信頼できる文献史料も少なく、実態解明が大きな課題となっている。

2．金沢城及び二ノ丸内堀・五十間長屋・橋爪門続櫓の沿革

標記の沿革については、主要事項及び本書の内容に関連する事項を摘出し、下記に要点を記した。

・天文 15 年（1546）　本願寺末寺として金沢坊（金沢御堂・尾山御坊）設置
・天正　8 年（1580）　佐久間盛政が入城、土塁や堀を整備
・天正 11 年（1583）　前田利家が入城、以後前田家が 14 代にわたり統治
・天正 14 年（1586）　天守構築
・慶長　7 年（1602）　落雷により天守焼失
・元和　6 年（1620）　本丸焼失、翌年にかけ本丸北西造成、御殿などを再建
・寛永　8 年（1631）　寛永の大火、城内大部分が延焼
　二ノ丸内堀、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓等創建
・寛文　8 年（1668）　二ノ丸北面・菱櫓下石垣修築、菱櫓・五十間長屋一部改築か
・宝暦　9 年（1759）　宝暦の大火、城内大部分が延焼、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓焼失
・宝暦 13 年（1763）　前年度崩壊した五十間長屋台石垣修築
・天明　7 年（1787）　菱櫓再建
・天明　8 年（1788）　橋爪門続櫓台石垣修築、五十間長屋・橋爪門続櫓修築
・文化　5 年（1808）　二ノ丸火災、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓、御殿とともに焼失
　橋爪門続櫓台石垣修築
・文化　6 年（1809）　菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓再建
・明治　4 年（1871）　兵部省（のち陸軍省）の所轄となる
・明治 14 年（1881）　菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓焼失
・昭和 24 年（1949）　戦後、金沢大学の敷地として利用
・平成　8 年（1996）　石川県が土地を取得し、金沢城公園として整備を開始
・平成 20 年（2008）　国史跡に指定

第４節　上面遺構・石垣解体調査の概要（第４～20 図）

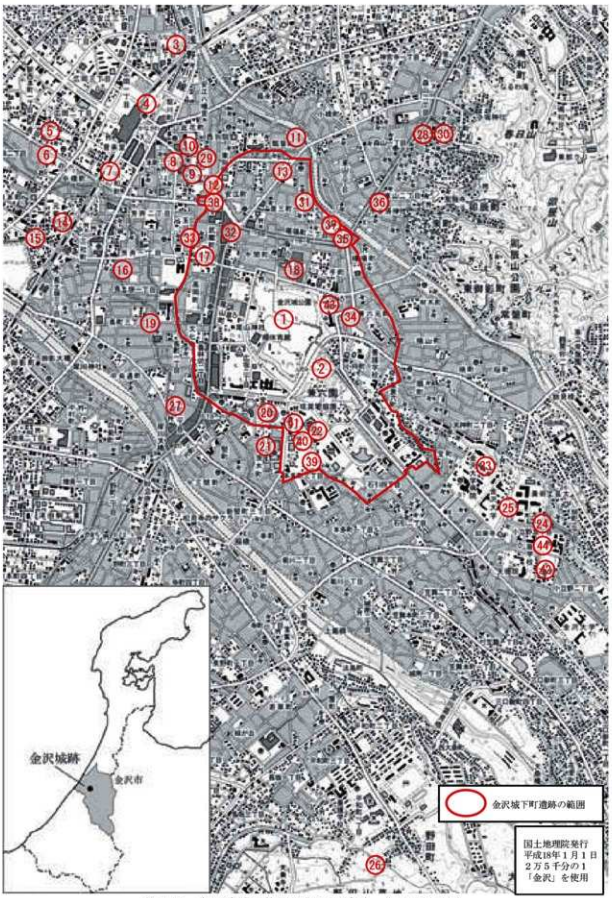
二ノ丸・鶴ノ丸と三ノ丸を画する二ノ丸内堀の調査では、明治期以後の埋土が除去され、延長約 340 mに達する全容が検出された。また二ノ丸と三ノ丸とを結ぶ内堀橋[1]の基礎構造の変遷等が判明した。内堀橋周辺では近世段階の堆積土が遺存しており、架橋に係る儀礼により橋脚付近に置かれたと考えられる鏡・刀・銅銭の他、建築部材等の出土遺物がある。

菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓台は南北約 100m、平面積約 920 ㎡を測る。上面の調査では、明治 14 年（1881）に焼失した建物の礎石が確認され、絵図との照合等から、基礎構造の在り方やおおよその柱位置・柱筋が判明した。また菱櫓・五十間長屋北半では、宝暦９年（1759）の大火以前に遡る礎盤（根石）が検出された。これらは寛文８年（1668）櫓台修築後の建物基礎と判断され、近世前期の櫓・長屋の主たる基礎が掘立柱であったことが判明した。

櫓（長屋）台石垣の解体調査では、寛永８年（1631）構築・寛文８年（1668）修築・宝暦 13 年（1763）修築・文化５年（1808）修築の４つの段階について、範囲及び盛土・裏込め等を含む内部構造が確認され、郭整備と一体化した櫓（長屋）台の造成状況や、その後の修築過程が明らかになった。また石垣については、上記の構築・修築時期の違いに、内堀側＝粗加工石積、二ノ丸側＝切石積の別が加わわり、極めて変化に富んだ内容となっており、その特徴に関する多くの所見が得られた。

註

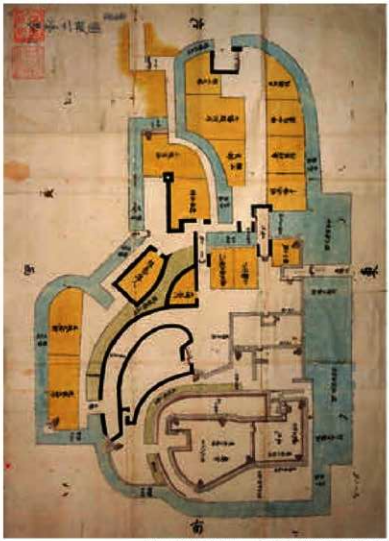
1）当該橋については特定の名称が不明確であり、報告書Ⅰ・Ⅱでは「内堀橋」と呼称することとした。



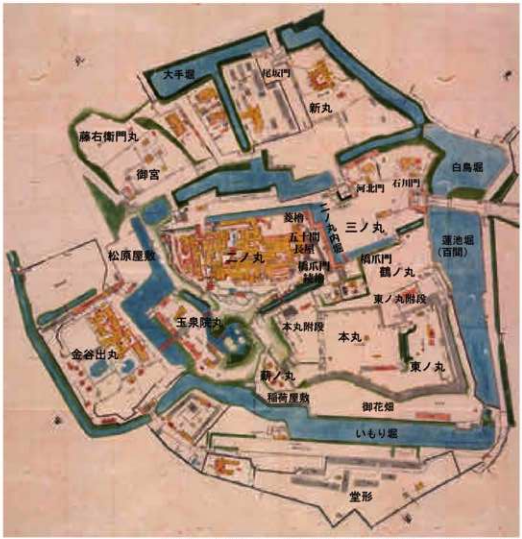
第1図　金沢城跡の位置と周辺の遺跡　(S=1/25,000)

第１表　周辺遺跡地名表

No.	遺跡名	調査年度	遺跡の特徴		文献
			主要地種	特記事項	
1	金沢城跡	（別掲）	城郭	（別掲）	（別掲）
2	兼六園	（別掲）	庭園	（別掲）	（別掲）
3	久昌寺遺跡	H8（1996）・H9（1997）	寺院（墓地）	近世墓292基	増山1997 金沢市埋蔵文化財センター2004c
4	木ノ新保遺跡	H5（1993）	寺院？（墓地）→足軽組地→下級武家地、町人地、百姓地		金沢市埋蔵文化財センター2002b （財）石川県埋蔵文化財センター2002b
5	醒ヶ井遺跡	H7（1995）～H10（1998）	町人地・下級武家地	前田氏（直之系）下屋敷	金沢市埋蔵文化財センター2001a 谷口・増山2004
6	長田町遺跡	H6（1994）	下級武家地		金沢市埋蔵文化財センター1998
7	昭和町遺跡	H5（1993）～H7（1995）	町人地・下級武家地		金沢市埋蔵文化財センター2001b・2003a・2004a・2004b
8	本町一丁目遺跡（第１次）	H2（1990）	町人地		金沢市教育委員会1995
9	本町一丁目遺跡（第２次）	H6（1994）	町人地		金沢市教育委員会1997
10	本町一丁目遺跡（第３次）	H9（1997）	町人地		金沢市埋蔵文化財センター2003c
11	弧塁町遺跡	S61（1986）	上級武家地	前田氏（主膳系）上屋敷	金沢市教育委員会1991
12	金沢城下町遺跡　安江町地点	H3（1991）～H5（1993）	町人地・中級武家地	「乾山」銘肉付出土	金沢市教育委員会1997
13	金沢城下町遺跡　彦三町地点	H11（1999）	中級武家地		金沢市埋蔵文化財センター2002
14	三社町遺跡	H3（1991）・H9（1997）	百姓地→町人地		（財）石川県埋蔵文化財センター2001・2007
15	元菊町遺跡	S62（1987）・H1（1989）	百姓地→町人地		石川県立埋蔵文化財センター1990
16	穴水町遺跡	H8（1996）	下級武家地	長氏下屋敷	金沢市埋蔵文化財センター1998
17	金沢城下町遺跡　高岡町地点	H8（1996）～H11（1999）	町人地・上級武家地・水濠		金沢市埋蔵文化財センター2001c・2003b （財）石川県埋蔵文化財センター2002d
18	金沢城下町遺跡　前田氏（長種系）屋敷跡地点	H8（1996）	町人地→上級武家地	意永以前の町屋遺構	（財）石川県埋蔵文化財センター2002a
19	長町遺跡	H8（1996）	中級武家地		金沢市埋蔵文化財センター1998
20	金沢城下町遺跡　広坂地点	H8（1996）～H12（2000） H14（2002）	上～中級武家地	調査面積広く、基準資料多数	金沢市埋蔵文化財センター2004b・2005b
21	下本多町遺跡	H4（1992）	下級武家地→上級武家地	宝暦9年（1759）大火被災～拡張料出土	金沢市埋蔵文化財センター1999
22	金沢城下町遺跡　本多上屋敷遺跡	S55（1980）	上級武家地		石川県立埋蔵文化財センター1992
23	金沢大学宝町遺跡 （医学部付属病院地点） （医学図書館地点）	H9（1997）～H14（2002） H23（2011）	中～下級武家地等	地下室多数検出	金沢大学埋蔵文化財調査センター編2000～2003
24	金沢大学宝町遺跡 （医学部保健学科地区）	H10（1998）～H11（1999） H14（2002）	中～下級武家地等		金沢大学埋蔵文化財調査センター編2000～2003
25	鉄王寺遺跡	H9（1997）・H10（1998）	寺院（墓地）・中級武家地	近世初期の区画等	（財）石川県埋蔵文化財センター2002c
26	野田山墓地	H12（2000）～H14（2002） H16（2004）～H19（2007）	墓地	藩主家の墓所を中核とした大型墓地。道路整備による移転部分の墓石調査、改修竣公調査等 H16年度より前田家墓所詳細調査。測量、試掘等実施	金沢市埋蔵文化財センター2003d
27	片町二丁目遺跡	H15（2003） H23（2011）	武家地		金沢市埋蔵文化財センター2005a
28	妙国寺門前	H15（2003）	寺院、参道		金沢市埋蔵文化財センター2006a
29	本町一丁目遺跡（第４次）	H15（2003）	町屋	近世初期の畝溝等	金沢市埋蔵文化財センター2006c
30	三宝寺前遺跡	H16（2004）	寺院、参道		金沢市埋蔵文化財センター2005c
31	金沢城下町遺跡　彦三町一丁目地点	H16（2004）	武家地		金沢市埋蔵文化財センター2007a
32	金沢城下町遺跡　下堤・青草町地点	H17（2005）	町人地		金沢市埋蔵文化財センター2007b
33	金沢城西外惣構跡　武蔵町地点	H17（2005） H21（2009）	惣構	築造当初の堀、堀の改変状況　土居盛土	金沢市埋蔵文化財センター2008 金沢市埋蔵文化財センター2010a
34	金沢城下町遺跡　寨六元町地点　寨六元町五番地点	H17（2005） H23（2011）	武家地		金沢市埋蔵文化財センター2007a
35	金沢城東外惣構跡　枯木橋北地点	H18（2006）	惣構	堀の改変状況確認	金沢市埋蔵文化財センター2008
36	東山一丁目遺跡	H20（2008）	町人地	鍛冶職事田氏に関わる鍛冶関連遺構	金沢市埋蔵文化財センター2010b
37	金沢城西内惣構跡　主計町地点	H20（2008）	惣構	東辺の堀、東町～戦国期の鍛冶関連遺物	金沢市埋蔵文化財センター2011b
38	金沢城西外惣構跡　格形地点	H20（2008）～H22（2010）	惣構	堀、石垣、土塁状建物	金沢市埋蔵文化財センター2009a・2010a・2011a
39	金沢城下町遺跡　本多町三丁目地点	H22（2010）	武家地	道路、水路、井戸、土坑	金沢市埋蔵文化財センター2011a
40	金沢城下町遺跡　本多氏屋敷跡地点	H21（2009）・H22（2010）	武家地	石垣、門跡、石垣、道路	金沢市埋蔵文化財センター2010a・2011a
41	金沢城西外惣構跡　本多町三丁目地点	H21（2009）	惣構	土居盛土	金沢市埋蔵文化財センター2010a
42	小立野四丁目遺跡（旧天徳院加賀藩士前田家墓	H22（2010）	寺院、墓地	堀	金沢市埋蔵文化財センター2011a
43	金沢城下町遺跡　丸の内７番地点	H21（2009）～H23（2011）	武家地（公事場、屋敷）	建物、池、水路、道路	安中2010・2011
44	小立野ユミノマチ遺跡	H22（2010）・H23（2011）	武家地	建物、区画溝	荒木2011

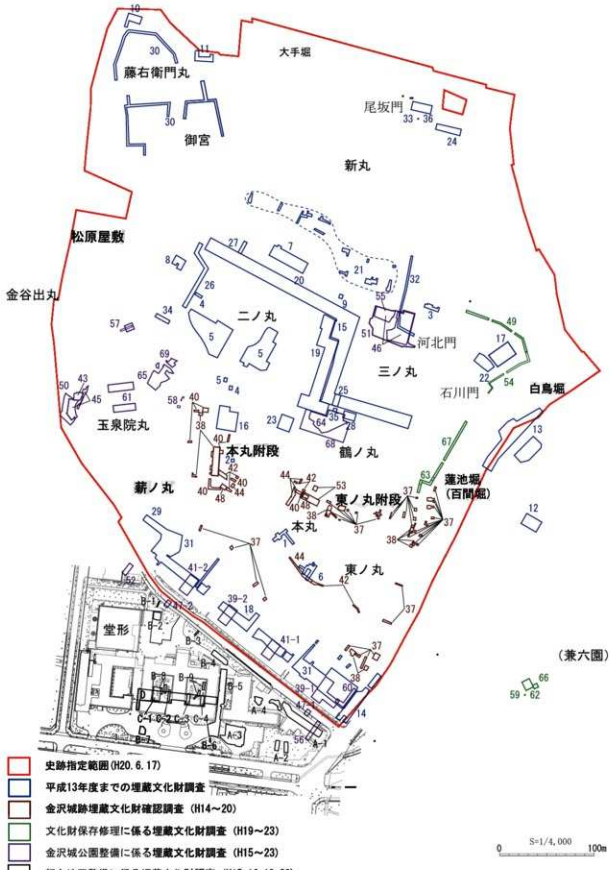


「加州金沢之城図」（東京大学総合図書館蔵）



「御城中壱分基絵図」（横山隆昭家蔵）（加筆） 文政13年（1830）

第２図　金沢城絵図



第３図　金沢城跡発掘調査位置図（～平成23年度）

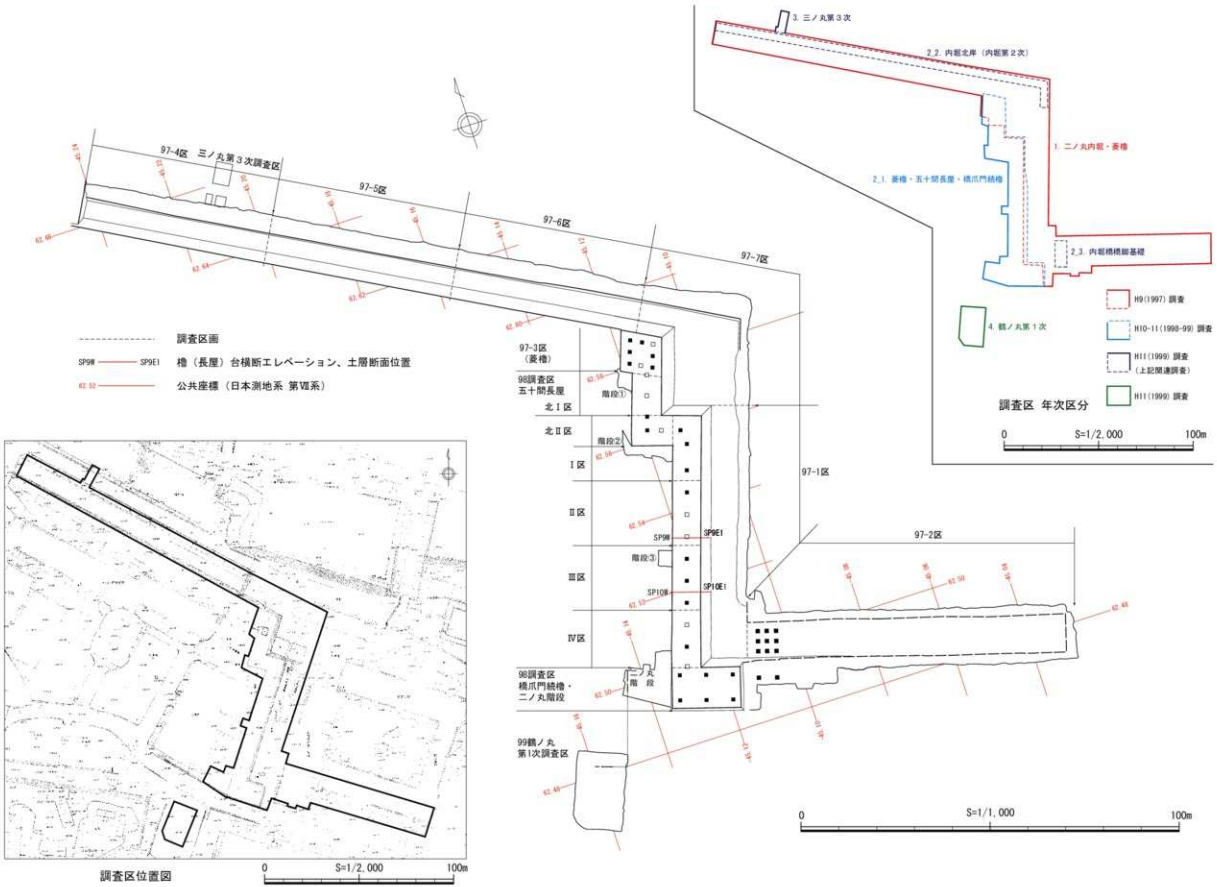
第２表　金沢城跡発掘調査一覧１

No.	調査箇所	調査年度	調査主体	調査原因	備考	文献
1	本丸	昭和43(1968)	金大金沢城調委	学術研究	四脚門・礎石建物跡	井上1969・吉岡1985・増山1999b
2	本丸附段	昭和43(1968)	金大金沢城調委	学術研究		井上1969・吉岡1985・増山1999b
3	三ノ丸	昭和43(1968)	金大金沢城調委	学術研究	川原石石積	井上1969・吉岡1985・増山1999b
4	二ノ丸	昭和43(1968)	金大金沢城調委	学術研究	能舞台跡・台所跡・極楽橋付近建物跡	井上1969・吉岡1985・増山1999b
5	二ノ丸	昭和44(1969)	県教委・金大	校舎増築	殿舎跡・排水施設・用水路	県教委1970・吉岡1985・増山1999b
6	本丸	昭和44(1969)	県教委・金大	学術研究	三階櫓・三十間長屋跡	県教委1970・吉岡1985・増山1999b
7	四十間長屋	昭和50(1975)	金大	学生会館別館建設	長屋礎石・櫓石垣	上野1976・吉岡1985・増山1999
8	二ノ丸	昭和52(1977)	金大	学術研究	明治14年焼失の御殿跡	佐々木1981・吉岡1985・増山1999
9	三ノ丸～四十間長屋間通路	昭和54(1979)	金大考古学研究室	無線アンテナ設置	大型礎石	佐々木1980・吉岡1985・増山1999
10	薩右衛門丸北側法面擁部	昭和56(1981)	金大考古学研究室	施設設置	石垣列・瓦	倉末他1986・増山1999
11	黒門橋北側駐屯部	昭和61(1986)	金大考古学研究室	境界崖崩落防止工事	石垣列・切石側溝、瓦	倉末他1989
12	兼六園(江戸町推定地)	平成元(1989)	県埋文センター	店舗改築	17世紀初期の遺構面(礎石建物等)	県埋文センター1992
13	石川門前土橋(石川橋)	平成4･6(1992･94)	県埋文センター	道路整備	土橋の形成過程　16世紀後半頃の鍛冶関連遺構等	県埋文センター1997・1998
14	車橋	平成6(1994)	県埋文センター	道路整備	石垣	県埋文センター1996
15	**内堀第１次・菱櫓**	**平成9(1997)**	**県埋文センター**	**公園整備（復元整備）**	**堀・橋脚（埋蔵された刀・鎧・銭）・菱櫓礎石等**	**金沢城調査研究所2011c 本報告**
16	本丸附段	平成10･12(1998･2000)	(財)県埋文センター	公園整備(復元整備)	階段跡	滝川1999、海星・土田他2001
17	三ノ丸第1次	平成10(1998)	(財)県埋文センター	公園整備(施設建設)	鉄砲所跡(鍛冶場遺構)、鉄砲部品	金沢城研究調査室2006a
18	いもり堀第1次	平成10(1998)	(財)県埋文センター	公園整備(復元整備)	天正～元和頃の堀・土橋、元和以後の堀・橋台	三浦1999
19	**五十間長屋**	**平成10･11(1998･99)**	**(財)県埋文センター**	**公園整備（復元整備）**	**石垣内部遺構　櫓・長屋礎石、17世紀初頭の遺構面**	**金沢城調査研究所2011c 本報告**
20	**内堀第２次**	**平成11(1999)**	**(財)県埋文センター**	**公園整備（復元整備）**	**西手北側石垣の構造把握**	**金沢城調査研究所2011c、本報告**
21	新丸第1次	平成11(1999)	(財)県埋文センター	公園整備(園路整備)	近代に埋没した堀の範囲確定	土田2000
22	三ノ丸第2次	平成11(1999)	(財)県埋文センター	公園整備(施設建設)	礎石建物(番所跡)、石組井戸	(財)県埋文センター2002a
23	鶴ノ丸第1次	平成11(1999)	(財)県埋文センター	公園整備(施設建設)	木樋・石樋(廃已用水)	土田2000
24	新丸第2次	平成11(1999)	(財)県埋文センター	公園整備(施設建設)	16世紀後半から末期頃の遺構面	(財)県埋文センター2002a
25	**橋爪門外橋橋脚基礎**	**平成11(1999)**	**(財)県埋文センター**	**公園整備（復元整備）**	**橋脚基礎の構造把握**	**金沢城調査研究所2011c、本報告**
26	二ノ丸園路	平成11(1999)	(財)県埋文センター	公園整備(園路整備)	石組遺構	
27	**三ノ丸第３次**	**平成11(1999)**	**(財)県埋文センター**	**公園整備（設備設置）**	**土坑**	**金沢城調査研究所2011c、本報告**
28	鶴ノ丸第2次	平成12(2000)	(財)県埋文センター	公園整備(復元整備)	16世紀末期頃の遺構面	海星・土田2001
29	いもり堀第2次	平成12(2000)	(財)県埋文センター	公園整備(園路整備)	慶長後半から元和年間の石垣	海星・土田2001
30	北ノ丸第1次	平成12(2000)	(財)県埋文センター	公園整備(園地整備)	火薬遺構、空堀跡、石瓦等	海星・土田2001
31	いもり堀第3次	平成12(2000)	(財)県埋文センター	公園整備(園路整備)	元和以前の堀・土橋・土俵護岸　金箔瓦	海星・土田他2001
32	三ノ丸第4次	平成12(2000)	(財)県埋文センター	公園整備(園路整備)	河北門石垣台・礎石、16世紀後半～末頃の遺構面	加藤2001
33	新丸第3次	平成12(2000)	(財)県埋文センター	公園整備(園路整備)	尾坂門石段、16世紀後半～末期頃の遺構面	海星・土田他2001
34	風呂屋口門等	平成13(2001)	(財)県埋文センター	公園整備(園路整備)	石段、石組溝	冨田・海星2002
35	橋爪門袴形	平成13(2001)	(財)県埋文センター	公園整備(園路整備)	土坑、ピット	冨田・海星2002
36	尾坂門	平成13(2001)	(財)県埋文センター	公園整備(植栽)	石組溝、路面	冨田・海星2002

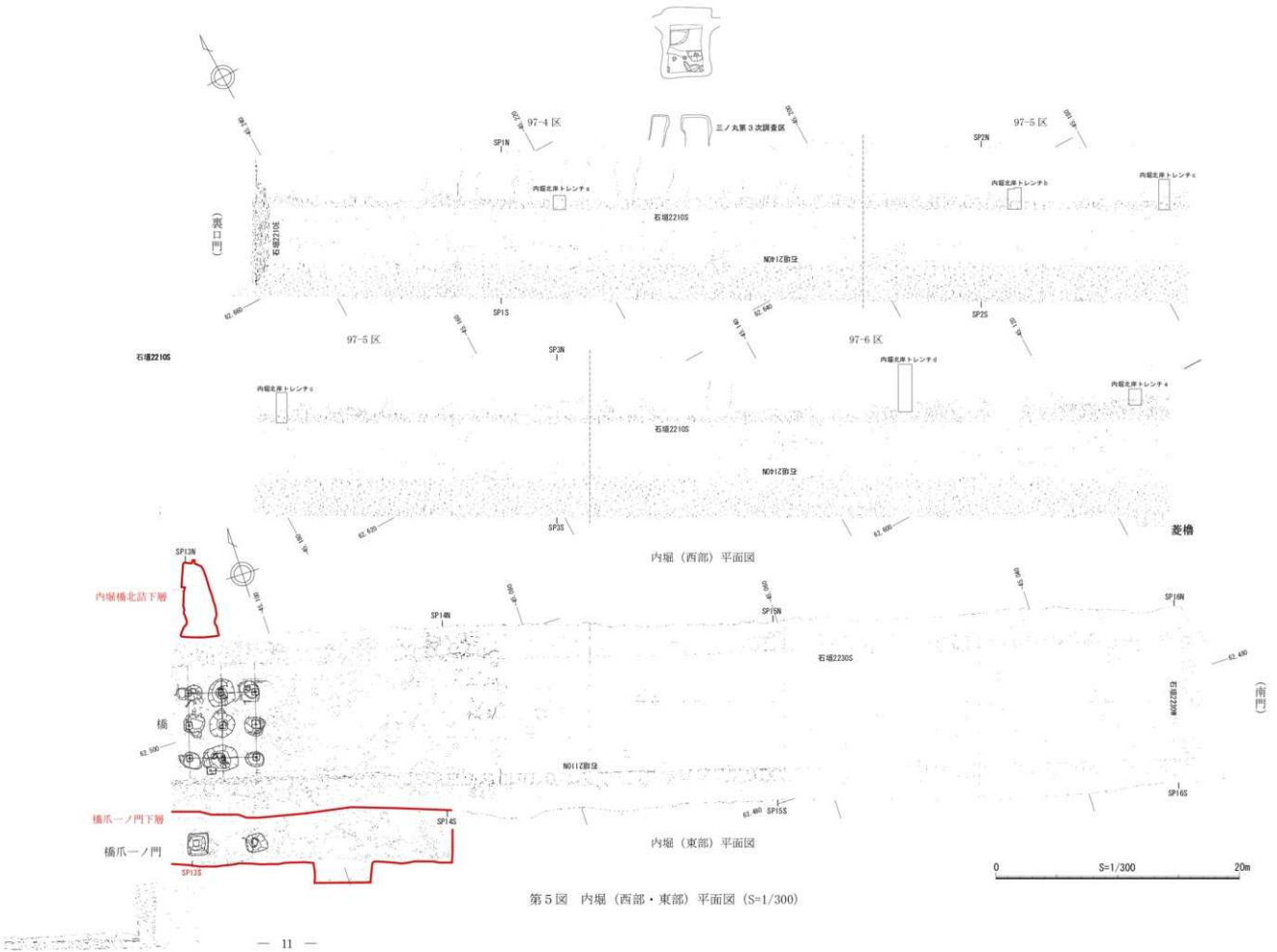
第３表　金沢城跡発掘調査一覧２

№.	調査箇所	調査年度	調査主体	調査原因	備考	文献
37	本丸周辺	平成14(2002)	金沢城研究調査室	学術研究	本丸虎口雲雀の把握	金沢城調査研究所2008a
38	本丸周辺	平成15(2003)	金沢城研究調査室	学術研究	三十間長屋絵櫓台石垣の調査等	金沢城調査研究所2008a
39	いもり堀	平成15(2003)	金沢城研究調査室	学術研究(公開整備)	鯉喰櫓台の検出	金沢城研究調査室2004a
40	本丸周辺	平成16(2004)	金沢城研究調査室	学術研究	寛永大火以前の2面の遺構面	金沢城調査研究所2008a
41	いもり堀	平成16(2004)	金沢城研究調査室	学術研究(公開整備)	築城当初の巣の規模を確認	金沢城研究調査室2004a
42	本丸	平成17(2005)	金沢城研究調査室	学術研究	本丸三階櫓石垣	金沢城調査研究所2006d
43	**玉泉院丸**	**平成17(2005)**	**金沢城研究調査室**	学術研究(公開整備)	**近代の改修、石垣上部の二重櫓の基礎構造の把握**	金沢城調査研究所2010a
44	**本丸**	**平成18(2006)**	**金沢城研究調査室**	学術研究	**元和期の大規模造成、初期金沢城の礎石建物**	**金沢城研究調査室2007a**
45	**玉泉院丸(南西石垣)**	**平成18(2006)**	**金沢城研究調査室**	**公開整備(石垣修築)**	**部分修理の把握、初期金沢城石垣**	金沢城調査研究所2010a
46	**河北門**	**平成18(2006)**	**金沢城研究調査室**	学術研究(公開整備)	**残存状況、規模、改修、創建時期の把握**	**金沢城調査研究所2011b**
47	**いもり堀**	**平成18(2006)**	**金沢城研究調査室**	学術研究(公開整備)	**南岸の位置確認**	**金沢城研究調査室2007a**
48	**本丸**	**平成19(2007)**	**金沢城調査研究所**	学術研究	**寛永8年大火以前の大型遺構**	**金沢城調査研究所2008d**
49	**石川門(石方土蔵解)**	**平成19(2007)**	**金沢城調査研究所**	**学術研究(太鼓塀修理)**	**控柱跡の確認**	**金沢城調査研究所2008d**
50	**玉泉院丸(南西石垣)**	**平成19(2007)**	**金沢城調査研究所**	**公開整備(石垣修築)**	**改修範囲と時期、初期金沢城石垣の変遷の確認**	金沢城調査研究所2010a
51	**河北門**	**平成19(2007)**	**金沢城調査研究所**	学術研究(公開整備)	**桝形門創建前(慶長後期以前)の遺構確認**	金沢城調査研究所2011b
52	**いもり堀**	**平成19(2007)**	**金沢城調査研究所**	学術研究(公開整備)	**南岸の位置確認**	**金沢城調査研究所2008d**
53	**本丸**	**平成20(2008)**	**金沢城調査研究所**	学術研究	**寛永8年大火以前の大型遺構**	**金沢城調査研究所2009b**
54	**石川門(石方土蔵解)**	平成20(2008)	金沢城調査研究所	**学術研究(太鼓塀修理)**	控柱跡の確認	金沢城調査研究所2009b
55	河北門	平成20(2008)	金沢城調査研究所	公開整備(石垣修築)	石垣解体調査(ニラミ櫓台、一ノ門組当)	金沢城調査研究所2011b
56	いもり堀	平成20(2008)	金沢城調査研究所	公開整備(復元整備)	掘の南岸、辰巳用水石管、近世初期の石垣、石列等	金沢城調査研究所2009b
57	玉泉院丸(泉水)	平成20(2008)	金沢城調査研究所	学術研究(公開整備)	泉水北部の遺構確認	金沢城調査研究所2009b
58	玉泉院丸(いもり坂石垣)	平成20(2008)	金沢城調査研究所	学術研究(公開整備)	石垣変形箇所の基底部試掘	金沢城調査研究所2009b
59	兼六園栄螺山	平成21(2009)	金沢城調査研究所	文化財修理(石垣修築)	石垣解体調査	金沢城調査研究所2010d
60	いもり堀	平成21(2009)	金沢城調査研究所	公開整備(石垣復元)	鯉喰櫓台石垣東部の残存状況確認、一部解体	金沢城調査研究所2010d
61	玉泉院丸	平成21(2009)	金沢城調査研究所	学術研究(公開整備)	泉水中央部、北部の遺構確認(中島、出島、景石等)	金沢城調査研究所2010d
62	兼六園栄螺山	平成22(2010)	金沢城調査研究所	文化財修理(石垣修築)	石垣解体調査	金沢城調査研究所2011d
63	**石川門(石方土蔵解)**	平成22(2010)	金沢城調査研究所	**学術研究(太鼓塀修理)**	控柱跡の確認	金沢城調査研究所2011d
64	橋爪門	平成22(2010)	金沢城調査研究所	学術研究(公開整備)	二門礎石根固抗、石組暗渠	金沢城調査研究所2011d
65	玉泉院丸	平成22(2010)	金沢城調査研究所	学術研究(公開整備)	泉水北東部の遺構確認(護岸石組・景石等)	金沢城調査研究所2011d
66	兼六園栄螺山	平成23(2011)	金沢城調査研究所	文化財修理(石造物修築)	石造物解体に伴う調査等	
67	**石川門(石方土蔵解)**	平成23(2011)	金沢城調査研究所	**学術研究(太鼓塀修理)**	控柱跡の確認	
68	橋爪門	平成23(2011)	金沢城調査研究所	学術研究(公開整備)	二門礎石根固抗、石組暗渠、近世初期遺構	
69	玉泉院丸	平成23(2011)	金沢城調査研究所	学術研究(公開整備)	色紙短冊石垣下の調査等	
A	県庁跡地(堂形)	平成15(2003)	(財)県埋文センター	都心地区整備(確認調査)	焼米(堂形米蔵関連遺物)、近世初期以前土壁遺構	伊藤2004
B	県庁跡地(堂形)	平成16(2004)	(財)県埋文センター	都心地区整備(確認調査)	足軽番所、堂形馬場	伊藤2005
C	県庁跡地(堂形)	平成19(2007)	(財)県埋文センター	都心地区整備(施設建設)	古代～近世の遺構面	林2008
D	県庁跡地(堂形)	平成20(2008)	(財)県埋文センター	都心地区整備(施設建設)	堂形建物、石垣、側溝、古代～中世の遺構面	加藤2009

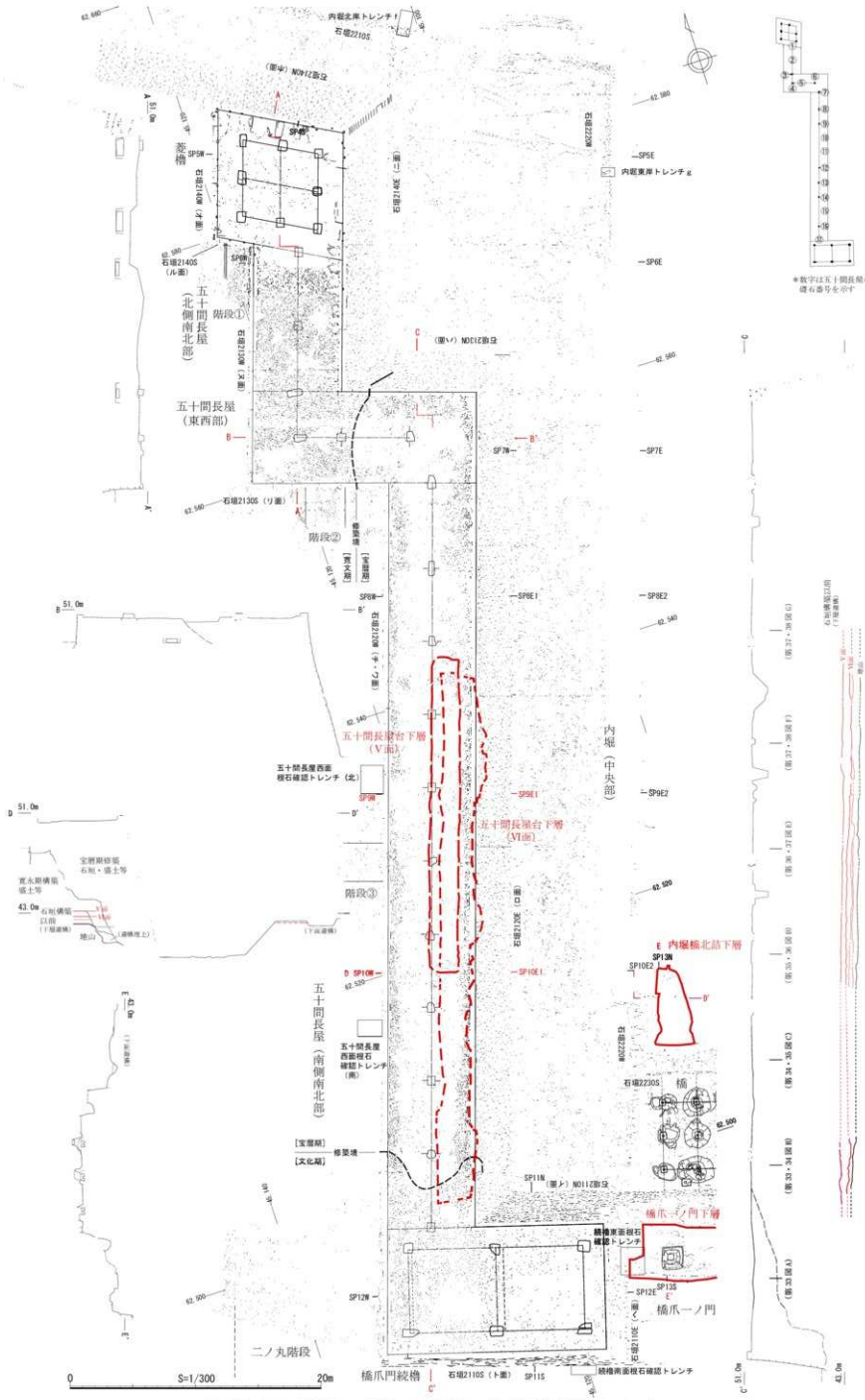
県教委：石川県教育委員会　県埋文センター：石川県立埋蔵文化財センター　(財)県埋文センター：石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
金沢城研究調査室：石川県教育委員会事務局文化財課金沢城研究調査室　金沢城調査研究所：石川県金沢城調査研究所



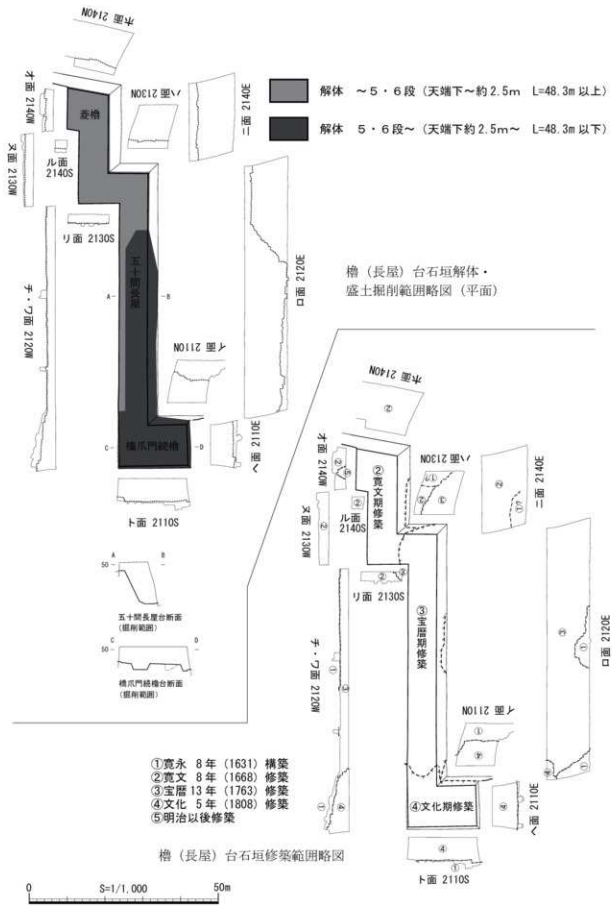
第４図　調査区全体案内図（S=1/1,000、1/2,000）



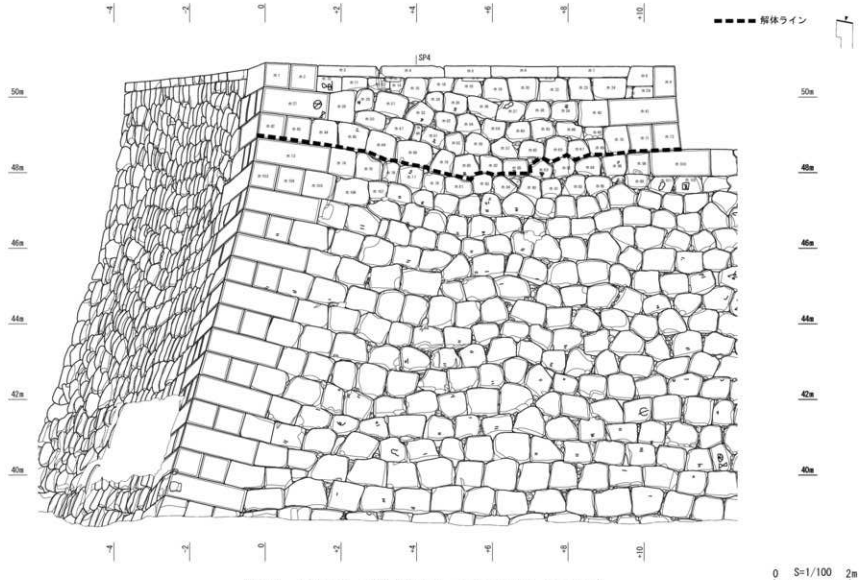
第５図　内堀（西部・東部）平面図（S=1/300）



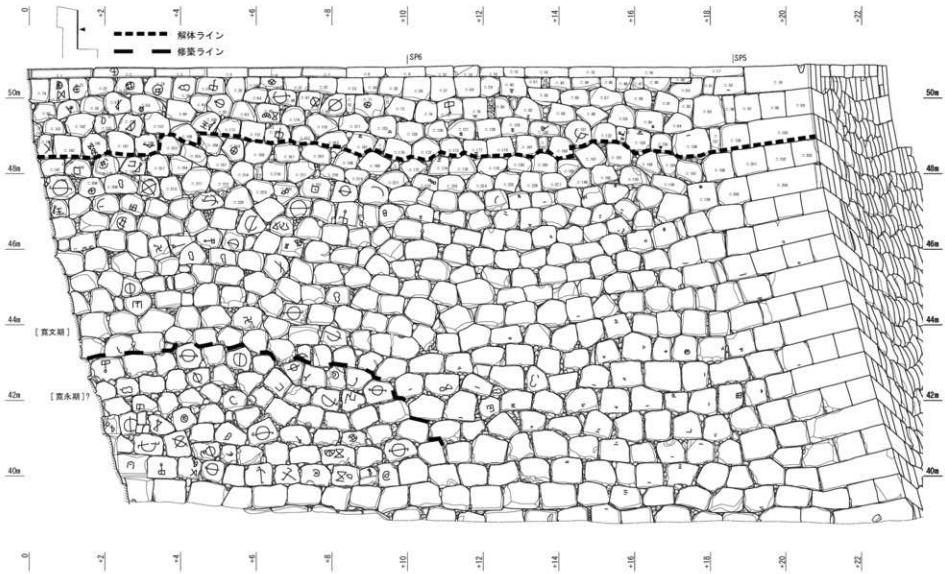
第６図　内堀（中央部）・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓遺構図（S=1/300）



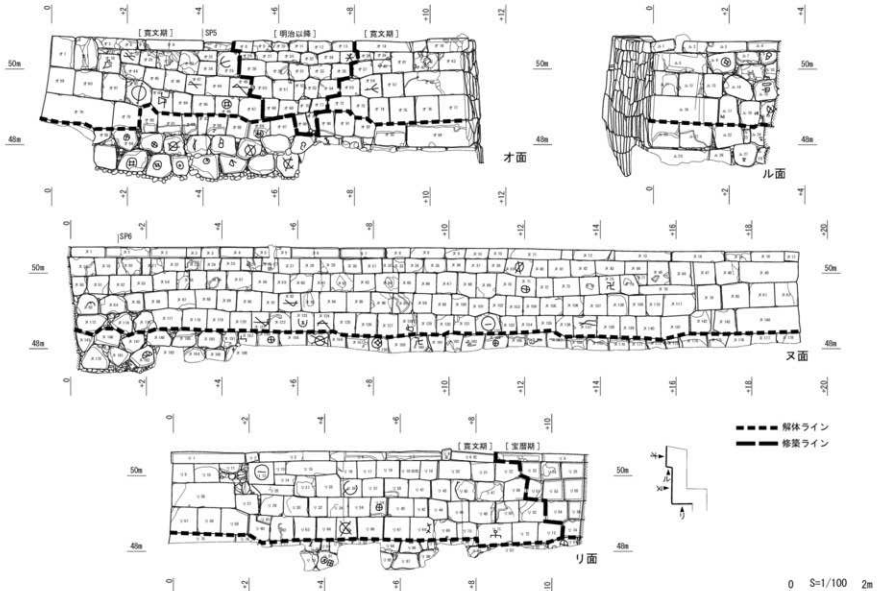
第7図　石垣面名称・解体・修築範囲（S=1/1,000）



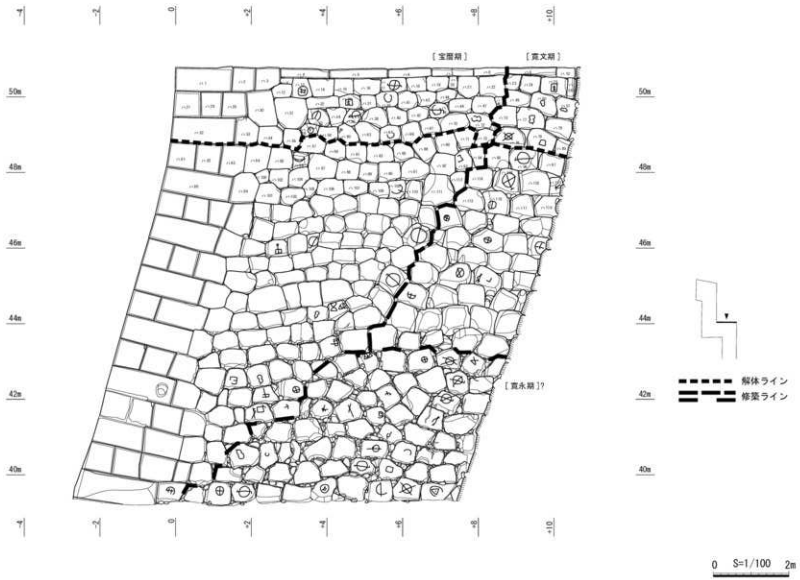
第８図　石垣立面・石材番号図１　ホ面（2140N）（S=1/100）



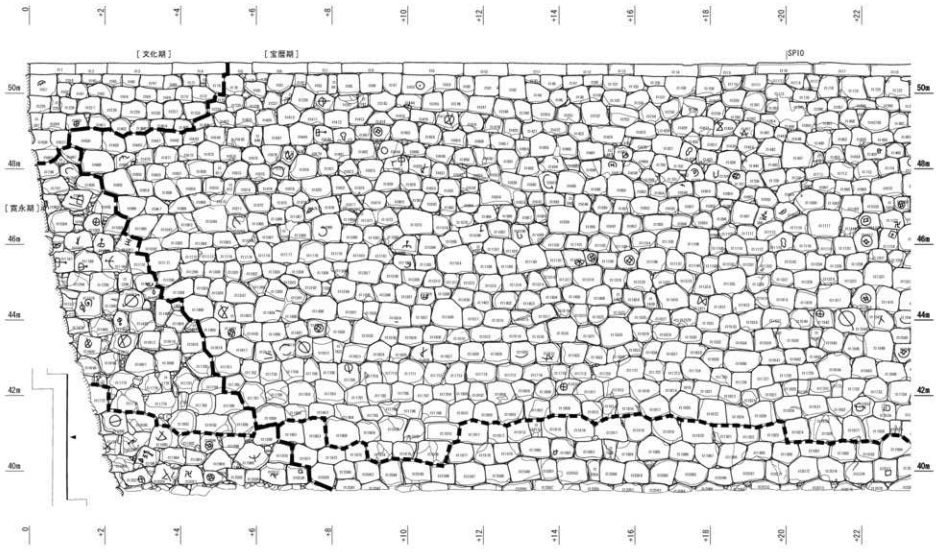
第９図　石垣立面・石材番号図２　二面（2140E）（S=1/100）



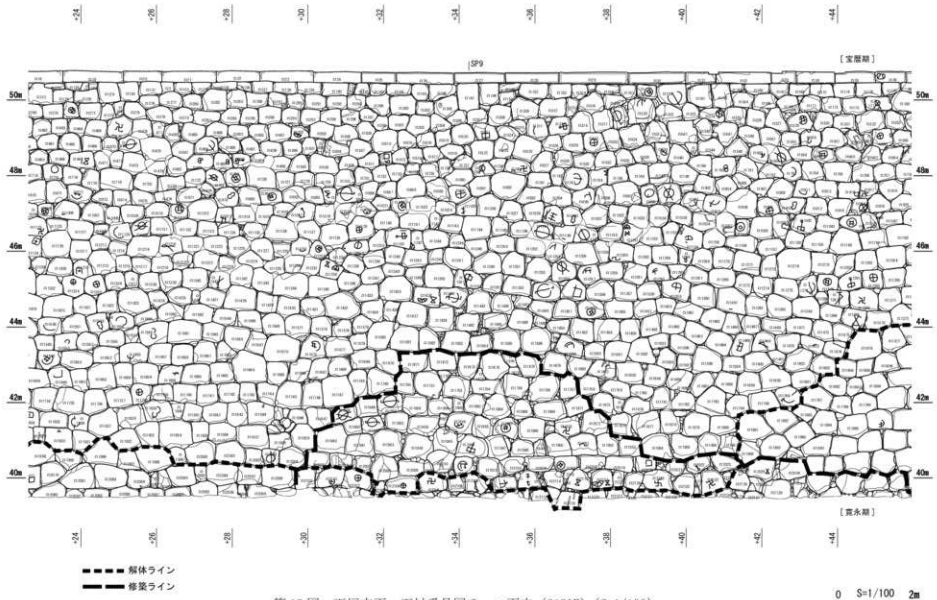
第 10 図　石垣立面・石材番号図 3　オ（2140W）・ル（2140S）・ヌ（2130W）・リ面（2130S）（S=1/100）



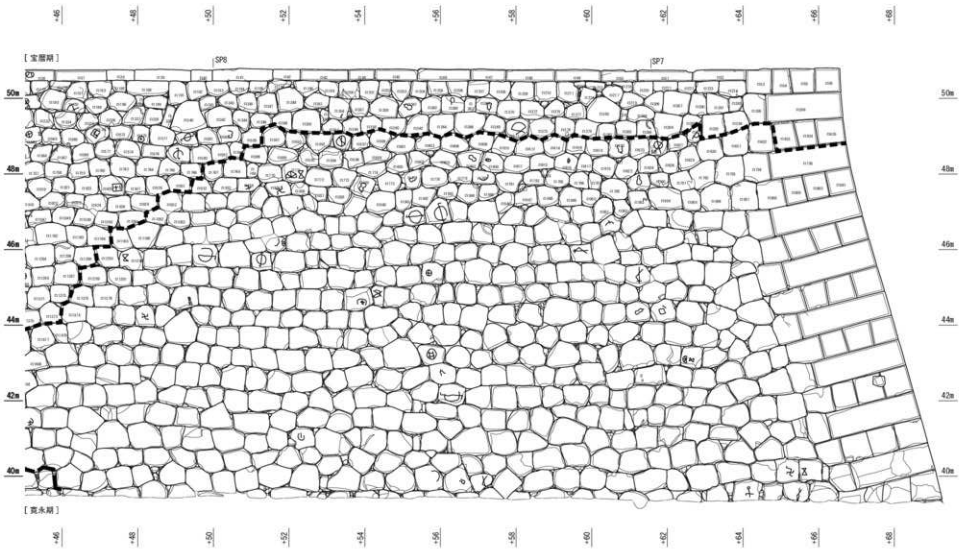
第11図　石垣立面・石材番号図4　ハ面（2130N）（S=1/100）



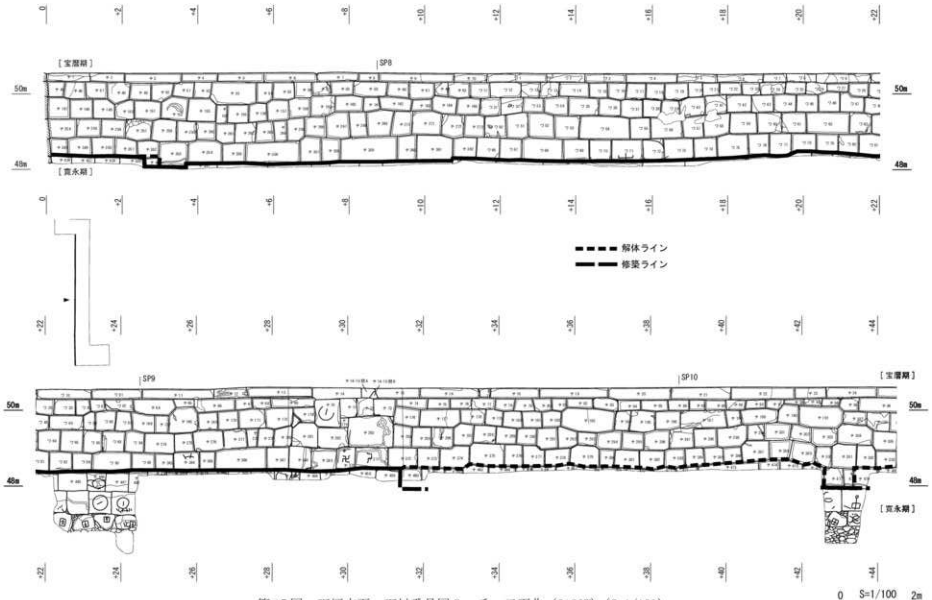
第12図　石垣立面・石材番号図5　ロ面南（2120E）（S=1/100）



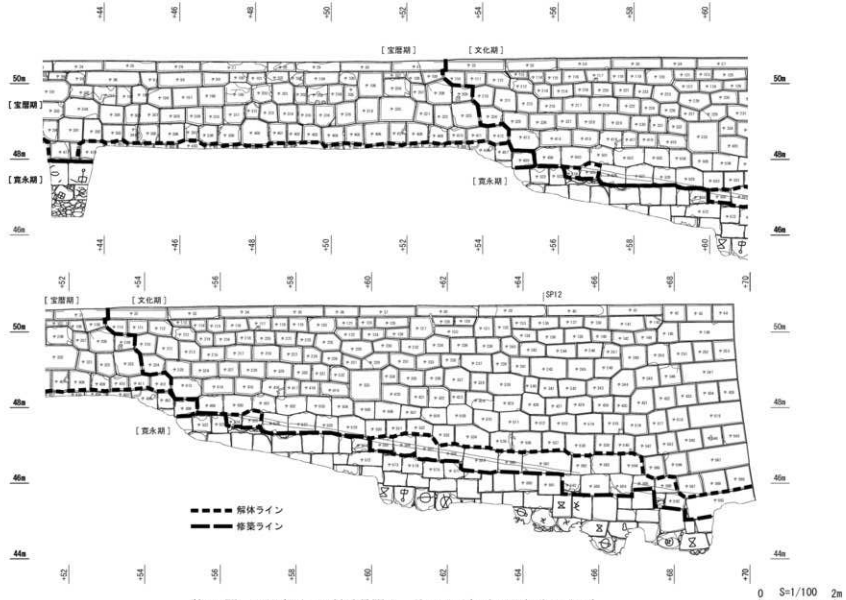
第13図　石垣立面・石材番号図6　ロ面中（2120E）（S=1/100）



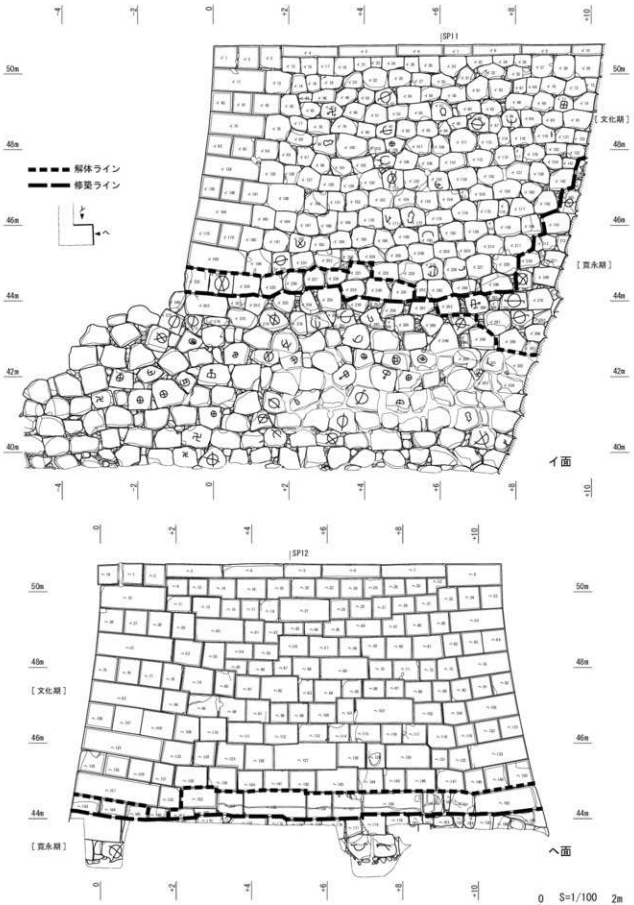
第14図　石垣立面・石材番号図7　ロ面北（2120E）（S=1/100）



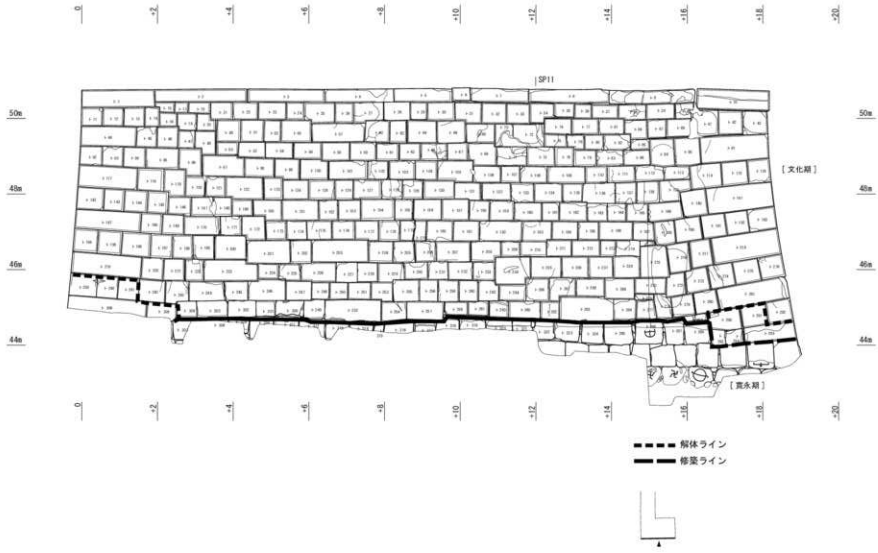
第15図　石垣立面・石材番号図8　チ・ワ面北（2120W）（S=1/100）



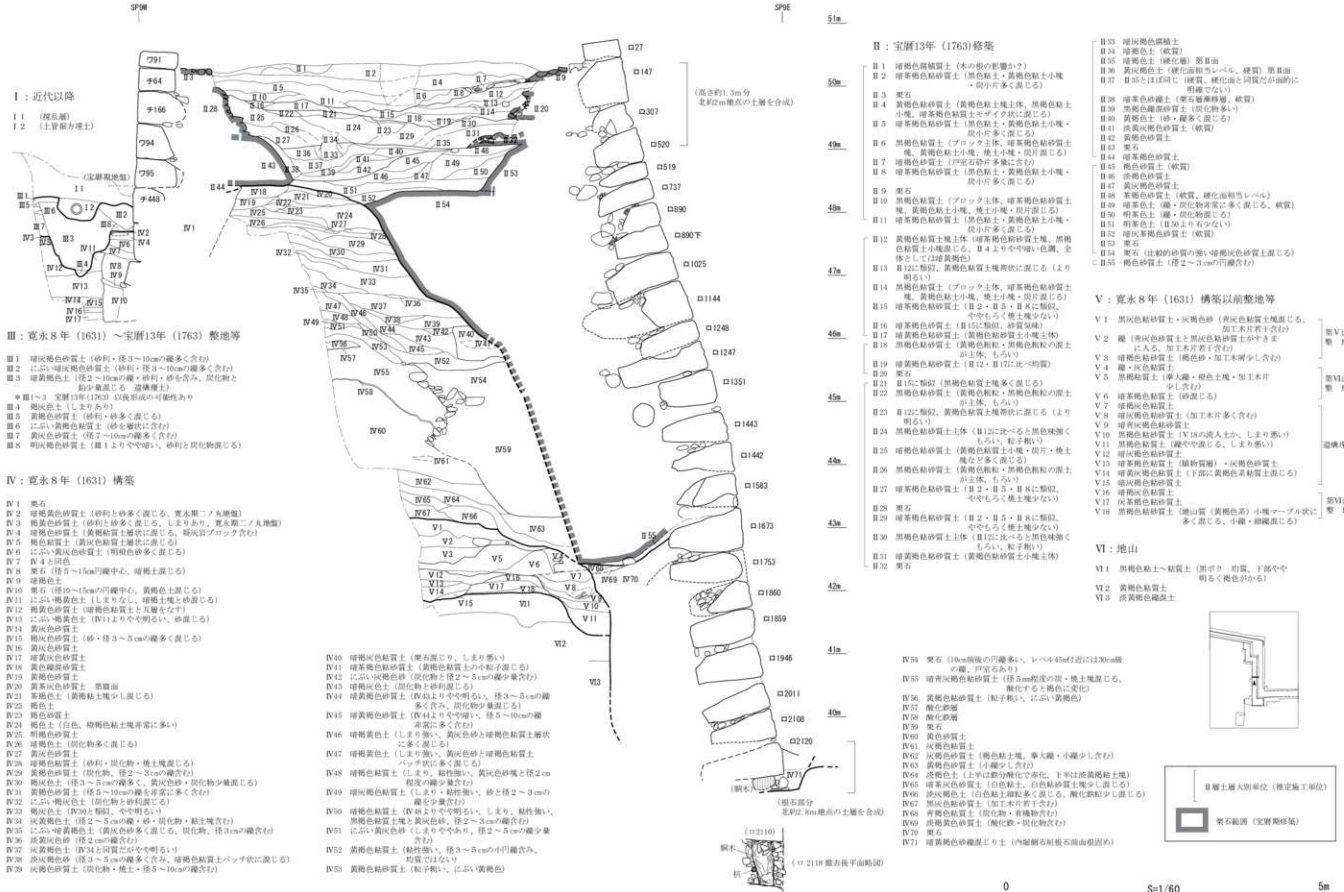
第16図　石垣立面・石材番号図９　チ・ワ面南（2120W）（S=1/100）



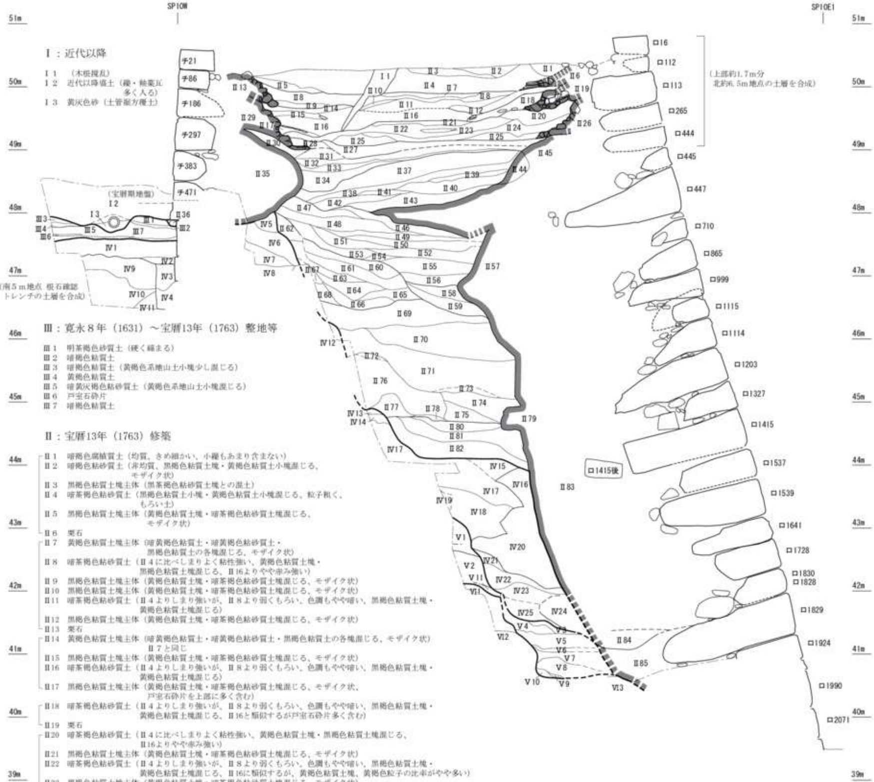
第 17 図　石垣立面・石材番号図 10　イ（2110N）・ヘ面（2110E）（S=1/100）



第 18 図　石垣立面・石材番号図 11　下面（2110S）（S=1/100）



第19図　五十間長屋台東西土層断面図 SP9ライン（S=1/60）



Ⅰ：近代以降

Ⅰ1 （木根撹乱）
Ⅰ2 近代以降盛土（礫・釉薬瓦多く入る）
Ⅰ3 黄灰色砂（土管掘方覆土）

Ⅲ：寛永８年（1631）～宝暦13年（1763）整地等

Ⅲ1 明茶褐色砂質土（硬く締まる）
Ⅲ2 暗褐色粘質土
Ⅲ3 暗褐色粘質土（黄褐色系地山土小塊少し混じる）
Ⅲ4 黄褐色粘質土
Ⅲ5 暗黄灰褐色粘砂質土（黄褐色系地山土小塊混じる）
Ⅲ6 戸室石砕片
Ⅲ7 暗褐色粘質土

Ⅱ：宝暦13年（1763）修築

Ⅱ1 暗褐色腐植質土（均質、きめ細かい、小礫もあまり含まない）
Ⅱ2 暗褐色粘砂質土（非均質、黒褐色粘質土塊・黄褐色粘質土小塊混じる、モザイク状）
Ⅱ3 黒褐色粘質土塊主体（黒茶褐色粘砂質土塊との混土）
Ⅱ4 暗茶褐色粘砂質土（黒褐色粘質土小塊・黄褐色粘質土小塊混じる、粒子粗く、もろい土）
Ⅱ5 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ6 栗石
Ⅱ7 黄褐色粘質土塊主体（暗黄褐色粘質土・暗黄褐色粘砂質土・黒褐色粘質土の各塊混じる、モザイク状）
Ⅱ8 暗茶褐色粘砂質土（Ⅱ4に比べしまりよく粘性強い、黄褐色粘質土塊・黒褐色粘質土塊混じる、Ⅱ16よりやや赤み強い）
Ⅱ9 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ10 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ11 暗茶褐色粘砂質土（Ⅱ4よりしまり強いが、Ⅱ8より弱くもろい、色調もやや暗い、黒褐色粘質土塊・黄褐色粘質土塊混じる）
Ⅱ12 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ13 栗石
Ⅱ14 黄褐色粘質土塊主体（暗黄褐色粘質土・暗黄褐色粘砂質土・黒褐色粘質土の各塊混じる、モザイク状）Ⅱ7と同じ
Ⅱ15 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ16 暗茶褐色粘砂質土（Ⅱ4よりしまり強いが、Ⅱ8より弱くもろい、色調もやや暗い、黒褐色粘質土塊・黄褐色粘質土塊混じる）
Ⅱ17 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状、戸室石砕片を上部に多く含む）
Ⅱ18 暗茶褐色粘砂質土（Ⅱ4よりしまり強いが、Ⅱ8より弱くもろい、色調もやや暗い、黒褐色粘質土塊・黄褐色粘質土塊混じる、Ⅱ16と類似するが戸室石砕片多く含む）
Ⅱ19 栗石
Ⅱ20 暗茶褐色粘砂質土（Ⅱ4に比べしまりよく粘性強い、黄褐色粘質土塊・黒褐色粘質土塊混じる、Ⅱ16よりやや赤み強い）
Ⅱ21 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ22 暗茶褐色粘砂質土（Ⅱ4よりしまり強いが、Ⅱ8より弱くもろい、色調もやや暗い、黒褐色粘質土塊・黄褐色粘質土塊混じる、Ⅱ16に類似するが、黄褐色粘質土塊、黄褐色粒子の比率がやや多い）
Ⅱ23 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ24 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ25 暗茶褐色粘砂質土（Ⅱ4よりしまり強いが、Ⅱ8より弱くもろい、色調もやや暗い、黒褐色粘質土塊・黄褐色粘質土塊混じる）
Ⅱ26 栗石
Ⅱ27 灰黄褐色粘質土（灰色味帯び、小砂利・焼土塊・炭片混じる、酸化鉄の沁み入る、小礫はほとんど含まない硬く締まった層　硬化面）第Ⅱ面
Ⅱ28 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ29 栗石
Ⅱ30 暗灰褐色土（上面栗石）
Ⅱ31 黒褐色粘質土塊主体（黄褐色粘質土塊・暗茶褐色粘砂質土塊混じる、モザイク状）
Ⅱ32 暗茶色土（砂・礫・炭化物多く含む）
Ⅱ33 褐色土（上面硬化）
Ⅱ34 暗褐色土（小礫・礫・砂・黒褐色粘質土・黄色粘質土塊含む）
Ⅱ35 栗石
Ⅱ36 暗褐色粘質土
Ⅱ37 茶褐色土（小礫少し含む、軟質）
Ⅱ38 暗茶褐色土（黄褐色粘質土塊・小礫少し含む）
Ⅱ39 黒褐色土（黄褐色粘土塊・小礫少し含む）
Ⅱ40 灰褐色土（黄色粘質土塊混じる、軟質）
Ⅱ41 黒褐色土（黄色粘質土塊混じる、軟質）
Ⅱ42 暗褐色土（黄色粘質土塊混じる、軟質）
Ⅱ43 暗褐灰色土（礫・栗石少し含む、軟質）
Ⅱ44 暗褐灰色土（礫・栗石多く含む）
Ⅱ45 栗石
Ⅱ46 暗茶褐色土（砂多く混じる、軟質）
Ⅱ47 黒褐色土
Ⅱ48 褐色粘砂質土
Ⅱ49 暗灰褐色粘質土（戸室石砕片多く含む、やや硬質）
Ⅱ50 褐色砂質土（戸室石砕片非常に多く含む、軟質）
Ⅱ51 暗茶色土（戸室石砕片含む、硬質）
Ⅱ52 暗黄灰褐色粘質土（砂礫多く含む、軟質）
Ⅱ53 灰褐色粘砂質土（軟質）
Ⅱ54 灰褐色土（戸室石砕片多く含む、軟質）
Ⅱ55 礫主体
Ⅱ56 暗茶褐色砂質土（戸室石砕片多く含む、軟質）
Ⅱ57 栗石
Ⅱ58 暗茶褐色砂質土（小礫多く含む、やや硬質）
Ⅱ59 褐灰色粘土（硬質）
Ⅱ60 褐灰色砂質土（戸室石砕片・小礫少ない、やや硬質）
Ⅱ61 褐灰色砂質土（戸室石砕片・小礫多く含む、硬質）
Ⅱ62 灰褐色粘砂質土（軟質）
Ⅱ63 黄茶褐色粘質土（礫・小礫少ない、硬質）
Ⅱ64 暗灰褐色粘質土（小礫・黄色砂少し含む、やや硬質）
Ⅱ65 黄灰褐色土（やや軟質）
Ⅱ66 暗灰褐色粘質土（小礫・黄色砂少し含む、やや硬質）
Ⅱ67 茶褐色粘砂質土（やや硬い）
Ⅱ68 暗褐色粘砂質土（小礫・砂多く含む）
Ⅱ69 灰茶褐色土（礫・小礫含む、やや硬質）
Ⅱ70 暗褐色粘砂質土（青褐色粘質土塊等あまり混じらず、暗い色調）
Ⅱ71 暗褐色粘砂質土（黄褐色粘質土塊多く混じる、黒褐色土流線状に混じる、全体モザイク状）
Ⅱ72 黒褐色土
Ⅱ73 黒褐色土
Ⅱ74 暗黄褐色粘砂質土（黄褐色粘質土塊多く混じる、Ⅱ71よりやや明るい色調、モザイク状）
Ⅱ75 灰褐色粘砂質土（比較的均質）
Ⅱ76 暗青褐灰色粘砂質土（10cm前後の円礫・、黄褐色粘質土小塊混じる）
Ⅱ77 暗青褐灰色粘砂質土（黄褐色粘質土塊多く混じる）
Ⅱ78 黄褐色粘質土（明るい黄褐色を呈する、酸化鉄層に囲まれる）
Ⅱ79 栗石
Ⅱ80 暗青褐灰色粘砂質土（混入物少なく、均質、粒子粗い割に粘性あり）
Ⅱ81 暗青褐灰色粘砂質土（Ⅱ77に類似）
Ⅱ82 暗青褐灰色粘砂質土（Ⅱ76に類似）
Ⅱ83 栗石
Ⅱ84 暗褐色粘質土
Ⅱ85 栗石

Ⅳ：寛永８年（1631）構築

Ⅳ1 暗灰黄褐色粘砂質土（黄褐色系地山土小塊多く混じる、上面寛永期二ノ丸地盤）
Ⅳ2 暗褐色粘質土（黄褐色系地山土小塊混じる）
Ⅳ3 暗灰褐色粘質土（石垣掘方埋土）
Ⅳ4 栗石（石垣掘方内）
Ⅳ5 黒褐色粘質土（シルト質状、黄褐色粘質土塊混じる）第Ⅲ面相当
Ⅳ6 暗褐色土（砂・細かい黄褐色粘質土粒多く混じる、もろい）
Ⅳ7 黒色粘質土（シルト質状）
Ⅳ8 暗褐色土（灰白色粘土塊混じる、硬質）
Ⅳ9 暗褐色粘質土（黄褐色系地山土小塊多く混じる）
Ⅳ10 黄褐色粘砂質土（一部シルト質）
Ⅳ11 灰黄褐色粘砂質土（小礫混じる、粘性やや弱い）
Ⅳ12 黄褐色土
Ⅳ13 淡黄褐色粘土（粘性強い）
Ⅳ14 黒色粘質土（炭化物層）
Ⅳ15 濁黄褐色粘砂質土（非均質モザイク状、黄褐色土・焼土塊・黒褐色土塊、小礫混じる）
Ⅳ16 栗石
Ⅳ17 黄橙褐色粘砂質土（10cm前後の礫混じる、酸化鉄周囲に入る）
Ⅳ18 暗青灰褐色粘砂質土（小礫、灰白色粘土小塊含む、酸化鉄周囲に著しい）
Ⅳ19 黒灰褐色粘質土
Ⅳ20 栗石
Ⅳ21 暗茶褐色粘質土（黄褐色粘土小塊・小礫混じる）
Ⅳ22 暗黄褐色粘質土（Ⅳ21より黄褐色系粘土～粘質土の比率高い、暗橙～淡黄褐色まで混在）
Ⅳ23 暗青灰褐色粘砂質土（小礫・青灰色粘土小塊含む、Ⅳ18に類似）
Ⅳ24 栗石
Ⅳ25 灰褐色粘砂質土（径５cm大の礫多く混じる）

Ⅱ層土層大別単位（推定施工単位）
栗石範囲（宝暦期修築）

Ⅴ：寛永８年（1631）構築以前整地等

Ⅴ1	灰褐色粘質土（青灰粘土塊混じる）	第Ⅴ・Ⅵ面整地
Ⅴ2	暗灰褐色粘砂質土（質はシルトに近い、小礫少なく、比較的均質、青灰色粘土塊混じる、Ⅴ3に比べてやや明るい＝黄色味少し強い）	第Ⅵ面整地
Ⅴ3	暗黄橙褐色砂質土	遺構埋土
Ⅴ4	黒褐色粘質土（黒ボク層の流れ込みか）	遺構埋土
Ⅴ5	暗褐灰～暗橙褐灰色粘砂質土（小礫、暗褐色粘質土塊混じる）	遺構埋土
Ⅴ6	暗茶褐色粘砂質土（黒ボク系、Ⅴ5に比べやや褐色味強い）	遺構埋土
Ⅴ7	黄橙褐色砂質土	遺構埋土
Ⅴ8	暗茶褐色粘質土（黒ボク系、Ⅴ5に比べやや褐色味強い）	遺構埋土
Ⅴ9	黒褐色粘質土（硬く締まる）	遺構埋土
Ⅴ10	淡茶褐色粘質土	遺構埋土
Ⅴ11	暗褐色粘砂質土（Ⅴ2より粘性弱く、小礫・砂利多く混じる）	第Ⅵ面整地

Ⅵ：地山

Ⅵ1 黒褐色粘土～粘質土（黒ボク　均質、下部やや明るく褐色がかる）
Ⅵ2 黄褐色粘質土
Ⅵ3 淡黄褐色礫混土

0　S=1/60　5m

第20図　五十間長屋台東西土層断面図 SP10ライン（S=1/60）

第２章　下層遺構の調査

第１節　橋爪一ノ門・内堀橋北詰下層遺構

１．概要（第５・６・21～24図）

二ノ丸内堀及び菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓の構築以前に係る下層遺構は、二ノ丸内堀橋の南北橋詰付近（1997-2 区南西・北西）と五十間長屋台下位において検出された（第５・６図）。城内最高所の本丸面から約14～15m下がった段丘面に立地する。以下、前者を橋爪一ノ門・内堀橋北詰下層遺構、後者を五十間長屋台下層遺構と呼称する。

橋爪一ノ門下層は寛永８年（1631）以後、橋爪門枡形内に取り込まれた部分に相当する。この上面は、近代以後の改変が著しいが、橋爪門に伴う遺構として一ノ門控柱抜取坑が検出されたのみで、枡形構築以後においては掘り込みを伴う遺構は限定的である。枡形＝橋爪一ノ門周辺は構築に際し、厚さ30～50cm 程の盛土により造成されており、盛土の下位に建物・土坑・溝・ピット等の下層遺構群が展開している。

第23・24図でみると、上層（Ⅰ1～20 層）が近代以降の堆積土、中層（Ⅱ1～37 層）が橋爪一ノ門・枡形構築時の造成土を主体とした近世整地土、下層（Ⅲ1～60 層、上面標高約 43.0m）が中世末～近世初期の整地土であり、下層の下位には黒色粘質土（黒ボク層）の地山層（上面標高約 42.5～42.8m）が広がっている。なお下層のうち、地山直上層である整地土 01（第 23 図Ⅲ45 層 淡黄褐色砂質土）からは京都系土師器皿がまとまって出土した。第３章で触れる通り、土器の年代は 16 世紀末葉と考えられるため、下層の大部分は近世初頭以後に造成されたと推測される。

遺構は時期別にみると、地山直上及び地山と枡形造成土との間に認められる整地土上（上記の下層）で検出された中世～近世初期に属するものと、地山直上で検出された古代～中世に属するものとに大別されるが、後者の密度は低い。中世～近世初期の遺構群のベースとなる整地土の細別は部分的に留まり、遺構間の関係は必ずしも明確ではない。

橋爪一ノ門付近の調査区の平面的な範囲は、鶴ノ丸北面（内堀東部南岸）石垣 2110N 裏込の南、南北４～５m、東西 24m程である。東西に並ぶ金沢大学期のコンクリート建物基礎を基準に、西（W）・中央西（MW）・中央東（ME）・東（E）の４区に細別した。古代の遺構は散発的であるが、中央西区に P02、中央東～東区に掘立柱建物 SB01 が位置する。中世～近世初期の遺構は全体に認められるが、大型で深さのある窯状の土坑（SK01～03）は東区に集中する傾向がある。また大型土坑、小溝等は概ね南北方向に主軸を向けている。以下、上記区名を記す遺構は、橋爪一ノ門側の調査区に属する。

内堀を挟んだ北側の内堀橋北詰下面では、近世初頭の大型の土坑（SX01）１基が検出されている。

２．中世～近世初期の遺構

（１）建物

SB02（第 26・28 図）

中央東区で１間×１間分のみ検出された掘立柱建物。主軸はN-3.1°-E ないしN-86.9°-W を示す。東辺の２基の柱掘方は更に東に位置する古代の掘立柱建物 SB01 と重複している。柱間距離は真東で南北 2.24m、東西 2.0mである。柱掘方の規模は、径 40～75cm、深さ 70～90cm 弱を測る。柱掘方から遺物は出土していないが、SB01 に後出することや検出面から見て中世以後の建物と考えられる。

（２）ピット・小型土坑

P01（第 26 図）

中央西区、橋爪一ノ門控柱 P2（東側）の南において北側部分が検出された。平面形状は南北にやや

長い長円形を呈すると推定され、断面は皿状を呈する。東西幅 83cm、深さ 27cm を測る。埋土は淡褐色砂質土小塊が多量に混じる濁暗褐色土である。本遺構は地山（黒ボク層）から掘り込まれていると考えられる（第 23 図下段右側、Ⅲ50 層等）。瀬戸・美濃陶器大窯期灰釉製品の小片が出土している。

P03（第 26 図）

中央東区で検出された、長軸 35cm、短軸 26cm、深さ 14cm の小ピットである。中国製白磁皿（第 59 図 P213）が出土した。

P04（第 28 図）

東区で検出された小土坑状の遺構で、平面形状は隅丸方形に近く、断面形状はやや浅い箱型を呈する。長軸 1.2m、短軸 95cm、深さ 33cm を測る。埋土は黄褐色粘質土を主体として褐色粘質土塊が混じる。瀬戸・美濃陶器天目茶碗（第 59 図 P214）の他、第 59 図 P215 のような土師器皿がややまとまって出土した。土師器皿の年代は 16 世紀末葉～17 世紀初頭と考えられる。

P05（第 28 図）

東区で検出されたピットで、P04 のすぐ東側に位置する。長軸 46cm、短軸 35cm、深さ 22cm を測る。埋土は黄灰色シルト塊と暗褐色粘質土の混土である。越中瀬戸陶器皿（第 59 図 P216）が出土した。

（3）小溝

SD01（第 26 図）

中央西区で検出された小型の溝で、幅 27cm、延長 1.05m以上、深さ 16cm を測る。埋土は暗褐色粘質土塊を主体とし、黒色粘質土（地山質土）塊、4～5cm 大の礫等が混じる。中国磁器青花皿（第 59 図 P217）、越前陶器甕（P218）、土師器皿等が出土した。遺構の性格は不明であるが、室状遺構群の東端に位置すること等から、区画を意図した可能性も考えられる。

（4）大型土坑

SK01（第 25 図）

中央西区で検出された。橋爪一ノ門控柱掘方（東側）に重複、先行する。平面形状は、北東-南西方向に主軸をもつ長円形で、南東は段を有する突出部状を呈する。主軸の長さは 2.47m、南東部を含めた最大長は 2.57m、深さ 1.37mを測る。壁は垂直気味ないし袋状を呈し、底面は比較的平坦である。検出面は標高 42.8m付近である。ただし土層断面（第 23 図）によると、一旦埋没した後掘り返しを受けている可能性があり（Ⅲ10・11 層、Ⅲ17～20 層等）、遺構外の土層（Ⅲ38・48・49 層等）と構築当初の遺構との前後関係が捉え難く、遺構の当初基盤面が地山（黒ボク層）なのか整地土上なのか判然としない。土坑内埋土は黒褐色土系統と明淡褐～黄褐色土系統に分かれるが、いずれも地山起源の土である。出土遺物は少なく、京都系の土師器皿小片を得た程度である。遺構の形状からすると、いわゆる室状遺構（地下室）に該当する。

SK02（第 25 図）

西～中央西区で検出された。南東で SK01 と一部重複するが、前後関係は不明である。平面形状は、北端が石垣掘方（ないし抜取掘方）により失われているが、ほぼ南北方向に主軸をもつ長円形と推測される。南北 2.43m以上、東西 2.68m、深さ 1.35mを測る。壁は垂直気味に立ち上がり、底部は概ね平坦である。SK01 より若干大型であるが、平面・断面とも類似しており、いわゆる室状遺構（地下室）に該当する。

SK03（第 25 図）

西区で一部（北端）が検出された。SK01・SK02 の南西に隣接する。近代以後の建物基礎により攪乱を受けている。検出範囲での深さは 82cm を測る。全体は不明であるが、検出された部分の形状からすれば SK01・02 と同様の遺構である可能性が考えられる。

SX01（第29図）

内堀橋北詰で検出した大型遺構で、南北に長い長円形の平面形状を呈する。ただし南端は三ノ丸南面石垣2230Sの掘方（ないし抜取掘方）により失われている。断面の立ち上がりは比較的急である。底面は概ね平坦であるが、中央部に向かって緩やかに窪む。長軸6.02m以上、幅2.82mを測る。掘り込み面は地山（黒ボク層）より若干上の整地土と見られるが明確ではない。深さは少なくとも67cmに達する。土師器皿を中心に、中国磁器、瀬戸・美濃陶器、越中瀬戸陶器、肥前陶器、瓦等（第58・87図）が出土した。橋爪一ノ門・内堀橋付近の下層中、最もまとまって遺物が出土した遺構である。遺物の年代は16世紀末葉から17世紀初頭と考えられる。

SX02（第28図）

東区（橋爪一ノ門付近調査区東端）で検出された。西端の一部しか検出されていないが、SX01に類似した大型土坑の可能性がある。検出範囲での南北長軸は3.5m以上、深さ46cmを測る。掘り込み面は地山（黒ボク層）直上の濁暗褐色粘質土・淡褐色粘質土と見られるが、近代以後の鉄管掘方により上面を削平されている可能性があり、確定できない。埋土は濁淡褐灰色を呈する砂質土で、礫、炭、地山質土塊の混じり方により上下2層に分かれる。越中瀬戸陶器皿、瀬戸・美濃陶器壺（黄瀬戸）、越前陶器擂鉢の他、土師器皿数個体分（第59図P223～P225）が出土した。出土量は少ないが、16世紀末葉以後の指標となる陶磁器がセットで見られる。

3．古代の遺構

（1）建物

SB01（第26・27図）

中央東～東区にかけて部分的に検出された掘立柱建物である。確認された柱掘方は3基で、南北2.4m、東西4.8m間隔の平面逆L字状で検出された。東西軸を主軸とみなすとN-78.6°-Eを示す。このうち東西辺の大半は撹乱坑が重複しており、本来その中間に柱掘方が存在していた可能性がある。そのため第27図では、柱間2.4m、南北1間・東西2間分として復元した。なおこれら柱掘方3基の延長方向はともに撹乱や調査区外となっており、建物の全体像は不明である。柱掘方は地山（黒ボク層）を掘り込み面（基盤）とし、一辺80～100cm前後の略方形の平面形状を呈するもので、深さは50～80cmを測る。埋土については、掘方内埋土か抜取後流入土か明確ではないが、西側の2基は黒色粘質土、東側の1基は褐色土である。南西の柱掘方から須恵器（第59図P219）が出土した。遺構掘り込み面、柱掘方の形状、出土遺物等から、古代（8～9世紀）に属するものと判断した。

（2）ピット

P02（第26図）

中央西区で検出した小型のピットである。東端は撹乱により失われており、残存長軸20cm、深さ11cmを測る。地山（黒ボク層）を掘り込み面（基盤）とする。ピット内には鉄滓が充満しており、周辺で鍛冶作業が行われていたことを示している。

第2節　五十間長屋台下層遺構

1．概要（第30～38図）

五十間長屋台下層遺構は、石垣解体に際し安全勾配を確保する必要上、石垣前面から約5mの奥行で背後を掘削したことに伴い、平面的に確認されるに至った。検出範囲は石垣解体が深部にまで及んだ五十間長屋台南側南北部南半となる（第6図）。以下、五十間長屋台の土層堆積状況と下層遺構の位置について、第33～38図の南北土層断面図、及び第19・20図の東西土層断面図を参照して説明する。

長屋台下層遺構の検出レベルは、長屋台上面から約7m下の標高約43.3mから、標高約42.3mの

間である。標高約43.3mより上は石垣構築・修築及び二ノ丸造成に伴う盛土で、寛永8年（1631）以後の施工である。概して堆積土層の単位が大きい。なお第36図・37図のII層の堆積状況からは、幾つかの小山状盛土を先行して施工し、その後この間を充填する方法が窺える。

標高約43.3m付近では薄い砂層が広く展開し、その下位には、掘り込みは少ないものの切株等が点在し、明確な面が認められる。この面について寛永期石垣構築直前の遺構面と判断し、櫓（長屋）台最上面～内部の作業面が4面を数えた（ただし第III面と第IV面は基本的に同一の作業面であることが判明）ため、第V面と呼称した。第V面から地山（黒ボク層）までの間は、土層単位が細かくなり、複数の遺構掘り込み面が確認された。調査時においては、最も大規模な遺構SD01の検出面付近に重点を置いたこともあり、これらについて必ずしも平面的に明確にできなかったが、各面間の整地は大規模でなく、部分的・漸移的と判断されることから、これらを総称して第VI面と呼称する。第35～38図では、やや上位のSX02検出面と、SD01の直上に位置するSX01検出面に代表させ、上下2層に分別しているが（IV層：上面標高約42.5～42.8m・V層：同標高約42.3～42.6m）、下部のV層は更に細別できる。なお五十間長屋台下層では、地山（黒色粘質土＝黒ボク層、上面標高約41.8～42.5m）を掘り込み面とする明確な遺構はごく少なく、時期も不明である。

五十間長屋台土層断面図については、すでに報告書I［石川県金沢城調査研究所 2011c］において、東西断面（第157～159図）を掲載した。本書においては、下層遺構に関わる旧第158図（SP9ライン）・第159図（SP10ライン）を第19・20図として再録したが、第33～38図に掲げた東西土層断面図とは、作成時期のずれ等により、細部において十分に整合が図れていない不備がある。本書では第33～38図の注記において、大略の対応を記すこととした。なお上記の第VI面について、報告書I第158・159図の注記では下位の面のみを示しているが、本書再録にあたり、上記解釈の通り修正している。

第V面の平面的な検出範囲（第30・31図）は、SP10以北に該当し、東西1.5～2.0m、南北約25mを測るが、調査時において、遺構面の広がりの捉え方に不十分な面があった。SP10以南については、前面石垣の掘方（寛永期・宝暦期石垣掘方）により、遺構面は工事掘削範囲内では大部分が失われていたが、後に土層断面の精査により、南端が遺存していたことが判明した。またSP9ライン以北では、石垣掘方ラインと想定していた土層の違いが、第V面の緩やかな傾斜に堆積した寛永期盛土を輪切りにした状態を示すものであったことが後に判明し、そのため北部東端にも未調査部分が生じた。遺構については、篦状繊維物、ピット、溝、切株、木組遺構、瓦敷等が検出された。遺構密度は低い。

第VI面の平面的な検出範囲（第30・32図）は、東西2.0～2.5m、南北約41mを測る。第V面と同じく、SP10ライン以南は寛永期・宝暦期石垣掘方が西側に拡張するため、遺構面の大部分が失われているが、石垣掘方の拡張が収束する付近以南では遺存している。

第VI面でも下部に位置し、SP10以北全体にわたって延長する南北方向の遺構SD01の存在が特徴的であり、遺物の大部分は本遺構から出土している。SD01を中心としつつも、遺構配置の状況は、sp2以北、sp2～sp4、sp4～sp6、sp6～sp7、sp7以南でそれぞれ特徴がある。sp2以北ではSD01西側にピットや杭・丸太材が顕著に見られ、遺構密度が高い。sp2～sp4ではSX01・SX02・SK02等の土坑がSD01埋め立て後に隣接して形成されている。sp4～sp6では拡張する石垣掘方によりSD01が次第に消失する状況が窺われる。sp6～sp7は大部分が宝暦期石垣修築掘方内となる。sp7以南では遺構面の続きが見られ、ピットが展開している。

2．第V面の遺構

（1）土坑・ピット・溝

SK01（第38図）

本遺構は調査区法面で確認されたもので、平面的には検出できていない（第38図III12・13層）。第

V面最上層の淡灰青色粗砂・褐色砂質土で上面を覆われている。断面径 1.32m、深さ 78cm を測る。埋土は2層に分かれるが、ともに暗褐灰色粘質土がベースとなる。上層は木片が混じる。

P01（第 37 図）

SK01 と同じく、調査区法面で確認された。掘り込み面の詳細は明確ではないが、V面上部からの可能性が高い（第 37 図Ⅲ14・15 層）。幅 38cn、深さ 58cm 以上を測る。ピットの中心には丸太材が据えられている。丸太材の性格は不明であるが、櫓等建築物の基礎となる可能性もある。

SD01（第 31 図）

SK01 に重複・先行する、東西方向の浅い溝である。SK01 同様、V面最上層の淡灰青色粗砂・褐色砂質土で上面を覆われている。幅 1.08m、深さ 14cm を測る。埋土は上層の粗砂が層状に混じる褐灰色土（第 38 図Ⅲ18 層）で、木片も含まれる。

（2）その他の遺構（第 31 図）

筵状繊維物

調査区北端で3箇所検出された。筵状の繊維物は一辺 50～100cm 内外の大きさで、炭化している部分が多い。また繊維物の縁辺には細い杭が認められ、繊維物を地面に固定していたものと判断される。盛土造成に際し筵が使われる事例が知られており、本遺構も造成・普請に関わる可能性がある。ただし検出された箇所は限定的であり、何らかの作業場の一部として機能したとも考え得る。

切株

SP 9 の北約 3.3m で検出されたマツ属の切株で、幹の直径 20cm を測る。鉢については明確にできなかったが、第V面上に植樹されたと見て良く、寛永 8 年（1631）大火後の二ノ丸造成・石垣構築に際し伐採されたと考えられる。

木組遺構

SP 9 の北約 1.5m において、丸太材2本が十字に重なった状態で検出されたもので、丸太材はともに1mを越える大型品であり、性格は不明ながら人為的な構築物と考えられる。

瓦敷

SP 9 の南約 2.5m において検出された。約 50cm の幅で、東西方向に瓦の細片が敷き詰められた状態を呈する。東端は寛永期石垣掘方により失われている。平面形状は直線的ではなく、緩やかな弧を描く。性格については、屋敷空閑地の通路（露地）の可能性等が想定されるが、判然としない。

3．第Ⅵ面の遺構

（1）溝・土坑等

SD01（第 39～42 図）

sp 6（SP10）以北全域で南北延長 26m以上にわたり検出された遺構である。地山（黒ボク層）面に近い暗褐色・黒色粘質土等を掘り込み面としており、第Ⅵ面でも下位に位置する遺構の一つである。

平行する石垣掘方により東側は完全に損なわれており、溝状の平面形状を呈すると想定されるものの全体像は判然としない。また sp 6（SP10）以南では、石垣掘方が西側に拡張する影響を受け、西側部分も含めて削平されている。調査区南端では確認されておらず、石垣掘方拡張部の範囲で収束していると考えられる。

遺存している西側ラインはかならずしも直線状ではなく、細かな出入りを有する（第 32 図全体平面等）。石垣掘方までの遺存幅は、北側 sp 1（第 39 図）で 1.4m、南側 sp 3・4（第 41 図）では 1 m前後である。

断面の形状は箇所ごとに異なり、sp 1（第 39 図）・sp 2（第 40 図）付近はやや急角度ではあるものの（約 50°～60°）、法面として自然な勾配で傾斜しているのに対し、sp 3・4（第 41 図）・5（第

42図）では垂直ないし袋状、sp6（第42図）では段状を呈する。またsp3～5付近では、底面に仕切り状の掘り残しが認められ、土坑が連続したような形状を呈し、本遺構の大きな特徴となっている（第41図、写真図版5）。ただし掘り残し部分以外では底面は概ね平坦で、検出面からの深さも1.1～1.3mと各箇所とも比較的一定している。

埋土の状況は、各箇所で類似しており、下層に黄褐色シルト・黒褐色粘質シルト、上層に暗灰色を呈する土層が堆積している。下層は地山起源の流入土で、sp2～6（第40～42図）では特に黒褐色土系統の土層が厚く堆積するパターンが見られる。上層は細かく分層される。sp4（第41図下）を例にとると、木製品を多く含む暗灰オリーブ色系の土層を主体とし、暗黄褐色土・黒褐色土が互層状に混じる状況が認められる（2～18層）。なお、SD01埋め立て後、その上面にはSK01・SD02・SX02、集石（第40図上）等の遺構が構築されている。

遺物については、陶磁器（第62～64図）・漆器（第95図）・折敷等木製品（第96～98・100・107・108図）・銭貨・小柄等金属製品（第110・112・120・129図）等がまとまって出土している。上記埋土の堆積状況から見て一括性が高く、時期の様相を良く示す資料として評価できる。なお陶磁器の年代観は17世紀初頭頃（1620年前後）を示している。

遺構は最終的に廃棄坑として利用されているが、本来の性格については、全体形状が不明である以上推測の域を出ないとは言え、A：石垣に先行する防御施設、B：室状遺構（地下室）の集中域、C：溝状を呈する採土坑群等、幾つかの可能性が想起される。

Aでは、後に築かれる石垣と平行すること、底面の掘り残しが障子堀の仕切りと類似すること等が論拠となる。しかし、①底面の掘り残しについては、痩せ尾根状でほとんど幅が確保されていない箇所も見受けられる、②深さはさほどなく、地形的に上手となる西側に土塁を築いた痕跡も認められない、③法面に袋状を呈する箇所が見られる、④埋め立て後は別遺構が重複し、周辺全体が漸移的に嵩上げされており、石垣構築まで相当期間が経過している、等の諸点から、防御機能の面において直接石垣に先行する遺構とは言い難い。なお防御の側面が強調されない区画溝としては、より成立の余地があるが、この場合も形状の不定形さ等に難点がある。

Bについては、sp3～5付近の様相だけを取り上げると類似している点（壁面が袋状となり、底面が平坦）があるが、全体を見ると必ずしも同様ではなく、また集中するにしても整然とし過ぎるところに違和感がある。

Cの採土坑群と考えた場合、全体として溝状となること、底面の掘り残し、箇所による断面の相違について、比較的小単位のグループが、縄張り等に基づき、整然と並行して作業を行っている状況の反映とみなす必要があるが、他の想定に比べ多くの点で遺構の状態との整合性が高いように思われる。ただこの想定においても、石垣に平行している点は重要であり、第Ⅵ面において、後の石垣構築に際し継承される地割軸がすでに存在していた可能性は高いと言える。

SD02（第40図）

sp2（SP9）のすぐ北で検出された東西軸の小規模な溝状遺構で、東端はSD01上面に位置する。幅53cm、深さ20cm、延長は2.8m以上を測る。埋土は鈍い暗褐色を呈する粘質土である。SD01埋め立て後程なく形成された遺構の一つである。

SK01（第41図）

sp3の南北に跨って検出された遺構で、SD01埋土を掘り込み面とする。東側は石垣裏込めにより削平されているため、全体の平面形状は不明であるが、遺存する西側では、南北2.64m、深さ51cmを測る土坑状を呈する。平面検出時において周囲に対し明確な土色の差異が認められたこと等から、独立した遺構としたが、重複するSD01のこの部分の形状も土坑状であり、埋土の質自体、SD01と大きく変わるものではないため、SD01が埋め立てられる過程で形成された落ち込みの可能性が残る。

SK03（第39図）

sp1の南で検出された遺構で、SD01埋土を掘り込み面とする。平面の形状は略方形で、壁面は比較的急角度に立ち上がり、底面は概ね平坦であるが東側に段状の窪みがある。一辺1.70m、深さは東端で81cm、西端で64cmを測る。ただしSK01と同様、本遺構も埋土の質等の点でSD01と明確に識別できず、その一部である可能性がある。

SK04（第39図）

sp1以北、調査区西側で検出された小型の土坑である。掘り込み面はSD01とほぼ同様で、平面形状は南北に長い長円形、断面形状は浅い皿状を呈し、長径1.42m、短径60cm以上、深さ17cmを測る。埋土は褐灰色砂質土である。SD01と同じく、第Ⅵ面でも下位に位置づけられる遺構であるが、遺物は出土していない。

SK05（第35・36図）

本遺構は調査区法面で確認されたもので、平面的には検出できていない（第35図Ⅴ1・2層）。断面径1.27m、深さ63cmを測る。

SX01（第40図・第37・38図）

sp2（SP9）の南北に跨って検出された遺構である。平面形状は北東-南西方向に長い長円形を呈し、断面は立ち上がりが緩やかな落ち込み状を呈する。長径3.33m、深さ45cmを測る。SD01とは直接重複していないが、SD01に後出するSD02の上面の一部を埋土が覆っており、SD01埋め立て以後に形成された遺構と判断される。埋土は暗灰褐色粘砂質土を主体とし、植物質層（木片層）等が間に入る。最上面北側には20cmを越える川原石が集積されているが、その意味については判然としない。陶磁器・木製品が若干出土している。

SX02（第40図・第37・38図）

SX01の南側で検出された遺構である。SX01上面に堆積した黒褐色粘質土（第37・38図Ⅳ17層）を掘り込み面とし、第Ⅵ面でも上層に属する。平面・断面ともSX01に類似した形状を呈する。長径2.43m、深さ57cmを測る。埋土（第37・38図Ⅳ3～7層）は上層が黒灰色、中層が灰褐・褐灰色、下層が褐青・黄青色を呈する粘質土・砂質土である。上層・下層には炭化物・木片が多く混じる。SX01同様、最上面には大型の川原石が集積されている。漆器・金属製品等が出土している。

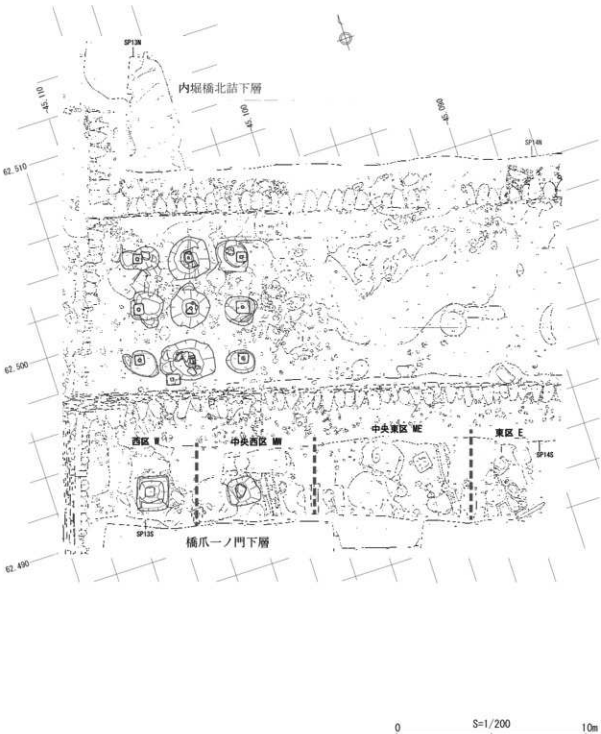
（2）ピット

P01・P02・P03・P04（第39図）

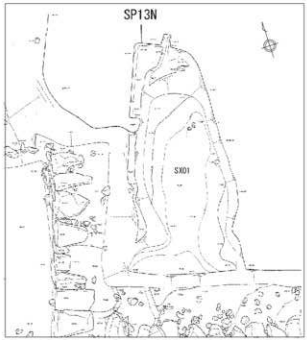
いずれも調査区北端で検出された。掘り込み面はP04が地山（黒ボク層）の他は、整地層（第37・38図V33・V34等、暗オリーブ褐色シルト・暗灰色砂質土）である。P04は径50cm、深さ36cmを測る。五十間長屋台下面において、地山（黒ボク層）を直接基盤とする遺構は他に確認されていない。ただし遺物は出土せず、年代は不明である。P01・P03はほぼ同形同大で、径はそれぞれ35cm・33cm、深さはともに26cmを測る。P02は径84cmとやや大きいが、深さは22cmと浅い。埋土は暗褐色を呈する粘砂質土である。

P05・P06（第43図）

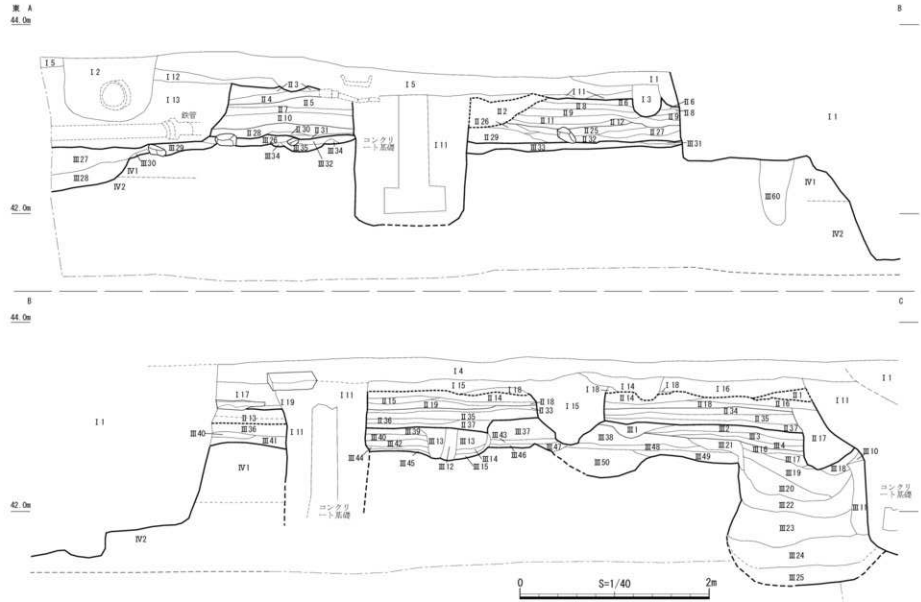
調査区南端において東西に並んで検出された。掘り込み面はともに地山（黒ボク層）直上の整地層（暗黄灰褐色粘砂質土）である。P05は径60cm、深さ48cm、P06は径45cm、深さ22cmを測る。P05の埋土は黄褐色細礫・黄褐色土塊が混じる黒褐色粘質土、P06は同様の土層の間に地山下部起源と思われる明茶褐色粘質土が加わる。遺物は出土していないが、第Ⅵ面でも下位に位置づけられる遺構である。特にP05については、形状や規模の点から、掘立柱建物の柱穴である可能性も考えられる。



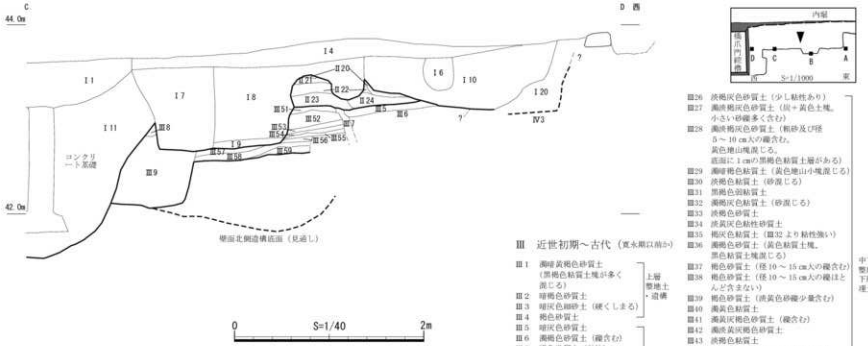
第21図　二ノ丸内堀調査区　下層遺構全体図（S=1/200）



第 22 図　二ノ丸内堀調査区　下層遺構位置図（S=1/100）



第 23 図　内堀東部南岸土層断面図 1 （S=1/40）



Ⅰ　近代以降

- Ⅰ1　（最近年の撹乱）
- Ⅰ2　濁灰褐色砂礫土（土管）
- Ⅰ3　灰褐色砂質土
- Ⅰ4　濁暗褐色砂質土（礫、凝灰岩多く含む）
- Ⅰ5　暗灰褐色粘砂土
- Ⅰ6　（ヒューム管鉱方）
- Ⅰ7　（撹乱）
- Ⅰ8　褐色砂質土
- Ⅰ9　濁灰褐色砂質土
- Ⅰ10　（撹乱）
- Ⅰ11　濁黄灰色粘質土
- Ⅰ12　褐色粘質土
- Ⅰ13　濁灰褐色砂質土（ガス管ヶ埋設土）
- Ⅰ14　黒褐色粘質土
- Ⅰ15　褐色砂質土（礫多く混じる）
- Ⅰ16　褐色砂質土（小礫多く混じる）
- Ⅰ17　濁褐色砂質土
- Ⅰ18　黄色粘質土
- Ⅰ19　褐色粘質土（黄色粘質土小ブロック混じる）
- Ⅰ20　褐色砂質土

Ⅱ　近世整地土（寛永期以後か）

- Ⅱ1　淡灰褐色砂質土
- Ⅱ2　暗褐灰色砂質土
- Ⅱ3　灰褐色砂質土（粗砂混じる）
- Ⅱ4　暗灰褐色砂質土（細砂混じる。左側は暗褐褐色に変色。鉄分色）
- Ⅱ5　暗灰褐色砂質土（Ⅱ3より粗い砂）
- Ⅱ6　暗灰褐色砂質土
- Ⅱ7　暗灰褐色砂質土（Ⅱ5より粘質。塊状に灰褐色粘質土混じる）
- Ⅱ8　灰色砂質土
- Ⅱ9　暗灰色砂質土
- Ⅱ10　淡暗褐色砂質土（細砂）
- Ⅱ11　灰色砂質土
- Ⅱ12　灰褐色砂質土
- Ⅱ13　淡褐色砂質土（分層可能か）
- Ⅱ14　灰色砂質土
- Ⅱ15　灰色砂質土
- Ⅱ16　淡褐色砂質土
- Ⅱ17　濁淡灰褐色土
- Ⅱ18　黒褐色粘質土
- Ⅱ19　淡褐色砂質土（Ⅱ13と対応か）
- Ⅱ20　黄灰色粘質土
- Ⅱ21　褐色砂質土
- Ⅱ22　淡褐色砂質土（やわらかい）
- Ⅱ23　褐色粘質土（砂混じり）
- Ⅱ24　灰褐色砂質土
- Ⅱ25　濁淡灰褐色砂質土（粘性）
- Ⅱ26　灰色砂質土
- Ⅱ27　濁淡灰褐色砂質土（淡黄灰色粗砂多く混じる）
- Ⅱ28　灰褐色砂質土（粘性。炭）
- Ⅱ29　灰褐色砂質土（粘性。炭、黄色地山小塊混じる）
- Ⅱ30　灰色砂質土（粘性）
- Ⅱ31　淡灰黄色粗砂土
- Ⅱ32　淡灰褐色砂質土
- Ⅱ33　灰色砂質土
- Ⅱ34　淡褐色砂質土
- Ⅱ35　灰褐色砂質土
- Ⅱ36　明褐色砂質土
- Ⅱ37　褐色砂質土

近代の可能性残す

層間に酸化鉄層顕著

Ⅲ　近世初期～古代（寛永期以前か）

- Ⅲ1　濁暗黄褐色砂質土（黒褐色粘質土塊が多く混じる）
- Ⅲ2　暗褐色砂質土
- Ⅲ3　暗灰色細砂土（硬くしまる）
- Ⅲ4　褐色砂質土
- Ⅲ5　暗灰色砂質土
- Ⅲ6　濁褐色砂質土（礫含む）
- Ⅲ7　褐色砂質土（粘性）
- Ⅲ8　濁褐色粘質土
- Ⅲ9　灰褐色砂質土
- Ⅲ10　濁暗褐色粘質土
- Ⅲ11　暗褐色粘質土
- Ⅲ12　淡褐色砂質土
- Ⅲ13　濁灰褐色砂質土
- Ⅲ14　濁暗褐色粘質土
- Ⅲ15　褐色砂質土
- Ⅲ16　明黄褐色砂質土
- Ⅲ17　褐色粘質土
- Ⅲ18　濁褐色砂質土
- Ⅲ19　淡褐色砂質土
- Ⅲ20　明淡褐色砂質土
- Ⅲ21　暗褐色土（黄褐色粘質土塊混じる）
- Ⅲ22　黒褐色土
- Ⅲ23　濁黒褐色土（暗褐色粘質土塊多く混じる。黄色砂質土塊混じる）
- Ⅲ24　明淡褐色砂質土
- Ⅲ25　暗褐色粘質土（黄色砂質土塊混じる）
- Ⅲ26　淡褐灰色砂質土（少し粘性あり）
- Ⅲ27　濁淡褐灰色砂質土（炭＋黄色土塊。小さい砂礫多く含む）
- Ⅲ28　濁淡褐灰色砂質土（粗砂及び径5～10 cm大の礫含む。黄色地山塊混じる。底面に1 cmの黒褐色粘質土層がある）
- Ⅲ29　濁暗褐色粘質土（黄色地山小塊混じる）
- Ⅲ30　淡褐色粘質土（砂混じる）
- Ⅲ31　黒褐色弱粘質土
- Ⅲ32　濁褐灰色粘質土（砂混じる）
- Ⅲ33　淡褐色砂質土
- Ⅲ34　淡黄灰色粘性砂質土
- Ⅲ35　褐灰色粘質土（Ⅲ32より粘性強い）
- Ⅲ36　濁褐色砂質土（黄色粘質土塊。黒色粘質土塊混じる）
- Ⅲ37　褐色砂質土（径10～15 cm大の礫含む）
- Ⅲ38　褐色砂質土（径10～15 cm大の礫ほとんど含まない）
- Ⅲ39　褐色砂質土（淡黄色砂礫少量含む）
- Ⅲ40　濁黄色粘質土
- Ⅲ41　濁黄灰褐色砂質土（礫含む）
- Ⅲ42　濁淡黄灰褐色砂質土
- Ⅲ43　淡褐色粘質土
- Ⅲ44　濁暗褐色粘質土（暗褐色粘質小塊混じる）
- Ⅲ45　淡黄褐色砂質土　整地土01
- Ⅲ46　淡明褐色粘質土
- Ⅲ47　淡褐色砂質土
- Ⅲ48　褐色砂質土
- Ⅲ49　濁暗褐色粘質土
- Ⅲ50　濁暗褐色土（淡褐色砂質土小塊多量に混じる）　P01 埋土
- Ⅲ51　濁褐色粘質土
- Ⅲ52　淡褐色砂質土
- Ⅲ53　褐灰色砂質土
- Ⅲ54　灰褐色砂質土
- Ⅲ55　明褐色砂質土
- Ⅲ56　淡灰褐色砂質土（硬くしまっている）
- Ⅲ57　褐色砂質土
- Ⅲ58　淡灰褐色砂質土
- Ⅲ59　暗褐色砂質土
- Ⅲ60　（遺構・ピット）

上層整地土・遺構

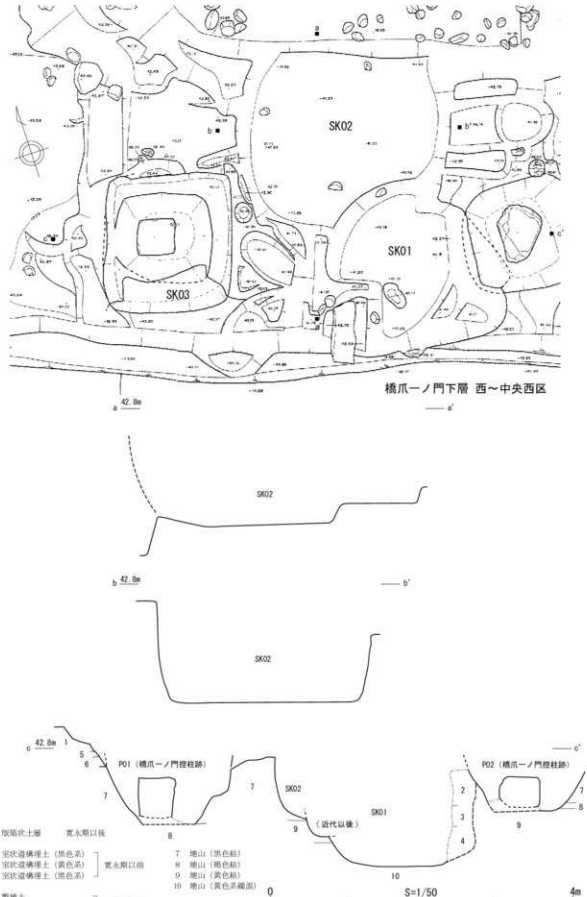
中層遺構埋土

中下層整地土・下層遺構埋土

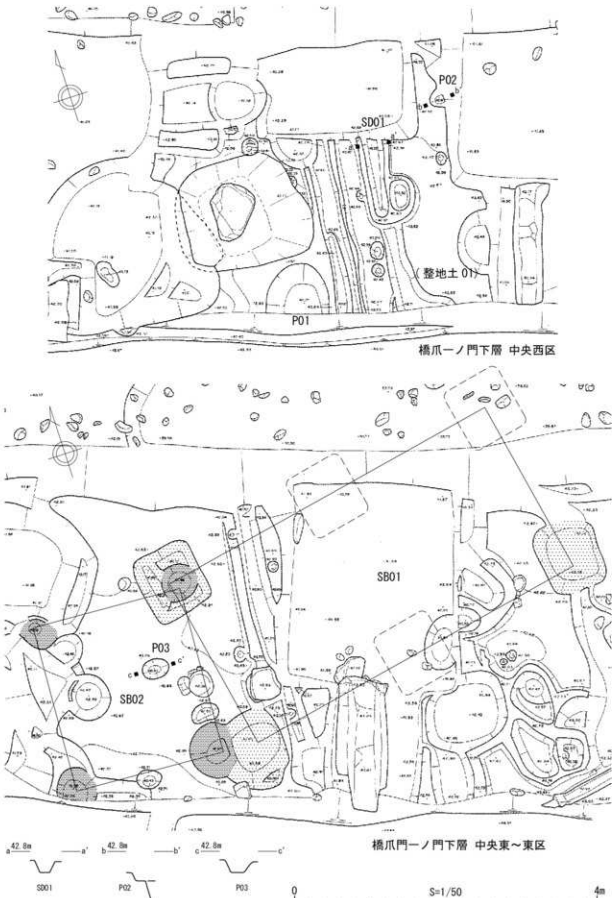
Ⅳ　地山

- Ⅳ1　黒褐色粘質土（黒ボク）
- Ⅳ2　淡黄茶灰色粘質土
- Ⅳ3　礫層

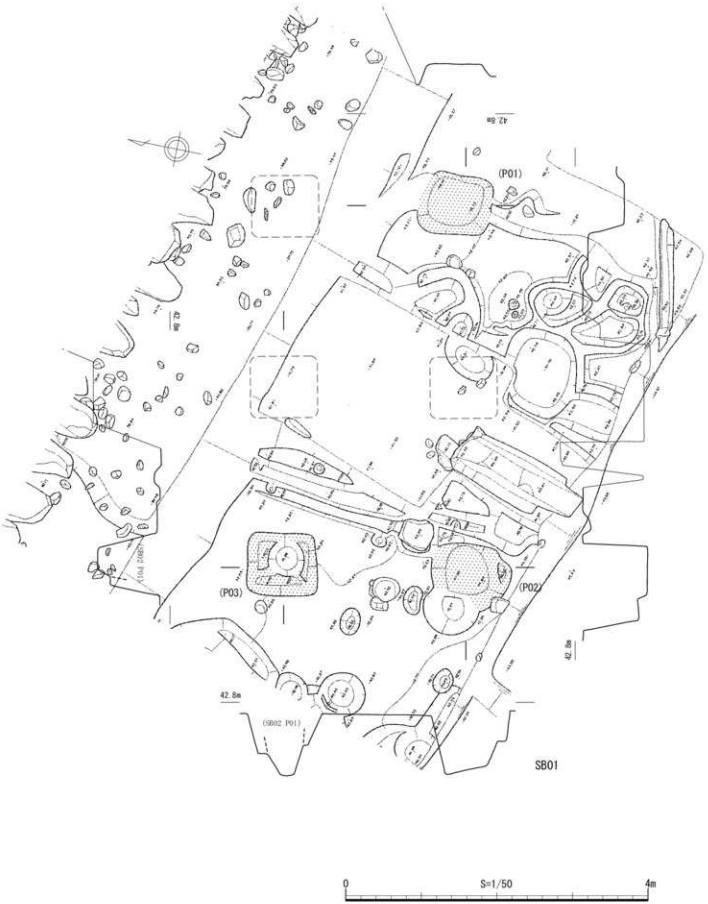
第24図　内堀東部南岸土層断面図2　(S=1/40)



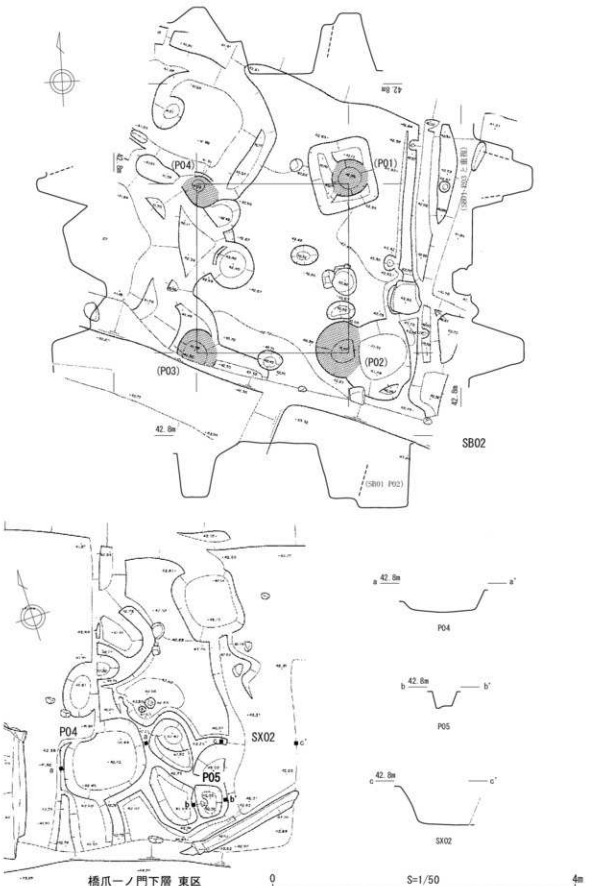
第 25 図　橋爪一ノ門下層遺構図 1　SK01 ～ 03　(S=1/50)



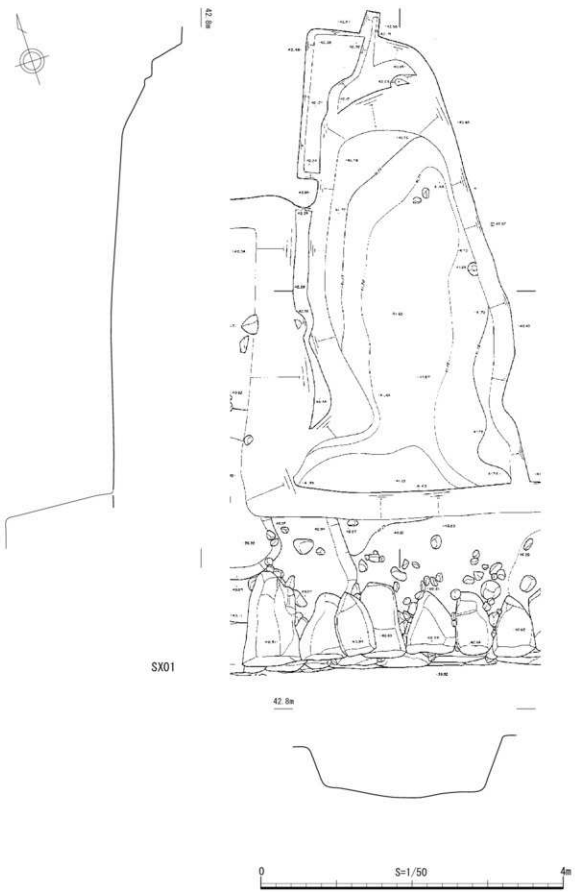
第 26 図　橋爪一ノ門下層遺構図 2　SB01・02　P01 ～ 03　SD01　(S=1/50)



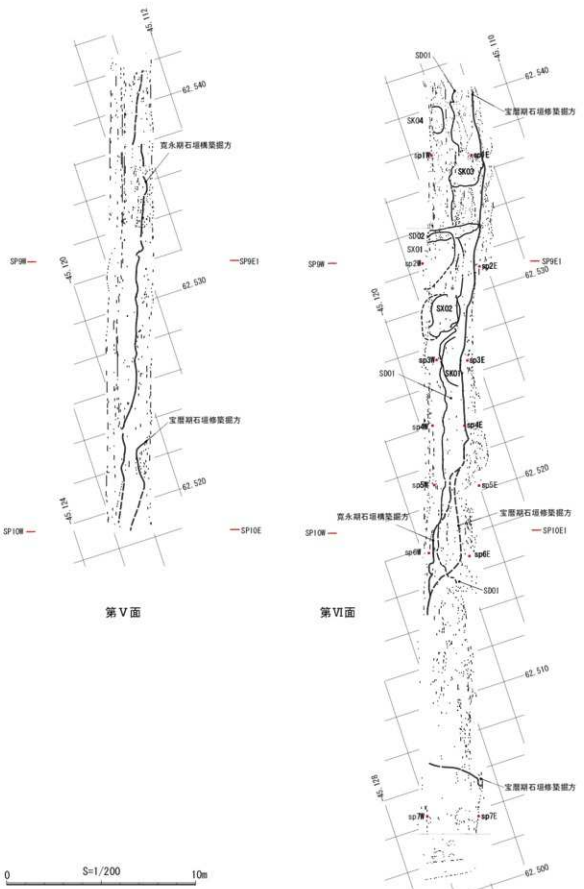
第 27 図 橋爪一ノ門下層遺構図 3　SB01　(S=1/50)



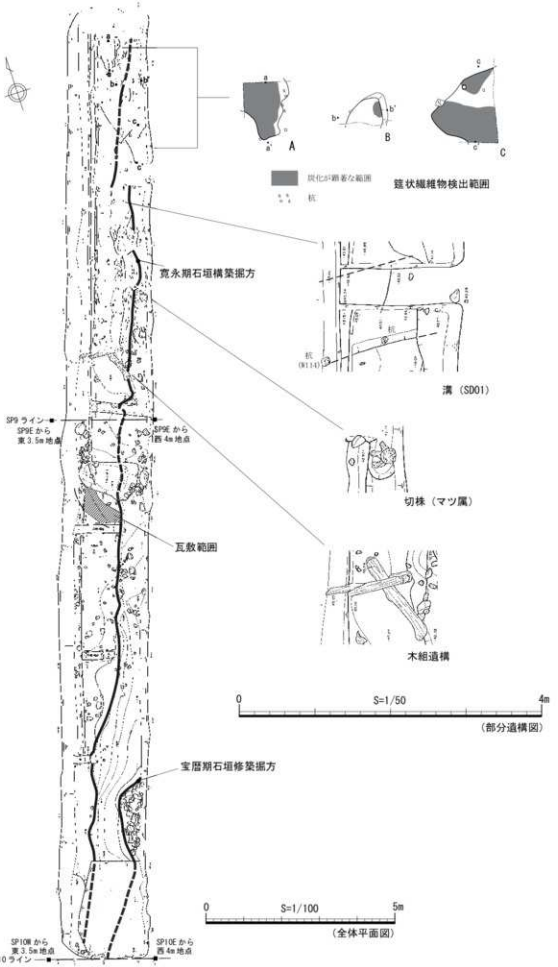
第 28 図 橋爪一ノ門下層遺構図 4　SB02　P04・05　SX02　(S=1/50)



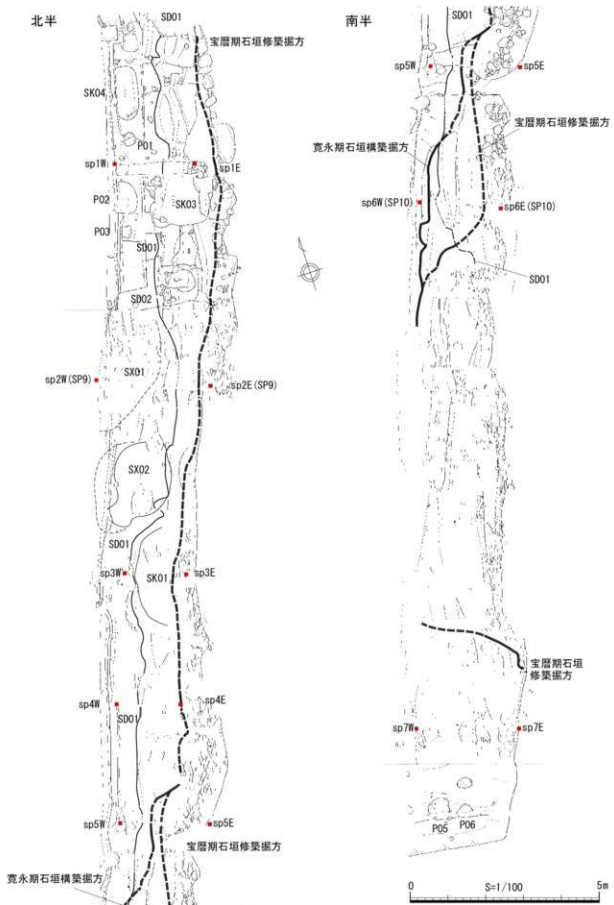
第 29 図 内堀橋北詰下層遺構図　SX01　(S=1/50)



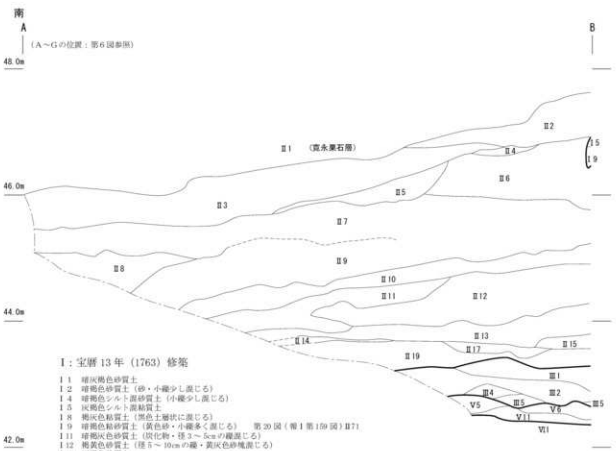
第 30 図　五十間長屋台調査区　下層遺構全体図（S=1/200）



第 31 図　五十間長屋台調査区　第Ⅴ面遺構位置図・遺構図（S=1/100、1/50）



第 32 図　五十間長屋台調査区　第Ⅵ面遺構位置図（S=1/100）



Ⅰ：宝暦13年（1763）修築

Ⅰ1　暗灰褐色砂質土
Ⅰ2　暗褐色砂質土（砂・小礫少し混じる）
Ⅰ4　暗褐色シルト質砂質土（小礫少し混じる）
Ⅰ5　灰褐色シルト質粘質土
Ⅰ8　褐灰色粘質土（黒色土層状に混じる）
Ⅰ9　暗褐色粘砂質土（黄色砂・小礫多く混じる）　第20図（幅1第159図）Ⅱ71
Ⅰ11　暗褐灰色砂質土（炭化物・径3～5cmの礫混じる）
Ⅰ12　褐黄色砂質土（径5～10cmの礫・黄灰色砂塊混じる）
Ⅰ13　灰褐色砂質土
Ⅰ14　褐灰色砂質土（黄褐色土・3～5cmの礫混じる）
Ⅰ15　暗灰褐色砂質土（砂利・径3～10cmの礫・炭化物混じる）
Ⅰ16　暗黄褐色砂質土（砂利・黄灰色砂塊混じる）
Ⅰ17　褐灰色粘質土
Ⅰ21　暗青褐色～灰黄褐色粘質土（砂・径5～10cmの礫混じる。帯水層上下端、炭化物層）

Ⅱ：寛永8年（1631）構築

Ⅱ1　（栗石層）
Ⅱ2　淡灰黄色粘質土（大小礫多く混じる）
Ⅱ3　暗褐色粘質土
Ⅱ4　暗褐色粘質土（黄褐色土塊混じる）
Ⅱ5　褐色土（明黄褐色粘土塊少し混じる）
Ⅱ6　明黄褐色粘質土（褐色砂質土層状に混じる）
Ⅱ7　暗黄灰色砂質土（径3～10cmの礫・砂利混じる、中央部に帯水層を挟み、その上下端に炭化物層が形成される）
Ⅱ8　暗灰褐色粘質土
Ⅱ9　暗黄灰色砂質土（径3～10cmの礫・砂利混じる、中央部に帯水層を挟み、その上下端は炭化物層が形成される）
Ⅱ10　褐灰色砂質土（砂利混じる）
Ⅱ11　黄褐色砂質土
Ⅱ12　にぶい灰黄色粘砂（径3～5cmの礫混じる）
Ⅱ13　黄褐色粘質土（事大の礫混じる、砂質土・乳灰色粘土塊部分的に混じる）
Ⅱ14　暗褐灰色粘砂質土
Ⅱ15　暗褐灰色粘質土
Ⅱ16　暗灰色粘質土
Ⅱ17　濁黄褐色粘砂質土（炭化物層状に混じる）
Ⅱ18　暗黄褐色粘砂質土
Ⅱ19　黄褐色粘質土（事大礫含む、砂質土部分的に混じる）

Ⅲ・Ⅴ：寛永8年（1631）構築以前　Ⅲ：第Ⅴ面　Ⅴ：第Ⅵ面

Ⅲ1　灰茶褐色粘質土
Ⅲ2　暗青灰褐色砂質土（小礫多く混じる）
Ⅲ3　青灰褐色砂質土
Ⅲ4　褐灰色粘砂質土（シルト）
Ⅲ5　暗灰褐色粘砂質土
Ⅲ6　黄灰褐色粘砂質土（シルト）（上部青灰色、下部黄灰色）

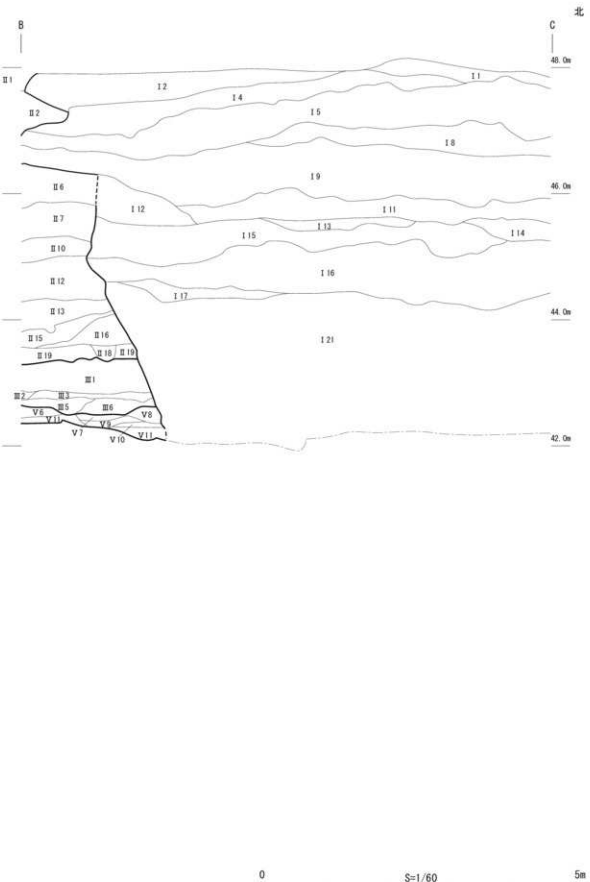
Ⅴ5　濁暗黄褐色粘砂質土（黄褐色土・黒褐色土塊混じる）・明茶褐色粘質土　第43図P95・P96_1
Ⅴ6　灰黄褐色粘砂質土（シルト）
Ⅴ7　黄褐灰褐色粘質土
Ⅴ8　暗灰黄褐色粘質土
Ⅴ9　黄褐灰褐色砂質土
Ⅴ10　黄褐色粘質土
Ⅴ11　暗黄灰褐色粘砂質土（硬くしまる。黄褐色粘質土塊・小礫少し混じる。下部整地層）　第43図P95・P96_12

Ⅵ：地山

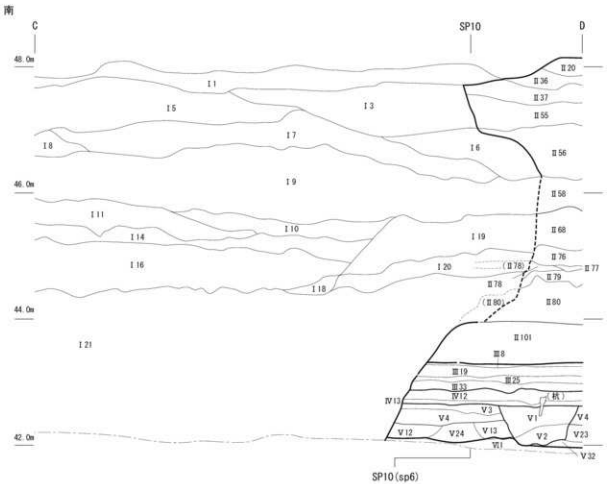
Ⅵ1　黒褐色粘土～粘質土（黒ボク　均質）

0　S=1/60　5m

第33図　五十間長屋台南北土層断面図1－南（S=1/60）



第34図　五十間長屋台南北土層断面図1－北（S=1/60）

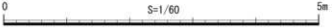


Ⅰ：宝暦13年（1763）修築

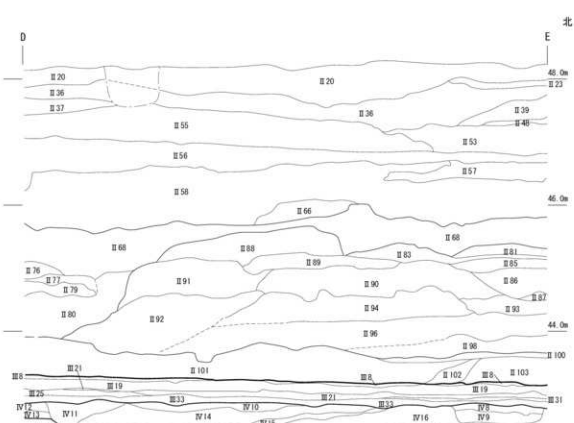
Ⅰ1　暗灰褐色砂質土
Ⅰ3　暗褐黄色砂質土（小礫少し混じる）
Ⅰ5　灰褐色シルト混粘質土
Ⅰ6　黄褐色粘土～砂質土（礫多く混じる）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅱ68
Ⅰ7　灰茶褐色土（黄灰色砂・火小礫混じる）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅱ69
Ⅰ8　褐灰色粘質土（黒色土層状に混じる）
Ⅰ9　暗褐色砂質土（黄色砂・小礫多く混じる）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅱ71
Ⅰ10　暗黄灰色砂質土（砂利混じる）
Ⅰ11　暗褐灰色砂質土（炭化物・径3～5cmの礫混じる）
Ⅰ14　褐灰色砂質土（黄褐色土・3～5cmの礫混じる）
Ⅰ16　暗黄褐色砂質土（砂利・黄灰色砂塊混じる）
Ⅰ18　黄褐色砂質土（黒褐色土塊混じる）
Ⅰ19　暗青褐灰色粘砂質土（炭化物・10cm前後の礫・黄褐色粘質土小塊混じる）
　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅱ76
Ⅰ20　黄褐色砂質土（径3～5cmの礫混じる）
Ⅰ21　暗青褐色～灰黄褐色粘質土（砂・径5～10cmの礫混じる。帯水層上下端。炭化物層）

Ⅱ：寛永8年（1631）構築

Ⅱ20　淡褐灰色砂質土（礫混じる）
Ⅱ23　暗灰黄色砂質土
Ⅱ36　灰黄～淡黄色砂質土
Ⅱ37　暗褐色砂質土　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅳ6
Ⅱ39　暗褐色砂質土（小礫・砂多く混じる）
Ⅱ48　灰黄褐色土（径2～5cm小礫・砂・炭化物・粘土塊混じる）　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ34
Ⅱ53　黒褐～暗褐黄色粘質土（しまり強い。黄灰色砂・暗褐色粘質土パッチ状に多く混じる）
　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ47
Ⅱ55　黒色粘質土（大小礫混じる）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅳ7
Ⅱ56　暗褐色土・灰白色粘土・淡灰黄色粘砂質土混土　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅳ8
Ⅱ57　淡黄色砂質土
Ⅱ58　黄褐色砂質土（砂礫多く混じる）
Ⅱ66　茶褐色粘砂質土（色調やや明い）
Ⅱ68　暗灰褐色粘砂質土（径5cm程度の炭・焼土塊混じる。上層・下端に酸化鉄層形成）
　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ55, 57, 58
Ⅱ76　暗灰褐色粘砂質土
Ⅱ77　淡黄褐色粘土（粘性強い）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅳ13
Ⅱ78　灰黄褐色粘砂質土
Ⅱ79　黒色粘質土（炭化物層）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅳ14
Ⅱ80　黄褐色粘砂質土
Ⅱ81　暗青灰褐色粘砂質土・淡黄灰色粘質土混土
Ⅱ83　淡黄灰色粘質土
Ⅱ85　暗青褐灰色粘砂質土
Ⅱ86　黄褐灰色粘砂質土（酸化鉄・礫混じる）
Ⅱ87　黄褐灰色粘砂質土・暗青灰褐色砂質土混土
Ⅱ88　灰黄褐色粘砂質土
Ⅱ89　淡黄灰色粘砂質土（粘質土・砂質土・礫塊状に混じる）
Ⅱ90　黄褐色砂質土
Ⅱ91　黄褐色砂質土（小礫多く混じる）
Ⅱ92　暗黄褐灰色粘砂質土
Ⅱ93　暗青褐灰色土
Ⅱ94　黒灰褐色粘砂質土・淡黄色粘土
Ⅱ96　灰黄褐色砂質土
Ⅱ98　黄灰褐色粘砂質土（暗褐色土パッチ状に混じる）
Ⅱ100　灰青色砂質土（粘性あり、少量混じる）
Ⅱ101　暗青灰褐色粘砂質土（砂利・礫混じる）・黒灰褐粘質土　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅳ18, 19
Ⅱ102　淡灰青色砂質土
Ⅱ103　青褐色砂質土（径3～10cmの礫・砂利・灰色粘土塊混じる）



第35図　五十間長屋台南北土層断面図2-南（S=1/60）



Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ：寛永８年（1631）構築以前　Ⅲ：第Ⅴ面　Ⅳ・Ⅴ：第Ⅵ面

Ⅲ８　灰褐色粘質土・炭緑灰色粘砂（小礫多く混じる、しまりあり）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅴ1
Ⅲ19　灰褐色粘質土・黒灰色粘砂質土・灰褐色砂（青灰色粘質土塊混じる、加工木片若干含む）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅴ1
Ⅲ21　青灰色砂質土（粘性あり）
Ⅲ25　暗灰色砂質土・灰褐色粘質土（炭色細砂層状に混じる）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅴ1
Ⅲ31　淡青灰色粘砂（灰色粘土層状に混じる）
Ⅲ33　灰褐色粘質土（木片・礫混じる）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅴ1

Ⅳ８　黒褐色粘質土（炭化物・砂混じる）
Ⅳ９　暗オリーブ色粘質土（径３～５cmの礫・有機物・砂混じる）
Ⅳ10　淡灰オリーブ色砂
Ⅳ11　オリーブ灰色砂（礫・粘土混じる）
Ⅳ12　灰褐色粘質土・暗緑灰色粘質土（炭化物・礫混じる）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅴ1
Ⅳ13　灰褐色粘質土・暗オリーブ褐色砂（しまりあり）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅴ1
Ⅳ14　暗緑灰色粘質土（炭化物・礫混じる）
Ⅳ15　淡灰色粘砂
Ⅳ16　灰青色粘質土（砂混じる）

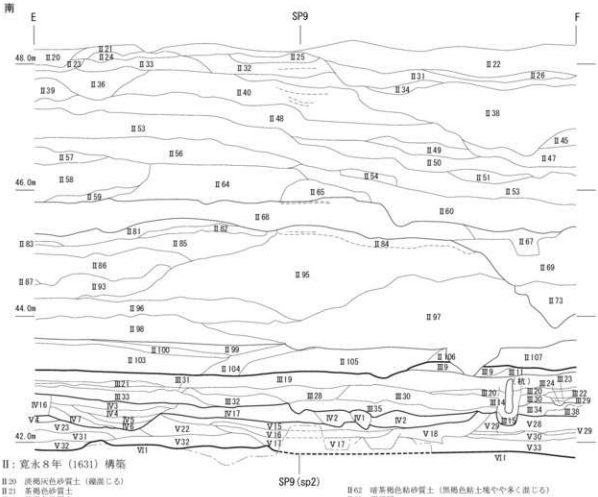
Ⅴ１　黒灰色粘質土（淡青灰色粘土塊・礫混じる）
Ⅴ２　黒灰色粘質土（淡青灰色粘土塊多く混じる）　第Ⅵ面SK05埋土
Ⅴ３　暗灰褐色粘砂質土・青灰色粘質土（炭色砂・粘土互層）
Ⅴ４　灰オリーブ色粘質土（砂混じる）　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅴ2
Ⅴ12　暗褐色砂質土（礫多く混じる）
Ⅴ13　灰色粘砂
Ⅴ14　にぶい灰青色砂　第41図 sp4_22
Ⅴ23　暗灰色粘質土（淡黄灰褐色シルト・砂質土層状に混じる）　第41図 sp3_19
Ⅴ24　暗褐色粘砂質土（小礫・砂利多く混じる）　報Ⅰ第159図SP10Ⅴ11
Ⅴ31　青灰色砂・黒色粘質土混土　第41図 sp3_20
Ⅴ32　青灰色砂・黒色粘質土混土（砂質分多い）　第41図 sp3_21

Ⅵ：地山

Ⅵ１　黒褐色粘土～粘質土（黒ボク　均質）

0　S=1/60　5m

第36図　五十間長屋台南北土層断面図2－北（S=1/60）

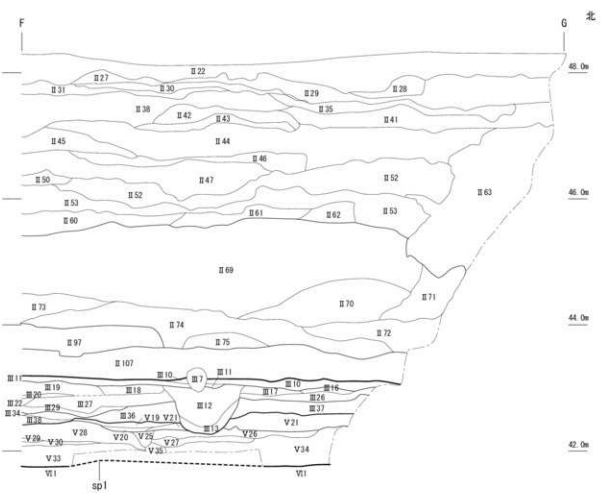


Ⅱ：寛永８年（1631）構築

Ⅱ20　淡褐灰色砂質土（礫混じる）
Ⅱ21　茶褐色砂質土
Ⅱ22　茶褐色砂質土
Ⅱ23　暗灰黄色砂質土
Ⅱ24　暗灰褐色砂質土
Ⅱ25　黄褐色砂質土・明褐色粘質土　　報Ⅰ第158図 SP9Ⅳ19
Ⅱ26　淡灰黄色粘土
Ⅱ27　暗褐色粘砂質土
Ⅱ28　暗灰褐色土
Ⅱ29　橙褐色砂質土（径３～５cmの礫混じる）
Ⅱ30　淡黄灰色砂礫
Ⅱ31　茶灰褐色粘質土
Ⅱ32　黄褐色砂質土～暗褐色土（炭化物多く混じる）　　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ25, 26
Ⅱ33　暗灰褐色砂質土（暗褐色土塊混じる）
Ⅱ34　暗褐灰色砂質土
Ⅱ35　灰色砂質土（小礫混じる）
Ⅱ36　灰黄～淡黄色砂質土
Ⅱ38　黄褐色砂質土（炭化物・径２～3cmの礫混じる）　　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ29
Ⅱ39　暗褐色砂質土（小礫・砂多く混じる）
Ⅱ40　黄褐色～褐灰色砂質土（炭化物・礫多く混じる）　　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ30～33
Ⅱ41　黄灰褐色土
Ⅱ42　黄褐色粘砂質土
Ⅱ43　黒褐色粘質土（茶褐色粘土塊混じる）
Ⅱ44　暗茶褐色粘砂質土
Ⅱ45　黄茶褐色粘砂質土（茶褐色・黄褐色粘土塊多く混じる）
Ⅱ46　黒褐色・暗茶灰褐色粘質土混土
Ⅱ47　黄茶褐色粘砂質土（径２～3cmの小礫多く混じる、全体的に1cm以下の小礫混じる）
Ⅱ48　灰黄褐色土（径２～5cmの礫・砂・炭化物・粘土塊混じる）
第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ34
Ⅱ49　黄茶褐色砂質土（5cm大礫・暗茶褐色粘土塊含む、モザイク状）
Ⅱ50　にぶい暗黄褐色土（黄灰色砂多く混じる、炭化物・径3cmの礫混じる）
第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ35
Ⅱ51　暗褐粘砂質土（黒褐色粘土塊混じる）
Ⅱ52　黒褐色粘土
Ⅱ53　黒褐～暗褐黄色粘質土（しまり強い、黄灰色砂・暗褐色粘質土パッチ状に多く混じる）
第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ47
Ⅱ54　暗褐色粘砂質土
Ⅱ56　暗褐色土・灰白色粘土・淡灰黄色粘砂質土混土　　第20図（報Ⅰ第159図）Ⅳ8
Ⅱ57　淡黄色砂質土
Ⅱ58　黄褐色砂質土（砂礫多く混じる）
Ⅱ59　淡灰色細砂
Ⅱ60　暗褐色粘質土（しまり、粘性強い、黄灰色砂塊・径２cm程度の礫少し混じる）
第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ48
Ⅱ61　暗茶褐色粘砂質土（黒褐色粘土塊混じる）
Ⅱ62　暗茶褐色粘砂質土（黒褐色粘土塊やや多く混じる）
Ⅱ63　栗石層
Ⅱ64　暗灰褐色粘質土（しまり・粘性強い、砂・径２～3cmの礫少し混じる）・にぶい黄灰色砂（しまりややあり、径２～5cmの礫少し混じる）　　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ49, 51
Ⅱ65　褐灰色砂質土
Ⅱ67　暗灰褐色土
Ⅱ68　暗青灰褐色粘砂質土（径5mm程度の炭・焼土塊混じる、上端・下端に酸化鉄層形成）
第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ55, 57, 58
Ⅱ69　青灰褐色砂質土
Ⅱ70　青灰色砂質土（帯水層）
Ⅱ71　青褐色砂質土
Ⅱ72　暗褐灰色砂質土（径10～15cmの礫多く混じる）
Ⅱ73　青灰色砂質土
Ⅱ74　暗青灰褐色砂質土（黒褐色粘土塊混じる）
Ⅱ75　黄灰色砂質土（径３～５cmの礫多く混じる）
Ⅱ81　暗青灰褐色粘砂質土・淡黄灰色粘質土混土
Ⅱ82　黄褐色粘質土
Ⅱ83　淡黄灰色粘質土
Ⅱ84　黄色砂質土（暗褐色土塊混じる）　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ60
Ⅱ85　暗青褐灰色粘砂質土
Ⅱ86　黄褐灰色粘砂質土（酸化鉄・礫混じる）
Ⅱ87　黄褐灰色粘砂質土・暗青灰褐色砂質土混土
Ⅱ93　暗青褐灰色土
Ⅱ95　黄色砂質土（礫混じる）　　第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ60
Ⅱ96　灰黄褐色砂質土
Ⅱ97　灰褐色砂質土（褐色粘土塊、拳大礫・小礫少し混じる）・淡褐色土（上半は鉄分酸化で赤化、下半は淡黄褐粘土塊）・暗茶灰色砂質土（白色粘土、白色粘砂質土塊少し混じる）
第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ62, 64, 65
Ⅱ98　濁黄褐色粘砂質土（暗褐色土パッチ状に混じる）
Ⅱ99　黒褐色粘質土（礫を多く混じる）
Ⅱ100　灰青色砂質土（粘性あり、少量混じる）
Ⅱ103　青褐色砂質土（径３～10cmの礫・砂利・灰色粘土粒混じる）
Ⅱ104　淡灰青色砂
Ⅱ105　黒灰色粘砂質土（加工木片若干含む）
第19図（報Ⅰ第158図）Ⅳ67
Ⅱ106　褐色砂質土
Ⅱ107　暗褐青色砂質土（径３～10cmの礫・砂利・灰色粘土塊・暗褐土塊混じる）

0　S=1/60　5m

第37図　五十間長屋台南北土層断面図3-南（S=1/60）



Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ：寛永８年（1631）構築以前　Ⅲ：第Ⅴ面　Ⅳ・Ⅴ：第Ⅵ面

Ⅲ7　（礎）
Ⅲ9　炭灰色細砂（粗砂少し混じる）
Ⅲ10　炭灰青色粗砂（径５～10cmの礫多く混じる）
Ⅲ11　褐色砂質土（しまりあり、焼土・炭化物多く、径３～５cmの礫少し混じる）
Ⅲ12　暗褐灰色粘質土（木片・砂混じる）　第Ⅴ面
Ⅲ13　暗褐灰色粘質土（上より やや暗い、径10～15cmの礫混じる）　SI01 埋土
Ⅲ14　褐灰色粘質土
Ⅲ15　礫層（径１～５cmの礫主体、褐色砂質土混じる）　第Ⅴ面
Ⅲ16　灰色粘土　P01 埋土
Ⅲ17　にぶい暗褐青色砂質土（径10～20cmの礫と粗砂多く混じる）
Ⅲ18　褐灰色土（青灰色粗砂層状に多く混じる）　第Ⅴ面 SI01 埋土
Ⅲ19　灰褐色粘質土・黒灰色粘砂質土・灰褐色砂（青灰色粘質土塊混じる、
　加工木片若干含む）
　第19図（堰Ⅰ第158図）V1
Ⅲ20　暗褐灰色粘質土（砂・径５～15cmの礫多く混じる）
Ⅲ21　青灰色砂質土（粘性あり）
Ⅲ22　褐灰色粘質土
Ⅲ23　淡褐灰色粘質土
Ⅲ24　炭化物層
Ⅲ26　暗褐灰色砂質土（径５～10cmの礫・砂利非常に多く混じる）
Ⅲ27　暗褐色砂質土（径10～20cmの礫・粗砂多く混じる）
Ⅲ28　礫（青灰色砂質土黒灰色粘砂質土がすきまに入る、加工木片若干含む）
　第19図（堰Ⅰ第158図）V2
Ⅲ29　暗青灰色砂質土（径10～19cmの礫・粗砂多く混じる）
Ⅲ30　にぶい暗青褐色砂質土（径10～20cmの礫・粗砂多く混じる）
Ⅲ31　淡青灰色粘砂（炭化粒土塊状に混じる）
Ⅲ32　暗褐灰色砂質土（木片混じる）
Ⅲ33　灰褐色粘質土（木片・礫混じる）　第20図（堰Ⅰ第159図）V1
Ⅲ34　にぶい灰青褐色砂質土（礫多い）
Ⅲ35　暗褐色粘砂質土（褐色砂少し混じる・加工木片少し含む）
　第19図（堰Ⅰ第158図）V3
Ⅲ36　暗青灰色粘質土（定規の脚よりやや青く暗い、炭化物多く混じる）
Ⅲ37　暗灰褐色土（炭化物多く、砂利・礫少し混じる）
Ⅲ38　炭化物層

Ⅳ1　にぶい暗褐色土（礫混じる）
Ⅳ2　にぶい褐灰色粘質土（砂利・砂混じる）
Ⅳ3　黒灰色粘質土（炭化物・根非常に多く混じる）
Ⅳ4　褐灰色粘質土
Ⅳ5　灰褐色砂質土（根多く混じる）　第Ⅵ面 SX02 埋土
Ⅳ6　褐青色粘質土
Ⅳ7　黄青色砂質土（炭化物非常に多く混じる）
Ⅳ16　灰青色粘質土（砂混じる）
Ⅳ17　黒褐色粘質土（事入礫・褐色土塊混じる、加工木片少し含む）
　第19図（堰Ⅰ第158図）V5

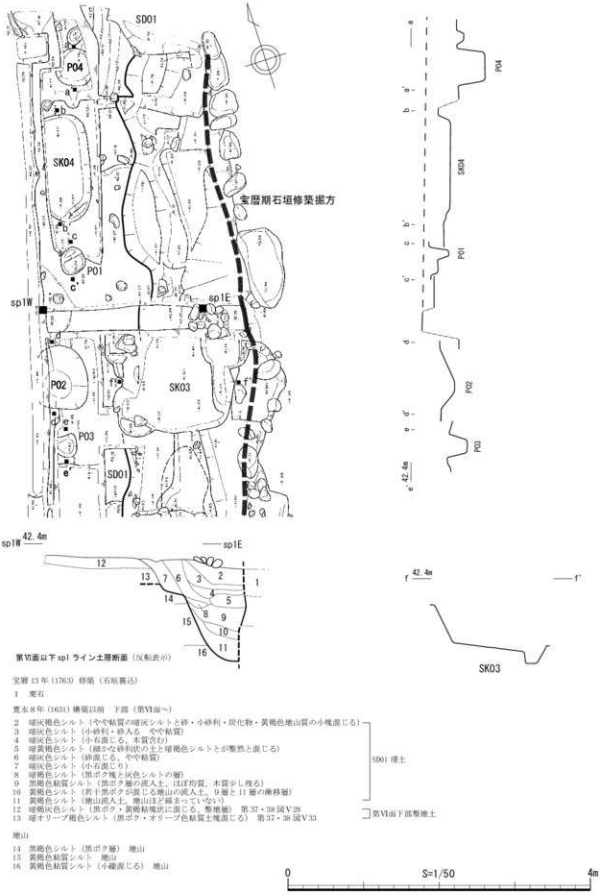
Ⅴ4　灰オリーブ～暗灰色粘質土（砂混じる）　第20図（堰Ⅰ第159図）V2
Ⅴ15　褐黒褐色砂質土・暗灰褐色粘砂質土　第19図（堰Ⅰ第158図）V12～
Ⅴ16　暗茶褐色粘質土（植物腐層）・灰褐色砂質土　第Ⅵ面
　第19図（堰Ⅰ第158図）V13　SX01 埋土
Ⅴ17　暗褐灰褐色粘質土（下部に黄褐色系粘質土混じる）
　第19図（堰Ⅰ第158図）V14
Ⅴ18　にぶい暗褐色粘質土（炭化物・砂・礫混じる）　北側：第Ⅵ面 SD02 埋土
Ⅴ19　褐色土（しまりあり、木片混じる）
Ⅴ20　炭化物層
Ⅴ21　暗青灰色粘質土（炭化粒砂塊・砂利混じる）
Ⅴ22　褐色粘質土（砂・礫混じる）
Ⅴ23　暗灰色粘質土（淡黄灰色シルト・砂質土層状に混じる）
　第41図 sp3_18, 19
Ⅴ25　暗青灰色粘質土（黒褐色土塊多く混じる）
Ⅴ26　暗青灰色粘質土（上層よりやや明るい、礫・砂利混じる）
Ⅴ27　炭灰青色砂（暗褐色粘質土層状に混じる）
Ⅴ28　暗褐灰色シルト（黒褐色粘土・黄褐色粘土塊混じる）　第39図 sp1_12
Ⅴ29　暗褐灰色砂質土（炭化粒土粒混じる、最下部に炭化物層あり）
Ⅴ30　炭灰色粘質土（しまりあり、砂利・小礫多く混じる）
Ⅴ31　青灰色砂・黒色粘質土混土　第41図 sp3_21, sp5_16
Ⅴ32　青灰色砂・黒色粘質土混土（砂質分多い）　第41図 sp3_21, sp5_16
Ⅴ33　暗オリーブ褐色シルト　第39図 sp1_13
Ⅴ34　暗灰色砂質土（黒褐色粘土・灰色粘砂質土）
Ⅴ35　黒褐色粘質土

Ⅵ：地山

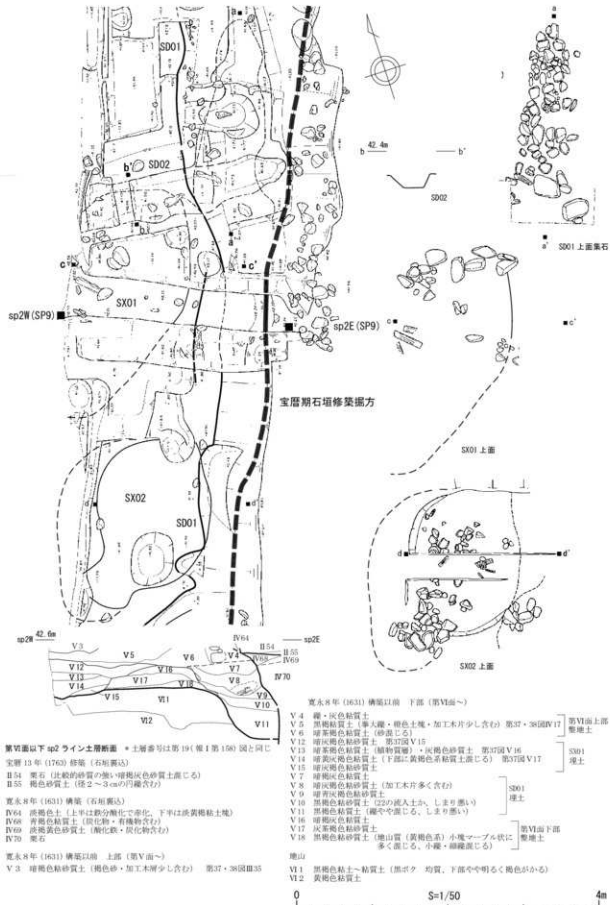
Ⅵ1　黒褐色粘土～粘質土（黒ボク 均質）　第19図（堰Ⅰ第158図）Ⅵ1

0　S=1/60　5m

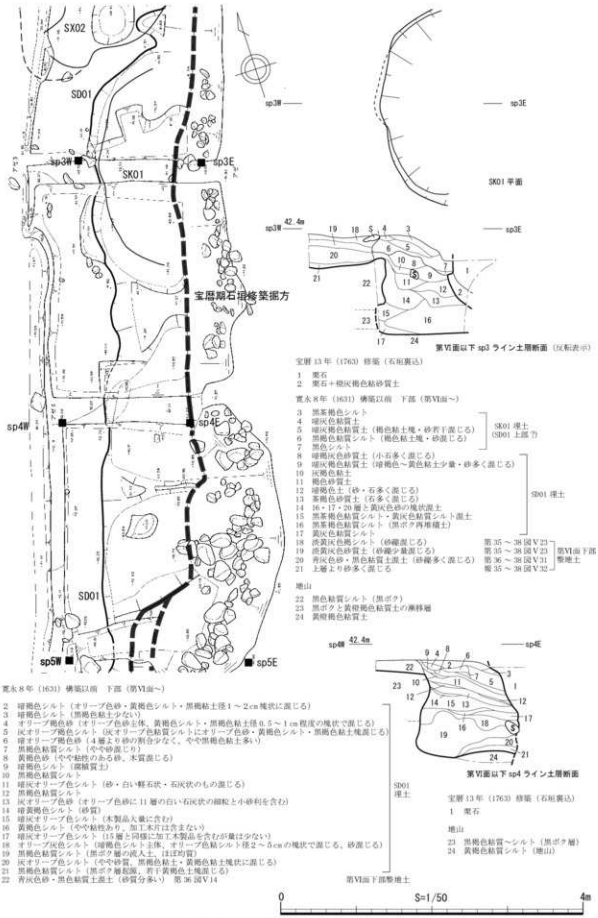
第 38 図　五十間長屋台南北土層断面図 3- 北（S=1/60）



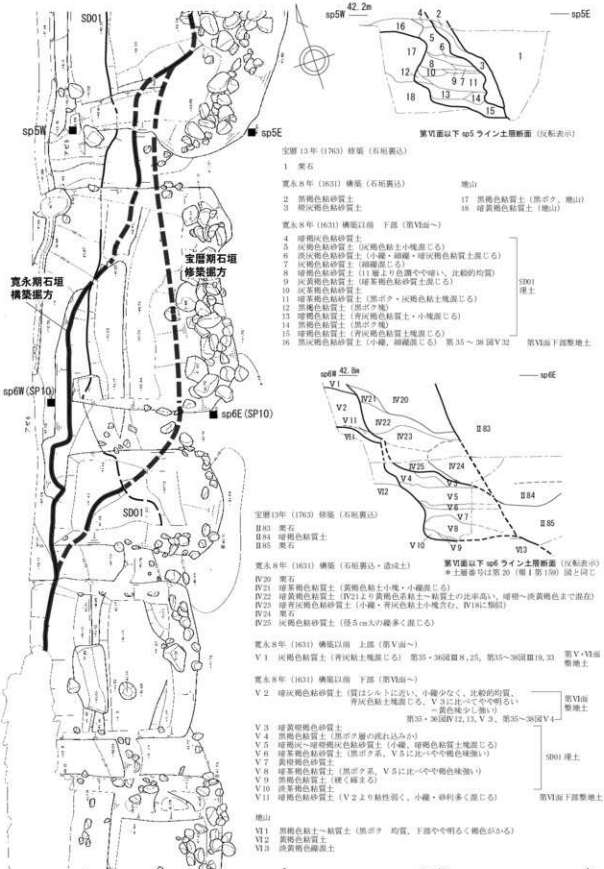
第 39 図　五十間長屋台第Ⅵ面遺構図 1　SD01 sp1 付近　P01 ～ 04　SK03・04　(S=1/50)



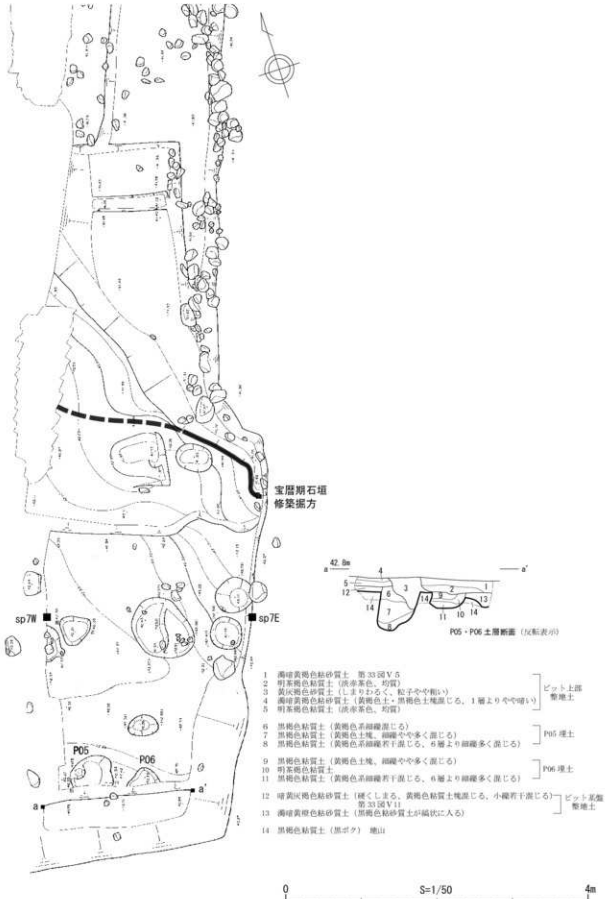
第 40 図　五十間長屋台第VI面遺構図 2　SD01 sp2 付近　SX01・02　SD02　(S=1/50)



第 41 図　五十間長屋台第Ⅵ面遺構図 3　SD01 sp3 付近　SK01　(S=1/50)



第42図　五十間長屋台第Ⅵ面遺構図4　SD01 sp5・6付近　(S=1/50)



第43図　五十間長屋台第Ⅵ面遺構図5　調査区南端　P05・06　(S=1/50)

第４表　主要下層遺構一覧（上）　遺構面・地山面の標高（下）

箇所	遺構名	時期	規模	主な出土遺物	特記事項
二ノ丸内堀 橋爪一ノ門下層・内堀橋北詰下層	SB02	中世～近世初期	1間×1間分(南北2.24m、東西2.0m) 主軸　N-3.1°-E ないし N-86.9°-W 柱穴規模　北東：径50cm、深80cm 北西：径40cm、深87cm 南東：径75cm、深72cm 南西：径50cm、深73cm		
	P01	中世～近世初期	短83cm、深27cm	瀬戸・美濃大窯灰釉製品小片	
	P03	中世～近世初期	長35cm×短26cm、深14cm	中国白磁皿	
	P04	近世初期	長120cm×短95cm、深33cm	瀬戸美濃陶器碗（天目）、土師器皿、小柄	
	P05	近世初期	長46cm×短35cm、深22cm	越中瀬戸陶器皿	
	SD01	近世初期	長105cm×幅27cm、深16cm	青花皿、越前陶器壺、土師器皿	
	SK01	中世～近世初期	長247cm×短257cm（突出部分80cm含）、深137cm	土師器皿小片	室状遺構
	SK02	中世～近世初期	長243cm+×短268cm、深135cm		室状遺構
	SK03	中世～近世初期			室状遺構
	SX01	近世初期	長602cm+×短282cm、深67～95cm	中国白磁皿、肥前陶器皿、越中瀬戸陶器皿、土師器皿	
	SX02	近世初期	長350cm+、深46cm	越中瀬戸陶器皿、瀬戸美濃陶器鉢（黄瀬戸）	
	整地土01	近世初期		土師器皿	地山直上整地土中に土師器皿多数含まれる
	SB01	古代	1間×2間分(南北2.4m、東西4.8m) 柱間距離　真真2.4m 主軸　N-78.6°-E 柱穴規模　北東：長97cm×短78cm、深52cm 北西：長92cm×短83cm、深67cm 南西：長106cm×短74cm+、深84cm	須恵器	
	P02	古代	長20cm+、深11cm	鉄滓	
五十間長屋台下層 第Ⅴ面	籠状繊維物A	近世初期	76cm×60cm+		造成関連施設？
	籠状繊維物B	近世初期	45cm+×52cm		造成関連施設？
	籠状繊維物C	近世初期	108cm×100cm+		造成関連施設？
	SK01	近世初期	径132cm、深78cm		
	P01	近世初期	径38cm、深58cm+		
	SD01	近世初期	幅106cm、深14cm		杭を付随
	切株	近世初期	幹径20cm		マツ属
	木組遺構	近世初期	丸太長120～130cm		
	瓦敷	近世初期	長130cm+×幅47～53cm		
五十間長屋台下層 第Ⅵ面	P01	近世初期	径35cm、深26cm		
	P02	近世初期	径84cm、深22cm		
	P03	近世初期	径33cm、深26cm		
	P04	近世初期	径50cm、深36cm		
	P05	近世初期	径60cm、深48cm		
	P06	近世初期	径45cm、深22cm		
	SD01	近世初期	総延長26m+、幅140cm+、深130～135cm	中国磁器・肥前陶器・土師器皿等陶磁器、漆器等木製品、煙管・小柄等金属製品、砥石等石製品	桜土坑群？
	SD02	近世初期	総延長280cm+ 幅53cm、深20cm		
	SK01	近世初期	長径264cm、深51cm		SD01土部と一体？
	SK03	近世初期	1辺170cm、深64～81cm		
	SK04	近世初期	長142cm×短60cm+、深17cm		褐灰色砂質土
	SK05	近世初期	径127cm、深63cm		断面のみ検出
	SX01	近世初期	長径333cm、深45cm	土師器皿、木製品、鉄釘等	
	SX02	近世初期	長径243cm、短径160cm+、深57cm	瓦、漆器椀等	

単位m

	二ノ丸内堀調査区		五十間長屋台調査区			
	橋爪一ノ門	内堀橋北詰	調査区南端	SP10	SP9	調査区北端
遺構最上面 （五十間Ⅴ面）	42.75~43.00		43.40	43.30	43.30	43.15
（五十間Ⅵ面・上）			42.80	42.85	42.50	42.50
（五十間Ⅵ面・下）				42.60	42.30	
地山（黒ボク）上面	42.50~42.80	42.15~42.45	42.50	42.10	41.85	41.80

第３章　遺物

第１節　概要

二ノ丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓調査区において出土した遺物は、陶磁器・瓦（粘土瓦）・木製品・金属製品・石製品・ガラス製品の各材質にわたり、用途も食器・建築部材・武器等多様である。第44～140図・第６～45表は、遺物の実測図及び観察表である。掲載方法は、まず材質ごとに大別し、このうち木製品・金属製品・石製品等、それぞれ基本的な用途・機能を異にするものを包括している材質については、これら種類の区別を先とし、種類ごとに出土地区・地点を示すこととした。用途が容器や建築材として概ね限定的である陶磁器・ガラス製品及び瓦については、直ちに出土地区・地点単位でまとめ、その下位に器種・（細別）種類の別を示した。

以下、材質ごとに節を設け説明するが、個々の出土遺物の基本的な特徴・寸法等は実測図及び観察表に譲り、主として出土箇所ごとの傾向に重点を置き、一括性の高い遺物群、代表的・典型的なもの、特異なもの等を適宜抽出して記述を進める。

第２節　陶磁器・ガラス容器（第44～67図、第６～17表）

１．概要

（１）出土状況

陶磁器は各調査地区から普遍的に出土している。二ノ丸内堀（近代遺構・本体）においては出土量が多く、完形に近い資料も目立つが、近代に下る製品の占める割合が高い。櫓（長屋）台上面・櫓（長屋）台内部では比較的小型の破片が主体となる。櫓（長屋）台内部出土資料は、修築の時期を判定する上で重要であるが、概して石垣が最初に構築された寛永期以前に属するものが多く、宝暦期・文化期の修築に近い時期の資料はごくわずかである。橋爪一ノ門・内堀橋北詰下層及び五十間長屋台下層においては、土師器皿を中心とした一括性の高い遺物群が出土している。これらは不明な点の多かった寛永期以前の様相を示す重要な資料である。

なおガラス容器は二ノ丸内堀近代遺構・本体から出土しているが、牛乳瓶・ラムネ瓶等すべて近代以後に属する（第67図）。

（２）分類

陶磁器の分類・年代観については、[小野 1985]・[森 1992]・[森島 2003]・[九州近世陶磁学会 2000]・[藤澤 1993]等を参考とし、金沢城下町における状況（[石川県教育委員会・(財) 石川県埋蔵文化財センター2002b]・[金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）2006b・2007c]等）を加味して記述した。土師器皿については、『金沢城跡埋蔵文化財確認調査報告書Ⅰ』[石川県調査研究所 2008a]で示した器形分類案を加筆修正したもの（第44図）に一応依拠するが、第５章で改めて説明するように、未整理な箇所が多分にあり今後も検討を要する。

また第44図下・写真図版88には土師器皿（土器）の胎土分類案も併せて示した。なおその他の陶磁器の胎土については、観察表において、幾つかの指標に度合をつけて状態を表記することとした（第144図）。

２．出土地区・地点別の様相（陶磁器）

（１）二ノ丸内堀近代遺構（第45～47図）

第45図P001～第47図P039は、二ノ丸内堀の廃絶後、跡地に設けられた溝・石垣・水槽及びその造成に係る整地土等から出土した。第45図P001～第47図P030は磁器で、碗（第45図P001～P010）・

酒杯（P011）・皿（P012～第46図P018）・鉢（P019～P022・P030）・蓋物（P023～第47図P028）・栓（P029）等がある。第47図P031～P036は陶器で、碗（P031～P032）・皿（P033～P035）・瓶（P036）等がある。P037～P039は付近に存在した遺構・包含層から混入した須恵器である。近世に属するものはP010・P018・P023・P024等で、多くは近代になって生産されたものである。

近代の陶磁器のほとんどは、廃藩後に旧城域を管轄した陸軍（歩兵第七連隊、第九師団等）に関連する。P011等文様に直接軍旗等を表現するものも見られる。この他特徴的な製品として、体部外面に圏線・縦三本線による区画・アラビア数字を描いた碗・皿がある。P007・P015は、既製品の染付に赤の後絵付（圏線・縦三本線・アラビア数字の「1」）が施された製品である。P005の碗は、白磁の素地に青の上絵付が施されたものである。またP014の皿は、染付文様として圏線・縦三本線・アラビア数字が具わっており、既製品利用から特注品への流れが推定できる。これらの使用時期については、P015等既製品の染付の形態から見て、明治期の早い段階に端緒があると推定されるが、不明な所が多い。P031～P035は金沢に工場があった硬質陶器で、P032には陸軍の星章、P031・P034には「歩」「七」（歩兵第七連隊）等の文様・文字が染付で施される。P016・P017は白磁に「酒保」（軍施設内の売店）の文字が赤絵で描かれている。この他とくに陸軍固有の製品ではないが、練歯磨粉の容器（P025～P028）等も出土しており、陸軍の日常起臥の一端が窺える。

（2）二ノ丸内堀本体（第48～50図）

二ノ丸内堀本体においては、下部・底面、すなわち近代遺構構築以前の堀堆積土・埋土出土資料と、堀上部出土資料に大別される。

第48図P040～第49図P050は堀上部出土の陶磁器で、内堀廃絶後に構築された近代遺構出土資料と並行ないし後出するものが多い。1997-1区では元の堀の上部東縁でまとまって出土した。1997-7区以西は埋め立てを受けていない部分で、上部には終戦以後と思われる廃棄物が堆積していた。第48図P042～P044・P046はいずれも第2次大戦末期の代用食器で、P042～P044は磁器、P046は硬質陶器である。P047・P049はともに硬質陶器で、前者は「金沢医科大学」、後者は「金大病院」の名前が染付や色絵で記されている。金沢医科大学（旧制）は、金沢大学医学部の前身で、大正12年（1923）～昭和35年（1960）まで存続した。金大病院については、医科大学附属病院を改称した金沢大学医学部附属病院を指すとすれば、昭和24年（1949）以降の略称となる。ともに旧城内とは異なる場所にあり、上記の陶磁器は、金沢大学が設立された終戦後の昭和24年（1949）以降持ち込まれ廃棄されたものであろう。第49図P051・P052は近世に遡る土器焼塩壺である。

第49図P053～第50図P080は堀の下部・底面から出土した陶磁器で、1997-4～7区では近代後半以後の遺物の混入も見られるが、概ね明治期以前に属するものと思われる。第49図P053～第50図P070は磁器で、碗（P053～P063）・皿（P064～P069）・花瓶（P070）等がある。多くは肥前磁器染付製品で、年代的にはばらつきが大きい。P063～P065・P069等古相を呈する中国磁器も散見される。P066・P067は、アラビア数字入り後絵付皿に用いられたものと同種の文様を持つ製品で、堀下部堆積土出土資料の最新相を示すものと推測される。P068はむしろ上部に属するもので混入と見られる。

第50図P071～P078は陶器で、碗（P071・P072）・鉢（P073～P075）・擂鉢（P076）・土瓶蓋（P077）・瓶（P078）等がある。P079は須恵器杯、P080は土師器甕で、いずれも付近の付近に存在した古代の遺構・包含層から混入したと見られる。

（3）二ノ丸内堀　西部北岸～中央部東岸北端（第51図）

第51図P081～P097は、水敲石垣が認められる西部北岸～中央部東岸北端において出土した。石垣の年代等を把握する目的でトレンチ調査を実施したが、石垣下部については決め手となる陶磁器は出土していない（報告書Ⅰ、第4章第1節2（2））。P083・P084・P087・P088等が石垣裏込・背後の盛土から出土しているものの、いずれも寛永期を下るものではなく、想定される石垣構築時期に近いも

のではない。一方法面表土近くからは、P090・P091・P093～P095 等、19 世紀代の陶磁器も出土している。なお、P085 は瀬戸・美濃陶器の卸皿で、15 世紀代に遡る伝世の考え難い日常雑器として注目される。

（4）二ノ丸内堀　石垣他（第 51～52 図）

第 51 図 P098～第 52 図 P113 は、三ノ丸南面～西面石垣（2230S・2220W）付近から出土した。本石垣は内堀橋北詰橋台部分に該当し、出角下半に擦りつく低い盛土が認められる。陶磁器の多くは盛土付近から出土している。年代としては、古代の須恵器（第 52 図 P112～P114）の他、17 世紀初期までの一群（中国磁器青花皿：第 52 図 P104、瀬戸・美濃陶器鉄釉皿：P107、肥前陶器鉄絵平鉢：P108）、18 世紀代を中心とした一群（肥前磁器染付・青磁染付碗：第 51 図 P100～P102、信楽陶器鉄絵碗：第 52 図 P106、土器火鉢・焼塩壺：P109～P111）、19 世紀代の一群（瀬戸・美濃ないし再興九谷磁器染付碗：第 51 図 P098・P099、瀬戸・美濃磁器染付端反碗：P103、再興九谷磁器染付皿：第 52 図 P105、P105 は近代に下る可能性もある）等に分かれ、ばらつきが大きい。

第 52 図 P115 は内堀橋の橋脚基礎（P05）から出土した肥前磁器染付小皿で、ロクロ型打ちの製品である。

（5）櫓（長屋）台上面・階段（第 53 図）

第 53 図 P117～P128 は、櫓（長屋）台上面から出土した陶磁器で、年代は 17 世紀初期から近代にかけての各時期にわたる。本来造成盛土中に包含されていたものや、櫓（長屋）建物の再建間、あるいは撤去後等に持ち込まれたとおぼしき状況を示す。なおこのうち P128 の肥前磁器染付碗は、菱櫓古段階礎盤（根石）アの根固めから出土している。文様・器形の特徴から肥前陶磁器編年Ⅲ期（17 世紀後半）の典型例であり、古段階礎盤が寛文８年（1668）の石垣修築・建物再建に伴って設置されたとの見方と整合する出土状況を示す。

第 53 図 P129・P130 は櫓（長屋）台取付階段①（菱櫓西側）・二ノ丸階段調査区から出土した陶磁器で、越前陶器および肥前陶器の擂鉢である。いずれも 17 世紀前半代の特徴を呈し、階段造成時の盛土に包含されていた可能性がある。

（6）三ノ丸第３次調査区（第 54 図）

第 54 図 P131～P144 は、内堀北西端 1997-4 区北側に接する三ノ丸第３次調査区で出土した。このうち SX01 からは陶磁器がまとまって出土した（P132～P142）。P132～P138 は磁器で、染付・白磁碗（P132～P134）・色絵鉢（P135）・染付蓋物身（P136）・色絵紅皿（P137）・青磁花瓶（P138）がある。P139 は灰釉の掛かる陶器で堤子と思われる製品である。P140 は土師器皿、P141 は施釉土器の灯明受皿、P142 は土器で火消し壺等の蓋と見られる。P139・P141・P142 のような器種の存在、P132・P140 の形態・文様の特徴等から、これらの使用期間は 18 世紀後半の年代が考えられる。なお、17 世紀後半以後の城内出土陶磁器の傾向としては、粗製碗が卓越する場合（番所からの廃棄）と、碗・大型皿の組物が認められる場合（食膳具収納箇所からの廃棄）に代表されるが、紅皿（P137）や花瓶（P138）の存在はむしろ特異で、日常の生活を感じさせる。また染付碗・色絵鉢等の磁器供膳具も幾分上手の製品と見られる。以上から位置としてはやや離れるが、調査区西方の二ノ丸広式（奥）等での使用品が運ばれて廃棄された可能性を考えたい。

（7）櫓（長屋）台内部（第 55～57 図）

第 55 図 P145～第 57 図 P190 は、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓台内部から出土した。櫓（長屋）台は、寛永８年（1631）に構築された後、菱櫓～五十間長屋台北半が寛文８年（1668）、五十間長屋台南半が宝暦 13 年（1763）、橋爪門続櫓台が文化５年（1808）にそれぞれ修築されている。各修築範囲から出土した陶磁器群においては、基本的には構築時までの製品が主体となっているが、それぞれの修築に近い時期に生産されたものが、当該修築時に若干混入している傾向がある。

文化期修築部分

第55図P145～P151は橋爪門続櫓台内部・文化期修築部分から出土した。このうちP145・P146の肥前磁器染付碗は18世紀末期に盛行するもので、修築に比較的近い時期に属する。瀬戸・美濃陶器織部向付（P147）、越中瀬戸陶器銹釉擂鉢（P148）、越前陶器甕（P149）、珠洲陶器甕（P150）、土師器皿（P151）は寛永構築期以前の製品である。

宝暦期修築部分

第55図P152～第57図P181は、五十間長屋台内部・宝暦期修築部分から出土した。このうちP157の肥前磁器染付碗、第56図P162の肥前陶器陶胎染付碗、P165の京・信楽系陶器鉄絵皿等は、18世紀中葉に盛行するもので、修築に比較的近い時期に属する。またP158の肥前磁器色絵皿はやや古相を呈するが、同じく宝暦修築時に混入したと見られる。この他は寛永構築以前の製品で、中国磁器青花碗（第55図P152～P156）・青花・白磁・青磁皿（P159～P161）、瀬戸・美濃陶器灰釉皿（第56図P163）・志野皿（P164）・織部向付（P167）、越中瀬戸陶器灰釉皿（P166）、肥前（ないし北九州・山口系？）陶器鉄釉鉢（P168）・肥前陶器鉄釉等擂鉢（P169～P171）、越前陶器擂鉢（P172・P173）・壺（P174）・甕（第57図P175）、珠洲陶器甕（P176）等がある。

寛永期構築部分

第57図P182～P190は、橋爪門続櫓台及び五十間長屋台内部・寛永期構築部分から出土した。中国磁器青花碗（P182・P183）、瀬戸美濃陶器織部碗（P184）、越中瀬戸陶器灰釉皿（P185）・銹釉擂鉢（P188）、備前陶器皿（P186）、肥前陶器灰釉擂鉢（P187）、土師器皿（P189・P190）等がある。

（8）橋爪一ノ門・内堀橋北詰下層（第58～60図）

第58図P191～第60図P255は、二ノ丸内堀調査区（橋爪一ノ門・内堀橋北詰）の下層遺構・整地土（橋爪一ノ門基盤）から出土した。一部の混入品を除き、寛永期以前の製品で占められる。これらのうちSX01・SX02・整地土01等の出土陶磁器はとくに一括性が高く、近世初期の特徴を知る上で重要である。

SX01（第58図P191～P212）

SX01は二ノ丸内堀橋北詰で検出された大型土坑である。磁器（第58図P191・P192）・陶器（P193～P196）はごく少量で、土師器皿（P197～P212）が多数を占める。

P191は中国磁器景徳鎮産青花皿B1群、P192は同E群である。P193は瀬戸・美濃陶器天目茶碗で、大窯第3段階以後の製品と思われる。P194は肥前陶器鉄絵皿、P195は越中瀬戸陶器鉄釉丸皿（ソギ皿）である。P196は焙烙形の器形を呈し、体部外面に刻文が施された製品で、胎土は軟質・土器質であるが、淡緑色の釉薬が掛かる。関西で生産された軟質施釉陶器で、茶道具の一つである灰器の可能性が考えられるが、類例が知られておらず、産地についても海外を含め検討の余地がある。この他図示していないが、産地不明の陶器鉄釉瓶類（壺・甕の可能性含む）の小片が出土している。

P197～P212は土師器皿である。最小のP197は、器形上在地の系統を引く可能性があるが、その他のほとんどが京都の土師器皿の影響を受けている（京都系土師器皿）。寸法は口径8～9cm台・11cm台にまとまりがあり、その他12cm台・13cm台・14～15cm台・17cm台にそれぞれ散在する。9cm台・11cm台については、小さくつまみ上げられた口縁端部・やや厚手で深い器形・内面見込み「の」の字ナデ（8～9cm台）ないし「2」の字ナデ（11cm台）（写真図版87）・礫や砂が混じらない精良な胎土等斉一的な特徴を有し、同一生産組織の製品と考えられる（P198～P205）。これらに比べ口径12cm以上については斉一性を見出し難く、複数の生産組織が想定される。P209～P212の大型品は口縁外面のヨコナデが整然と施される等、より小型品に対し丁寧な作りが窺える。このうちP209・P212は、緩やかな凹面が形成される口縁端部、二本の稜が目立つ体部内面、粘土の空隙が縮れ目状に残る割には平滑に整えられた体部外面等の器形・調整上の特徴を有する。胎土に関しては、素地自体は肌理細か

いが、粗砂・海面骨片が顕著に混じるもの（A群）で、能登地域（七尾周辺等）の土器の一部と酷似しており、同地域からの搬入品と判断される[1]。体部が薄く、長く内傾する口縁端部を呈する P210 や、P210 より器壁がやや厚く、丸みのある器形であるが、口縁端部のつまみ上げ等に精緻な造作を見せる P211 は、粗砂等が少なく、海綿骨片が見られない胎土で（B・C群）、在地（加賀）産と判断される。なお口径 12cm 以下の中・小型品には灯芯の油煙痕が多く認められるが、大型品には見られない。

SX01 出土陶磁器の廃棄年代については、土師器皿や中国磁器・越中瀬戸陶器の形状・組成からすると 1600 年前後頃の印象を受けるが、肥前陶器鉄絵皿（P194）が混入品でないとすれば、その存在・特徴から 1600 年以後、あるいは 1610 年頃まで下る可能性がある。

SX02（第 59 図 P220～P226）

SX02 は橋爪一ノ門の下層下部東側で一部のみ検出された遺構である。出土点数は少ないが、越中瀬戸陶器鉄釉内禿印花文皿（P220）、瀬戸・美濃陶器黄瀬戸鉢（P221）、越前陶器擂鉢（P222）等の陶器や、土師器皿（P223～P225）が出土している。なお P226 は古代の遺構・包含層から混入した須恵器壺である。P220 は見込み周囲に釉止めの隆起を伴うもので大窯期に属する。P223～P225 は口径 11～12cm 台を測る京都系土師器皿で、器壁が厚く器高が低い。上記 SX01 の主体であった同寸法の一群とは胎土を含め特徴の細部がやや異なる。

SX02 出土陶磁器の廃棄年代については、越中瀬戸や黄瀬戸等の形状・組成からすると 16 世紀末期に遡る可能性があるが、全体的に出土点数が少なく、土師器皿の形状も SX01 に先行すると推定される要素が見出し難いことから、下限は 1610 年頃まで下げて考えておきたい。

その他の遺構（第 59 図 P213～P219）

P03・P04・P05、SD01 は橋爪一ノ門の下層下部で検出したピット及び小溝である。P213 は中国磁器白磁皿C群で P03 から出土した。P214 は大窯第４段階と見られる瀬戸・美濃陶器天目茶碗、P215 は京都系土師器皿で P04 から出土した。P216 は越中瀬戸陶器鉄釉皿で P05 から出土した。P217 は中国磁器景徳鎮産青花皿E群、P218 は越前陶器甕（鉄泥塗布）で、SD01 から出土した。

SB01 は橋爪一ノ門下層の下面、地山上で検出された古代の掘立柱建物である。南東の柱穴 P01 から須恵器坏（P219）が出土した。

橋爪一ノ門下層上部・中部（第 59 図 P227～P233）

橋爪一ノ門下層上部・中部は、同門の造成に係る整地土と考えられる（第 24 図Ⅱ層に概ね相当する）。中国磁器白磁皿（P227）・青花皿（P229）、須恵器皿（P228）、瀬戸・美濃陶器天目茶碗（P231）・灰釉皿（P232）、土師器皿（P233）等が出土した。このうち P232 は 15 世紀代に遡る。なお P230 は 17 世紀末～18 世紀前半の肥前磁器染付皿で、上面からの混入と見なし得る。

整地土 01（橋爪一ノ門下層下部）（第 60 図 P234～P245）

橋爪一ノ門下層下部は、上部・中部とは異なり、一ノ門造成以前の整地土で、古代の遺構を覆い、近世初期以後の遺構群のベースとなっている。このうち整地土 01 は調査区中央西部・地山直上に分布する淡黄褐色の砂質土で、P234～P245 に見るように土師器皿主体の遺物が出土した。

P234 は中国磁器白磁皿で、整地土 01 から出土した土師器皿以外唯一の資料である。P235～P245 は高い斉一性を有する土師器皿で、京都の影響を受けている（京都系土師器皿）。口径は 12～13cm 台に一群があり、この他 11cm・14cm 台に散在する。これらは概して器壁が薄く（４mm 前後）、精緻な作りである。器形的には、口縁部の外反が強く、口縁内端面の先端が丁寧に摘み上げられるといった特徴がある。底部が残る資料は少ないが、見込みを巡ってごくわずかな隆起があり、その外側は浅い凹線が認められる。内面の調整は見込み部分が一方向ナデ、隆起部分より外＝上側がヨコナデである。外面は口縁部にのみ丁寧なヨコナデが施され、体部以下は粘土の空隙を残す縮れ目状を呈するが、凹凸がほとんどなく、この部分については型を用いて成形している可能性も考えられる。胎土には粗砂・

海綿骨片が顕著に混じる。また表面の色調について、赤みのとくに強いもの（P236・P238・P239・P241・P242・P244）とそうでないもの（P235・P237・P240・P243・P245）とに分類可能で、赤かわらけ・白かわらけの別が設けられていると判断される。なお出土した資料全てに灯芯の油煙痕は認められない。

整地土01出土の土師器皿の胎土はSX01出土のP209・P212と酷似しており、同一系統（能登地域）の製品と判断される。一方器形については、SX01出土資料の方が硬直的で、器壁も若干厚いこと等が看取され、整地土01出土資料が先行すると考えるのが妥当である。その実年代観は、整地土01が地山直上に堆積する土層でもあることから、1600年以前に遡ると考えられる。

橋爪一ノ門下層下部他（第60図P246～P255）

橋爪一ノ門下層下部からは、中国磁器景徳鎮産青花碗（P246：C群、P247：D群）、朝鮮磁器白磁皿（P248）、瀬戸・美濃陶器灰釉皿（P249）、越中瀬戸陶器鉄釉内禿印花文皿（P250）・香炉？（P251）、土師器皿（P252～P254）等が出土した。青花碗（P246・P247）等は16世紀後半、白磁皿（P248）や越中瀬戸皿（P250）等は下って16世紀末期（天正以後）に属すると考えられる。土師器皿のうちP254は京都系の範疇から脱するもので、17世紀代に下るものと見られる。なお肥前陶器陶胎染付碗（P255）が橋爪一ノ門下層の西側から出土しているが、上面からの混入品である。

（9）五十間長屋台下層　第Ⅴ面（第61図）

第61図P256～P274は、五十間長屋台下の遺構面のうち、上部に相当する第Ⅴ面から出土した。出土量は少ないが、寛永8年（1631）の石垣構築直前の様相を示し、年代観の定点となる一群である。

P256～P270は第Ⅴ面最上部から出土した。P256は中国磁器景徳鎮産青花磁器B1群で、出土層位に比して古い様相を示す。P257～P261の陶器供膳具等においては、肥前陶器（P257：碗、P258・P259：皿、P260：平鉢、P262：把手）が目立ち、瀬戸・美濃陶器（P261：志野織部向付）は少ない。P263・P264は越前陶器擂鉢である。P265～P270は土師器皿である。このうちP266は京都系（B類）であるが、器壁が極めて厚く、終末期的な形態かと思われる。主体はP265・P267・P270のような、平坦で広い底部から短い体部が急角度で立ち上がるタイプ（C2Ⅰ1類）が占めている。P268・P269は極粗砂や海綿骨片が目立つ胎土（A群）であり、能登からの搬入品と見られるが、京都系（B類）の特徴が希薄となっている。

P271～P274は第Ⅴ面最上部の基盤となる整地土中から出土した。ただし整地は比較的小範囲・小単位で行われているようであり、最上部形成以前の遺構面に帰属していた可能性も考えられる。P271・P272は中国磁器（P271：漳州産青花皿、P272：白磁皿C群）、P273・P274は土師器皿である。

第Ⅴ面出土陶磁器の廃棄年代については、寛永8年（1631）直前と判断できる。総量が少ないながら、肥前陶器の盛行と瀬戸・美濃陶器の退潮が看取できる。また後述の第Ⅵ面と同じく、陶磁器供膳具に加え擂鉢のような調理具が一定量備わっていることは、調理＝料理の単位の個別性、引いては城内に独立した屋敷地が展開していたことを示唆するものである。土師器皿の様相についてはやや明瞭さを欠き、古い様相を留めたものも散見される。これらが本来的にこの面に属するのか、より下層からの混入品なのか検討の余地がある。

（10）五十間長屋台下層　第Ⅵ面（第62～66図）

第62図P275～第66図P360は、五十間長屋台下の遺構面のうち、下部に相当する第Ⅵ面から出土した。出土量は調査範囲が狭いこともあり多くはないが（接合作業後破片数327点）、大概の器種を網羅しており、当該期の組成を窺うに足る内容を持っている。

SD01（第62図P275～第64図P331）

SD01は石垣に並行・重複する溝状の遺構で、第Ⅵ面における陶磁器の大部分が出土している（接合後破片数215点）。

第62図P275～P284は中国磁器の供膳具である。P275・P276は青花碗で、前者は漳州窯系Va類、

後者は景徳鎮窯系である。P277～P279は青花皿で、P277は景徳鎮窯系B1群、P278は同じくE群、P279は漳州窯系鎒皿（F群）である。P280～P282は白磁皿で、とくに前二者のC群は本遺構他第VI面で目立つ存在である。P283は青磁蓮弁文皿、P284は青花の碗ないし鉢で、景徳鎮窯系の製品である。

P285～第63図P306は陶器である。P285～P298は供膳具で、碗（P285～P288）、小碗・小杯（P289～P291）、皿（P292～P294）、鉢・向付（P295～P298）等がある。P285は軟質施釉陶器碗で、内面は緑釉、外面は白化粧土を施した上に緑釉を逆さまに流し掛けた意匠である。P286～P290は瀬戸・美濃陶器碗・小碗で、P286は織部碗、P287・P288は天目茶碗、P289は小天目である。P290は白色の釉調を呈し、小天目の可能性を考えたが瓶の口縁である可能性もある。P291及びP292～P294は肥前陶器小杯及び皿で、P292・P293には胎土目積痕が認められる。P295は輪花風の鉢で、白色・軟質の胎土に黄・茶・緑色の絵付けが直接施された後、貫入の多い透明釉が掛けられた、釉下彩の製品である。初期の京焼に属すると考えられる。P296～P298は瀬戸・美濃陶器の向付で、P296は志野、P297は志野織部、P298は弥七田織部の製品である。P298の文様は細描の鉄絵に銅緑釉を流し掛けたもので、本遺構出土陶磁器の中でも最新の一つである［愛知県陶磁資料館2005］。以上の通り、供膳具には関西系の軟質施釉陶器、瀬戸・美濃陶器、肥前陶器が見られるが、肥前陶器が比較的少なく、瀬戸・美濃陶器がやや多い組成を示す。

第63図P299～P301は擂鉢である。P299・P300は越前、P301は肥前陶器である。P299は漆継の上擂目が摩耗するまで使い込まれている。P302～P305は壺・瓶類である。産地は信楽（P302）、肥前（P303・P304）、瀬戸・美濃（織部、P305）等複数見られるが、それぞれ用途を異にすると思われる。P306は頂部につまみを持ち、注口を有する袋物で、内面の同心円状のタタキ当て具痕や胎土から見て肥前の製品と見られる。瀬戸・美濃陶器等の事例から類推すると尿瓶の可能性が考えられる。

第64図P307～P331は土器で、このうちP307～P327は土師器皿である。P307は口縁部が内屈する小型品で、特別の用途に供されたものであろう。これを除くと寸法は口径約9cm～15cm間に分布し、9cm前後から9cm台（P308～P312）、11cm～13cm（P313～P320）、14cm前後以上（P321～P327）に一応分け得るが、中・大型品にはかなりばらつきがある。P310～P312・P320は京都系（B類）の系譜に連なるもので、小片がほとんどである。P320は口縁部外面の幅広いナデ等に京都系要素を留めるが、前項内堀橋北詰下層SX01出土資料に比べて口縁部の外反は弱く、直線的である。本遺構で主体となる形態（P308・P309・P313～P319・P321～P327）は、平たい底部から短い体部が急な角度で立ち上がり、口縁外側に面を形成しつつ、口縁上端が摘まみ上げられた状態のものを典型とする（C2I類）。C2I類は更に体部の屈曲具合や内面の調整等で細別できる。本遺構出土資料の場合、体部の屈曲が目立たず、内面について、見込み一方向調整の後体部ヨコナデが施されること、底部外面に板目・篭目状の圧痕がほとんど見られないこと等が特徴として指摘できる（C2I1a類。ただしP313・P325には、不明瞭ないし部分的であるが何らかの圧痕が見られる）。なお見込の調整痕は、体部のヨコナデと異なり、ハケメ状ないしより細かな条線状を呈する（写真図版87）。灯芯の油煙痕が見られる比率は高く、口径15.4cmを測るP327にも看取される。

P328は灯明皿の受け皿と見られ、極めて厚い器壁を持つ。P329～P331は焼塩壺であるが、二次焼成痕は認められず、別途生産された焼塩を入れたものと思われる。体部下半は不明であるが、上半は撫で肩の器形を呈する。粘土紐の輪積み接合部分で破損しており、成形方法が明瞭に観察できる。

SD01の器種組成は、多様な供膳具に調理具・貯蔵具等を備えており、更に後述する木製品・金属製品・石製品等を含め、近世前期以後の金沢城一般のあり方と異なり、完結した生活の単位を窺わせる内容である。一次史料には恵まれないが、『三壺聞書』等の諸書が示す通り、寛永期以前に武家屋敷が存在していたことを示唆するものと言える。

SK01・SX01（第65図P332～P335）

SK01・SX01はSD01埋没後に形成された遺構である。第65図P332～P334はSK01、P335はSX01から出土した。P332は瀬戸・美濃陶器で、刻文・印花文に銅緑釉が掛けられた合子の蓋である。

遺構外（第65図P336～第66図P360）

第65図P336～P342は、調査区北端（ＳＰ９以北）で出土した。これより南側で出土した製品に比べ、P336（中国磁器青磁鎬蓮弁文碗）やP338（同盤）を始めとして、生産年代が古いものが多い。P341は京都系土師器皿の特徴を残す。P342は器壁が極めて厚く、口縁部外面のナデ調整範囲の下端がシャープでない等、京都系の範型との懸隔が著しいが、全体形状と口縁端部の造作に名残を留めている。

第66図P343～P360は、北端を除く第Ⅵ面遺構外出土陶磁器である。中国磁器青花碗・皿（P343～P345）の他白磁端反皿（P346・P347）が目立ち、肥前陶器（P349：鉄絵碗）や瀬戸・美濃陶器（P350：黒織部沓茶碗）の供膳具が見られること、調理具（P351：越中瀬戸陶器擂鉢）・各種の土器（土師器皿：P353、灯明受皿：P354、焼塩壺：P355）等が備わっていること等、SD01の器種組成と概ね同様である。なおP353の土師器皿は、膠を下地として金箔が貼られた製品である。

P356～P360はSD01の基盤層＝第Ⅵ面下部から出土した。青花碗（P356）・皿（P357）・白磁皿（P358）等の中国磁器や瀬戸・美濃陶器壺（P359）が出土している。青花碗の年代観から、形成は16世紀末期以後と推定される。P360は土錘である。魚網に用いるもので金沢城下町でも出土例がある。中世に遡る可能性もあるが、近世初期に属するとすれば屋敷地住人の多様な活動を考える上で興味深い。

註

1）例えば小島西遺跡［石川県教育委員会・（財）石川県埋蔵文化財センター2008］等において類似した資料が見受けられる。ただし七尾城下町遺跡シッケ地区の出土資料等は砂礫の混入が少なく［七尾市教育委員会 1992］、本報告Ａ群とは一致しない。またSX01・整地土01等出土資料には中能登の土器において時代を問わず多く見られる黒雲母の混在は顕著でないが、他地点出土資料では目立つ事例がある（五十間長屋台下層第Ⅴ面・第61図P269等）。

なお北加賀一帯でも海綿骨片の入る土器は見られるが、本報告Ａ群はごく少片を除き大多数の破片で確認できるほど含有率が高い。対して17世紀以後の金沢城下における一般的な土師器皿では、ごく一部に見られる程度に留まる。海綿骨片を多く含む土師器皿がまとまって出土した特異な遺構として、穴水町遺跡SD01があるが、遺跡の位置は能登出身の大身武家、長氏の下屋敷跡に該当し、やはり能登地域からの搬入品と判断される［金沢市埋蔵文化財センター1988］）。

3．ガラス容器

ガラス容器として近代以後の牛乳瓶・ビール瓶・ラムネ瓶を図示した（第67図）。G001～G006は二ノ丸内堀廃絶後の近代遺構及びその基盤層から出土した。G007・G008のラムネ瓶は、内堀本体底面付近からの出土であり、比較的古い時期の所産である。ともに胴部下半にアルファベットが陽刻状に記されている（エンボス加工）。G007のエンボスの全文の意味は不明であるが、中央行の「SOLE ACENTS」は「SOLE AGENT(S)」（特約代理店）の誤りと思われる。また上部行の「YAMATAME　SEEZO」については、明治初期に大阪で創業した『山為硝子』との関係を窺わせる。G008については８行にわたるエンボスが認められ、玉口栓ラムネ瓶の発明者であるHiram Coddの特許製品であることや、特許権所有者の所在地（ロンドン・グレイスチャーチ通り41）、容器の製造元（SYKES, MACVAY&THE CODD BOTTLE CO LD）、製造元の所在地（CASTLEFORD、ウェスト・ヨークシャーの都市）等が記されている。なおCoddが玉口栓の瓶を発明したのは1872年（明治５年）、ロンドン・グレイスチャーチ通りで商業活動が始められたのは1884年（明治17年）のこととされる。

第3節　瓦（第68～94図、第18～29表）

1．概要

（1）出土状況

瓦は大半が二ノ丸内堀近代遺構・本体から出土している。ただし腰瓦（磚）・桟瓦を除く燻瓦のほとんどは、17世紀代に一旦廃棄されたものが、近代の埋め立て時に二次的に流入したと見られる。

菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓台は、構築時期・修築時期とその範囲が明確であるため、内部からの出土品は、時間的変化を追うのに適していると言えるが、どの修築範囲においても、寛永期以前の資料がほとんどを占める傾向にある。その中にあって、腰瓦の分類・時期については、若干の所見を得ることができた。

二ノ丸内堀・櫓（長屋）台構築以前の下層遺構からの出土品については、初期の様相を知る上で重要であるが、数量が限られている上、全体を復元し得る資料は得られていない。

なお、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓については、寛永8年（1631）の創建以来、寛文8年（1668）修築の可能性、宝暦9年（1759）火災により焼亡、天明7・8年（1787・88）再建、文化5年（1808）再度焼亡、翌年再建、明治14年（1881）三度目の焼亡という履歴がある。瓦の様式もこの動きと連動していると見るべきであるが、不明な点が多い。現段階である程度明確なのは、宝暦9年までには鉛瓦及び腰瓦が採用されている点であり、この状況の初現時期とそれ以前の様相の解明が大きな課題となっている。

（2）分類

瓦の種類については、軒丸瓦・軒平瓦・軒桟瓦・丸瓦・平瓦・桟瓦・棟瓦・熨斗瓦・棟込瓦・腰瓦・鬼瓦その他があり、それぞれ燻瓦と釉薬瓦がある。釉薬瓦については、鉄泥（鉄漿）を塗布する17世紀代の越前赤瓦も含まれるが、多くは近世後期以後の製品で、南加賀（八幡（小松市）等）や金沢近郊（卯辰山等）の産地が知られている。

軒瓦の分類については、釉薬瓦及び梅鉢文は『玉泉院丸南西石垣』［石川県金沢城調査研究所 2010a］、その他の燻瓦は『河北門』［石川県金沢城調査研究所 2011b］の各報告書における分類案に依拠した。また腰瓦については側辺中央の凹部の形状に注目して分類した（第68図）。

なお胎土の状態については、観察表（第18～29表）において、礫の多寡・精良度（A：礫目立つ、B：比較的緻密、C：緻密）の他、異なる粘土の調合、あるいはその不十分さを反映すると推測される、断面で顕著に見られる「縞」の有無（1：有、2：無）を基本的な指標とし、更に加味して表現した（第144図・写真図版88）。

2．出土地区・地点別の様相

（1）二ノ丸内堀近代遺構（第69～73・89図）

燻瓦は大半が17世紀代に一旦廃棄されたものであるが、第69図T007は燻軒桟瓦の小丸部分、第72図T028～T030は燻桟瓦で、近世後期に下る。事例は極めて少ない。第73図T046～T049は櫓・長屋・塀の壁に用いられる腰瓦である。腰瓦は近世前期以後末期に至るまで定量生産されたほとんど唯一の燻瓦である。ほぼ完形に近いT046は、近代初頭まで使用されていたと思われるもので、正面四辺中央の凹部（窪み）が、細く浅く粗雑化している点に特徴がある。腰瓦は漆喰で目張りをされる前に、大型の銅釘（貝折釘、第115図M085～第116図M110）で壁に打ち留められていたとされ（［石川県金沢城調査研究所 2010b］P127）、上記の凹部は、本来は釘の頭が掛かる部分と考えられる。

釉薬瓦は軒丸・軒平・軒桟瓦他多数出土している。軒丸瓦では梅鉢文Ⅲ類（第69図T004・T005）が圧倒的に多い。軒平瓦では㋐の刻印を有する玉抱き唐草文（玉Ⅰ・Ⅱ類、第69図T008・T009）が

目立つ。小松市八幡の製品である。軒桟瓦は第69図T010～T015まで各種あるが、T013等中心飾りに桜をあしらう製品は近代以後生産された可能性が高い。

（2）二ノ丸内堀本体（第74～80・89・90図）

二次流入による17世紀代の燻瓦が多い。第74図T059・T060は梅鉢文軒丸瓦であるが、金沢城内では前者の無軸タイプ（Ⅰ類）が多数を占め、後者の有軸タイプ（Ⅱ類）は少なく。第75図T069～T077は軒平瓦で、三葉文・花文・梅鉢文等がある。第76・77図の丸瓦のうち、T091・T092・T094～T097の内面の刺縫痕が特徴的で、玉縁部では紡錘状圧痕が密集し、体部では長破線状の圧痕が間隔を開けて縦方向に並列する状態を示す。これらの胎土の多くは縞状を呈する等、技法とある程度の対応が認められる。現在のところ小松市日末一帯で生産された製品が中核にあるものと推定している。

第79図T111は燻の桟瓦であるがやはり類例は少なく、桟瓦の主体はT114のような釉薬の掛かる製品である。第80図T122～T127は腰瓦で、少なくともほぼ完形のT124・T126は近代初頭まで用いられていた可能性が高い。正面四辺中央の窪みは細長いタイプ（T126・T127）以外に丸みを帯びたものがある（T124・T125）が、指頭により押さえただけのような形状・調整痕を呈する。T122は昭和33年度の石川門修理の際に新調された製品である。

（3）二ノ丸内堀　西部北岸～中央部東岸北端（第81図）

本地区については T128・T129 の２点のみ図示した。T128 は釉薬丸瓦で、近世後期に下る製品である。二ノ丸内堀中央部東岸石垣（g トレンチ）から出土しているが、石垣上部（河原石積部分）から出土している可能性がある。

（4）二ノ丸内堀　石垣他（第81～84・91図）

第81図T130～T136、第91図T244～T247は五十間長屋台石垣東面（2120E）付近から出土したが、いずれも石垣構築時の年代を反映するものとは考え難い。T135・T246・T247の腰瓦は側面に両巴の刻印を持つもので、正面四辺中央の窪みは丁寧に調整された半円形である（円形凹A）。後述する櫓（長屋）台内部からは出土しておらず、文化期以後採用された可能性がある。

第82図T137～第83図T158、第91図T248～T252は、三ノ丸南面～西面石垣（2230S・2220W）付近から出土した。本石垣前面には低い土羽状の盛土が擦りついており、多くはこの盛土以下に含まれていたと思われるが、厳密には判然としない。釉薬瓦（第82図T144）が少なく、17世紀代の瓦がまとまっている点が指摘できる。少なくとも土羽状盛土は近世の段階で形成されたものと推測される。

第84図T159～T161は二ノ丸内堀東部、南門土橋石垣西面（2230W）付近から出土した。いずれも石垣の構築年代を示すものとは考え難い。T159は丸瓦で、内面にはコビキA技法による粘土切り離し痕が残る。第84図T162～T166は内堀橋橋脚掘方内から出土しているが、橋脚構築・修築時期の特定に直接結び付くものとは考え難い。

（5）櫓（長屋）台上面・階段・三ノ丸第３次調査区（第85・91～93図）

第85図T167～T171、第91図T253～T260、第93図T270～T277は、櫓（長屋）台上面から出土した。近代の撹乱範囲の出土品を含み、釉薬瓦も多い。T171は鬼瓦の一部と考えられる。第85図T172～T177、第93図T278～T280は、五十間長屋南半中央に敷設された階段（階段③）付近から出土した。概ね17世紀前半の燻瓦で、軒平瓦ではT174がやや新しい様相を示す。第85図T178、第92図T261・T262、第93図T281～T283は二ノ丸階段から出土した。第85図P179・P180は三ノ丸第３次調査区から出土した。P179は釉薬製品の熨斗瓦、T180は燻製品の軒平瓦である。

（6）櫓（長屋）台内部（第86・92～94図）

第86図T181～T191、第92図T263～T269、第93図T284～第94図T327は、菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓台内部から出土した。多くが寛永８年（1631）までに廃棄されたものと思われるが、腰瓦等一部は菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓（櫓・長屋）に用いられた可能性がある。また第94図T328～

T331 は菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓台石垣の根石確認トレンチ内等から出土した。

文化期修築部分

第 86 図 T181、第 92 図 T263、第 93 図 T284～T297 は、橋爪門続櫓台内部・文化期修築部分から出土した。T181 は桐文の軒平瓦で、金沢城では最古段階の製品である。T263 は腰瓦で側面に「㊀」ないし「㊁」の刻印がある。宝暦期修築部分でも見られる製品（T265・T266）であるが、この刻印をもつ瓦については 17 世紀中葉に使用されたものと考えられ（『確認調査報告書Ⅰ』[石川県金沢城調査研究所 2008a]）、創建当初の櫓・長屋に使用されていた可能性がある。

T284～T297 は軒丸瓦・軒平瓦で、いずれも櫓・長屋創建以前に廃棄されたものであろう。

宝暦期修築部分

第 86 図 T182～T185、第 92 図 T264～T267、第 93 図 T298～T313 は、五十間長屋台内部・宝暦期修築部分から出土した。T182（桐文軒平瓦）・T183（三葉文軒平瓦）・T298～T309（巴文軒丸瓦）、T311・T312（三葉文軒平瓦）は、櫓・長屋創建以前に廃棄された製品と考えられる。T184 の腰瓦は、厚手で胎土が粗い特徴がある。また正面には、側辺に平行して墨引線が認められる。これは漆喰で目張りする範囲を示したものと見られる。図示した以外にも、宝暦期修築部分からまとまって出土しており、宝暦 9 年（1759）大火時までに使用されていた製品と推測される。T185 の腰瓦は側辺中央の凹部が方形を呈するタイプで、寛文期修築部分からも出土しており、櫓・長屋創建当初に使用されていた可能性がある。T264 は平瓦片で詳細は不明であるが、寛永 8 年（1631）の大火以前と見られる一括資料中に刻印をもつものが少ないことや、宝暦大火前には鉛瓦が葺かれていたことを勘案すれば、やはり櫓・長屋創建当初に使用されていた可能性がある。T265・T266 の腰瓦は、上記 T263 と同様の製品である。T267 は「㊀」の刻印をもつ腰瓦で、寛文期修築部分でも見られる（T268）製品である。刻印の表記から泉州堺（大阪府）で生産されたものと考えられる。T265・T266 等と同じく、櫓・長屋創建当初に使用された可能性がある。第 94 図 T310 は釉薬瓦で、上層から混入したものと見られる。T313 は中心部を欠くが本来は梅鉢文の軒平瓦である。寛永 8 年（1631）の大火以前には見られない様式であり、鉛瓦採用以前、創建当初の瓦である可能性を有する。

寛文期修築部分他

第 92 図 T268、第 94 図 T314 は、菱櫓～五十間長屋台北半内部・寛文修築期部分から出土した。
第 92 図 T269 は宝暦もしくは寛文期修築部分から出土した。T268・T269 は上記した通り泉州堺の製品と見られる。T314 は櫓・長屋創建以前のものと見られる。

寛永期構築部分

第 86 図 T186～T191、第 94 図 T315～T324 は五十間長屋台・橋爪門続櫓台内部・寛永期構築部分から出土した。櫓・長屋創建以前の製品である。丸瓦は粘土切り離し技法の痕跡としてコビキA（T188）・コビキB（T189）ともに見られるが、前者はごく少数で後者が主体である。第 94 図 T319～T322 は三葉文の軒平瓦である。本丸周辺においても寛永 8 年（1631）の大火で廃棄された軒平瓦の主体は三葉文であり（確認調査報告書Ⅰ[石川県金沢城調査研究所 2008a]）、同様の傾向が窺える。

（7）内堀橋北詰下層・橋爪一ノ門下層（第 87 図）

第 87 図 T192～T206 は、内堀橋北詰下層・橋爪一ノ門下層の遺構・整地土から出土した。
T192～T195 は SX01 から出土した。比較的厚手である点以外、時期的特徴を窺うには困難な平瓦の小片である。なお図示していないが、SD01・SX02 から丸瓦小片が出土しており、ともにコビキA技法による粘土切り離し痕が見られる。T196～T199 は橋爪一ノ門下層上部から出土した。T199 を除き、寛永期以前の製品と見られるが、いずれも小片である。T200～T203 は橋爪一ノ門下層下部から出土した。陶磁器の様相から見て、慶長期までに廃棄された可能性があるが、SX01 出土品と同様に特徴が掴み難い。むしろ下層下部においても、小片とは言え、近世瓦が含まれる点が留意される。

（8）五十間長屋台下層（第88・94図）

第88図T207～T209・第94図T332は、五十間長屋台下層第Ⅴ面から出土した。T207・T208の丸瓦は、コビキB技法の痕跡を留める。第Ⅴ面で出土した丸瓦は、図示した以外に29点を数えるが、粘土切り離し痕を窺い得る11点のうち、コビキAは1点のみで、コビキBが10点である。

第88図T210・T211は、五十間長屋台下層第Ⅵ面から出土した。T210はSX02から出土した丸瓦で、コビキA技法による粘土切り離し痕が認められる。なお第Ⅵ面から出土した丸瓦は6点で、切り離し痕が明瞭な資料はT210のみである。T211は平瓦の小片で、凹面に墨書が認められる。解読は困難であるが、同一の文言が二行繰り返して記されている。

第4節　木製品（第95～108図、第30～34表）

1．概要

木製品については、漆器・墨書等板材（木簡）の他、装身具（櫛・下駄）、食膳具・調理具（箸・折敷・折匙・蒲鉾板）、容器等（曲物・桶・樽・籠等）、部材（柄・脚・把手等）、信仰・遊戯具（火切棒・火切板・形代等）、橋部材（欄干・橋脚）、杭・�丸太、建築部材・端材他（板材・角材・棒状材等）に大別した。そのほとんどが1997-2区・5区を主とする二ノ丸内堀と第Ⅵ面SD01を中心とする五十間長屋台下層からの出土している。概して二ノ丸内堀出土資料は建築部材・端材が中心であり、五十間長屋台下層出土資料は生活用具の比率が高い。

2．種類別の様相

（1）漆器（第95図）

漆器のほとんどは五十間長屋台下層（第Ⅵ面）から出土している。なお二ノ丸内堀から出土した刀の鞘については、金属製品の節（第5節）で触れる。

W001～W004は第Ⅵ面SD01出土。W001は内外面赤色漆、W002・W003は内外面黒色漆で文様のみ赤色漆の椀である。W004の器種は不明だが、内外面に赤色漆が施されている。W005は第Ⅵ面SX02出土。高台が厚く高い椀で、内外面黒色漆で文様のみ赤色漆で描かれている。W006は第Ⅵ面遺構外の出土で内外面赤色漆の椀（ないし盤）である。W007は第Ⅵ面下部から出土した内外面赤色漆の皿である。

これらの漆器のうち、内外面黒色漆の椀（W002～W004）は、下地はいずれも炭粉で、樹種はトチノキ・ブナ属が用いられており、漆塗膜層は1～2層に留まっている。これに対し内外面赤色漆のW001・W004・W006・W007の下地はいずれも砂混じり粘土であり、樹種にはケヤキ（W001・W006）等が見られる。特にW006は漆塗膜層が5層認められるなど、内外面黒色漆製品に比べやや優品と言える。

（2）墨書・焼印板材（第95・96図）

墨書・焼印板材は、二ノ丸内堀本体部分（第95図W008～第96図W019）および五十間長屋台下層（第96図W020～W023）から出土した（赤外線写真：写真図版86）。第95図W008は「放生津　大工豊左衛門」「放生津　二□門」と記された小型の板で、鑑札の一種と思われる。放生津は中世以来の著名な越中の港町（富山県射水市）で、放生津大工は文化5・6年（1808・09）の二ノ丸御殿再建の際に召集されている（『御造営方日並記』）。

この他、W012の「定盤」、第96図W017の「一尺□六寸三歩？　此物ニ御渡シ可被下候」等、総じて二ノ丸内堀出土資料には、作事に関わると考えられる文言が認められる。また第95図W011は「但五朱　富田市佐(太？)」との金額・人名が読み取れる。なお五十間長屋台下層出土資料は、寛永8年(1631)以前に属するものであるがいずれも判読し難い。

（3）装身具（第96図）

装身具として櫛（W024・W025）のほか履物（W026～W029）を含めた。W024は二ノ丸内堀、W025は長

屋台下層第VI面 SD01 から出土した。樹種はともにイスノキである。W026～W029 はすべて五十間長屋台下層（第VI面）から出土した。W026～W028 は一木作りの連歯下駄である。なお W026 は後の歯が別材で補修されており、W028 は鼻緒の穴が前面に一箇所しか見られないタイプである。樹種はいずれもスギである。W029 は草履の一種と思われる。

（4）食膳・調理具等（第 97 図）

箸（W030～W043）・折敷（W044～W052）・折匙（W053）・蒲鉾板（W054）がある。W030～W034 の箸が二ノ丸内堀本体・内堀橋 P06（橋脚基礎）から出土した他、残りは五十間長屋台下層第VI面（SD01・SK01・SX01）からの出土である。折敷については全体を窺える個体はなく、角を斜めに切り落とした薄い板材（W045）や側面・上面に木釘穴を持つもの等について該当するものと見なした。なお W049・W051 は折敷の付属部材（脚）と考えたが、別の器種の可能性も考えられる。

（5）容器等（第 98～99 図）

曲物や桶・樽の蓋・底板と考えられる円形板、栓、柄杓（第 98 図 W055～第 99 図 W075）、籠状製品（W076）、竹製容器等（W077～W081）を掲載した。第 98 図 W055～W062・第 99 図 W076～W080 は二ノ丸内堀近代遺構・本体、第 98 図 W063～第 99 図 W075・W081 は五十間長屋台下層から出土した。

W055・W056 は、薄い円板で中心寄りに薄い切込みが見られ、桜皮等によるつまみを持つ曲物蓋と考えられる。W059 は厚手の円板で側縁（端面）に木釘穴があるが、上・下面側にも貫通孔が２箇所あり、曲物底板が蓋等に転用されたものと見られる。W060 は側縁が斜めに落とされ、上面？に長方形に窪みを有する。容器蓋とみなしたが、別の部材である可能性もある。W061 は小型・厚手の円板で、小型の桶・樽の底板と考えられる。W062 は厚手の円板で、上面周囲に貫通しない木釘穴があり、穴に囲まれる範囲が炭化している。

W063～W069 は厚さ等から曲物底板、W070～W073 は桶・樽の蓋・底板と考えられる。W069 が五十間長屋台下層第VI面 SX01、残りは SD01 から出土した。曲物底板は、径 7.0cm 前後（W063～W065）の小型品から 27.4cm を測る大型品（W068）まで各種の寸法が認められる。また W070 は注口が認められ、樽の蓋と判断される。W074 の栓、W075 の柄杓ともに SD01 から出土した。

W077～W081 は竹製容器等竹製品・素材である。このうち W077 は大型の竹の節を利用した筒形椀状の容器である。長屋台下面第Ｖ面遺構外出土の W081 は花入れの可能性がある。

（6）部材等（第 100 図）

柄（W082～W084）・把手（W085・W086）・脚（W087）のほか、部位が不明確な材（W088～W095）も掲載した。W082・W083・W085・W088～W090 は二ノ丸内堀本体、W084・W086・W087・W091～W095 は五十間長屋台下層（W092 のみ第Ｖ面下部、他は第VI面 SD01 等）から出土した。このうち W083 は小刀の柄と推定されるもので、樹種はアスナロである。W093・W094 は断面が下辺の長い扁平な台形ないし蒲鉾状を呈する板材で、上面に装飾的な刻みを有する。W094 の方は短辺の一辺から中央にかけて抉り込みが入る。

（7）信仰具・遊戯具（第 100 図）

火鑽棒（W096）・火鑽板（W097）・人形（W098・W099）・舟形（W100）・鍬形（W101）・刀形？（W102・W103）が見られる。W098・W101～W103 が五十間長屋台下層第VI面 SD01、W100 が同 SX01、W096・W097・W099 が同面遺構外から出土した。火鑽棒（W096）・火鑽板（W097）は、近世の段階では一般的な発火具ではなく、神事や儀礼的な場で用いられていたと推定されている。人形（W098・W099）は棒状の本体に顔正面を単純に刻出しており、中世的な様相を留めている。舟形・鍬形等の形代とともに、遊戯具だとしても信仰・習俗と強い関連性をもつと思われる。

（8）橋部材（第 101 図）

W104 は二ノ丸内堀橋付近で出土した欄干の親柱である。長軸 92.4cm、幅・厚さ 18.1～19.3cm を測

る。断面は方形で、側面のうち二面が比較的良好に遺存している。うち一面には上下二段に4.6～4.4×12.8～16cmの枘穴が設けられている。上部は枘穴周囲に浅い彫り込みを伴う。また上端部は面取りが施されている。樹種はケヤキである。W105は内堀橋橋脚基礎P04（中央列南端）に原位置のまま遺存していた橋脚の基部である。幅・厚さ28.4～28.9cmを測る。断面は方形で、側面間には面取りが施されている。この橋脚は掘方（前段階橋脚抜取坑）を伴うものではあるが、先端は杭状に削り出されている。出土状況から見て文化5年（1808）修築時に設置されたものである。樹種はツガ属である。

（9）杭・丸太等（第101・102図）

第101図W106～第102図W112は二ノ丸内堀底面から出土した角杭で、近代に下る可能性がある。W113～W117は五十間長屋台下層から出土した。W113は第V面で検出された木組遺構の部材である。W114は同じく第V面で出土した角杭である。W115～W117は第VI面で出土したもので、柵等の柱である可能性もある。

（10）建築部材・端材他（第103～108図）

板状・角状・棒状を呈するものを掲載した。建築部材あるいは端材が主体を占めると見られるが、別製品である可能性をもつものも含んでいる。第103図W118～W121は二ノ丸内堀内に構築された近代初期の遺構SD07から出土した。第103図W122～第106図W154は二ノ丸内堀本体からの出土である。第106図W155～W157は内堀橋橋脚基礎から出土した板材・角材で、このうちW156・W157は橋脚中央列南端掘方（P04）において、宝暦期修築と推定される第2段階根石上面に並行して設置されていた。

第107図W158～第108図W188は五十間長屋台下層に属し、第108図W186～W188は第VI面SK01、その他はSD01からの出土である。二ノ丸内堀本体で多く見られた角材・端材の類は少なく、板材が主体で、付札や桶樽側板、折敷部材等、明確にはできなかったが何らかの製品と思われるものも少なくない（W158・W161・W163・W171等）。

第5節　金属製品（第109～129図、第35～43表）

1．概要

金属製品については、生活用品等（煙管・鏡・銭）、武器（刀・刀装具・鏃）、工具（金鎚・矢）、建築部材（銅板・鉛瓦・金具・釘・鎹）、石垣敷金（鎹形・楔形・パネ形）、その他に大別した。

これらの出土状況を概観すると、3つのグループが抽出できる。まず主に五十間長屋台下層から出土した煙管・銭の一部・刀装具の一部（小柄）等は、生活に直接関わる用品・嗜好品としての性格が強い。これらは城下町遺跡では一般的な出土品と思われるが、城郭内の資料としてはやや特異であり、初期に屋敷地が存在したことの物証と言える。次に内堀橋の橋脚付近に供えられた刀とその刀装具、鏡、銭がある。この一群はさらに特殊な脈絡においてまとまりをもつものである。以上2つのグループに対し、建築部材・石垣敷金等は、城郭の出土資料として典型的であり、数量的にも金属製品の大部分を占める。これらは釘等の一部を除き、概ね上面遺構に属している。

2．種類別の様相

（1）煙管・鏡（第109図）

煙管は内堀内の近代の溝から出土したM001以外は、五十間長屋台下層に属する。M002・M003は第V面、M004～M006は第VI面から出土した。M002・M004は火皿～雁首、M003・M005は羅宇の前後に付随する肩、M006は肩部を一体に作り出した吸口で、羅宇が一部遺存している。M002の細い脂返し（雁首）、M003・M005・M006の肩部本体やその表現に古相が窺える。材質はM002・M005が真鍮、M003・M006が銅、M004が青銅である。

M007は内堀橋橋脚基礎（P7）付近で出土した柄鏡である。刀（第111図M038～M042）や銭（第110

図 M018～M022）とともに、橋の架け替えに係る儀礼の際、据え置かれたと考えられる。

全長 19.7cm 以上、面径 14.8cm を測る。柄は幅 2.5cm を測るが本体から 4 cm 強辺りで折損し完存していない。縁の厚さは 3mm である。鏡背文様は、地文に松・笹竹・鶴・亀を配した蓬莱文で、「藤原周重」銘が入る。藤原周重は京都の鏡師らしく、江戸時代中期の作品が残っているようである（中野 1969）。なお本体材質は銅・鉛の合金である。

（2）銭貨（第 110 図）

銭貨は各地区から出土している。二ノ丸内堀近代遺構では一銭銅貨（M008、明治 21 年（1888）発行）、二ノ丸内堀本体では中国清代の光緒通宝（M010、光緒元年（1875）初鋳）等、近代以後の銭貨が認められる。M012～M016 は三ノ丸西面石垣南端の基礎掘方直上で出土した。5 枚のうち M012・M014・M015 は古寛永、M013・M016 は新寛永文銭（寛文 8 年(1668)初鋳）である。M018～M022 は、二ノ丸内堀橋周辺から出土した。鏡（第 109 図 M007）・刀（第 111 図 M038～M042）とともに、橋の架け替えに係る儀礼の際、据え置かれたと考えられる。M020 のみ古寛永で、他は新寛永である。新寛永のうち M018・M022 は享保 11 年（1726）初鋳の製品であり、儀礼が行われた時期の上限（享保 11 年以後）を示す。菱櫓上面では寛永通宝が 7 枚重なった状態（M029）で出土した。M023～M028 はこれを分離したものである。M030～M036 は五十間長屋台下層（第Ⅴ面・第Ⅵ面）から出土した。全て北宋・明銭等の渡来銭である。

（3）武器（第 111・112 図）

第 111 図 M037 は二ノ丸内堀から出土した近代の銃剣である。M038～M042 は刀及び刀に付属していた刀装具で、二ノ丸内堀橋周辺から出土した。鏡（第 109 図 M007）・銭（第 110 図 M018～M022）とともに、橋の架け替えに係る儀礼の際、据え置かれたと考えられる。M038 の刀（刀身）は全長 60.4cm、刃長 49.5cm、刃幅は柄側 2.9cm、中央部 2.6cm、反りの深度は最大 1.3cm を測る。銘は無く、二重ハバキが装着された状態となっている。M039・M040 の切羽は、M038 に伴うものと判断されるが、出土した際には分離していた。材質は銅である。M039 には笄もしくは小柄の装着に際し接触する部分に切り込みがある。M041 は黒色漆の鞘で、M038 に伴うものと判断されるが、出土した際には刀身と分離し、半裁された状態であった。図右側（差裏）・左側（差表）とも鯉口側にそれぞれ小柄・笄を装着するための抉り込み（櫃）がある。樹種はモクレン属である。M042 は M038～M041 とは別に、鞘に収められた状態で出土した刀で、全長 74.6cm を測る。鞘の先端（こじり側）は欠損し、刀身の状態は不明であるが、鞘・柄の他、鍔・切羽・縁・目貫・柄頭等が装着された状態であった。鞘の樹種はモクレン属で、黒色漆を施す。目貫の材質は銅で、表面に鍍金が認められる。

第 112 図 M043～M046 は小柄である。M043 は橋爪一ノ門下層 P04 から、他の 3 点（M044～M046）は五十間長屋下面第Ⅵ面 SD01 他から出土した。M043 は戸尻側が丸みを帯びた上面形を呈するもので、表側断面は強く弧を描く。材質は銅・錫等の合金と考えられる。M044 は摩耗が著しいが、魚々子地に笹竹と二頭の相対する猪が高彫されている。猪筋分には袋着せの技法が認められ、小口側には金・銀の合金、戸尻側には銀の薄板が被せられている。戸尻側の猪は縁に薄板が残るのみであるが、小口側の猪部分は比較的遺存状況が良好で、金の薄板に目鼻・体毛等の細かな表現が鏨彫りされている。本体材質は銅で、裏面は鍍銀されている可能性がある。M045 は縦方向に節状の文様が打ち出されたもの。材質は銅である。M044・M045 は類似の構造で、ともに一枚の板を折り曲げ、M044 は棟方裏寄り、M045 は棟方中央で蠟付し、戸尻を別板（戸尻板）で塞いで成形する（一枚張り）。M046 は戸尻が丸みを帯びるタイプで、上記 3 点と比較して短く、素文である。材質は銅である。

第 112 図 M047～M051 は鉄鏃である。鉄鏃は五十間長屋台上面北半（北Ⅰ区）のみから出土し、すべて鏨頭形の同一形式である。文化 5 年（1808）の火災で被災し回収されなかったものの可能性が高い。文化 5 年（1808）の火災時には鉄砲が運びだされたことが記録に見えるが、五十間長屋には鉄鏃

も併せて装備されていたと考えられる。M052は橋爪門続櫓台内部・寛永期造成土中から出土した。径2.9cmの球体を呈し、中軸に継ぎ目が認められる。大型の銃弾である可能性を想定したが、材質は鉄を主体としつつ砒素等を多く含むもので、別の用途を考えるべきかも知れない。

（4）工具（第113図）

工具の出土例は少なく、二ノ丸内堀から出土した金槌（M053）、五十間長屋台石垣東面（ロ面、2120E）築石間及び橋爪門続櫓台上面栗石層から出土した鉄製品（M054・M055）の3点のみである。M055は石垣分割に用いる矢である。M054は細身で断面角柱形を呈するが、やはり矢の一種と考えられる。

（5）銅板・鉛瓦（第113～115図）

第113～122図は、作事（建築）に係る部材等をまとめた。多くが二ノ丸内堀から出土している。

第113図M056～M058は、二ノ内堀近代遺構・本体から出土した銅板で、櫓・長屋等の地覆部分・出しの腕木等を覆っていた部材である。

第114図M059～第115図M076は鉛瓦である。鉛瓦とは実態は厚さ2～3㎜の鉛板である。屋根に丸瓦列に相当する木型（瓦棒）等を取り付け、これに粘土瓦の丸・平の形状を意識しながら鉛板を被せて屋根瓦とするものである。M076は五十間長屋台内部・宝暦期修築造成土（第Ⅱ面）から出土しているが、他は二ノ丸内堀からの出土で、1997-2区に集中しており、大半は明治初期まで使用されていたものであろう。

M059～M062は軒丸部分である。このうち瓦当径12～13cmを測るM059～M061は、内部の木型ごと屋根から外れたものである。内部の木型は厚さ2～3cm弱で、上端が欠けた円形を呈する。これは棒状の丸瓦木型（瓦棒）の先端に打ち付けられていたもので、本来は上端の欠けた部分が本体側木型（瓦棒）と仕口状に噛み合っていたと推測される。この木型の表側に軸付梅鉢文を打ち出し円筒状に整形した鉛板が、裏側下半には別作りの半円形の鉛板が取り付けられ（上半は本体側木型と直に接するため木型が露呈）、側縁5～6箇所、裏面2箇所において銅釘で固定されている。M062はM059～M061より大型であり、使われた部位あるいは時期が異なる可能性がある。M063～M065は軒丸部分の部材で、裏面下半に用いられたものである。M066は軒平部分であり、S字状の唐草文が裏側から打ち出されている。

M067は丸・平に相当する部材である。四辺のうち図の下辺は斜めに裁断されかつ折曲がった状態になっており、復元全長は29.4cm以上、幅19.5cmとなる。本来の辺の端は厚さ3㎜の整った面を為している。長辺両側に釘穴が3箇所ずつあり、一箇所残った釘の方向から表裏が窺える。表側の右下部が白く変色しており、ここが露出し、左端・上端が別材に覆われていたと推測される。これによれば下方が軒側となる。M068～M075も使われた部位を明確にするのは難しいが、鉛瓦の部材と判断される。M076は平部と考えられる鉛瓦片、M077は銅釘が刺さった鉛瓦木型の一部と考えられる木片である。前者は五十間長屋台内部・宝暦期修築造成土（前者は第Ⅱ面以下、後者は第Ⅲ面直上層）から出土している。

（6）金具（第115図）

M078～M083は各種金具である。M078・M079は二ノ丸内堀、M080～M083は五十間長屋台上面、中でもM082・M083は古段階礎盤（根石）ア・イ（寛文期設置）周辺から出土している。このうちM081の材質は銅・鉛の合金である。

（7）銅釘（第115～118図）

第115図M084～第118図M168は銅釘である。このうち第115図M084～第117図M153は二ノ丸内堀、第118図M154～M159は櫓（長屋）台上面、M160～M168は櫓（長屋）台内部から出土した。特殊なタイプであるM084を除くと、大型品（長さ7cm台～14cm、M085～M110等）と小型品（長さ1cm台～5cm台、M111～M153）に分類できる。大型品は貝折釘とも呼ばれ、団扇状の頭が短く折り曲げられ、側

面L字形の形状を呈する。石川門の解体修理の際、櫓や塀の外壁素材である腰瓦（磚）を打ち留めていたことが確認されている。二ノ丸内堀の出土事例では、長さ13～14cm、10cm弱、8～9cm、7cm台の4ランク程度の寸法が認められる。小型品は断面不整四角形の本体に略円形の頭が取り付く形状を呈する。主に鉛瓦や銅板等の打ち付けに用いられており、寸法の別については、長さ5cm前後のものはややや離れるが、4cm前後以下は最小1.6cmまで漸移的に推移し、明瞭なまとまりが見られない。なお二ノ丸内堀出土資料は、明治期まで存続した文化期再建建物群に伴うものを主体としつつ、これ以前のものも若干含むことが想定される。櫓（長屋）台上面のうち、五十間長屋古段階の礎盤（根石）際から出土したM158・M159、櫓（長屋）台内部・宝暦13年（1763）の造成土に混じっていたM160～M168は、いずれも宝暦9年（1759）の大火以前に遡るものであり、近世前期から使用されていたことは明白である。五十間長屋台下層では銅釘が出土しておらず、周辺での使用の上限は寛永8年（1631）を遡ることはないようである。なおこれらの材質については、M088の分析結果によると高純度の銅である。

（8）鉄釘（第119・120図）

第119図M169～第120図M206は鉄釘である。このうち第119図M169～M178は二ノ丸内堀、M179～第120図M199は櫓（長屋）台上面、M200は五十間長屋台内部・寛永期石垣裏込、M201～M206は五十間長屋台下層（第V面・第VI面）から出土した。釘の形状は、①：鋲釘大型品（貝折釘）と同様のもの（M169～M174）、②：頭が円筒状（鉢状）を呈するもの（M175～M178、M198・M199）、③：頭巻釘（M179～M197、M200～M206）に三大別できる。①は鋲釘大型品と同様の機能を持つものを含むと考えられるが、鋲釘にはない長さ5cm台の製品については、後述する目鎹とセットとなっている事例（第122図M242）がある。②は先端まで遺存しているM175・M198が長さ10cm前後を測り、頭形状が類似することからすれば、他の折損品も概して大型であったと見られる。Ⅰ・Ⅱについては櫓（長屋）建築に密接に関わる特殊な製品と見なし得る。③の頭巻釘は最大14.7cm（M189）～最小4.2cm（M197）と幅があるが、5～6cm台の寸法が主体である。①・②に比べ普遍的な製品であり、五十間長屋台下層（近世初期）と上面（近世後期）出土資料との間に形態的な変化もほとんど見られない。

（9）鎹（第121・122図）

本調査区から出土した鎹は、建築部材の一群と、石垣の敷金として用いられた一群とがある。第121図M207～第122図M242は前者に属する。このうち第121図M207～M221は二ノ丸内堀等から出土した。M207・M208は1997-5区で出土した、それぞれ全長65.3cm・63.7cmを測る長大な鎹である。ともに歯の長さが左右で異なる。M209～M219は1997-2区で出土した。長さは10cm台～22cmと各種あるが、21～22cm（M209～M213）にまとまりがある。また最小のM219は形式が異なる。M209～M219は、内堀橋橋脚基礎から出土したM221とともに、内堀橋の木製部材を連結する機能を果たしていたと思われる。第122図M222～M225は、古段階菱櫓（寛文8年（1668）～宝暦9年（1759））の礎盤（根石）上の焼土から出土した。寸法は二ノ丸内堀1997-2区出土の一群と重複する。古段階菱櫓の建築を支えた部品の一部と評価できる。第122図M226～M242は目鎹である。歯は一方のみで、胴部は一般の鎹に比べ薄く、釘穴（目）が2～3箇所開けられている。前述の通り、鉄製目折釘と組み合わせて使用されたことを示す資料がある（M242）。目鎹も1997-2区から集中して出土しており、やはり内堀橋に用いられたと推測される。

（10）敷金（第123～129図）

第123図M243～第129図M325は、石垣石材の位置固定・安定を図るため、石材間の隙間に差し込まれた敷金で、鎹を転用したもの（第123図M243～第127図M310）、楔形を呈するもの（第128図M311～第129図M322）がある。またごく少量だがバネ形を呈するもの（第129図M323～M325）も出土状況から敷金の一種と判断される。これらの使用箇所は概ね石垣修築範囲と対応関係があり、菱櫓～五十

間長屋台北半（寛文期修築）では鎚形・楔形、五十間長屋台南半（宝暦期修築）では明確には楔形1点のみ、橋爪門続櫓台（文化期修築）では鎚形がそれぞれ使用されている。全般的に隅角部に集中する傾向があるが、鎚形敷金は切石積築石部でも多く用いられている。第127図M304・第128図M315の金属学的調査・分析によれば、これらは極低炭素鋼を素材としている（第4章第4節）。

第123図M243～第126図M293は、文化5年（1808）の橋爪門続櫓台石垣修築に係る鎚形敷金である。出土総数は138点、うち51点を実測・掲載した。寸法は長さ12cm台が1点（非実測）あるものの、ほとんどが17cm～24cmまでに収まる。まとまりとしてはさほど明瞭ではないが、18～19cm台の一群と、一回り大きい21cm～22cm台の一群とに大別されるようである。胴部に□・○・○の連結形等の刻印を有する製品が多い。なお第126図M289～M291のように半割されて使用される事例もあり、半割の目安として刻線が施されているものが見られる（M290）。第126図M294～第127図M310は寛文8年（1668）の菱櫓～五十間長屋台北半石垣修築に係る鎚形敷金である。出土総数は77点、うち17点を実測・掲載した。寸法については概ね橋爪門続櫓台出土群と重複するが、若干数全長24cmを超えるもの（第126図M294・M295）が認められる。全体数量が少ないためか、ばらつきがあるように感じられる。本資料群には明確な刻印は認められず、少なくとも一般的ではない。

第128図M311～第129図M322は、寛文8年（1668）の菱櫓～五十間長屋台北半石垣修築（M310～M320）及び宝暦13年（1763）の五十間長屋台南半石垣修築（M321）に係る楔形敷金である。出土総数34点、うち12点を実測・掲載した。平面形は長方形ないし正方形で、平面長方形タイプを例にとると、厚みは短辺の一方に向かって薄くなる。形状・寸法によりおよそ5群に細別される。Ⅰ（M311～M315）は長辺15～18cm、短辺13～14cmの大型品で、基部の厚さは3cm台を測る。重量は3,000～4,000gである。Ⅱ（M316）はⅠと明確に分離しがたいが、平面形がほぼ正方形になるもので、一辺13cm強を測る。Ⅲ（M317）はⅡを一回り小さくしたタイプで一辺12cm前後を測る。Ⅱ・Ⅲの重量は2,000g台である。Ⅳ（M318～M321）は長辺が12～14cm、短辺が9cm台という平面長方形を呈するもので、基部の厚さも2cm前後となり、重量も1,000～1,600g程度と軽量である。これらは菱櫓～五十間長屋台北半（寛文期）で用いられている。前述の通りほとんどが隅角部に集中するが、たいていの場合大（Ⅰ～Ⅲ）と小（Ⅳ）とが共伴しており、形状による偏在は見られない。Ⅴ（M322）は1点のみであるが、長辺8cm、短辺4.5cm、重量245gの極小タイプで、五十間長屋南半（宝暦期）で用いられている（第143図参照）。

第129図M323～M325は橋爪門続櫓台（文化期修築）から出土したバネ状製品である。図示していないが、五十間長屋台（宝暦期修築）内部からも破片が出土している。断面多角形を呈する棒状の鉄素材を、直径5cmの円を為すように三回ほど右方向に巻いて仕上げられている。隣り合う石垣石材の間（側面間）や背後の押石上面から出土しており、楔形や鎚形とは若干異なる使用形態及び機能が推測されるが判然としない。

（11）その他（第129図）

機能等が不明なものをまとめた。M326～M329は五十間長屋台下面（第Ⅴ面・第Ⅵ面）から出土した。円板状製品（M326・M328）、棒状銅製品（M327）、板状鉄製品（M329）がある。このうちM328は径2.5cmで、中央に小孔があってわずかに縁を整えており、銭貨を意識して形成された可能性がある。M326は鉛・錫の合金、M327は高純度の銅、M328は高純度の鉛を素材とする。

第6節　石製品（第130～140図、第44～45表）

1．概要

石製品には、硯、砥石、石臼、茶臼、石鉢、普請・作事関連部材、儀礼・信仰関連製品等がある。硯・砥石以外の大半は、櫓（長屋）台石垣とその背後の裏込め栗石や盛土から出土した。石臼等の材

質については凝灰岩系統が多数を占めるが、産地に基づく分類はまだ不明な点が多い。今回の報告では、比較的硬質である火山礫凝灰岩・凝灰角礫岩と、軟質である軽石凝灰岩とを取り上げ、粗砂・礫の量の多寡、色調の差異等を指標として区分した（第45表下）。普請・作事関連部材は、溝、土台、炉、土蔵壁等の部材の他、石垣材残欠等も含む。儀礼・信仰関連製品としては五輪塔部材や文字（鍬始・鋤始）刻石がある。

2．種類別の様相

（1）硯・砥石（第130図）

硯は少量しか出土していないが、二ノ丸内堀本体（S001）、二ノ丸内堀西部北岸～中央部東岸北端（S002）、五十間長屋台上面（S003）、長屋台内部（S004）、長屋台下層（S005）等、各地区で出土している。S001は近代以後の製品であり、学校で使われたものである。S002は裏面に刻書と墨書がある。S005は硯の破片を転用したものかと思われるが、判然としない

砥石も少量しか出土していない。S006は硯S004と同じく五十間長屋台Ⅲ面直上層（宝暦期修築）から出土した。淡赤褐色の肌理細かな質を呈する。S007は長屋台下層第Ⅵ面SD01から出土した。両長辺に直線的な鋸目をもち、図の下側の面には折損部分を新たに整形した縦方向の調整痕が認められる。淡黄緑色で肌理細かな質を呈する。

（2）石臼（第131・132図）

第131図S008は、二ノ丸内堀において五十間長屋台石垣東面（2120E）際から出土した下臼である。S009～S014は、橋爪門続櫓台内部・文化期修築の石垣裏込め及び造成土から出土した。このうちS009の石材は暗黄褐色を呈し1cmを超える黒色礫が多量に混じる凝灰角礫岩で、越中砺波に産出する桑山石である。その他は緑灰色系統の火山礫凝灰岩（観察表A4～C2）であり、加賀中央～南部を産地とすると推定される。いずれの石臼もよく使い込まれており、とくにS011・S012・S014等は目の摩耗が著しく、回転条痕が著しく認められるとともに、石材に含まれる礫が浮き出た状態に至っている。

第132図S015～S019は、五十間長屋台内部・宝暦期修築の石垣裏込め及び造成土から出土した。緑灰色系統凝灰岩（S015・S018・S019）の他、安山岩と思われる淡灰褐色石材（S016）、青戸峯石（S017）による製品が認められる。石臼の外面調整痕については、たいていの場合摩耗していることもあり、チョウナと判断される平刃工具痕が若干見いだせる程度であるが、S015では研磨調整が認められる。

S020～S022は菱櫓～五十間長屋台内部・寛文期修築の石垣裏込め及び造成土から出土した。桑山石（S020）・推定安山岩（S021）・緑灰色系凝灰岩（S022）の三者が認められる。

（3）茶臼（第133図）

石臼に比べるとごく少数であるが、茶臼も若干出土している。S024は二ノ丸内堀底面、S025・S026は五十間長屋台内部・宝暦期修築の石垣裏込め及び造成土、S027は菱櫓台内部・寛文期修築の栗石層から出土した。石臼と共通の石材としては桑山石の製品（S025）が認められるが、石臼で最も主体的であった緑灰色系統の凝灰岩は見当たらない。逆に石臼にはなかった硬質の安山岩を素材とする製品（S024・S027）が存在する。外面はよく研磨されており、回転方向の擦痕が顕著である（写真図版87）。

（4）石鉢（第134図）

石鉢には小型品（第134図S028・S033・S034）と大型品（第134図S029～S032・S035）がある。小型品は形状がそれぞれ個性的で、素材も異なる。大型品は互いに類似した形状・加工痕を有し、素材についても緑灰～褐灰色系統の火山礫凝灰岩であり共通性が高い。

S028～S030は橋爪門続櫓台内部・文化期修築石垣裏込めから出土した。S028は礫がほとんど見られない均質な凝灰岩を素材とする方形の鉢で、四隅に脚を刻出するとみられる。S029・S030は大型・円形の鉢で、外面には先端に小孔を伴う深く細い線状加工痕が顕著に認められる。これはツルによると判断される。内面はツル加工の後チョウナ（平刃工具）痕が観察できるが、更に研磨されているの

かは明確にできない。

S031～S034は、五十間長屋台内部・宝暦期修築の石垣裏込め及び造成土から出土した。S031・S032の大型・円形の鉢は上記S030と基本的には類似した特徴を有する。S033は硬質・淡灰褐色を呈する均質な凝灰岩を素材とする、多角形・仕切り付きの小型の鉢である。各面はよく研磨されており、製作時の痕跡は明瞭ではない。S034は赤戸室石を素材とする小型・円形の鉢で、内外ともノミないしツル等の工具で粗く仕上げたものであるが、底部には三足を作り出しており、香炉の体裁を整えているようにも思える。

S035の大型・円形の鉢は、五十間長屋台北半・寛文期修築石垣裏込めから出土した。S029～S032と概ね類似するが、石質の点では礫が少なく均質である点がやや異なる。また内面の調整について、チョウナ痕が明瞭である。

（5）行火（第135図S036）

第135図S036は軽石凝灰岩を素材とする行火の蓋である。五十間長屋台下面・第Ⅵ面SP9以北で出土した。上面形がD字形となるタイプ（行火Ⅱ種a類、垣内1990）で、15世紀代に出現し、16世紀代には廃れていくとされる。第Ⅵ面のSP9以北においては、遺構外資料ではあるがやや古相を呈する陶磁器がまとまって出土しており、本事例も生産年代が17世紀代まで下るかどうか判然としない。

（6）普請・作事関連部材（第135～138・140図）

第135図S037～第138図S052・第140図S056・S057を普請・作事関連部材としているが、①被熱痕・煤、溶解した鉛瓦の付着等が顕著に認められる部材（S037～S040）、②板状部材（第136図S041～S045）、③礎石等基礎部材（第137図S046～S048）、④栗石・石垣残欠（第137図S049～第138図S052）、⑤文字刻印を有する押石（第140図S056・S057）に細別される。

①ではS037が橋爪門続櫓台・文化期修築造成土、S038・S039が五十間長屋台・宝暦期修築石垣裏込めから出土した。なおS040は出土地点が不明となっている。すべて軽石凝灰岩に属するが、S037・S039・S040は黒色粒子の含有が顕著な鷹巣石（金沢市）で、S038は礫をあまり含まない赤みのある石質を呈し、鵜川石（小松市）と判断される。いずれも何らかの部材であり、炉縁石、排水溝等を構成する可能性がある。

②の板状部材は橋爪門続櫓台・文化期修築石垣裏込め及び造成土からまとまって出土した。S041～S044は軽石凝灰岩で、緑色を呈するもの（S041）の他は、①と同様、鷹巣石（S042・S043）と鵜川石（S044）とがある。いずれも裏面はツルによる粗い仕上げであるが、表面はそれぞれ特徴がある。S042・S043は痕跡が窺えないような平滑調整が施されている。S044は、端部ではチョウナによる平滑調整、中心部では点状加工痕が密集する形で仕上げられている。排水施設の底板・側板、土蔵の壁等として機能したものか。S045は笏谷石（福井市）に類似した青緑色の凝灰岩で、返りを有する板状部材である。通有の形態ではないが屋根瓦である可能性も考えられる。

③の3点はいずれも赤戸室石で、第137図S046・S047は橋爪門続櫓台・文化期修築石垣裏込め及び造成土から出土した。S048は出土地点不明。S046については外面がほとんどハツリ加工のままであり、何らかの基礎の可能性を考えたが、容器である可能性も残る。S047・S048は束柱や控え柱の基礎と見られる小型の礎石である。S047の側面にはコタタキ加工痕が顕著に認められる。

④は栗石や裏込め石、石垣の素材残欠のうち、特徴的なものを掲載した。いずれも櫓（長屋）台の解体作業中に出土したが、第137図S049を除き詳細な地点は不明である。S049は符号と考えられる墨書が記された平栗石である。第138図S050は赤戸室石の石垣材残欠で、刻印部分が剥離したもの。S051は赤～青の中間色を呈する戸室石で、地覆石、あるいは石段部材等と考えられる。全体的に比較的丁寧なノミ加工で仕上げられている。S052は青戸室石の石垣材残欠で、朱書の一部が見られる。第140図S056・S057は宝暦期修築石垣築石の背後で押石として用いられていた戸室石の大型円礫で、ほ

とんど未加工であるが、小型の刻印「㊉」と、刻印と同じくノミにより「御用」の文字が刻まれていた。本来は丁場や石置き場等で傍示されていた可能性を考えたい。

（7）儀礼・信仰関連製品（第138・第139図）

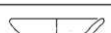
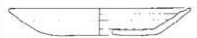
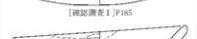
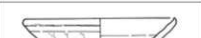
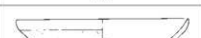
第138図S053は菱櫓上面で出土した。黄褐色～黄灰白色の火山礫凝灰岩を素材とする五輪塔水輪であるが、側面や上面・底面に孔が穿たれている。ことに側面のそれは縦横6.5×7.5cm、奥行5.5cmに及ぶ。灯籠の火袋等への転用を目的に再加工を受けたが、加工途中で廃棄されたものか。

第139図S054・S055は、五十間長屋台石垣北面（ハ面、2130N）の北東出角最上部背後に安置されていた文字刻石である（出土状況の詳細等は『報告書Ⅰ』（第1分冊）参照）。赤戸室石の切石材で、一辺15～16cm程度の立方体を呈する。S054には、上面に縦書三行にわたり「宝暦十三癸未年　鍬始六月廿五日」、下面中央に「鋤始」の文字が薬研彫りされている。ただし干支である「癸未」については横に並べ「癸」をやや上に置いている。S055も同様の構成をとるが、上面の「鍬始」が「鋤始」に、下面の「鋤始」が「鍬始」に入れ替わり、この部分の文言が表裏逆となっている。上面では「鍬始」「鋤始」の文字が4cm大とひと際大きく、両側の行の文字はやや小さい。なお、右行最下の「年」、左行の「五」「廿」は異体字である。

石材の加工痕については、線状加工痕（A）、幅広加工痕（B）、平滑調整（C）の三種類が認められる。Aはツルによるもので、長さは3～4cm、まれに5cmを超える場合もある。ツルの先端を反映する小孔を伴うことが多く、作業の方向を窺うことができる。工具痕の間隔は1cm前後である。Bはチョウナによるもので、微細な擦痕を伴い、その範囲は幅3～4cm前後、長さは明瞭ではないが幅と同じく3～4cmに及ぶ場合がある。ただしBは重複しつつ連続している状態が基本であり、一単位を抽出するのは難しい。なおこの加工痕は戸室石の石垣材には通有ではない。A・Bとも上面を除く各面で顕著に認められる。

Aは面全体に施され、面の一方の側縁から相対する側縁まで一方向で進む場合、相対する両側の側縁から中央へ向かって進む場合、面中央付近で直交する場合等のパターンがあるが、いずれにしろ方向ごとのまとまりがある。Bは下面以外では面の周縁部に顕著で、やはり方向ごとのまとまりがある。面によってはほとんど一方向に終始する場合もあれば、数区画で方向を変えている場合もある。下面では面中央まで工具痕が及んでおり、Bの調整のみで字彫り部分のベースを整えている。Cは上面のみにみられ、砥石により研磨された結果と考えられる。擦痕等は肉眼では認識できない。右上がり幅1cm前後の平滑で緩やかな凹面が平行して上面全体を覆っており、これが字彫のベースとなっている。上面ではAがわずかに残存するのみで、Bはほとんど認められず、上面の調整がBの加工を経ているのか、別の過程（コタタキ等）が挟まれているのか明確にできない。

土師器皿 器形分類

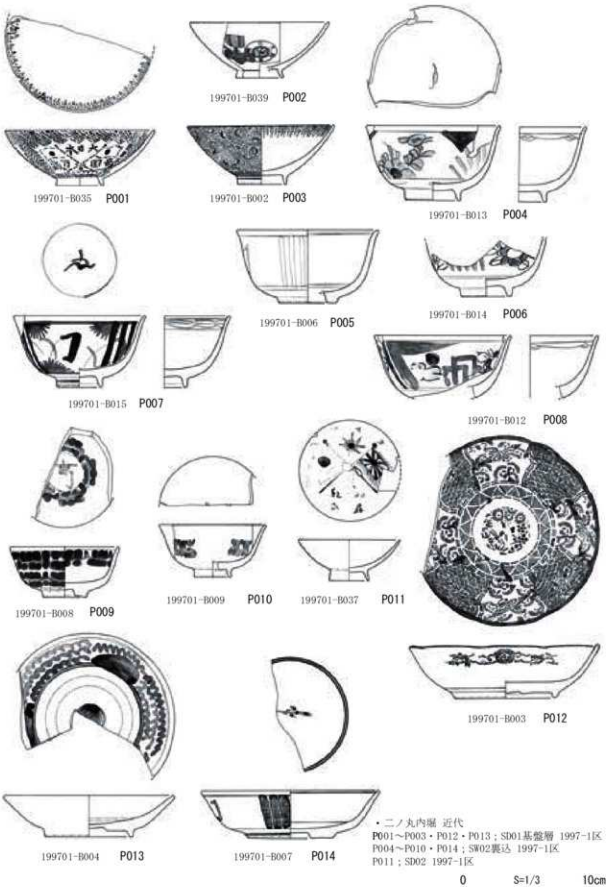
A 在地系　京都系流行以前からの系統を引くもの					 [石川橋]Fig. 307-13	～16C末
B 京都系 ・体部が開き気味に立ち上がる ・口縁部は緩やかに外反 ・口縁内面に端面形成 ・内面「の」の字状ナデ（小型品） ・内面見込一方向ナデ→体部ヨコナデ（大型品） （「2」の字状ナデが典型）			（薄手）		 P209	～17C初
			（厚手）		P215	
					[確認調査Ⅰ]P172	
C 京都系の要素が顕著でないもの	1 京都系と共伴　17世紀初期以後消滅 形状多様、細分の余地大きい				[河北門]P247	17C初 慶長頃
					[確認調査Ⅰ]P185	
					 [確認調査Ⅰ]P181	
	2 17世紀前半以後へ連続	Ⅰ1 底部平坦、体部立ち上がり急、口縁端内屈 17世紀前半以後の主たる系統	a 底部内面　一方向条痕 底部外面　指押さえ痕		 P314	17C初～ 元和頃
			b 底部内面　不定方向ナデ 底部外面　板（篦）目状圧痕		 [確認調査Ⅰ]P141	17C前半 寛永頃

石川橋　：[石川県立埋蔵文化財センター1998]
確認調査Ⅰ：[石川県金沢城調査研究所2008a]
河北門　：[石川県金沢城調査研究所2011b]
遺物番号のみ：本書報告

土師器皿 胎土分類

	特　徴	主体を占める器形
A群	中砂多い、粗砂・極粗砂・海綿骨片目立つ	B類の一部（能登産）
B群	砂粒比較的少ない、均質（細分の余地大きい）	B類の一部（能登産以外）、C1類
C群	砂粒ごく少ない、均質	B類の一部（能登産以外）、C1類
D群	細砂多い、均質（粉質）	B類の一部（能登産以外）
E群	中砂多い、粗砂・極粗砂目立つ（細分の余地大きい）	C2Ⅰ類

第44図　土師器皿の器形・胎土分類



第45図　出土遺物実測図　陶磁器１　(S=1/3)

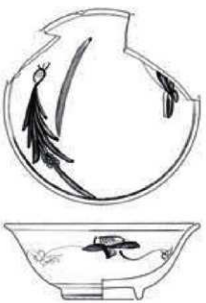
199701-B016 P015

199701-B030 P016

199701-B031 P017

199701-B048 P018

199701-B010 P019



199701-B001 P020

199701-B011 P021

199701-B018 P024

199701-B074 P022

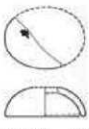
199701-B017 P023

・二ノ丸内堀 近代
P015；SW02裏込 1997-1区
P016・P017・P020・P023・P024
；SD01基盤層 1997-1区
P018；SD06 1997-7区
P019；SD02 1997-1区
P021；ST01基盤層 1997-1区
P022；ST02基盤層 1997-1区

0 S=1/3 10cm

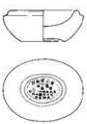
第46図　出土遺物実測図　陶磁器２　(S=1/3)

・二ノ丸内堀 近代
P025；SD06 1997-1区
P026；SD01 1997-1区
P027；ST01基盤層 1997-1区
P028・P030；ST03基盤層 1997-1区
P029・P031・P033・P034・P038・P039
；SD01基盤層 1997-1区
P032；ST02基盤層 1997-1区
P035；SW02裏込 1997-1区
P036；ST01基盤層 1997-1区
P037；SB01(大学校舎掘乱) 1997-2区


199701-D159 P025

199701-B026 P027

199701-D151 P029


199701-B028 P026

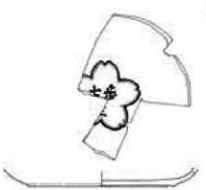
199701-B027 P028

199701-D161 P033

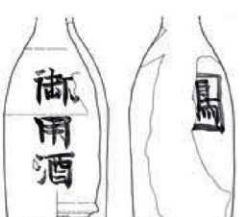
199701-B042 P030

199701-D160 P031

199701-B041 P032

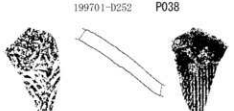

199701-B029 P034

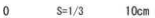
199701-B005 P035


199701-B025 P036

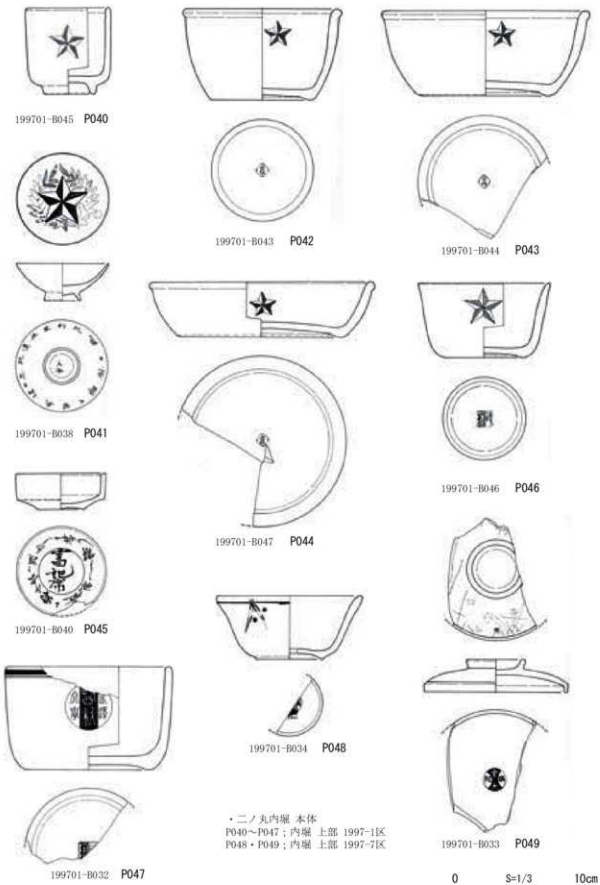
199701-D257 P037

199701-D252 P038

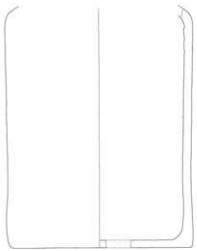

199701-D258 P039



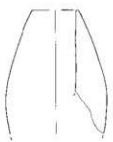
第47図 出土遺物実測図 陶磁器３ (S=1/3)



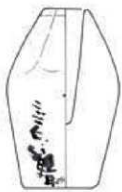
第48図　出土遺物実測図　陶磁器４　(S=1/3)



199701-D004 **P050**



199701-D156 **P051**



199701-D157 **P052**

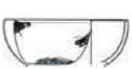
・二ノ丸内堀 本体
P050；内堀 上部 1997-7区
P051・P052；内堀 上部 1997-4区

199701-D228 **P053**

199701-B065 **P054**

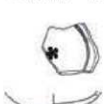
199701-B061 **P060**

199701-B070 **P055**



199701-B071 **P056**

199701-B062 **P057**



199701-B072 **P058**

199701-B058 **P059**

199701-B060 **P061**

199701-B059 **P062**

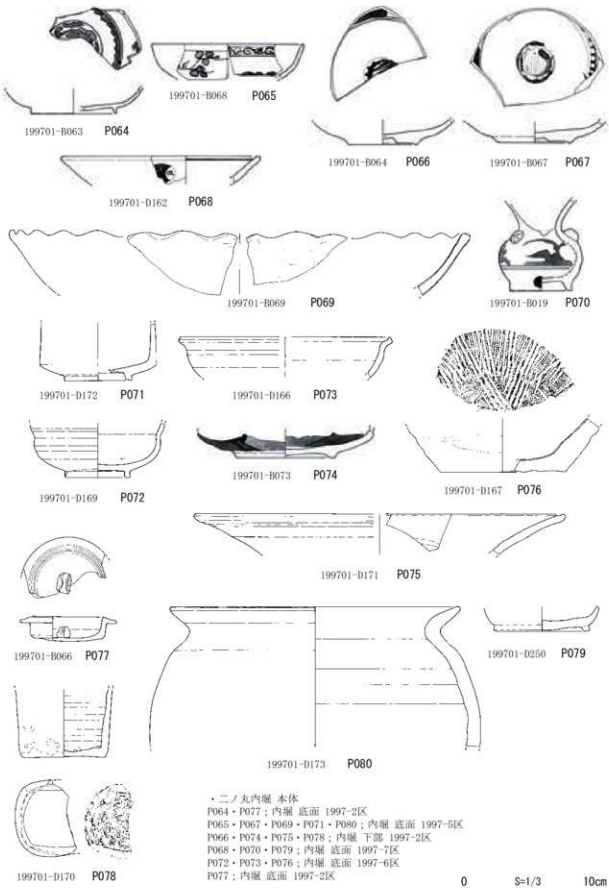
199701-D168 **P063**

・二ノ丸内堀 本体
P053；内堀 1997-2区
P054・P057；内堀 底面 1997-2区
P055・P056・P060～P062；内堀 下部 1997-2区
P058；内堀 底面 1997-4区
P059・P063；内堀 底面 1997-6区

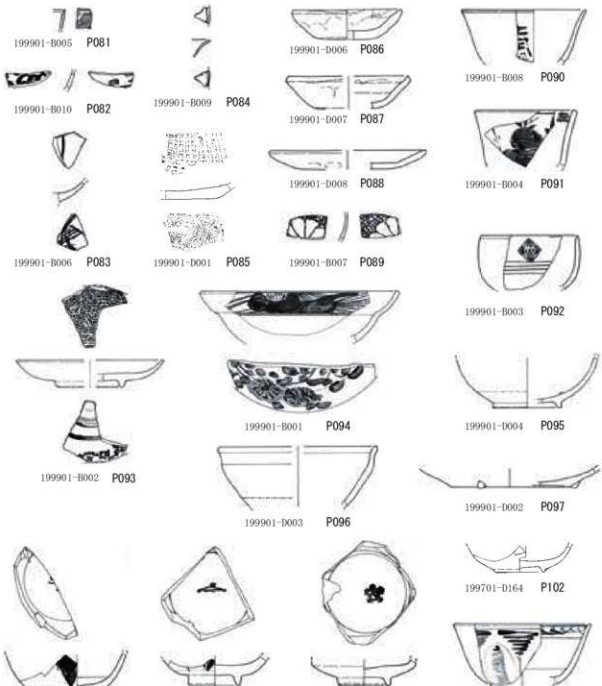
0 S=1/3 10cm

0 S=1/6 20cm

第49図 出土遺物実測図 陶磁器5 (S=1/3、P050はS=1/6)



第50図　出土遺物実測図　陶磁器６　(S=1/3)



・二ノ丸内堀 西部北岸～中央部東岸北端
P081；土羽貼付土～盛土
P082；gトレンチ 盛土 1997-7区
P083・P084；gトレンチ 石垣裏込～盛土 1997-7区
P085；cトレンチ 黒ボク上 1997-5区
P086；cトレンチ 土羽貼付土 1997-5区
P087・P088；cトレンチ 石垣裏込 1997-5区
P089；菱櫓付近川原石積周辺 1997-6・7区
P090・P091；法面表採
P092～P096；法面
P097；菱櫓付近近代石積埋土 1997-7区
・二ノ丸内堀 石垣
P098～P103；三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区

0 S=1/3 10cm

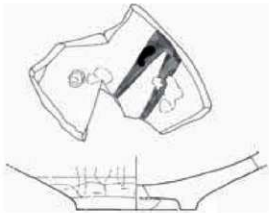
第51図　出土遺物実測図　陶磁器７　(S=1/3)

199701-B050 P105

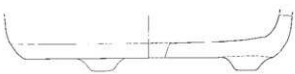
199701-B056 P104

199701-B052 P106

199701-D165 P107



199701-B054 P108



199701-D163 P109

199701-D249 P112

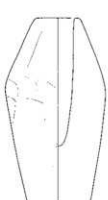
199701-D158 P110

199701-D155 P111

199701-D255 P113

199701-D251 P114

199701-D227 P115



199701-D154 P116

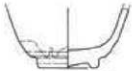
・二ノ丸内堀 石垣
P104～P113；三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区
P114；南門土橋石垣西面(2230W) 1997-2区
・二ノ丸内堀 内堀橋
P115；内堀橋P05 1997-2区
・二ノ丸内堀
P116；地点不明

0 S=1/3 10cm

第52図 出土遺物実測図 陶磁器8 (S=1/3)

199804-B006 P117

199701-B036 P118



199804-D012 P121

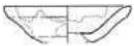
199804-D007 P122

199804-D009 P119

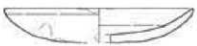
199804-B002 P120

199804-B003 P123

199804-D011 P124

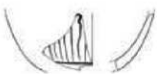


199804-D010 P125

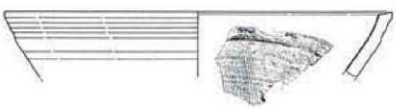


199804-D008 P126

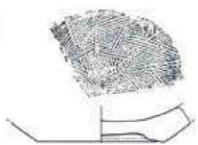
199701-D259 P127



199804-B001 P128



199804-D142 P129

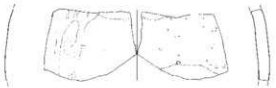


199804-D141 P130

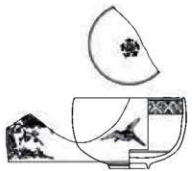
・櫓（長屋）台上面
P117；五十間長屋Ⅲ区
P118・P127；菱櫓 1997-3区
P119・P120・P124～P126；五十間長屋Ⅰ区
P121；五十間長屋Ⅱ区
P122；五十間長屋北Ⅱ区
P123；礎石No.8据方 五十間長屋Ⅰ区
P128；菱櫓古段階 礎盤（根石）ア根固1997-3区
・櫓（長屋）台取付階段
P129；階段① 近世盛土粗砂層
・二ノ丸階段
P130；二ノ丸階段 東側トレンチ

0 S=1/3 10cm

第53図 出土遺物実測図 陶磁器９ (S=1/3)



199908-D009 P131



199908-B001 P132

199908-B006 P133

199908-D005 P134

199908-B003 P135

199908-B002 P136

199908-B004 P137

199908-D001 P138

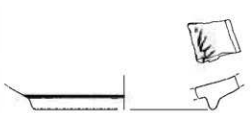
199908-D007 P139

199908-D003 P140

199908-D002 P141

199908-D006 P142

199908-D004 P143

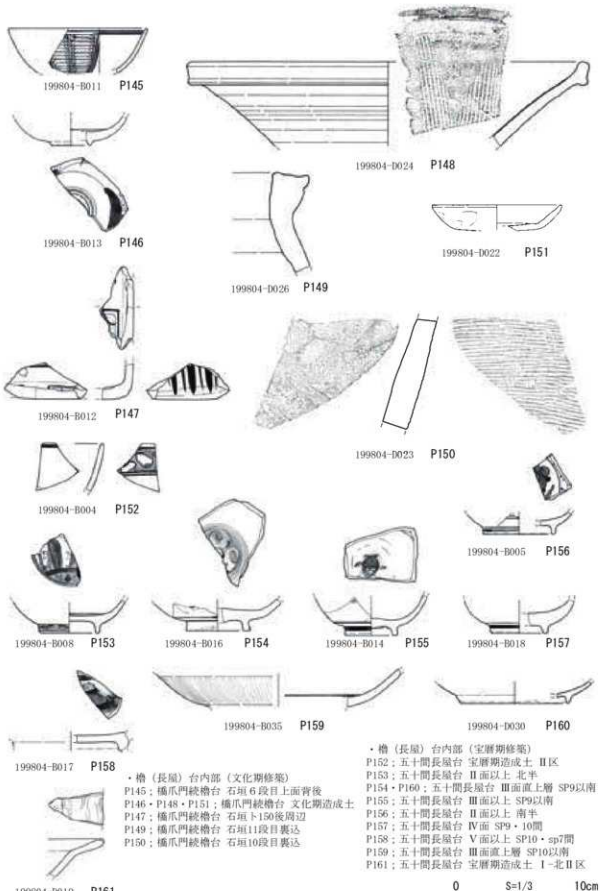


199908-B005 P144

・三ノ丸3次
P131；上層遺構ピット
P132・P133・P135～P142；SX01 暗灰褐色粘砂質土
P134；SX01 上層
P143；SX03
P144；北区南半 地山上盛土

0 S=1/3 10cm

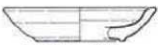
第54図　出土遺物実測図　陶磁器10　(S=1/3)



第55図　出土遺物実測図　陶磁器11　(S=1/3)

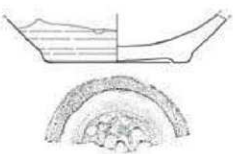
199804-D036 P162

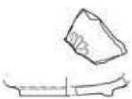
199804-D013 P163

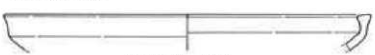

199804-D028 P164

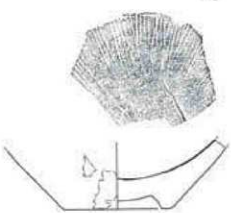
199804-B015 P165

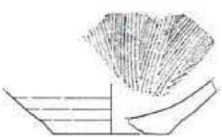
199804-D015 P167


199804-D016 P168

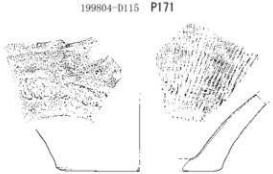

199804-D002 P166


199804-D004 P169


199804-D021 P170


199804-D115 P171

199804-D005 P172

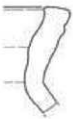

199804-D032 P173

199804-D035 P174

・櫓（長屋）台内部（宝暦期修築）
P162；五十間長屋台 Ⅳ面 SP10
P163；五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅱ区
P164；五十間長屋台 Ⅱ面以下 SP9
P165；五十間長屋台 Ⅳ面直上層 SP9・10間
P166；五十間長屋台 Ⅱ面以上 北半
P167・P170；五十間長屋台 Ⅱ面以上 南半
P168；五十間長屋台 石垣ロ面(2120E)裏込 Ⅰ区
P169；五十間長屋台 Ⅱ面以下 北半
P171；五十間長屋台 石垣ロ1077・1076間裏込
P172；五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅰ-北Ⅱ区
P173；五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP9以南
P174；五十間長屋台 Ⅳ面

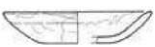
0 S=1/3 10cm

第56図 出土遺物実測図 陶磁器12 (S=1/3)



199804-D006 **P175**

199804-D034 **P176**

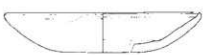


199804-D031 **P177**

199804-D014 **P178**

199804-D003 **P179**

199804-D001・D033 **P180**



199804-D029 **P181**

199804-B010 **P182**

199804-B007 **P184**

199804-D017 **P189**

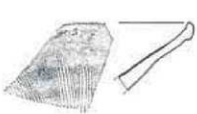
199804-B009 **P183**

199804-D037 **P185**

199804-D025 **P190**

199804-D018 **P186**

199804-D020 **P187**

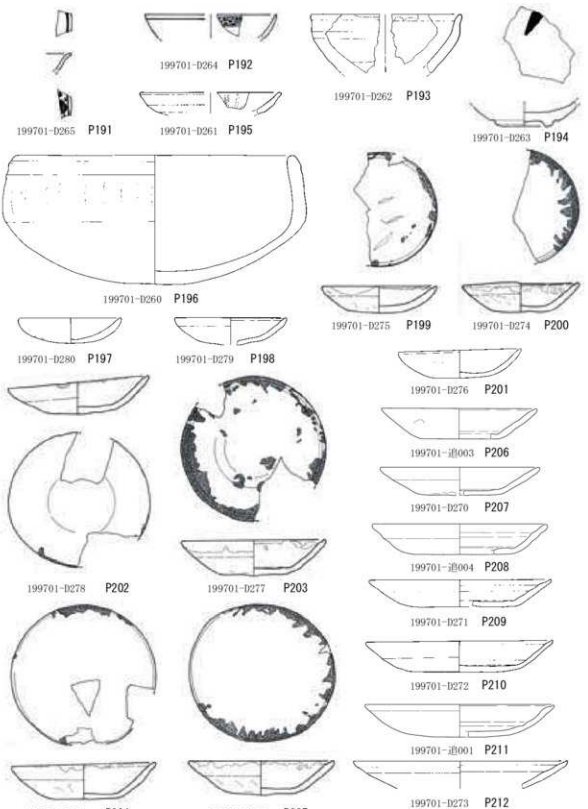


199804-D027 **P188**

・櫓（長屋）台内部（宝暦期修築）
P175；五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅰ-北Ⅱ区
P176・P181；五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP10以南
P177・P180；五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP9以南
P178；五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅳ区
P179；五十間長屋台 Ⅱ面以下 北半
・櫓（長屋）台内部（寛永期構築）
P182～P184・P186・P187・P189・P190；橋爪門続櫓台 寛永期造成土
P185；五十間長屋台 Ⅳ面以下 SP10以南
P188；五十間長屋台 寛永期造成土 SP10以南

0 S=1/3 10cm

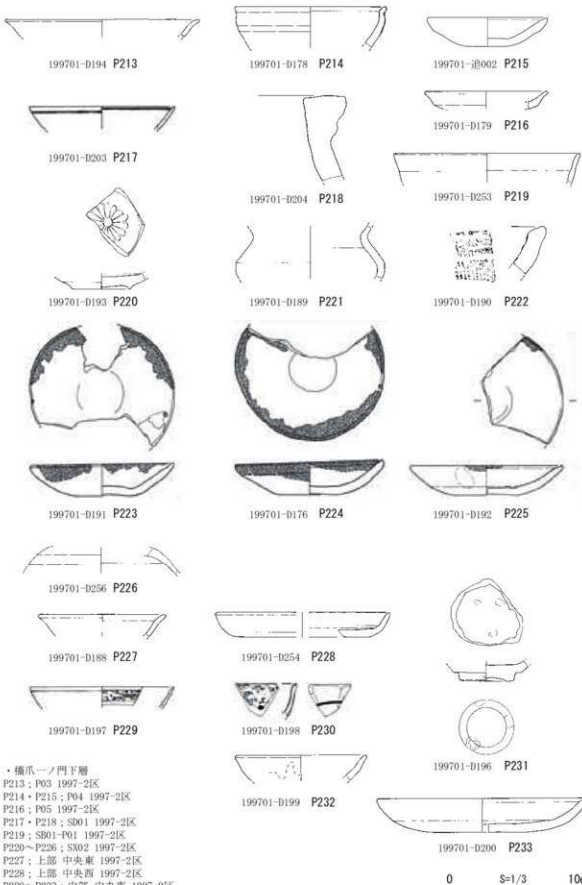
第57図　出土遺物実測図　陶磁器13　(S=1/3)



・内堀橋北詰下層
P191・P192・P194～P197・P200・P201・P208・P212；SX01 中央 1997-2区
P193・P199・P209；SX01 北 1997-2区
P198・P202・P203・P205・P206・P211；SX01 南 1997-2区
P204・P207・P210；SX01 中央-北 1997-2区

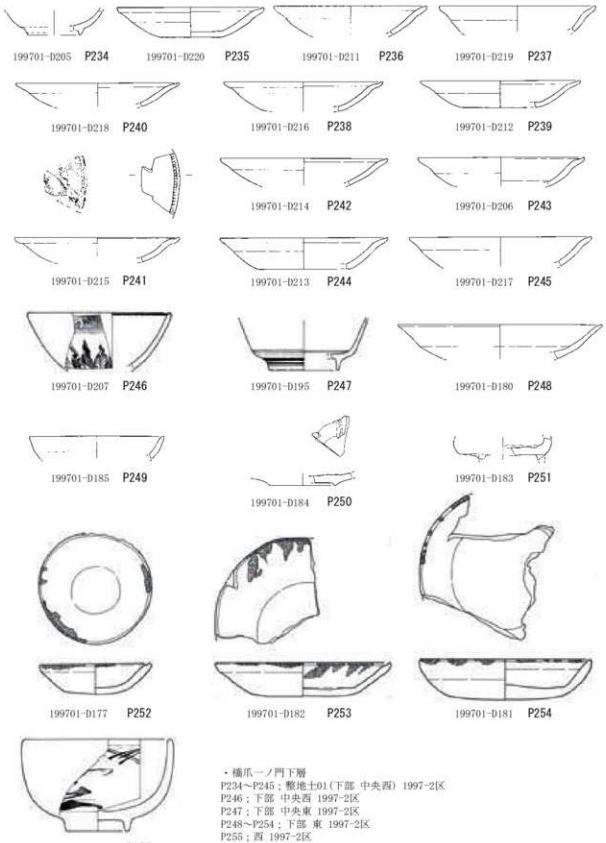
0 S=1/3 10cm

第58図　出土遺物実測図　陶磁器14　(S=1/3)



・橋爪一ノ門下層
P213；P03 1997-2区
P214・P215；P04 1997-2区
P216；P05 1997-2区
P217・P218；SD01 1997-2区
P219；SB01-P01 1997-2区
P220～P226；SX02 1997-2区
P227；上部 中央東 1997-2区
P228；上部 中央西 1997-2区
P229～P233；中部 中央東 1997-2区

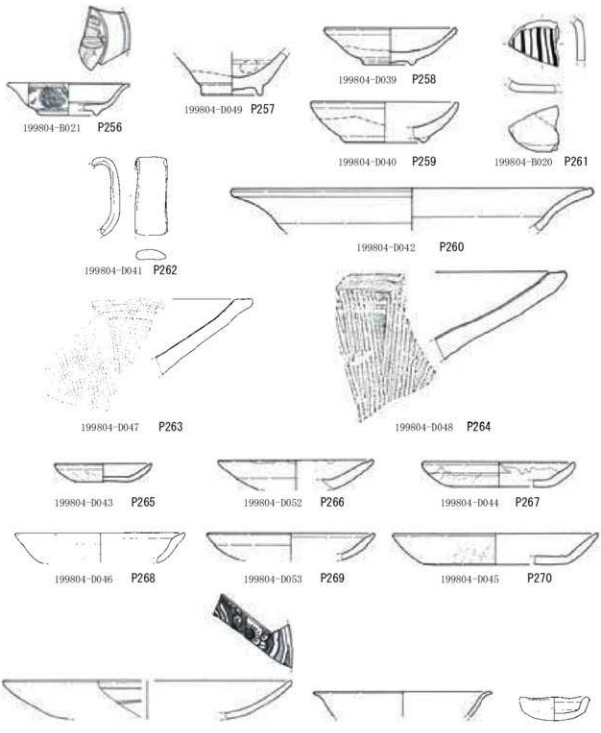
第59図　出土遺物実測図　陶磁器15　(S=1/3)



・橋爪一ノ門下層
P234～P245；整地土01(下部 中央西) 1997-2区
P246；下部 中央西 1997-2区
P247；下部 中央東 1997-2区
P248～P254；下部 東 1997-2区
P255；西 1997-2区

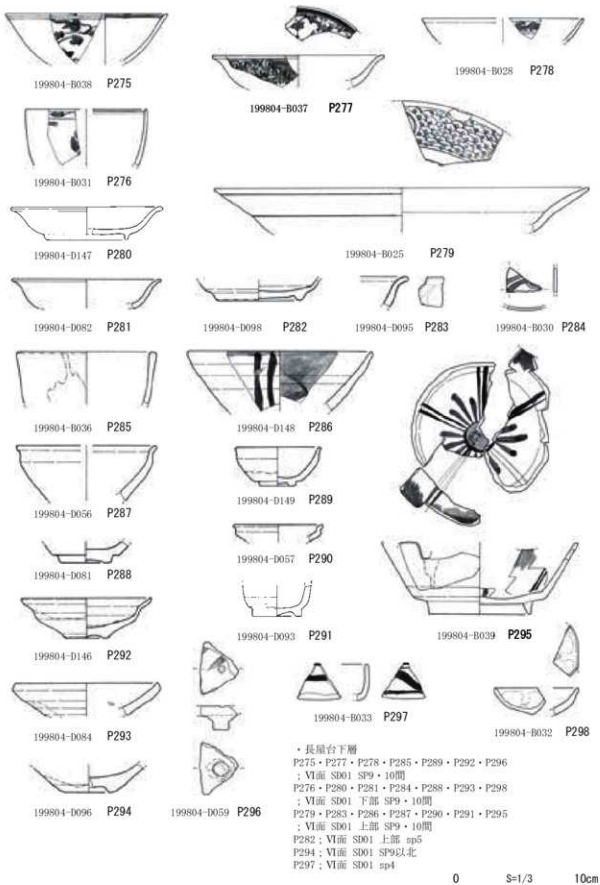
0 S=1/3 10cm

第60図　出土遺物実測図　陶磁器16　(S=1/3)



・長屋台下層
P256・P266；V面 SP9・10間
P257・P261・P263；V面 砂層上部 SP9・10間
P258～P260・P262・P265・P267・P268・P270；V面 SP9以北
P264・P269；V面 砂層上部 SP9以北
P271；V面下部 SP9以北
P272；V面下部 SP10以南
P273・P274；V面下部

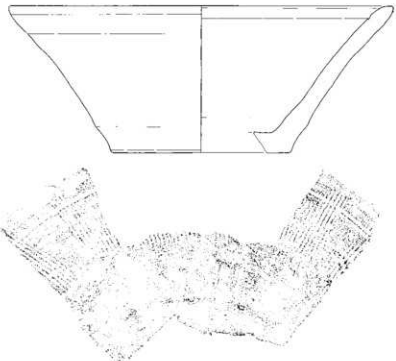
第61図　出土遺物実測図　陶磁器17　(S=1/3)



・長屋台下層
P275・P277・P278・P285・P289・P292・P296
；VI面 SD01 SP9・10間
P276・P280・P281・P284・P288・P293・P298
；VI面 SD01 下部 SP9・10間
P279・P283・P286・P287・P290・P291・P295
；VI面 SD01 上部 SP9・10間
P282；VI面 SD01 上部 sp5
P294；VI面 SD01 SP9以北
P297；VI面 SD01 sp4

0 S=1/3 10cm

第62図　出土遺物実測図　陶磁器18　(S=1/3)



199804-D080 P300

199804-D097 P301

199804-D108 P299

199804-D061 P302

199804-D085 P303

199804-D094 P304

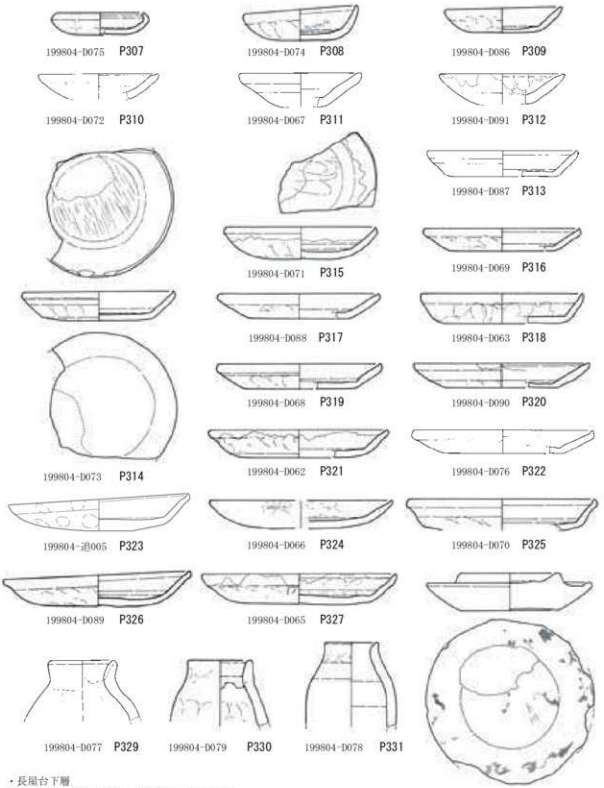
199804-D092 P305

199804-B023 P306

・長屋台下層
P299・P300・P303；Ⅵ面 SD01 下部 SP9・10間
P301；Ⅵ面 SD01 上部 sp5
P302；Ⅵ面 SD01 SP9・10間
P304～P306；Ⅵ面 SD01 上部 SP9・10間

0 S=1/3 10cm

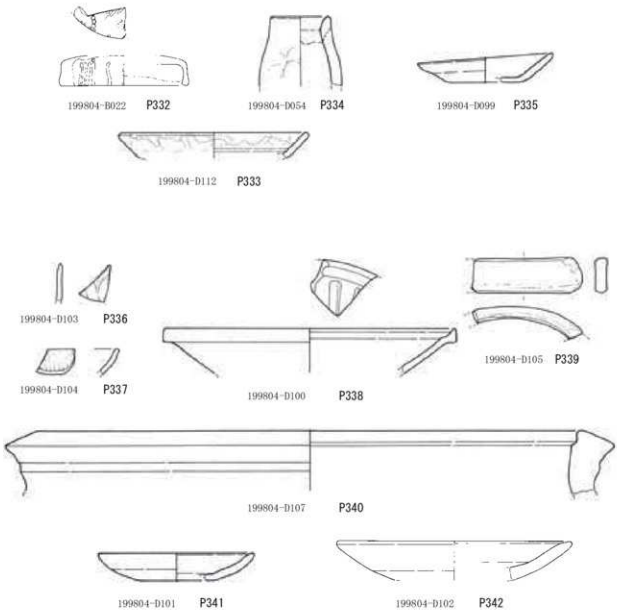
第63図　出土遺物実測図　陶磁器19　(S=1/3)



・長屋台下層
P307・P308・P318・P324；VI面 SD01 SP9・10間
P309・P312・P313・P317・P320・P326；VI面 SD01 下部 SP9・10間
P310・P314～P316・P319・P321～P323・P325・P328～P331；VI面 SD01 上部 SP9・10間
P311；VI面 SD01 上部 SP9以北
P327；VI面 SD01

0 S=1/3 10cm

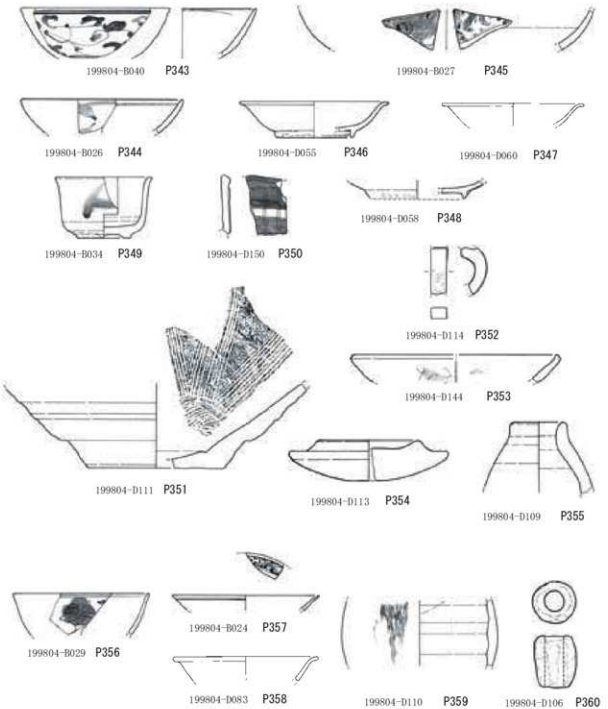
第64図　出土遺物実測図　陶磁器20　(S=1/3)



・長屋台下層
P332；Ⅵ面 SK01 上部
P333・P334；Ⅵ面 SK01
P335；Ⅵ面 SX01 下部
P336～P342；Ⅵ面 SP9以北

0 S=1/3 10cm

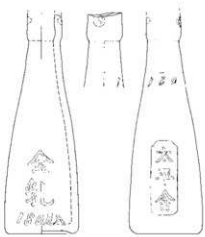
第65図　出土遺物実測図　陶磁器21　(S=1/3)



・長屋台下層
P343・P345・P348・P354；VI面
P344・P350・P353；VI面 SP10・sp7間
P346・P351・P352・P355；VI面 SP9・10間
P347；VI面 南端
P349；VI面 SP9
P356・P358；VI面下部 sp4下部整地土
P357・P359・P360；VI面下部 SP9・10間

0 S=1/3 10cm

第66図　出土遺物実測図　陶磁器22　(S=1/3)

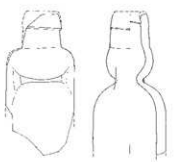


199701-B020 **G001**

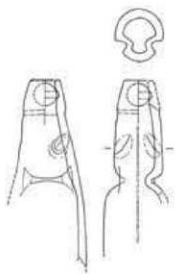
199701-D150 **G002**

199701-D153 **G003**

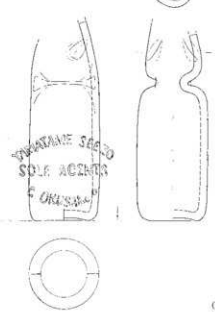
199701-D152 **G004**



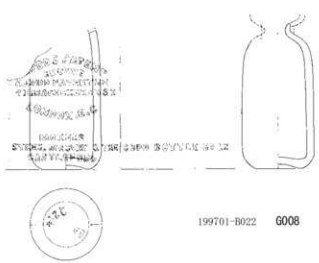
199701-B021 **G005**



199701-B023 **G006**



199701-B024 **G007**



199701-B022 **G008**

・二ノ丸内堀 近代
G001・G002・G005・G006：SD01基盤層 1997-1区
G003・G004：SD02 1997-1区
・二ノ丸内堀 本体
G007・G008：内堀 底面 1997-7区

0 S=1/3 10cm

第67図　出土遺物実測図　ガラス容器　(S=1/3)

軒丸瓦　巴文分類表

分類名	珠文数	径（cm）	巴の尾の向き	特記事項
Ⅰ-1	12	16	左回り	
Ⅱ-1a	14	14～15前半	右回り	中心に円形突起あり
Ⅱ-1b	14	14～15前半	左回り	中心に円形突起あり
Ⅱ-2a	14	14～15前半	右回り	
Ⅱ-2b	14	14～15前半	左回り	尾が次の巴に繋がらないものを含む
Ⅲ-1a	16	14後半～16	右回り	
Ⅲ-1b	16	14後半～16	左回り	尾が次の巴に繋がらないものを含む
Ⅲ-2	16	17～19	右回り	巴の間に鉤型や十字の突起あり
Ⅳ	不明	不明	左回り	巴の上面が平坦

軒丸瓦　梅鉢文分類表

分類名	特記事項
Ⅰ-1a	軸無し　花弁と中心が同じ大きさ　花弁から中心までの距離短い
Ⅰ-1b	軸無し　花弁と中心が同じ大きさ　花弁から中心までの距離遠い
Ⅰ-2	軸無し　花弁より中心が小さい
Ⅱ-1	軸有り　花弁と中心が同じ大きさ
Ⅱ-2	軸有り　花弁より中心が小さい
Ⅲ	軸有り　中心側軸間に突起（剣）あり

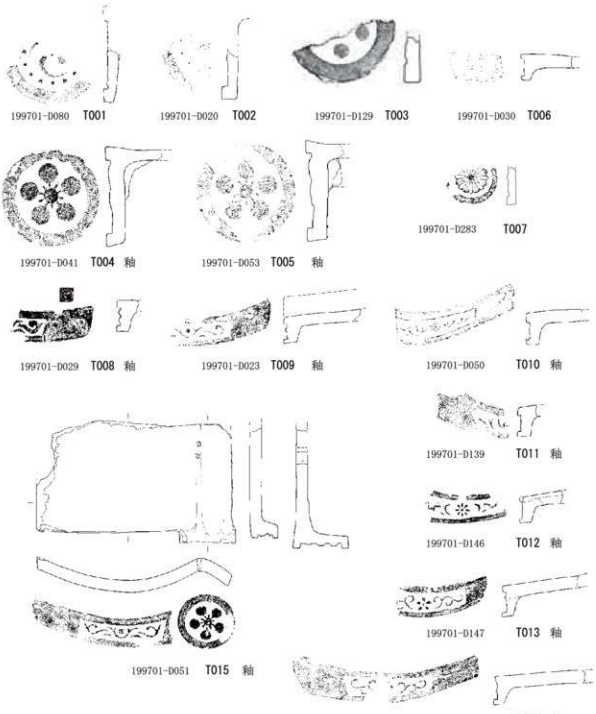
腰瓦側辺中央凹部分類表

タイプ	平面	側辺（断面）
円形凹A		
円形凹B		
縦長凹		
方形凹		

タイプ	特徴
円形凹A	底が平らに調整されている
円形凹B	Aのような調整なし
縦長凹	小型で断面は浅い皿状を呈する
方形凹	底が平らに調整されている

（石川県金沢城調査研究所 2010a 第5-19・20図・同 2011b 第76・77図より作成）

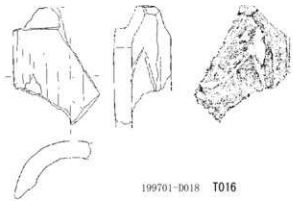
第68図　軒丸・軒平・軒桟・腰瓦分類



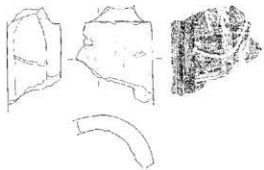
・二ノ丸内堀 近代
T001；SB01(大学校舎撹乱) 1997-2区
T002・T009；SD01基盤層 1997-1区
T003～T005・T010・T015；SW02裏込 1997-1区
T006；SD06 1997-1区
T007・T014；SD02 1997-1区
T008・T011；ST01基盤層 1997-1区
T012・T013；ST03基盤層 1997-1区

0 S=1/6 10cm

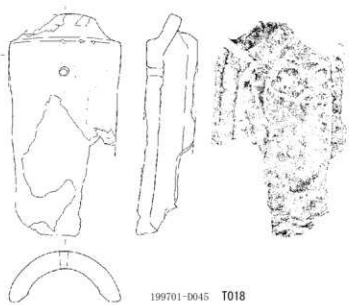
第69図 出土遺物実測図 瓦1 (S=1/6)



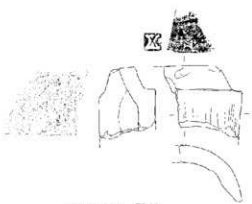
199701-D018 T016



199701-D076 T017



199701-D045 T018



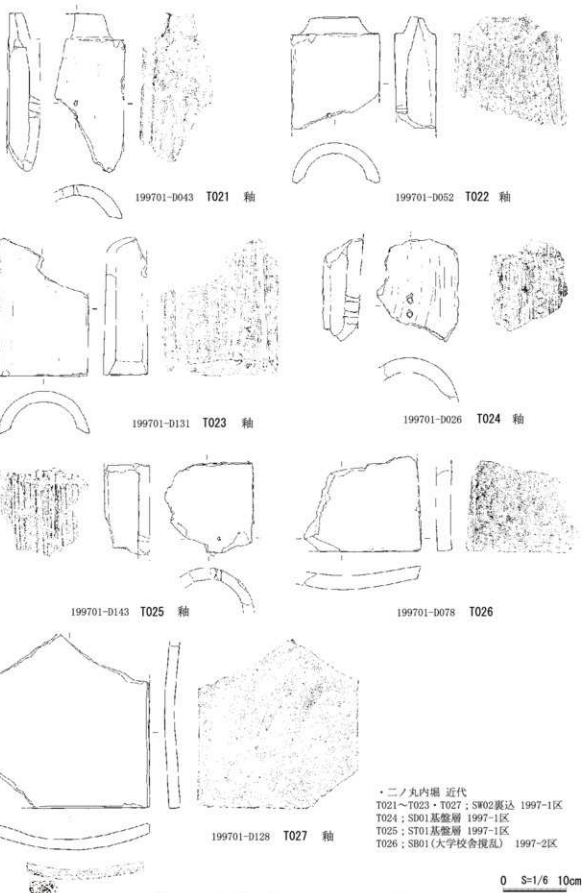
199701-D077 T019

199701-D137 T020 釉

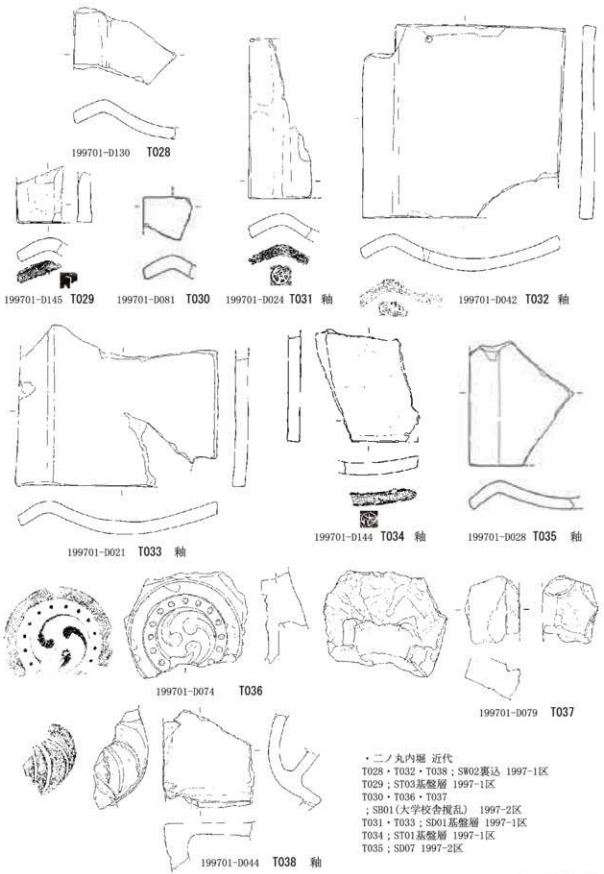
・二ノ丸内堀 近代
T016；SD01基盤層 1997-1区
T017・T019；SB01(大学校舎掘乱) 1997-2区
T018；SK02裏込 1997-1区
T020；ST02基盤層 1997-1区

0 S=1/6 10cm

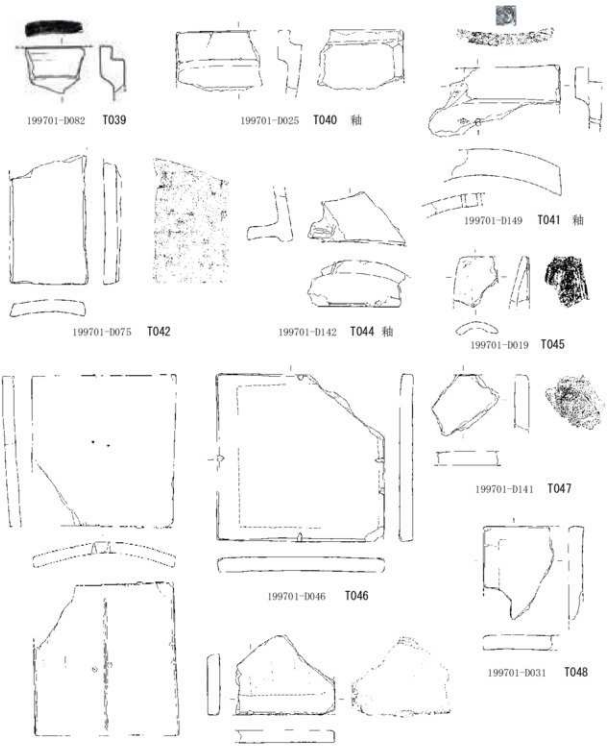
第70図 出土遺物実測図 瓦2 (S=1/6)



第71図 出土遺物実測図 瓦3 (S=1/6)



第72図　出土遺物実測図　瓦４　(S=1/6)

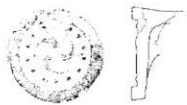


・二ノ丸内堀 近代
T039・T042；SB01(大学校舎視丸) 1997-2区
T040・T045；SD01基盤層 1997-1区
T041・T044・T047；ST01基盤層 1997-1区
T043・T046；SW02裏込 1997-1区
T048；SD06 1997-1区
T049；SD07 1997-2区

0 S=1/6 10cm

第73図 出土遺物実測図 瓦5 (S=1/6)

199701-D102 **T050**



199701-D047 **T051**

199701-D133 **T052**

199701-D244 **T053**

199701-D085 **T054**

199701-D101 **T055**

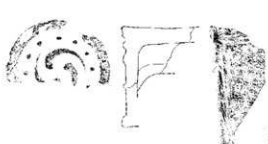
199701-D243 **T056**

199701-D083 **T057**

199701-D239 **T058**

199701-D115 **T059**

199701-D238 **T060**

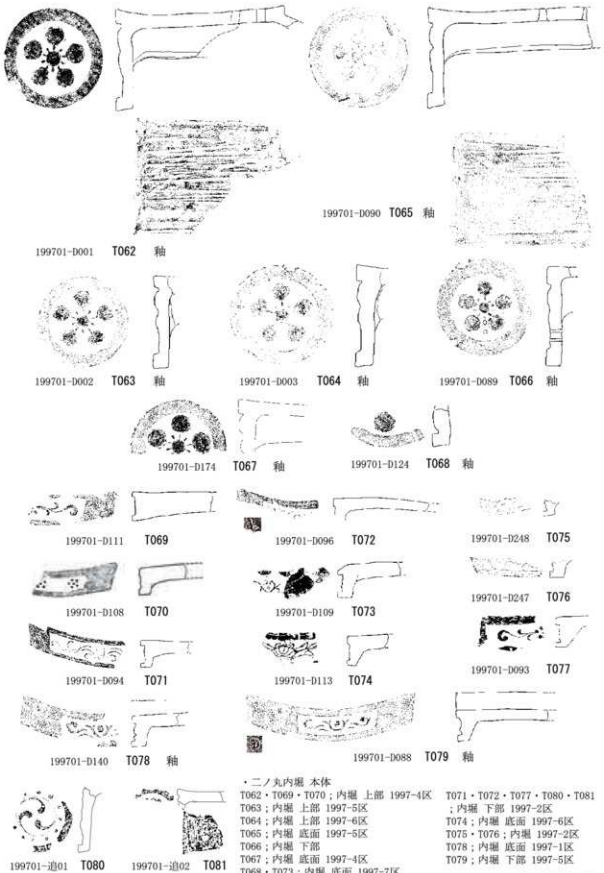


199701-D084 **T061** 越前

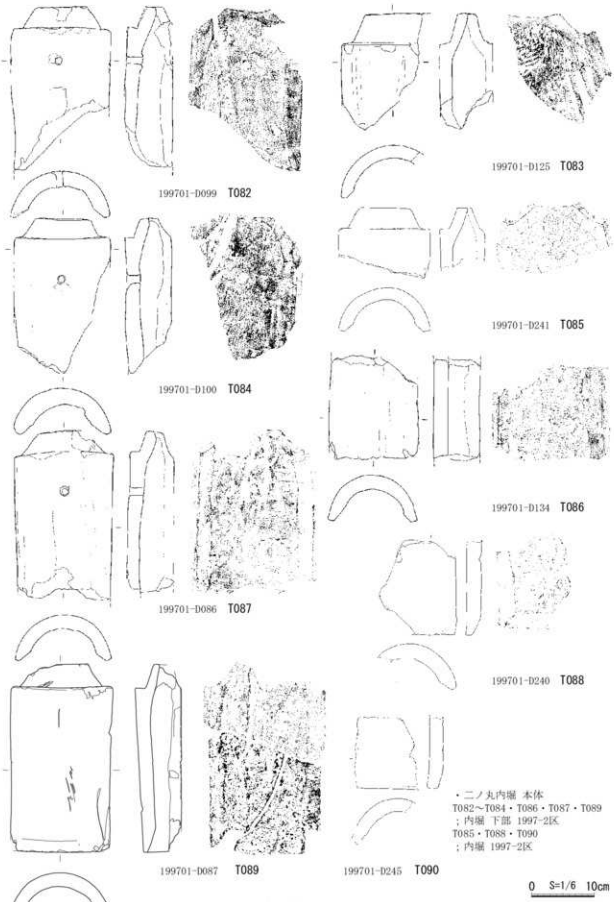
・二ノ丸内堀 本体
T050・T052・T054・T055・T057・T061；内堀 下部 1997-2区
T051；内堀 底面 1997-4区
T053・T056・T058・T060；内堀 1997-2区
T059；内堀 底面 1997-7区

0 S=1/6 10cm

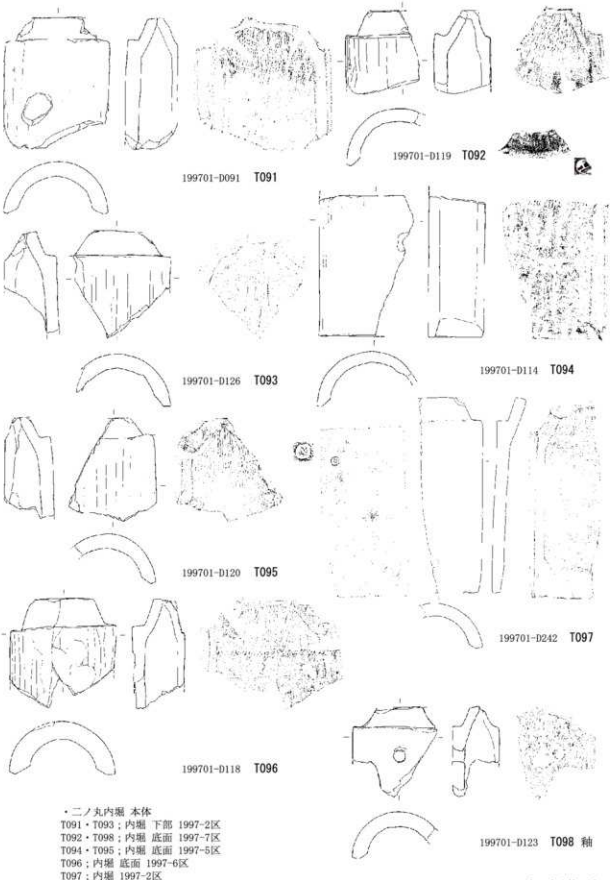
第74図　出土遺物実測図　瓦6　(S=1/6)



第75図　出土遺物実測図　瓦７　(S=1/6)

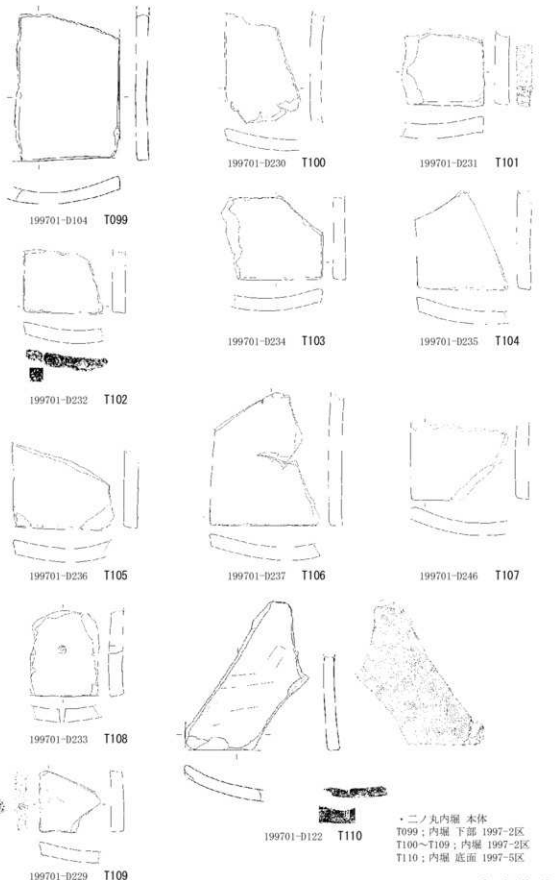


第76図　出土遺物実測図　瓦８　(S=1/6)

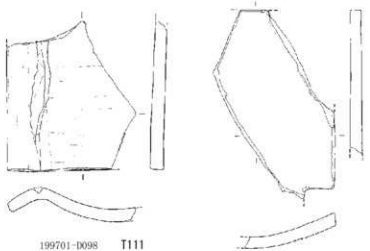


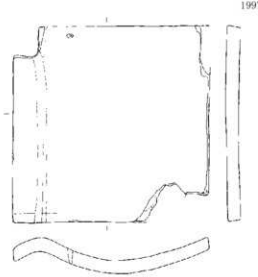
・二ノ丸内堀 本体
T091・T093；内堀 下部 1997-2区
T092・T098；内堀 底面 1997-7区
T094・T095；内堀 底面 1997-5区
T096；内堀 底面 1997-6区
T097；内堀 1997-2区

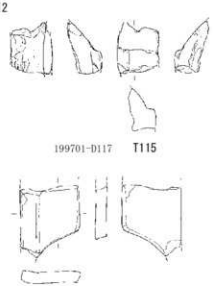
第77図　出土遺物実測図　瓦９　(S=1/6)

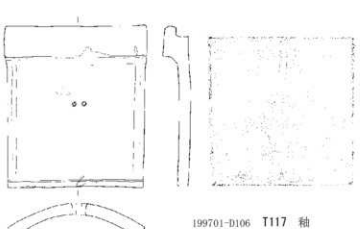


第78図　出土遺物実測図　瓦10　(S=1/6)





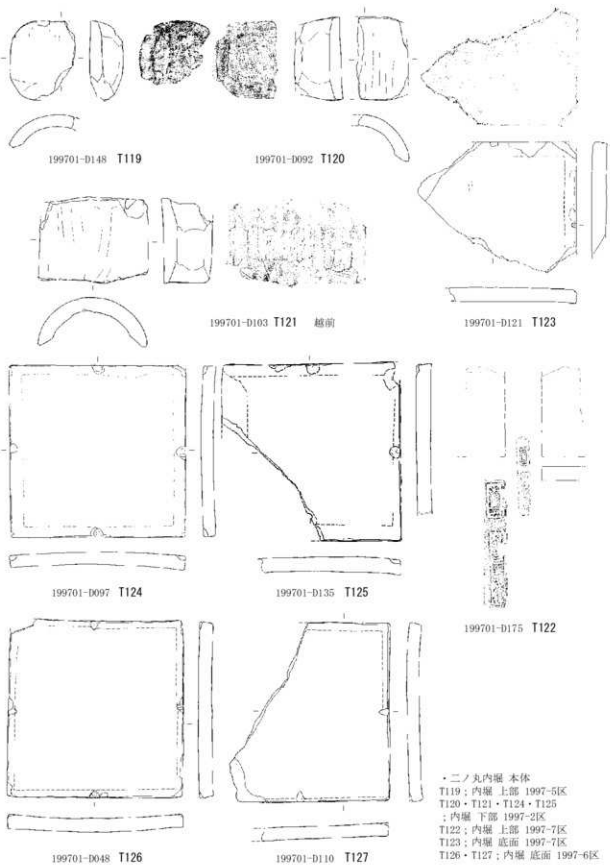




・二ノ丸内堀 本体
T111～T113；内堀 下部 1997-2区
T114・T116～T118；内堀 底面 1997-7区
T115；内堀 底面 1997-6区

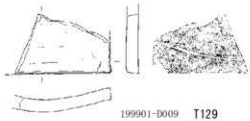
0 S=1/6 10cm

第79図 出土遺物実測図 瓦11 (S=1/6)



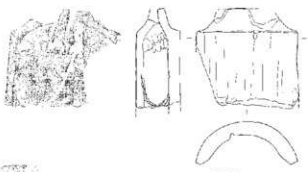
第80図　出土遺物実測図　瓦12　(S=1/6)

199901-D005 T128 軸

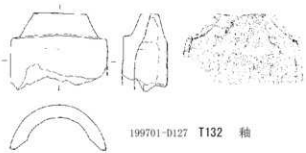


199901-D009 T129

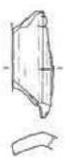
199701-D038 T130



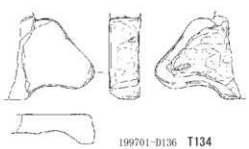
199701-D040 T131



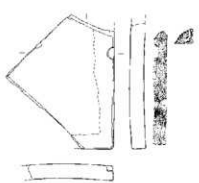
199701-D127 T132 軸



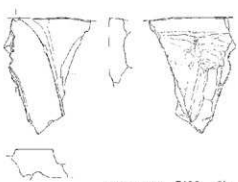
199701-D037 T133



199701-D136 T134



199701-D039 T135

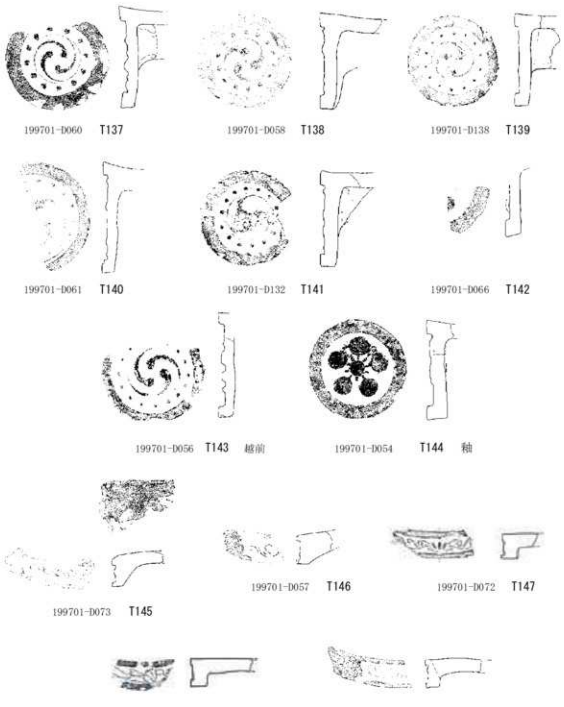


199701-D036 T136 軸

・二ノ丸内堀 西部北岸～中央部東岸北端
T128；gトレンチ 石垣裏込 1997-7区
T129；bトレンチ 土羽貼付土 1997-5区
・二ノ丸内堀 石垣
T130～T136；五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区

0 S=1/6 10cm

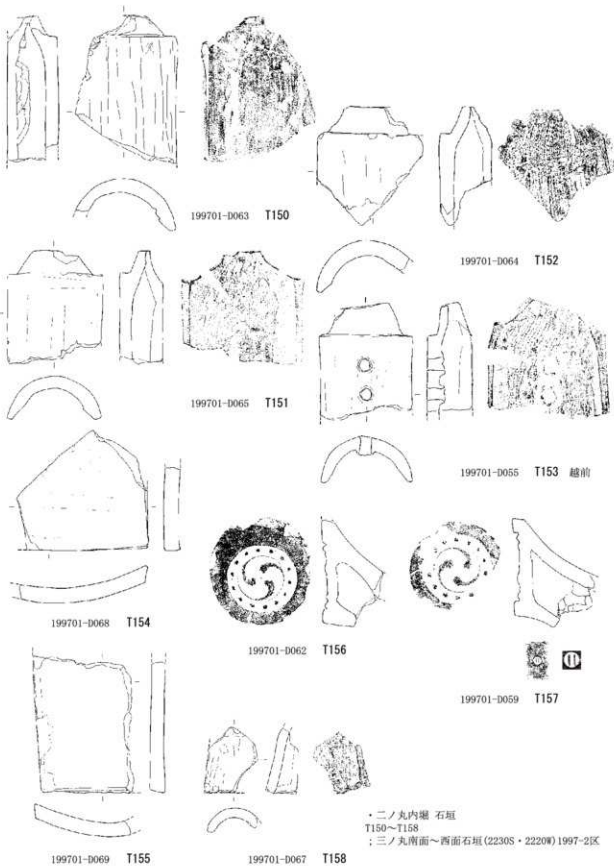
第81図 出土遺物実測図 瓦13 (S=1/6)



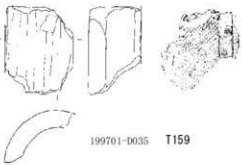
・二ノ丸内堀 石垣
T137～T149；三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区

0 S=1/6 10cm

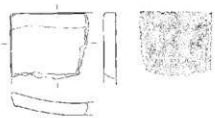
第82図 出土遺物実測図 瓦14 (S=1/6)



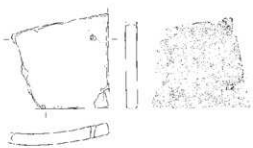
第83図　出土遺物実測図　瓦15　(S=1/6)



199701-D035 **T159**



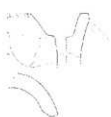
199701-D032 **T160** 釉



199701-D034 **T161** 釉

199701-D225 **T162**

199701-D226 **T163**



199701-D222 **T164**

199701-D224 **T165**

199701-D223 **T166**

・二ノ丸内堀 石垣
T159～T161；南門土橋石垣西面(2230㎜) 1997-2区
・二ノ丸内堀 内堀橋
T162・T163・T165；内堀橋P05 1997-2区
T164・T166；内堀橋P06 1997-2区

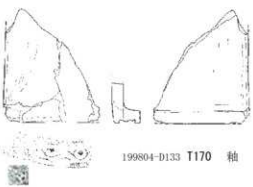
0 S=1/6 10cm

第84図 出土遺物実測図 瓦16 (S=1/6)

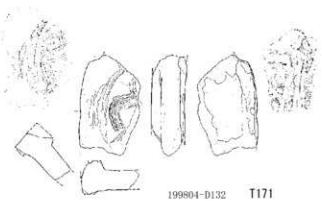
199804-D126 **T167**

199804-D134 **T168**

199804-D127 **T169**



199804-D133 **T170** 軸



199804-D132 **T171**

199804-D137 **T172**

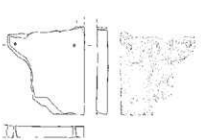
199804-D136 **T173**

199804-D135 **T174**

199804-D129 **T175**

199804-D130 **T176**

199804-D128 **T177**



199804-D125 **T178**

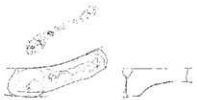
199908-D008 **T179** 軸

199908-D010 **T180**

・櫓（長屋）台上面
T167・T168；五十間長屋Ⅰ区
T169；五十間長屋Ⅲ区
T170；五十間長屋北Ⅰ区
T171；橋爪門続櫓
・櫓（長屋）台取付階段
T172～T177；階段③ 整地土
・二ノ丸階段
T178
・三ノ丸3次
T179；南西区ピット
T180；北区南半 地山上盛土

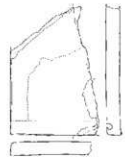
0 S=1/6 10cm

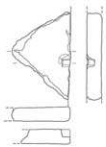
第85図　出土遺物実測図　瓦17　(S=1/6)


199804-D151 T181

199804-D116 T182

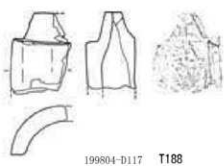
199804-D120 T183

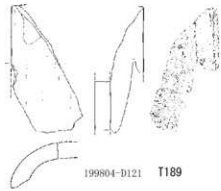

199804-D118 T184


199804-追03 T185

199804-D124 T186

199804-D119 T187


199804-D117 T188


199804-D121 T189

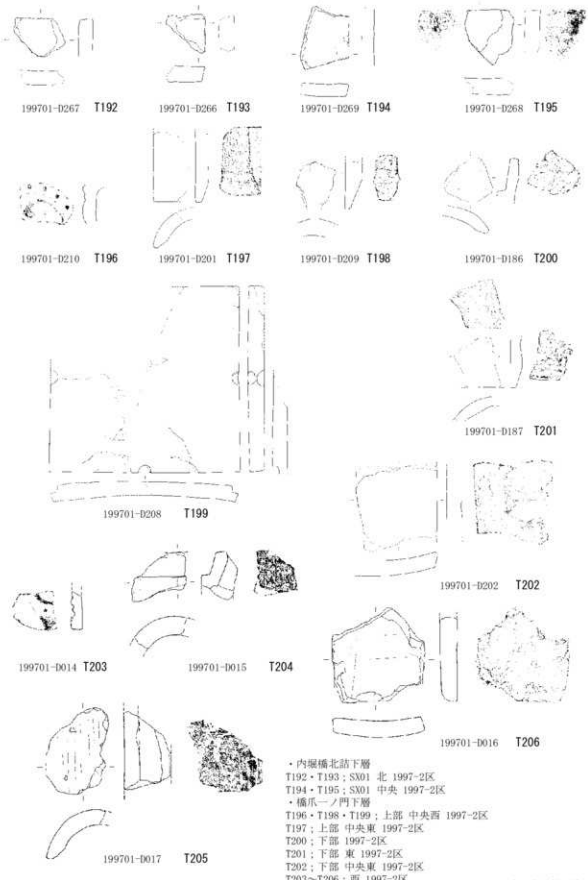
199804-D122 T190

199804-D123 T191

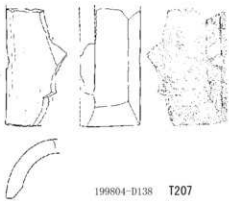
・櫓（長屋）台内部（文化期修築）
T181；橋爪門続櫓台 文化期造成土
・櫓（長屋）台内部（宝暦期修築）
T182；五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP10以南
T183；五十間長屋台 ロ1576裏込
T184；五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅲ区
T185；五十間長屋台 Ⅲ～Ⅳ面 SP9・10間
・櫓（長屋）台内部（寛永期修築）
T186・T188～T191；橋爪門続櫓台 寛永期造成土
T187；五十間長屋台 寛永期造成土 SP9

0 S=1/6 10cm

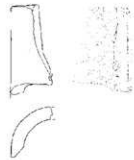
第86図 出土遺物実測図 瓦18 (S=1/6)



第87図　出土遺物実測図　瓦19　(S=1/6)

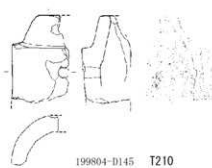


199804-D138 **T207**



199804-D139 **T208**

199804-D140 **T209**



199804-D145 **T210**

199804-D143 **T211**

・長景台下層
T207～T209；Ⅴ面下部 SP9以北
T210；Ⅵ面 SX02
T211；Ⅵ面 南端

0 S=1/6 10cm

第88図　出土遺物実測図　瓦20　(S=1/6)

199701-D297 T212

199701-D322 T213

199701-D323 T214

199701-D317 T215

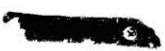
199701-D298 T216

199701-D319 T217 釉

199701-D308 T218 釉

199701-D320 T219 釉

199701-D318 T220 釉



199701-D316 T221

199701-D324 T222

199701-D321 T223 釉

199701-D296 T224

199701-D313 T225

199701-D314 T226

199701-D284 T227

・二ノ丸内堀 近代
T212・T216；ST01基盤層 1997-1区
T213・T214・T222；SB01(大学校舎掘乱) 1997-2区
T215・T217・T220・T221；SD01基盤層 1997-1区
T218・T219；SW02裏込 1997-1区
・二ノ丸内堀 本体
T223・T224；内堀 上部 1997-5区
T225～T227；内堀 下部 1997-2区

0 S=1/3 10cm

第89図 出土遺物拓本 瓦 刻印1 (S=1/3)

199701-D309 T228

199701-D310 T229

199701-D290 T230

199701-D291 T231

199701-D292 T232

199701-D294 T233

199701-D300 T234

199701-D293 T235

199701-D295 T236

199701-D301 T237

199701-D303 T238 釉

199701-D302 T239 釉

199701-D305 T240 釉

199701-D304 T241 釉

199701-D299 T242

199701-D315 T243

・二ノ丸内堀 本体
T228・T229・T234・T237；内堀 底面 1997-5区
T230～T233・T235・T236；内堀 上部 1997-5区
T238～T241；内堀 底面 1997-7区
T242・T243；内堀 下部 1997-2区

0 S=1/3 10cm

第90図 出土遺物拓本 瓦 刻印2 (S=1/3)

199701-D307 T244 軸

199701-D306 T245 軸

199701-D311 T246

199701-D312 T247

199701-D289 T248

199701-D287 T249

199701-D285 T250

199701-D286 T251

199701-D288 T252

199804-D174 T253

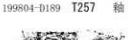
199804-D217 T254 軸

199804-D169 T255

199804-D224 T256

199804-D189 T257 軸

199804-D221 T258



199804-D193 T259 軸

199804-D152 T260 軸

・二ノ丸内堀 石垣
T244～T247
；五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区
T248～T252
；三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区
・櫓(長屋)台上面
T253・T255；五十間長屋Ⅰ区
T254；五十間長屋北Ⅰ区
T256；不明
T257；表採
T258；五十間長屋 南半 二ノ丸側近代盛土
T259・T260；菱櫓 北西角付近(櫓乱含む)

0 S=1/3 10cm

第91図 出土遺物拓本 瓦 刻印3 (S=1/3)

199804-D218 **T261**

199804-D175 **T262** 軸

199804-D202 **T263**

199804-D227 **T264**

199804-D229 **T265**

199804-D197 **T266**

199804-D154 **T267**

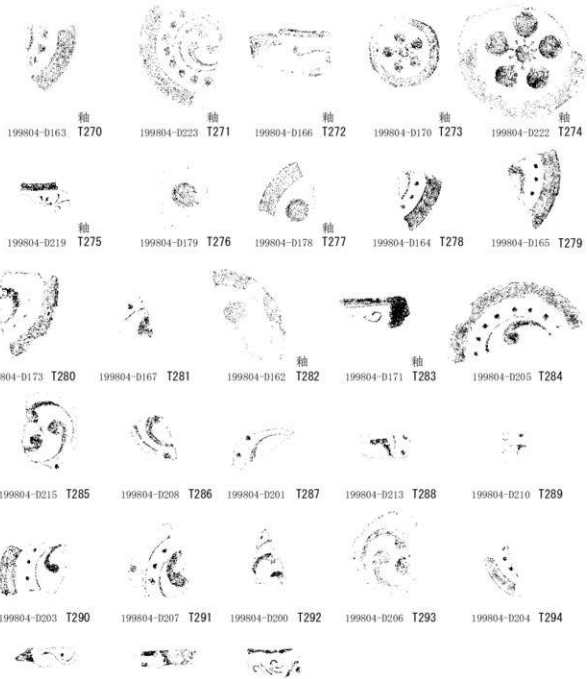
199804-D196 **T268**

199804-D172 **T269**

・二ノ丸階段
T261・T262
・櫓(長屋)台内部(文化期修築)
T263；橋爪門続櫓台 石垣6段目上面背後
・櫓(長屋)台内部(宝暦期修築)
T264・T266・T267；五十間長屋台 Ⅱ面以上 南半
T265；五十間長屋台 Ⅱ面以上 北半
・櫓(長屋)台内部(寛文期修築他)
T268；蓬櫓～五十間長屋台 石垣2段目裏込
T269；五十間長屋台 宝暦期以前造成土

0 S=1/3 10cm

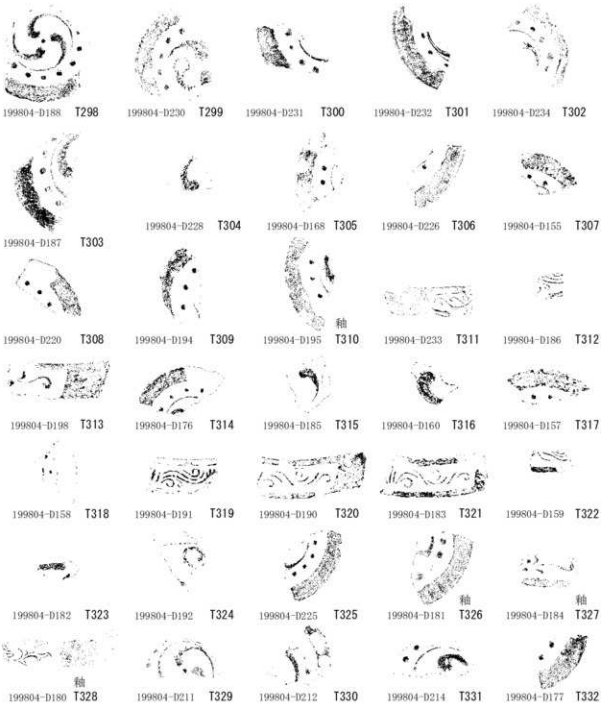
第92図 出土遺物拓本 瓦 刻印4 (S=1/3)



・櫓(長屋)台上面
T270・T272；五十間長屋Ⅲ区
T271；五十間長屋
T273；五十間長屋Ⅱ区
T274；排土
T275；五十間長屋 南半 二ノ丸側近代盛土
T276・T277；菱櫓 北西角付近(撹乱含む)
・櫓(長屋)台取付階段
T278・T279；階段③ 撹乱
T280；階段③ 整地土
・二ノ丸階段
T281～T283
・櫓(長屋)台内部(文化期修築)
T284・T293・T294；橋爪門続櫓台 石垣15段目裏込
T285・T292・T296・T297；橋爪門続櫓台 文化期造成土
T286・T291；橋爪門続櫓台 石垣15段目南辺裏込
T287；橋爪門続櫓台 石垣6段目上面背後
T288・T295；橋爪門続櫓台 石垣11段目裏込
T289；橋爪門続櫓台 石垣12段目裏込
T290；橋爪門続櫓台 石垣13･14段目裏込

0 S=1/6 10cm

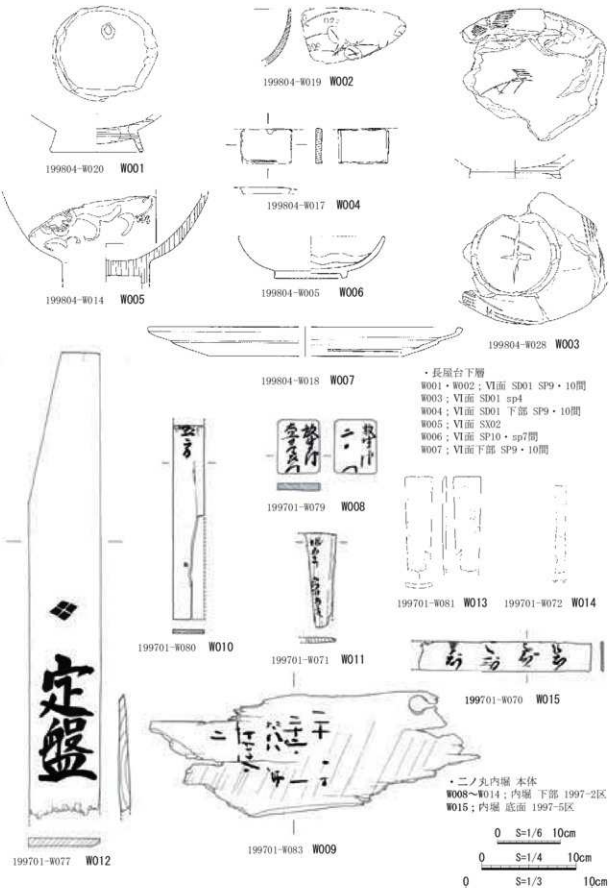
第93図 出土遺物拓本 瓦 瓦当1 (S=1/6)



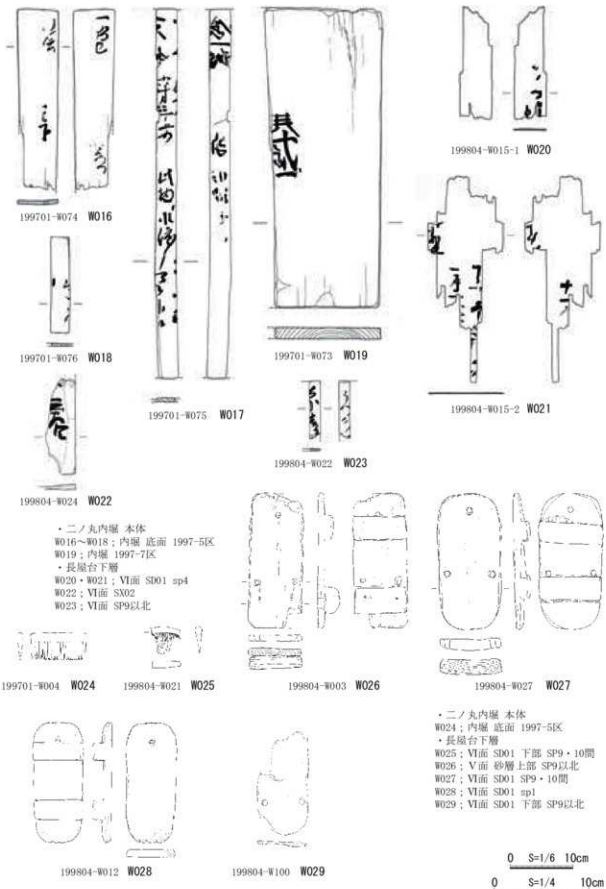
・櫓(長屋)台内部(宝暦期修築)
T298；五十間長屋台 Ⅲ面直上層
T299～T301
；五十間長屋台 石垣3段目裏込 北半
T302；五十間長屋台 裏込 北半
T303・T312；五十間長屋台 Ⅱ面以上 北半
T304；五十間長屋台 Ⅳ面 宝暦期造成土
T305；五十間長屋台 Ⅰ区 宝暦期造成土
T306；五十間長屋台 宝暦期造成土 南半
T307；五十間長屋台 Ⅳ面直上層 SP10以南
T308；五十間長屋台 宝暦期造成土 SP10
T309；五十間長屋台 宝暦期石垣裏込
T310；五十間長屋台 宝暦期石垣裏込
(混入か)
T311；五十間長屋台 宝暦期石垣裏込・盛土 北半
T313；五十間長屋台 石垣3段目 南半
・櫓(長屋)台内部(寛文期修築)
T314；差櫓～五十間長屋台 石垣4段目裏込
・櫓(長屋)台内部(寛永期構築)
T315；橋爪門続櫓台 石垣14段目 寛永期造成土
T316～T318・T322；橋爪門続櫓台 寛永期造成土
T319・T324；五十間長屋台 寛永期造成土 南半
T320；寛永期造成土
T321・T323；五十間長屋台 寛永期石垣裏込
SP9・10間
・櫓(長屋)台内部(不明・近代)
T325；法面
T326；差櫓台 石垣3段目裏込
(近代)
T327；差櫓台 石垣4段目裏込
(近代)
・櫓(長屋)台周辺
T328；差櫓西面下
T329・T330
；続櫓東面根石礎認トレンチ
T331
；続櫓台東面根石上部整地土
・長屋台下層
T332；V面 SP9・10間

0 S=1/6 10cm

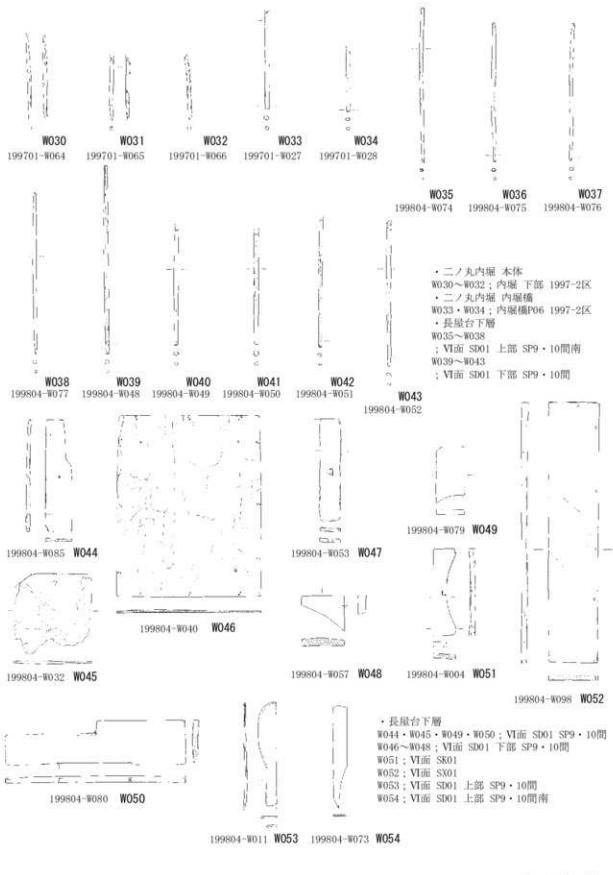
第94図 出土遺物拓本 瓦 瓦当2 (S=1/6)



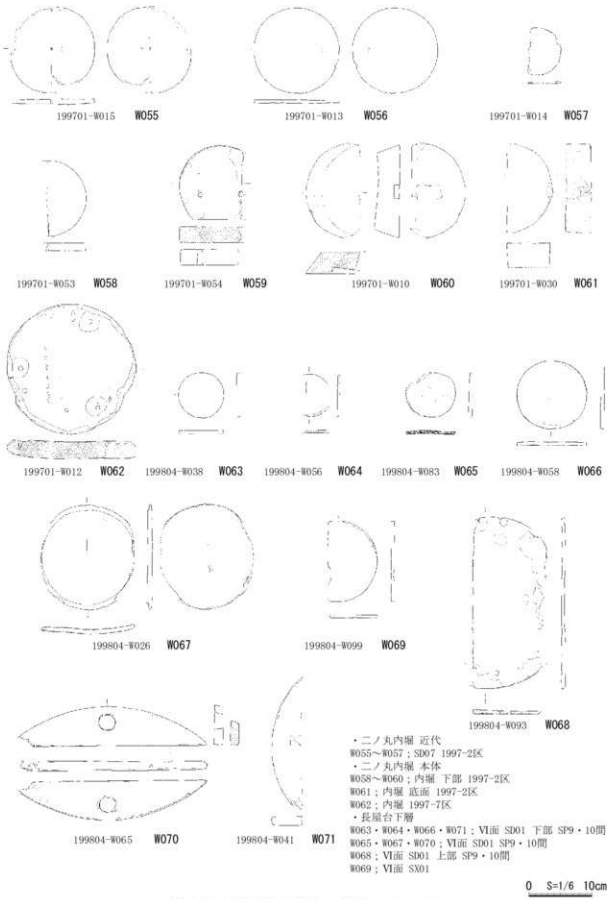
第95図　出土遺物実測図　木製品１（W001～W007はS=1/3、W013・W014はS=1/6、その他S=1/4）



第96図　出土遺物実測図　木製品２（W016～W023はS=1/4、その他S=1/6）



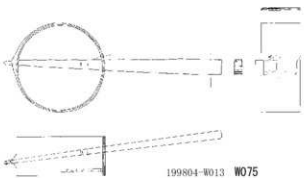
第97図　出土遺物実測図　木製品３（S=1/6）



第98図　出土遺物実測図　木製品4（S=1/6）

199804-W089 **W072**

199804-W094 **W073**



199804-W013 **W075**

199804-W060 **W074**

・長屋台下層
W072・W073；Ⅵ面 SD01 上部 SP9・10間
W074・W075；Ⅵ面 SD01 下部 SP9・10間

199701-Z003 **W076**

199701-W003-2 **W077**

199701-W022 **W079**

199701-W021 **W078**

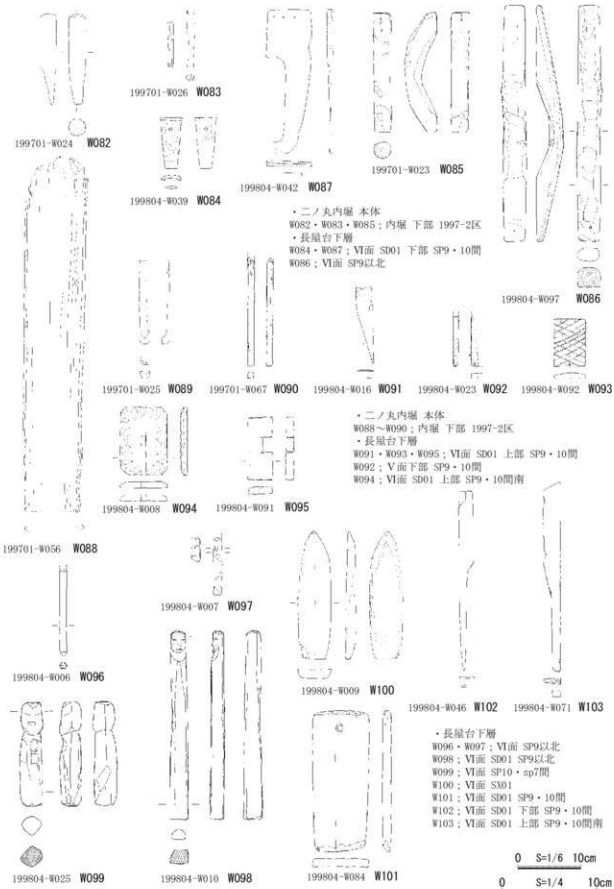
199804-W096 **W081**

199701-W045 **W080**

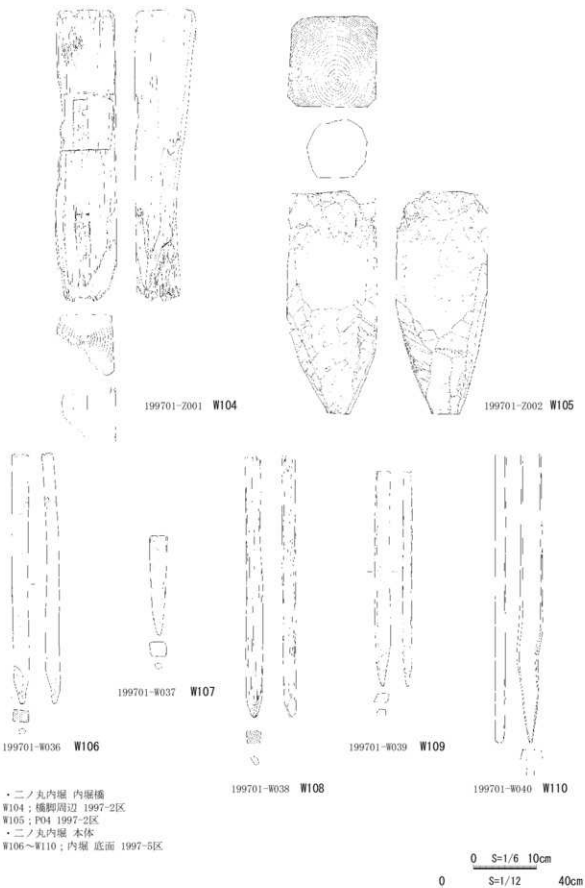
・二ノ丸内堀 本体
W076・W078～W080；内堀 下部 1997-2区
W077；内堀 底面 1997-7区
・長屋台下層
W081；V面 SP9以北

0 S=1/6 10cm

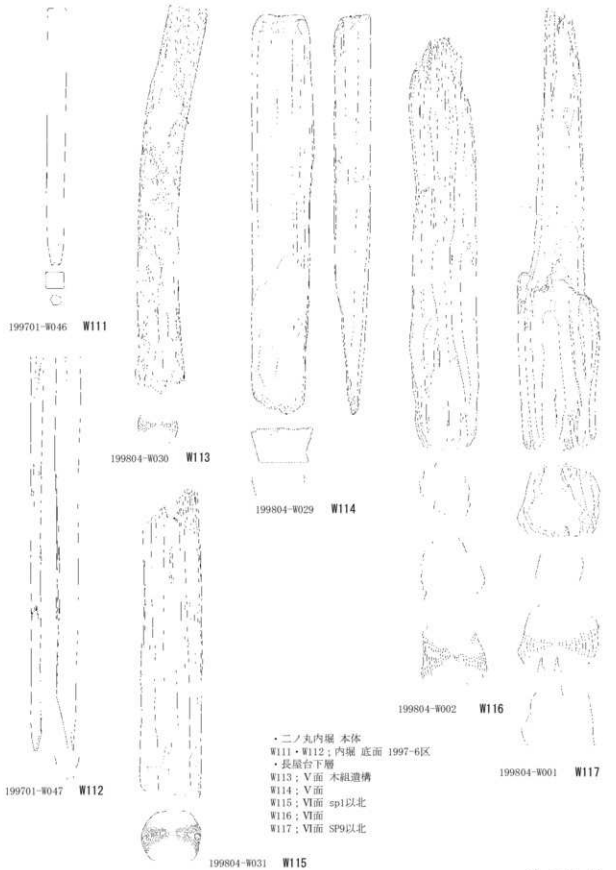
第99図　出土遺物実測図　木製品５（S=1/6）



第100図　出土遺物実測図　木製品６（S=1/6、W098・W099はS=1/4）



第101図　出土遺物実測図　木製品７（S=1/6、W104・W105はS=1/12）



第102図　出土遺物実測図　木製品８（S=1/6）

199701-W019 **W118**

199701-W020 **W119**

199701-W017 **W120**

199701-W018 **W121**

199701-W082 **W122**

199701-W078 **W123**

199701-W007 **W124**

199701-W009 **W125**

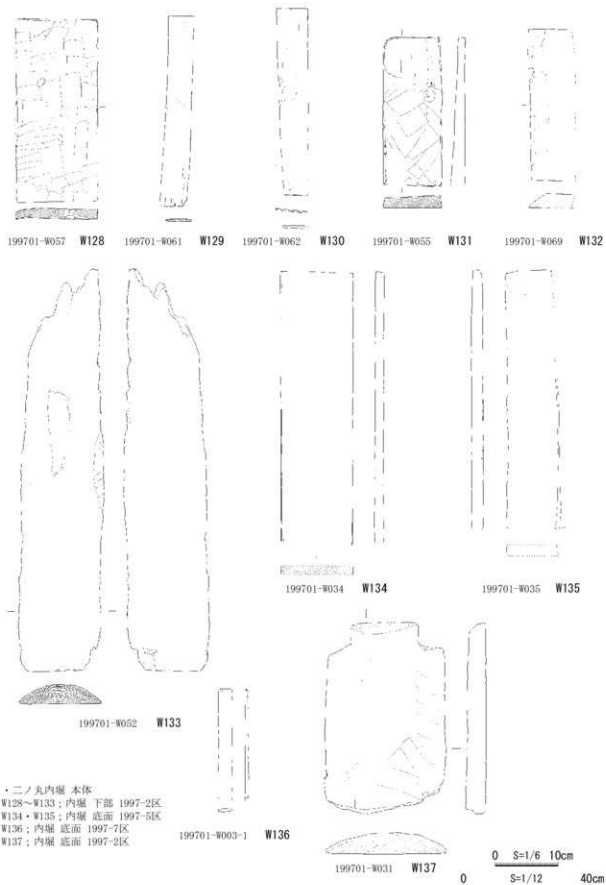
199701-W011 **W126**

199701-W042 **W127**

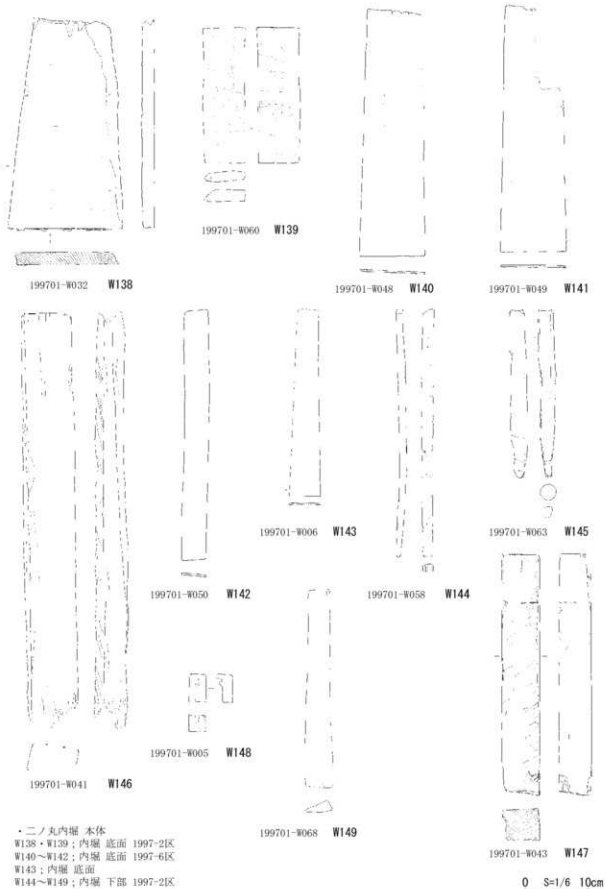
・二ノ丸内堀 近代
W118～W121：SD07 1997-2区
・二ノ丸内堀 本体
W122～W127：内堀 下部 1997-2区

0 S=1/6 10cm

第103図　出土遺物実測図　木製品９（S=1/6）



第104図　出土遺物実測図　木製品10（S=1/6、W133はS=1/12）

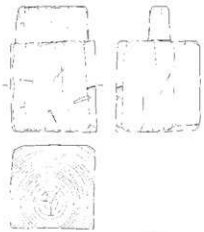


第105図　出土遺物実測図　木製品11（S=1/6）

199701-W033 **W150**

199701-W059 **W151**

199701-W051 **W152**



199701-W044 **W153**

199701-W029 **W154**

199701-W016 **W155**

199701-W001 **W156**

199701-W002 **W157**

・二ノ丸内堀 本体
W150～W152・W154；内堀 底面 1997-2区
W153；内堀 下部 1997-2区
・二ノ丸内堀 内堀橋
W155；P03
W156；P04 W1
W157；P04 W2

0 S=1/6 10cm

第106図　出土遺物実測図　木製品12（S=1/6）

199804-W072 **W158**

199804-W068 **W160**

199804-W095 **W159**

199804-W034 **W161**

199804-W045 **W162**

199804-W033 **W163**

199804-W036 **W164**

199804-W054 **W165**

199804-W043 **W166**

199804-W044 **W167**

199804-W078 **W168**

199804-W081 **W169**

199804-W082 **W170**

199804-W061 **W171**

199804-W037 **W172**

199804-W062 **W173**

・長屋台下層
W158；VI面 SD01 上部 SP9・10間南
W159；VI面 SD01 上部 SP9・10間
W160・W164・W169～W173；VI面 SD01 SP9・10間
W161・W163；VI面 SD01 sp2
W162；VI面 SD01 下部 SP9・10間
W165～W167；VI面 SD01 下部 SP9・10間
W168；VI面 SD01 SP9・10間南

0 S=1/6 10cm

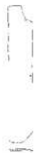
第107図　出土遺物実測図　木製品13（S=1/6）

199804-W063 **W174**

199804-W064 **W175**

199804-W101 **W176**

199804-W070 **W177**



199804-W035 **W178**

199804-W090 **W179**

199804-W069 **W180**

199804-W047 **W181**

199804-W059 **W182**

199804-W066 **W183**

199804-W067 **W184**

199804-W055 **W185**

199804-W086 **W186**

199804-W087 **W187**

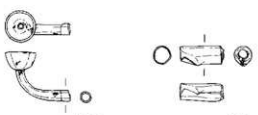
199804-W088 **W188**

・長屋台下層
W174～W177・W180・W183・W184；VI面 SD01 SP9・10間
W178；VI面 SD01 sp4
W179；VI面 SD01 上部 SP9・10間
W181・W182・W185；VI面 SD01 下部 SP9・10間
W186～W188；VI面 SK01

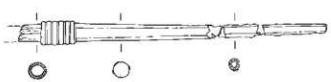
0 S=1/6 10cm

第108図　出土遺物実測図　木製品14（S=1/6）

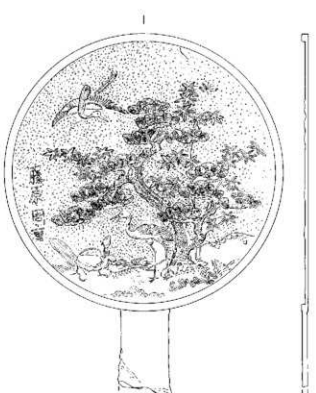
199701-W008 **M001**



199804-W001 **M002**　199804-W013 **M003**　199804-W012 **M004**　199804-W014 **M005**



199804-W011 **M006**

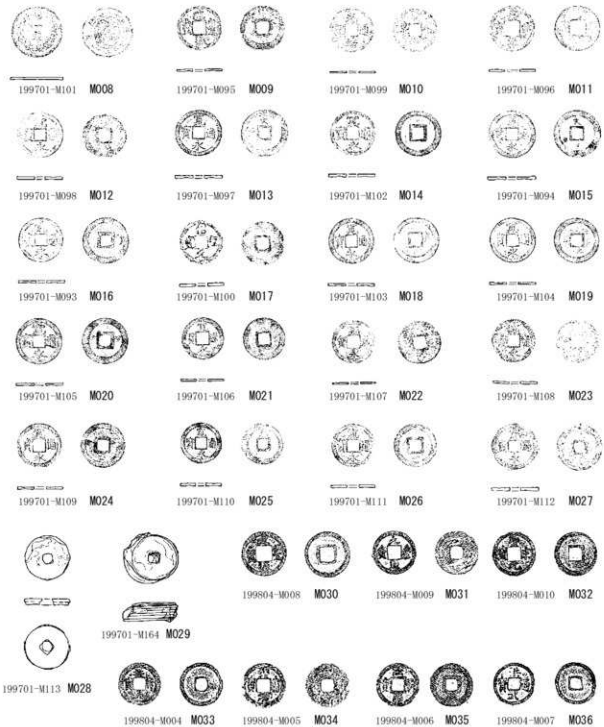


・二ノ丸内堀 近代
M001：SD07 1997-2区
・長屋台下層
M002：V面 砂層上部 SP9以北
M003：V面下部 SP9・10間
M004・M006：VI面 SP9・10間
M005：VI面
・二ノ丸内堀 内堀橋
M007：内堀橋周辺

199701-M115 **M007**

0　S=1/2　10cm

第109図　出土遺物実測図　金属製品１　(S=1/2)

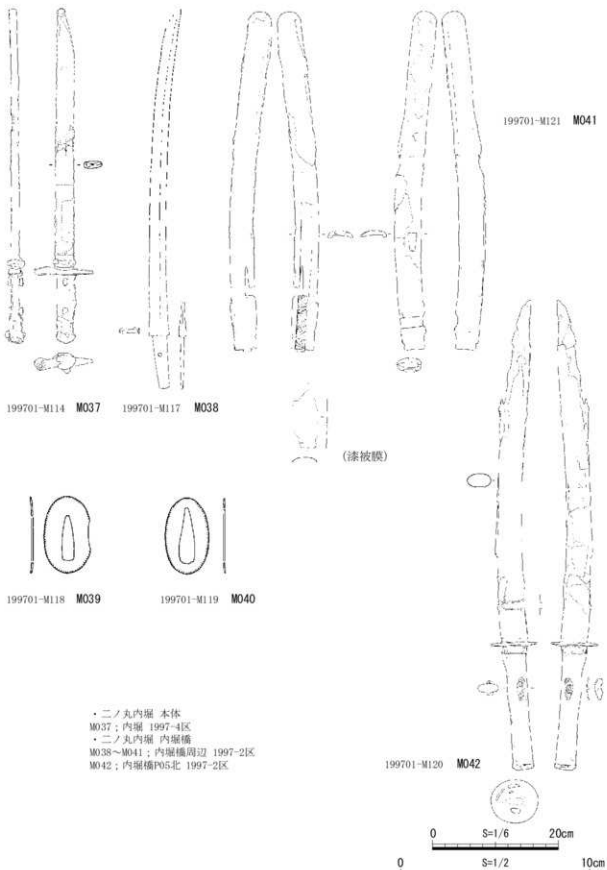


・二ノ丸内堀 近代
M008；SD01基盤層 1997-1区
M009；SW02裏込 1997-1区
・二ノ丸内堀 本体
M010；内堀 上部 1997-1区
M011；内堀 底面 1997-7区
・二ノ丸内堀 石垣
M012～M016；三ノ丸西面石垣南端(2220W) 1997-2区
M017；三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区
・二ノ丸内堀 内堀橋
M018～M022;内堀橋周辺 1997-2区

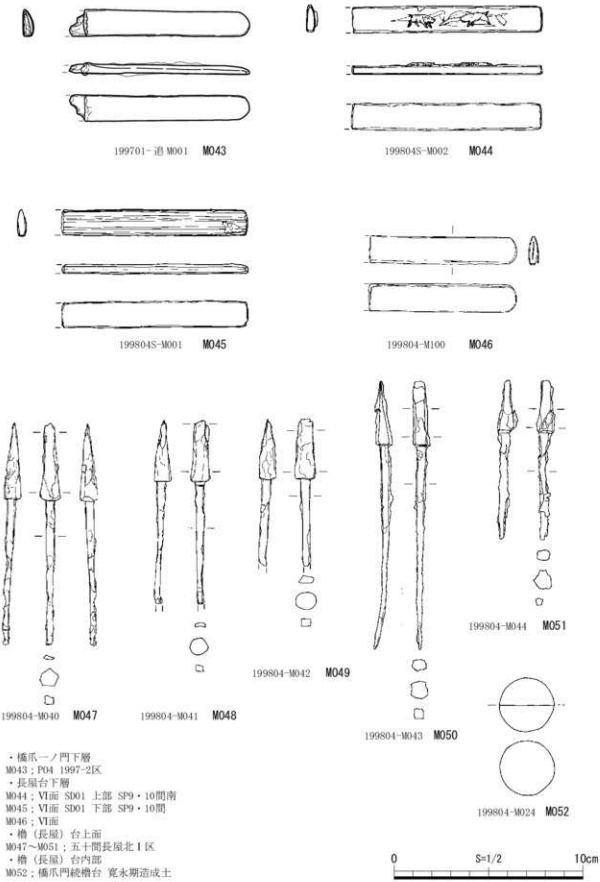
・櫓（長屋）台上面
M023～M029；菱櫓 1997-3区
・長屋台下層
M030；V面下部 SP9・10間
M031・M032；V面 SP9以北 木組北
M033；VI面 SD01 下部 SP9・10間
M034；VI面 SD01 上部 SP9以北
M035；VI面 SD01 上部 SP9・10間
M036；VI面

0 S=1/2 10cm

第110図　出土遺物実測図　金属製品２　(S=1/2)



第111図　出土遺物実測図　金属製品３　(S=1/6、M039・M040はS=1/2)



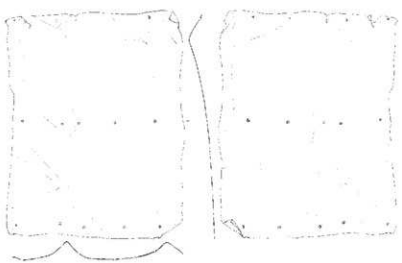
第112図　出土遺物実測図　金属製品4　(S=1/2)

199701-M122 **M053**

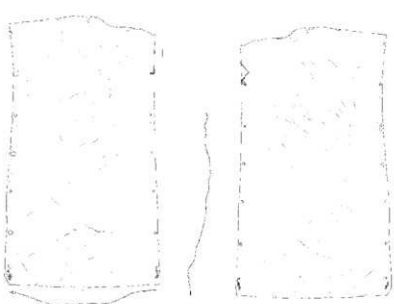
199804-M027 **M054**

199804-M029 **M055**

199701-M091 **M057**



199701-M092 **M056**

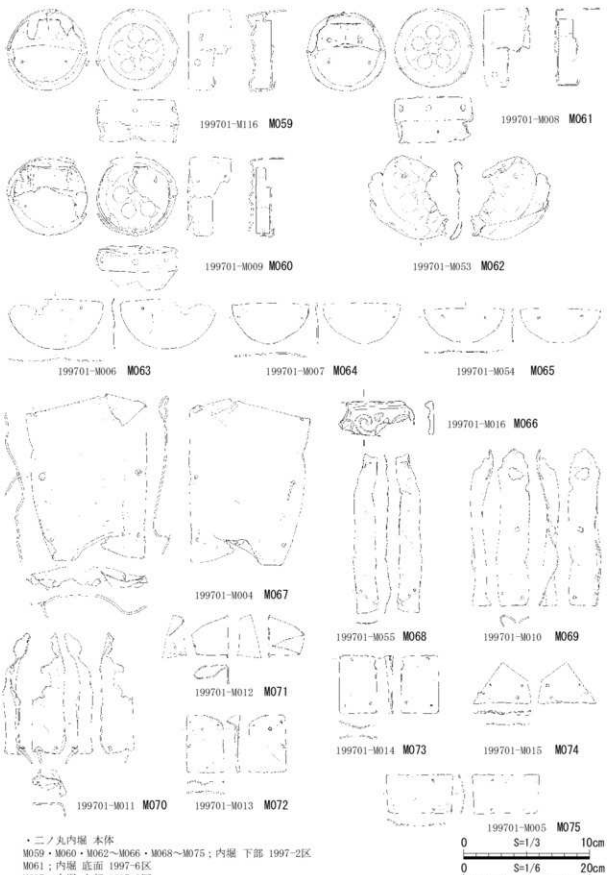


・二ノ丸内堀 本体
M053・M057；内堀 下部 1997-2区
M058；内堀 上部 1997-2区
・櫓（長屋）台内部
M054；橋爪門続櫓台 上面築石
M055；五十間長屋台 ロ1187・1185間
・二ノ丸内堀 近代
M056；SD06 1997-2区

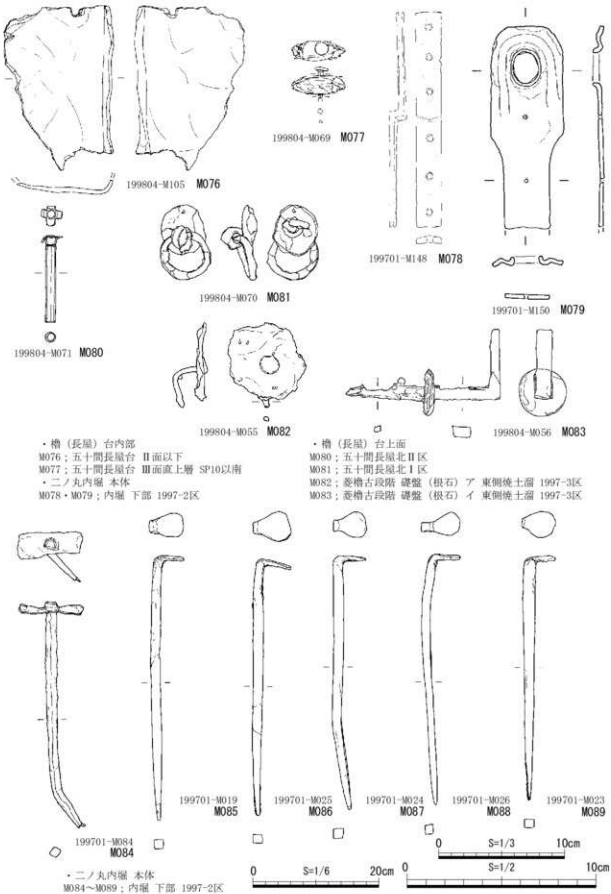
199701-M090 **M058**

0 S=1/6 20cm

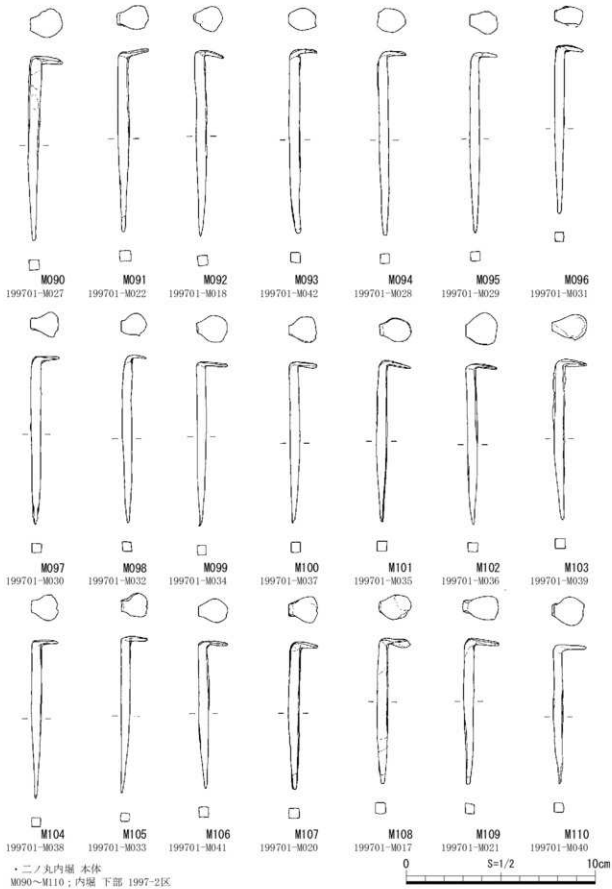
第113図　出土遺物実測図　金属製品５　（S=1/6）



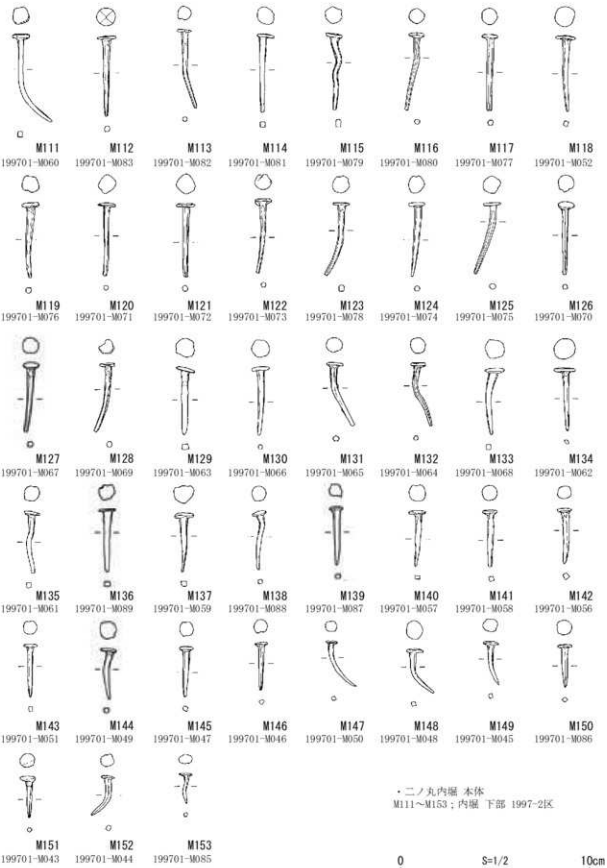
第114図　出土遺物実測図　金属製品６（S=1/6、M066はS=1/3）



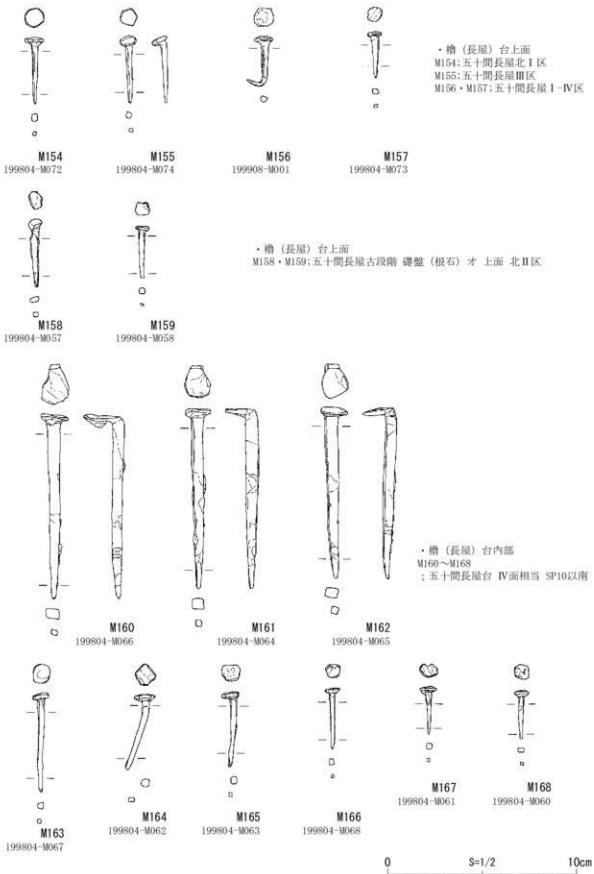
第115図　出土遺物実測図　金属製品７　（M077はS=1/3、M078はS=1/6、その他S=1/2）



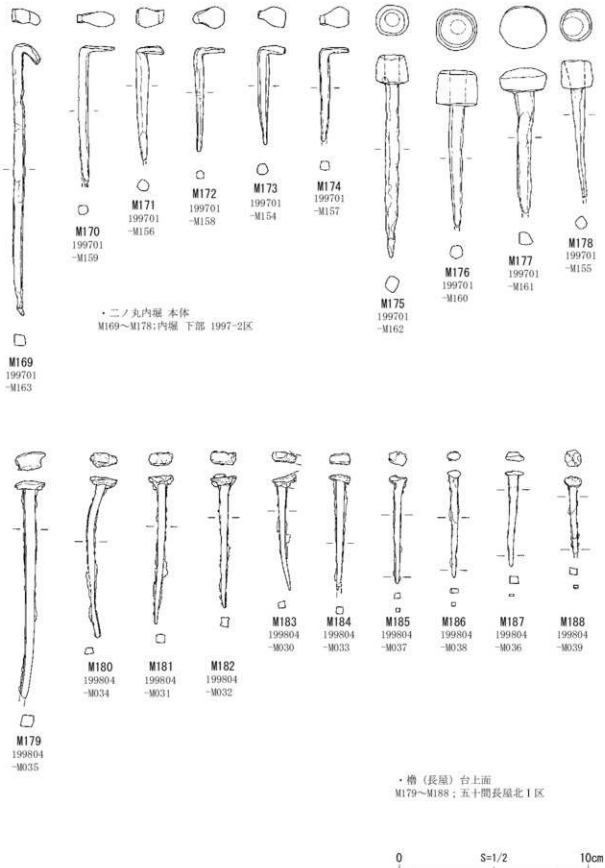
第116図　出土遺物実測図　金属製品８　(S=1/2)



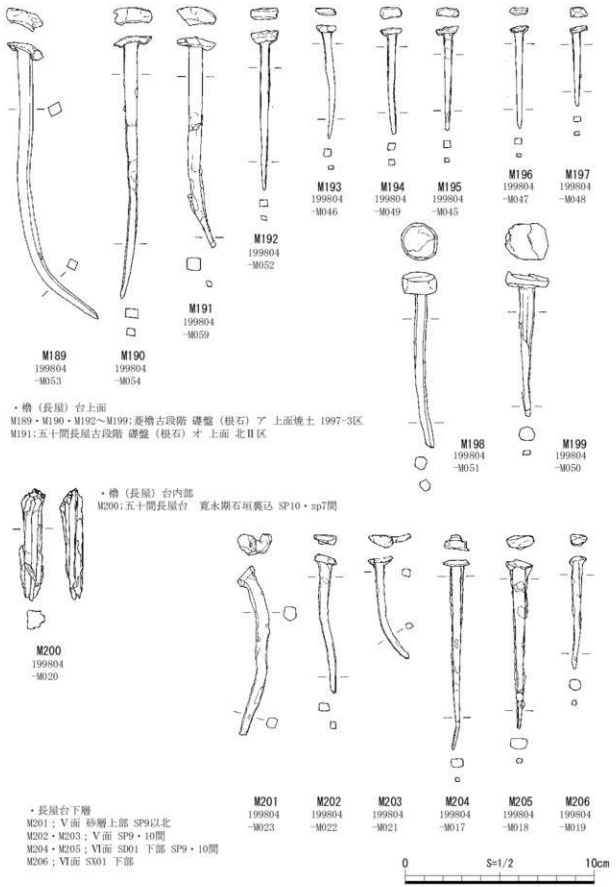
第117図　出土遺物実測図　金属製品９　(S=1/2)



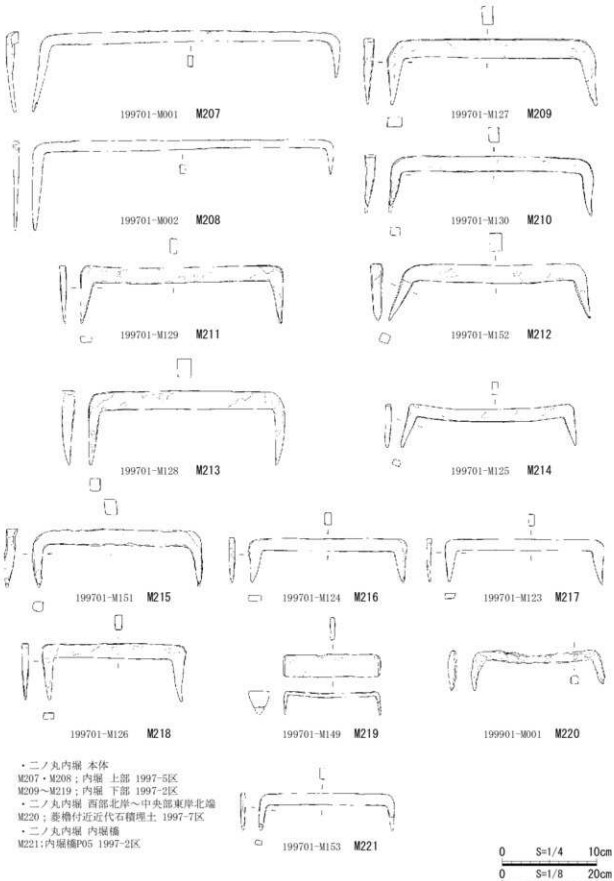
第118図　出土遺物実測図　金属製品10　(S=1/2)



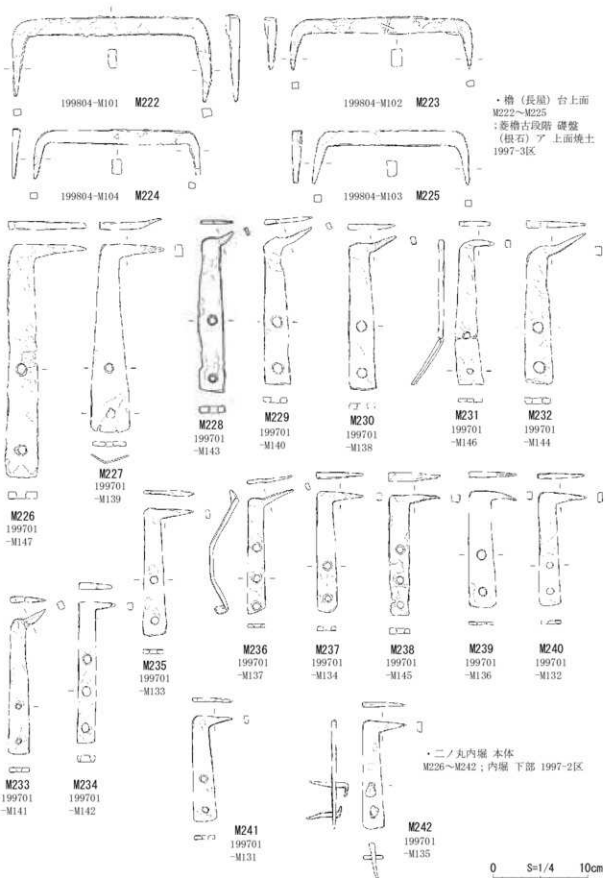
第119図　出土遺物実測図　金属製品11　(S=1/2)



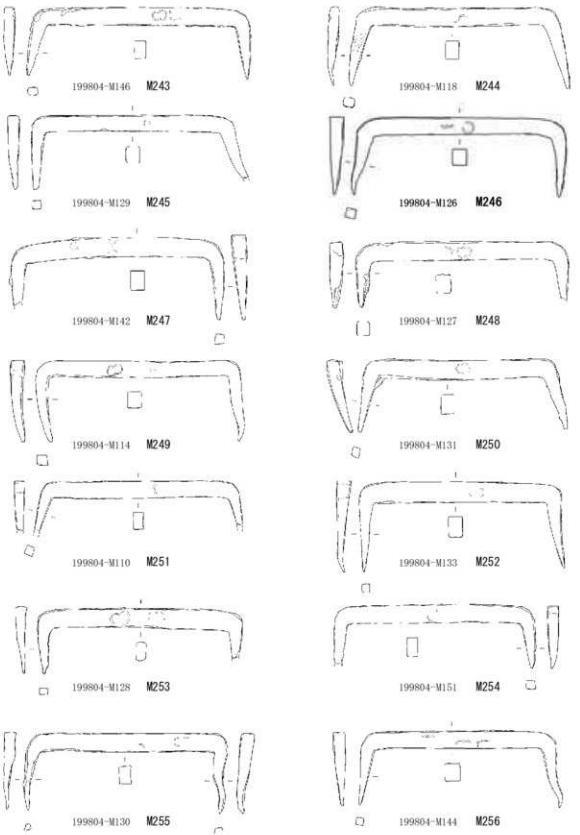
第120図　出土遺物実測図　金属製品12　(S=1/2)



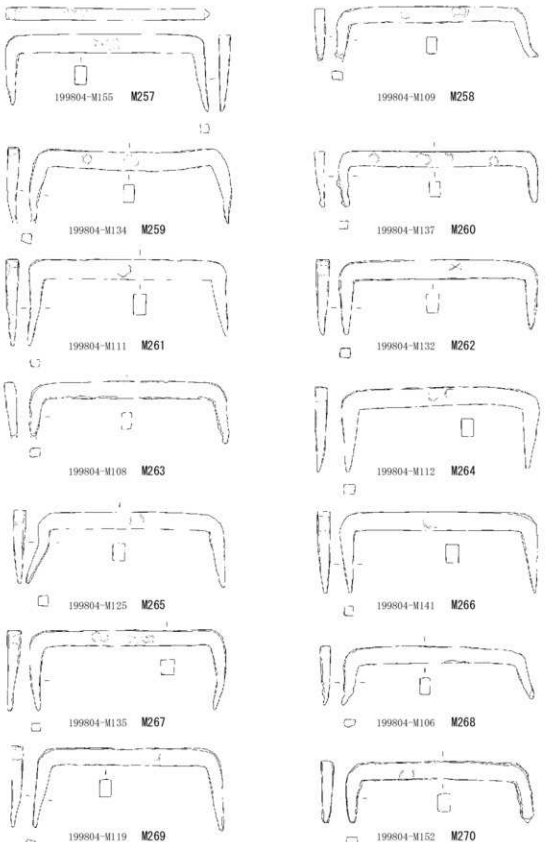
第121図　出土遺物実測図　金属製品13　(S=1/4、M207・M208はS=1/8)



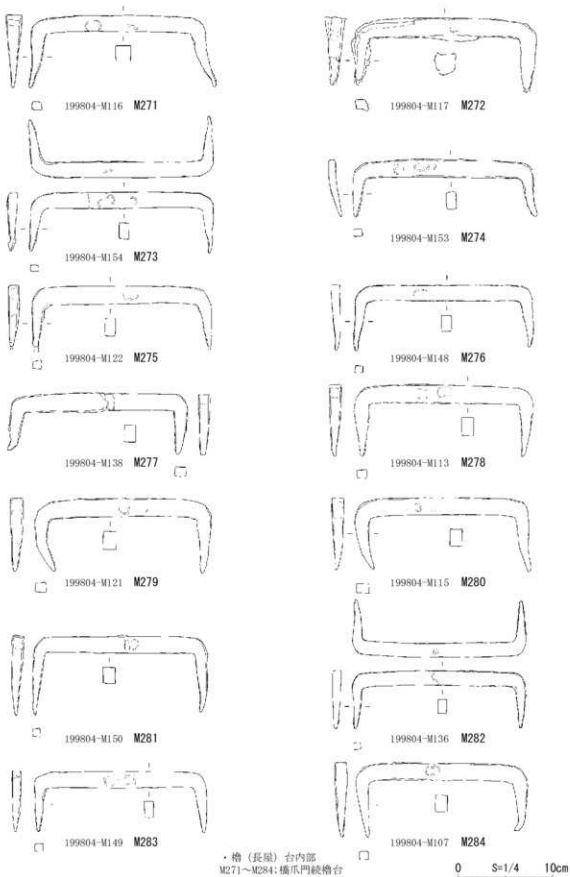
第122図　出土遺物実測図　金属製品14　(S=1/4)



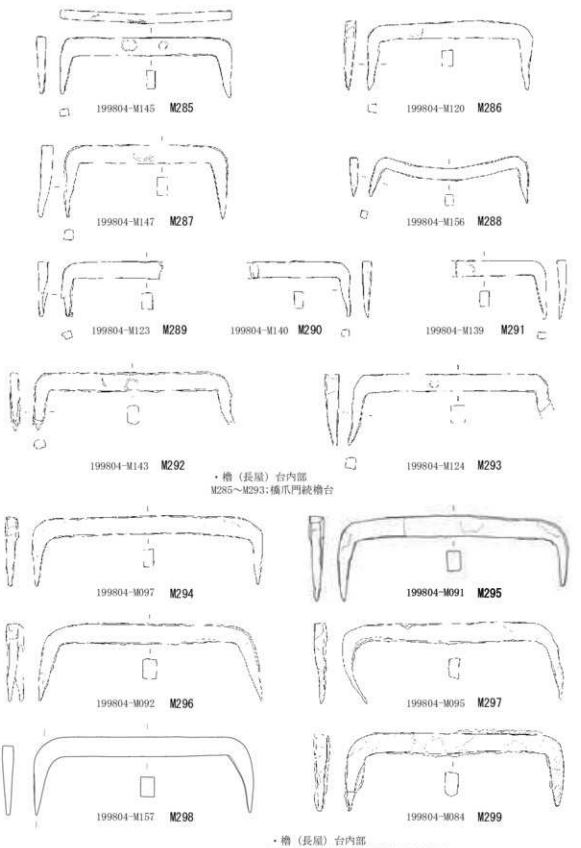
第123図　出土遺物実測図　金属製品15　(S=1/4)



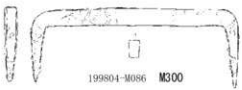
第124図　出土遺物実測図　金属製品16　(S=1/4)



第125図　出土遺物実測図　金属製品17　(S=1/4)



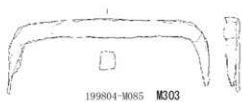
第126図　出土遺物実測図　金属製品18　(S=1/4)



199804-M086 M300

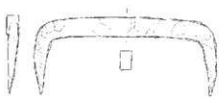
199804-M099 M301

199804-M094 M302

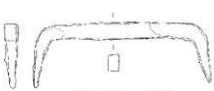


199804-M085 M303

199804-M090 M304



199804-M089 M305



199804-M098 M306

199804-M087 M307

199804-M088 M308

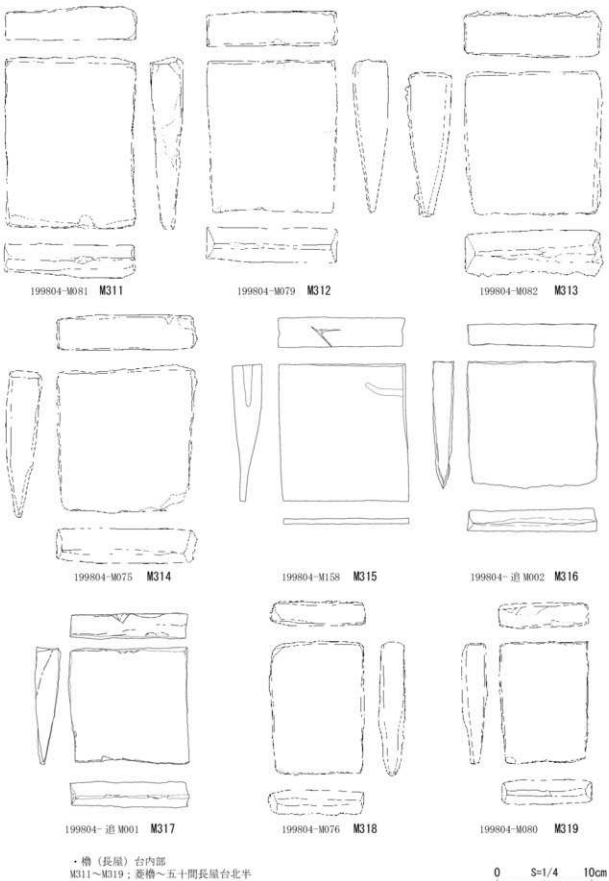
199804-M093 M309

199804-M096 M310

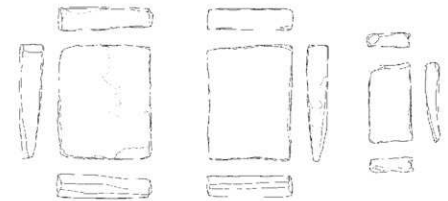
・櫓（長屋）台内部
M300～M310；菱櫓～五十間長屋台北半

0 S=1/4 10cm

第127図　出土遺物実測図　金属製品19　(S=1/4)



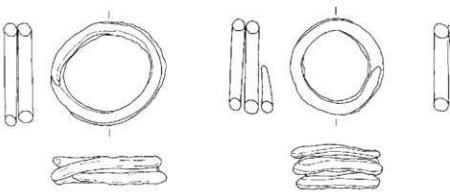
第128図　出土遺物実測図　金属製品20　(S=1/4)



199804-M078 **M320**　199804-M077 **M321**　199804-M083 **M322**

・櫓（長屋）台内部
M320・M321；菱櫓　M322；五十間長屋台（東西部東端）

0 S=1/4 10cm



199804-M025 **M323**　199804-M026 **M324**　199804-M028 **M325**

・櫓（長屋）台内部
M323:橋爪門続櫓台 チ134後下
M324:橋爪門続櫓台 チ517後北東周辺
M325:橋爪門続櫓台 チ542下

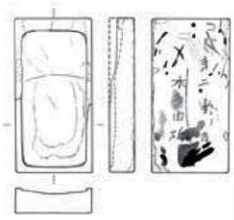
199804-M003 **M326**　199804-M015 **M327**　199804-M002 **M328**

・長屋台下層
M326:V面以下 SP9・10間
M327:VI面 SD01 下部 SP9・10間
M328:VI面 SX02
M329:VI面 SD01 下部 SP9以北

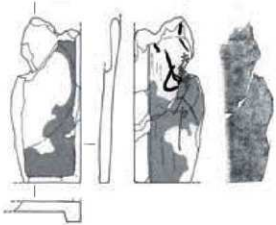
199804-M016 **M329**

0 S=1/2 10cm

第129図　出土遺物実測図　金属製品21　(S=1/2、M320～M322はS=1/4)

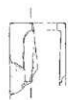


199701-S001 S001



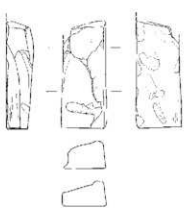
199901-S001 S002

199804-S046 S003

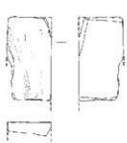


199804-S048 S004

199804-S003 S005



199804-S047 S006

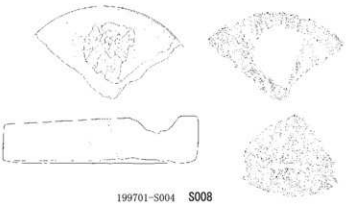


199804-S002 S007

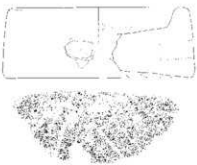
・二ノ丸内堀 本体
S001；内堀 上部 1997-1区
・二ノ丸内堀 西部北岸～中央部東岸北端
S002；土羽貼付土～盛土
・櫓（長屋）台上面
S003；五十間長屋北Ⅱ区
・櫓（長屋）台内部
S004・S006；五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP10以南
・長屋台下層
S005；Ⅵ面 sp7以南
S007；Ⅵ面 SD01上部 SP9・10間

0 S=1/3 10cm

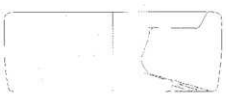
第130図 出土遺物実測図 石製品１ (S=1/3)



199701-S004 **S008**



199804-S021 **S009**



199804-S040 **S010**

199804-S041 **S011**

199804-S019 **S012**

199804-S005 **S013**

199804-S042 **S014**

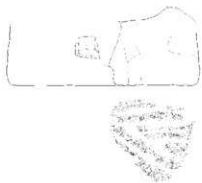
・二ノ丸内堀 石垣
S008；五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区
・櫓（長屋）台内部
S009；橋爪門続櫓台 13段目裏込
S010；橋爪門続櫓台 14段目（石垣ト244周辺）裏込
S011；橋爪門続櫓台 14段目裏込
S012；橋爪門続櫓台 文化期造成土
S013；橋爪門続櫓台 ト215押石2
S014；橋爪門続櫓台 13～14段目裏込

0 S=1/6 20cm

第131図　出土遺物実測図　石製品２　(S=1/6)

199804-S044 **S015**

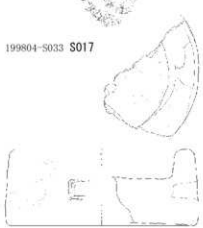
199804-S032 **S016**



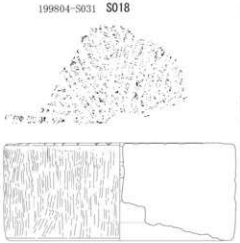
199804-S033 **S017**

199804-S031 **S018**

199804-S029 **S019**

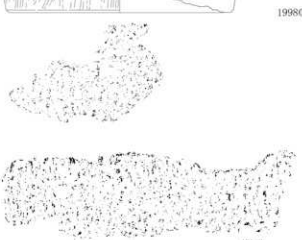


199804-S037 **S020**



199804-S038 **S021**

199804-S036 **S022**

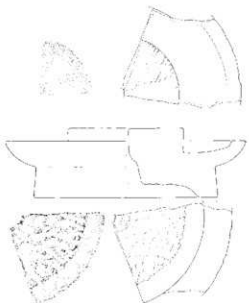


199804-遺S001 **S023**

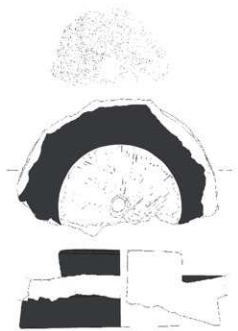
・櫓（長屋）台内部
S015；五十間長屋台 宝暦期造成土 北半
S016；五十間長屋台 ロ1471周辺裏込
S017；五十間長屋台 宝暦期造成土
S018；五十間長屋台 3段目裏込
S019；五十間長屋台 ロ1050周辺裏込
S020；五十間長屋台 寛文期造成土（栗石）北Ⅰ区
S021；番櫓台 6段目裏込
S022；番櫓台 寛文期造成土（栗石）南
S023；詳細地点不明

0 S=1/6 20cm

第132図　出土遺物実測図　石製品３　(S=1/6)

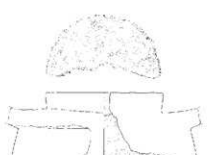


199701-S005 **S024**



199804-S027 **S025**

199804-S007 **S026**

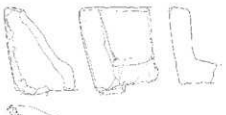


199804-S026 **S027**

・二ノ丸内堀 本体
S024；内堀 底面 1997-2区
・櫓（長屋）台内部
S025；五十間長屋台 3段目裏込 南半
S026；五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅱ区
S027；菱櫓古段階 礎盤（根石）イ 周辺栗石

0 S=1/6 20cm

第133図 出土遺物実測図 石製品４ (S=1/6)



199804-S017 **S028**

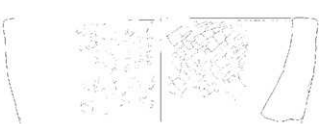
199804-S043 **S029**

199804-S010 **S030**

199804-S011 **S032**

199804-S006 **S034**

199804-S045 **S033**



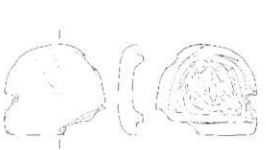
199804-S039 **S035**

199804-S028 **S031**

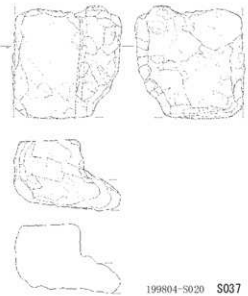
・槽（長屋）台内部
S028；橋爪門統槽台 12段目裏込
S029・S030；橋爪門統槽台 14段目裏込
S031；五十間長屋台 ロ303周辺裏込
S032；五十間長屋台 宝暦期造成土 SP10
S033；五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅱ区
S034；五十間長屋台 Ⅳ面相当 宝暦期造成土 SP10以南
S035；五十間長屋台 リ44・46周辺裏込

0 S=1/6 20cm

第134図　出土遺物実測図　石製品５　(S=1/6)



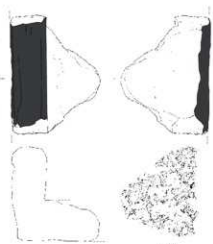
199804-S001 S036



199804-S020 S037

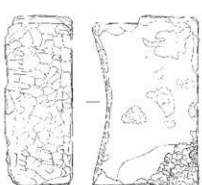
199804-S030 S038

(右図 側面)



(上図)

199804-S035 S039



(左図 裏面)

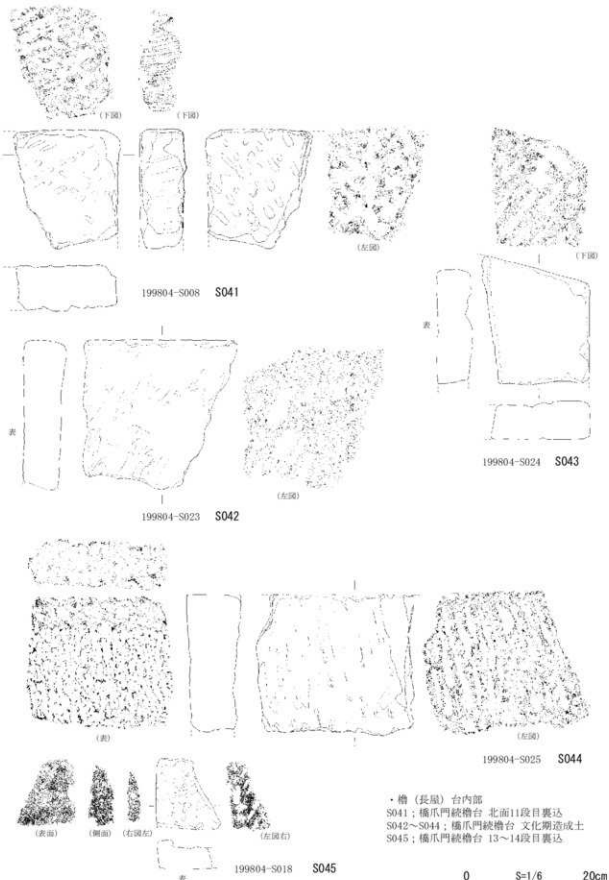
199804-S014 S040

・長屋台下層
S036；Ⅵ面 SP9以北
・櫓（長屋）台内部
S037；橇爪門続櫓台 文化期造成土
S038；五十間長屋台 4段目裏込
S039；五十間長屋台 ヂ84周辺裏込
・地点不明
S040

0 S=1/8 20cm

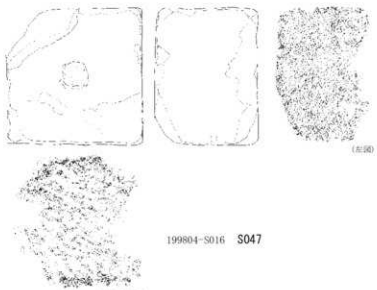
0 S=1/6 20cm

第135図 出土遺物実測図 石製品6 (S=1/6、S040はS=1/8)



第136図　出土遺物実測図　石製品７　(S=1/6)

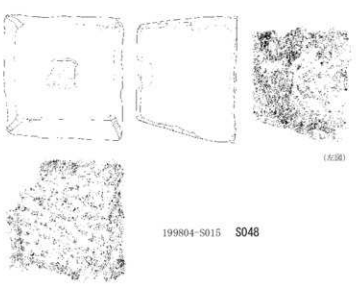
199804-S009 **S046**



(左図)

199804-S016 **S047**

(上図 裏面)



(左図)

199804-S022 **S049**

199804-S015 **S048**

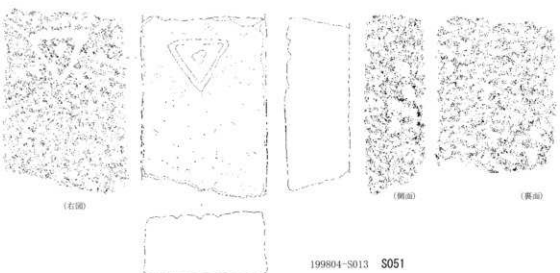
(上図 裏面)

・櫓（長屋）台内部
S046：橋爪門続櫓台 6段目上面背後
S047：橋爪門続櫓台
S049：橋爪門続櫓台 陥没坑流入土
・地点不明
S048

0 S=1/6 20cm

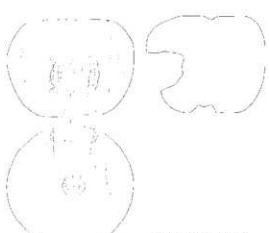
第137図　出土遺物実測図　石製品８　(S=1/6)

199804-S012 **S050**



199804-S013 **S051**

199804-S004 **S052**

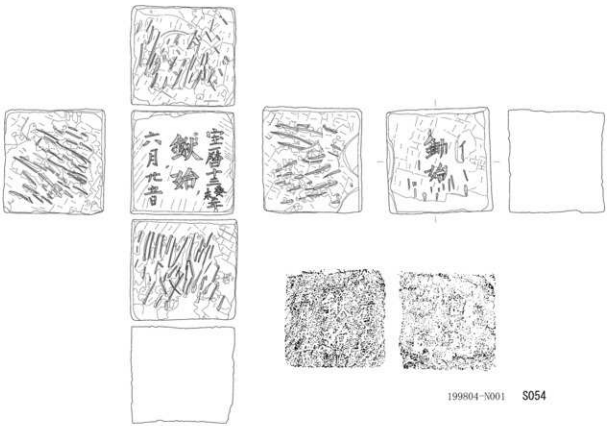


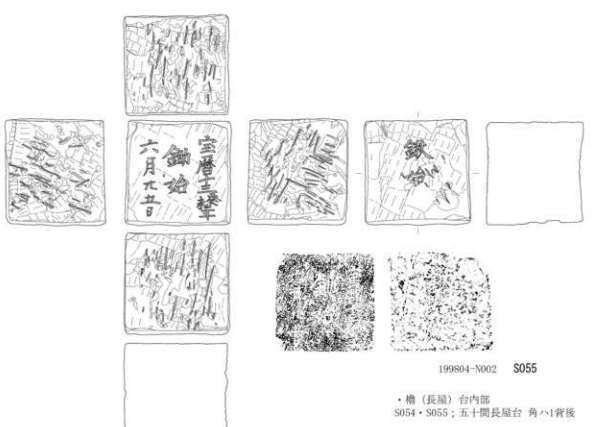
199701-S003 **S053**

・櫓（長屋）台内部
S050～S052；（地点不明・表採）
・櫓（長屋）台上面
S053；菱櫓 1997-3区

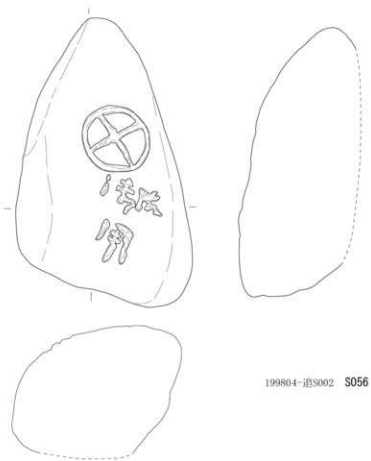
0 S=1/6 20cm

第138図　出土遺物実測図　石製品９　(S=1/6)

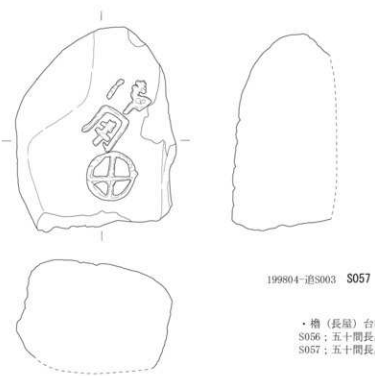




第139図　出土遺物実測図　石製品10　(S=1/6)



199804-追S002　S056

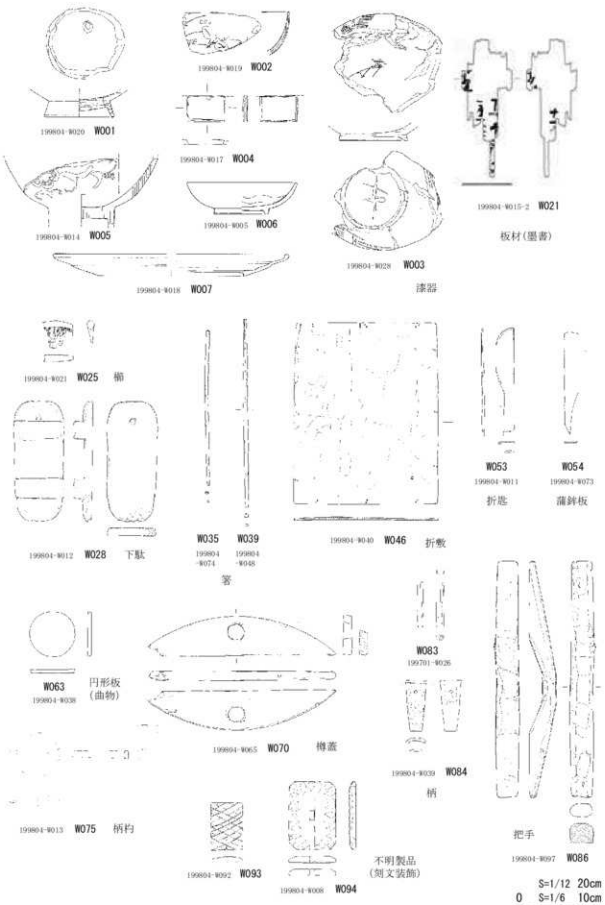


199804-追S003　S057

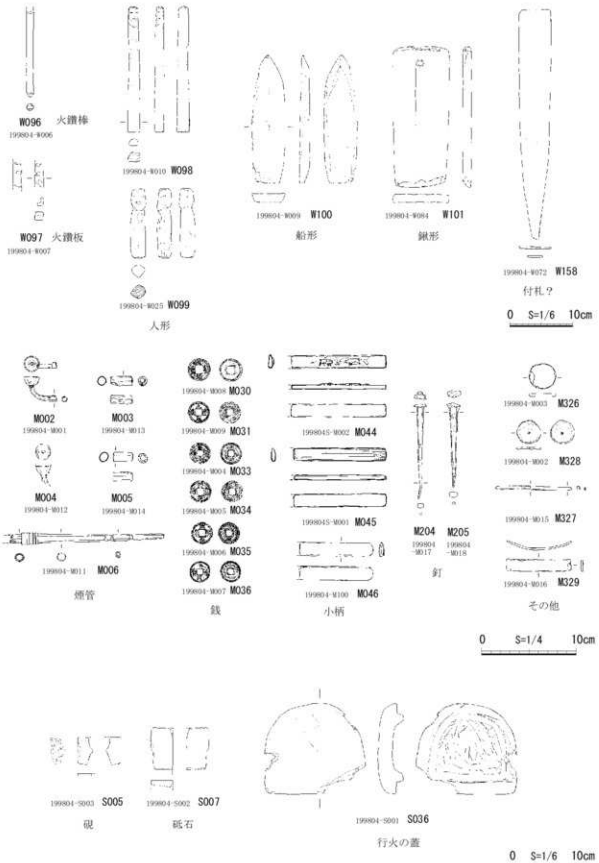
・槽（長屋）台内部
S056；五十間長屋台　ロ0922後
S057；五十間長屋台　ロ1147後

0　S=1/10　40cm

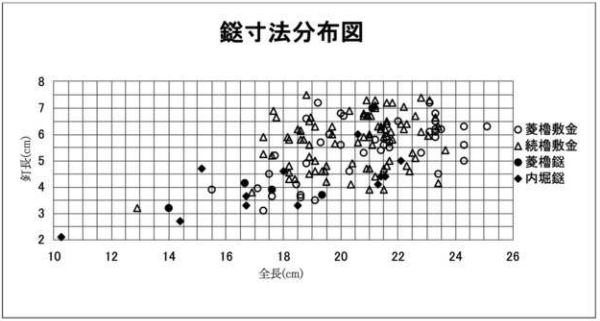
第140図　出土遺物実測図　石製品11　(S=1/10)

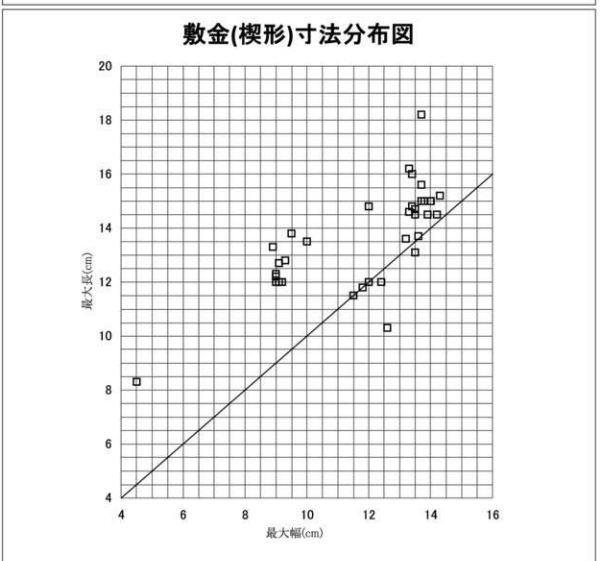


第141図　五十間長屋台下層出土主要木製品１（S=1/6、W075はS=1/12）



第142図　五十間長屋台下層出土主要木製品２（S=1/6）・金属製品（S=1/4）・石製品（S=1/6）





第143図　敷金等寸法分布

第５表　鎧・楔形敷金（非実測分）一覧表

鎧形敷金

単位:cm

石組ID	上石材ID	下石材ID	全長	肝長
2140	ホ天2		(6.8)	(0.6)
N	ホ天3	ホ10	(12.6)	
	ホ角41	ホ71①	21.2	5.8
	ホ角41	ホ70②	(16.2)	5.3
	ホ角41	ホ70③	(18.5)	(5.7)
	ホ角41	ホ角72~ホ78④	16.3	(3.2)
	ホ角41	ホ角72~ホ78⑤	22.8	(2.8)
	ホ43	ニ角203①	22.8	5.3
	ホ43	ニ角203②	23.3	6.8
	ホ角72~ホ78④		23.4	4.5
2140	ニ天3	ニ29①	(11.2)	4.0
E	ニ天9	ニ29②	(17.3)	5.7
	ニ天9	ニ35	(13.9)	(1.2)
	ニ天17	ニ52	(16.1)	6.6
	ニ角天18②		19.1	3.5
	ニ角天18④		18.5	4.1
	ニ角天18⑤		17.5	4.5
	ニ97①	ニ138	(18.8)	(1.2)
	ニ97②	ニ138	20.4	(3.0)
	ニ97③	ニ138	23.3	(4.5)
	ニ97④	ニ138	21.6	5.9
	ニ98①	ホ角42~ニ角139	(21.5)	(5.3)
	ニ98②	ホ43	23.3	5.9
	ニ98③	ホ角42~ニ角139	22.4	(4.2)
	ニ角99①	ホ角47~ニ角139	25.1	6.3
	ニ角99②	ホ44	(14.6)	
	ニ角139①	ニ角203~ホ73	(14.4)	(3.6)
	ニ角139②	ニ角203~ホ73	23.3	6.1
2140	オ天6①	オ23	21.6	(3.2)
W	オ天6②	オ23	(19.7)	5.0
	オ30後		(21.1)	4.8
	オ44①	オ62	20.3	4.6
	オ44②	オ62	(12.0)	5.0
	オ75①	オ93	23.1	7.2
	オ76①	ル角20	(21.8)	(3.3)
2140	ル天1	ル角5	20.0	6.8
S	ル天3	ル角5	17.7	5.2
	ル角11①	オ75	17.3	3.1
	ル角11②	オ76	17.1	4.0
	ル12	ル角16~オ77	(16.1)	
	ル13	ル角16~オ77	(17.2)	
	ル角18①	ル21	(22.1)	(2.4)
	ル角18②	ル角20	(20.1)	(1.8)
2130	X21	X53	(20.3)	5.1
W	X46①	X78	(17.2)	(2.2)
	X46②	X78	(11.8)	(1.9)
	X不明	X48	(6.6)	
	X79	X143	(15.2)	(2.2)
	X81	リ角57~X144	(21.1)	(2.9)
	X95	X126	(14.5)	
	X99	X130	(18.6)	2.6
	X121	X153	18.6	3.6
	X125	X157	(21.0)	5.0
	X141①	X172	24.3	5.6
	X142①	X174	20.8	5.3
2130	リ角X1	X81	(21.9)	(3.8)
S	リ角9②	X81	21.7	5.7
	リ10	X81	20.0	5.6
	リ角26①	ヲ59	18.8	6.6
	リ28	ヲ29	19.2	7.2
	リ69	ヲ89	21.7	5.5
2120		チ220~221間	21.8	5.8
W	チ250	チ346	(18.4)	4.7
	チ329	チ416	22.4	4.6
2110	イ6	イ30	(19.3)	4.6
N	イ角11	イ42	22.3	4.8
	イ角145	イ角164(~ヘ角112)№1	21.0	3.9
	イ146	イ角164(~ヘ角112)№2	12.9	3.2
	イ179	~ヘ150(~ヲ98)№1	(20.3)	4.6
	イ角198	イ233	23.4	6.3
2110	天~ヘ1	~ヘ10北側	(10.9)	4.8
E	天~ヘ3	~ヘ12	21.7	(4.1)
		~ヘ12~14間	(17.2)	(4.9)
		~ヘ9~12間	(20.9)	7.0
		ヘ角10②	~ヘ38	19.0	6.7

石組ID	上石材ID	下石材ID	全長	肝長
2110	ヘ角10①	~ヘ38	23.4	4.2
E	~ヘ11	~ヘ39	(15.8)	
	~ヘ23	~ヘ45	17.8	6.7
	~ヘ29	~ヘ47	18.9	5.2
	~ヘ34①	~ヘ角50	20.2	(4.1)
	~ヘ37	~ヘ角51~ト116	22.5	5.3
	~ヘ38	~ヘ角51~ト116	(21.9)	4.9
	~ヘ39	~ヘ52	(21.9)	5.9
	~ヘ49	~ヘ61	(21.6)	5.7
	~ヘ角51①	~ヘ77 №2	21.6	6.4
		~ヘ58~59の間		(6.7)
	~ヘ60	~ヘ70	22.1	6.4
	~ヘ65	~ヘ80	21.4	6.3
	~ヘ角74	~ヘ91	17.7	6.9
		ヘ~ヘ明	(11.8)	4.5
	~ヘ角93	~ヘ108	(22.8)	7.0
	~ヘ94	~ヘ109	(21.5)	(4.8)
	~ヘ95	~ヘ109~109後の間の川原石	(22.3)	(4.7)
	~ヘ102	~ヘ117	20.6	5.7
	~ヘ104	~ヘ118後	18.2	5.9
	~ヘ角105	~ヘ120	(21.5)	6.7
	~ヘ107①	~ヘ122(~ヘ276)①	21.6	7.2
	~ヘ107②	~ヘ122(~ヘ276)②	20.8	5.9
	~ヘ110	~ヘ124	(5.2)	7.8
	~ヘ111	~ヘ126	(7.9)	4.1
	~ヘ113①	~ヘ127①	(8.9)	4.3
	~ヘ113②	~ヘ127②	(6.5)	7.7
	~ヘ116	~ヘ130	(18.3)	(4.8)
	~ヘ120	~ヘ133~イ角178	21.3	6.3
	~ヘ角122	~ヘ135	22.8	7.4
	~ヘ角127①	~ヘ142 №1	21.2	7.3
	~ヘ127②	~ヘ142	20.9	7.3
	~ヘ128①	~ヘ143①	18.8	7.5
	~ヘ128②	~ヘ143②	18.6	6.2
	~ヘ129	~ヘ144~145間	(21.1)	6.5
	~ヘ135	~ヘ角151	(21.4)	(6.2)
	~ヘ138	~ヘ152	(20.6)	(4.1)
	~ヘ139	~ヘ154	18.9	6.5
	ヘ~ヘ明		18.2	4.6
2110	ト7	ト33	22.6	5.1
S	ト8①	ト34	20.8	6.7
	ト8②	ト35	21.1	6.7
	ト角10	ト41	18.7	5.8
	ト25①	ト57		(5.9)
	ト25②	ト57		(5.6)
	ト25③	ト57	(8.9)	
	ト37	ト81	(9.5)	4.3
	ト38	ト84	21.2	7.1
	ト角44	ト94	19.7	(5.4)
	ト79	ト110	(18.3)	6.0
	ト86	ト111	21.5	4.7
	ト88	ト112	21.0	6.0
	ト90	ト114	19.7	6.0
	ト114①	ト140	19.5	4.6
	ト角117	ト144	19.7	6.3
	ト136	ト162	20.9	4.7
	ト139	ト166	19.4	4.6
	ト143	ト167	23.1	7.3
	ト156	ト179~180間	(21.6)	(5.7)
	ト166	ト189~190	20.4	4.9
	ト角167	ト196	17.3	5.3
	ト172	ト201	21.8	6.1
	ト177	ト203	18.9	4.5
	ト177	ト203	(18.0)	3.8
	ト192	ヘ角106~ト角218	19.1	6.3
	ト196	ト219~ヲ589より~220の間	(18.4)	(3.9)
	ト角219	ト241	21.5	(7.0)
	ト215①	ト270①	(21.0)	
	ト215②	ト270②		
	ト217	ト273	22.3	6.4
	ト218	ト274	21.8	(6.1)
	ト274①	~ヘ角134~ト角281①	(20.2)	5.3
	ト274②	~ヘ134(~ト281)№2	21.2	(4.8)

楔形敷金

単位:cm

石組ID	上石材ID	下石材ID	計測場所1	計測場所4
2140	ホ角1~天三18	ニ~ホ	12.0	12.0
N	ホ2	ニ角99~ホ角27	10.0	13.5
	ホ角27~ニ角99	ホ43	13.6	13.7
	ホ角27~ニ角99	ホ43	13.2	13.6
	ホ角27~ニ角99	ホ44	11.5	11.5
	ホ角41~オ角59	ホ70	13.5	14.7
	ホ角41~オ角59	オ角78~ホ角72	12.4	12.0
2140	ニ角18~ホ角1	ニ98	13.5	13.1
E	ニ98		9.0	12.2
	ニ角139~ホ角42	ニ201①	12.6	16.3
	ニ角139~ホ角42	ニ201②	8.9	13.3
2140	オ角58	オ76	9.1	12.7
W	オ60	ホ角72	14.2	14.5
2140	ル角5~オ角43	ル11~12①	13.3	16.2
S	ル角5~オ角43	ル12②	9.0	12.3
	ル12	ル角16~オ角77	11.8	11.8
	ル16	ル22	13.5	14.5
2130 W	X81	リ角57	13.8	15.0
2130	リ10	リ角10	14.0	15.0
S	リ角26~X角82	ヲ58	13.4	14.8
	リ角26~X角82	リ角57	9.1	12.9
	リ角26~X角82	リ角57	12.0	14.8
	リ角57~X角144	X176	13.9	14.5
	リ角57~X角144	X177	13.7	15.9
	ヲ58	X177	14.5	(13.5)
不明			13.7	15.6

磁器胎土表記（３指標を組み合わせて表現）

平滑性		光沢		器壁の空洞	
1	極めて平滑	A	強い	a	目立たない
2	平滑	B	弱い	b	目立つ
3	凹凸目立つ				

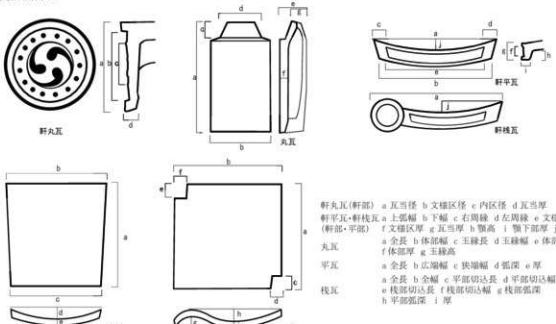
陶器胎土表記（４指標を組み合わせて表現）

硬さ		平滑性		砂粒		器壁の空洞	
Ⅰ	硬質	1	極めて平滑	A	希少	a	目立たない
Ⅱ	軟質	2	平滑	B	細砂含む	b	目立つ
		3	凹凸目立つ	C	粗砂以上含む		

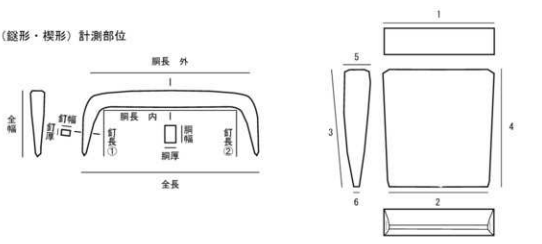
瓦胎土表記（大別２指標、補足指標を組み合わせて表現）

砂粒		粘土の調合		（砂粒含有補足１）		（砂粒含有補足２）	
A	礫が目立つ	1	断面繊状	w	白色粒多い	a	Aにやや近い
B	比較的緻密	2	断面非繊状			b	Bにやや近い
C	緻密					c	Cにやや近い

瓦計測部位



敷金（鎹形・楔形）計測部位



第144図　観察表凡例（陶磁器・瓦胎土表記　瓦・敷金計測部位）

第6表　出土遺物観察表　陶磁器1

単位:cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
45	P001	磁器	碗	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	11.9	3.7	4.5	ロクロ	染付(型紙摺)	2 A a	灰白			近代	199701-B035
	P002	磁器	碗	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	11.0	3.7	4.5	ロクロ	染付(銅版転写)	2 A a	灰白			近代	199701-B039
	P003	磁器	碗	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	11.6	3.8	4.8	ロクロ	染付(型紙摺)	2 A a	灰白			近代	199701-B002
	P004	磁器	碗	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	10.6	4.3	6.1	ロクロ	色絵(赤、青、黄、緑)	2 A a	灰白			近代	199701-B013
	P005	磁器	碗	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	11.2	4.6	5.9	ロクロ	染付＋色絵(青)	3 B a	灰白	再興九谷		色絵「1」近代	199701-B006
	P006	磁器	碗	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区		3.9		ロクロ	色絵(赤、青、緑)	2 A a	灰白			近代	199701-B014
	P007	磁器	碗	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	10.5	3.4	5.8	ロクロ	染付＋色絵(赤)	2 A a	灰白			色絵「1」近代	199701-B015
	P008	磁器	碗	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	10.8			ロクロ	色絵(赤、青、緑)	2 A a	灰白			近代	199701-B012
	P009	磁器	小碗	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	8.6	3.4	4.1	ロクロ	染付	2 A a	灰白				199701-B008
	P010	磁器	小碗	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	8.5	2.8	4.3	ロクロ	染付 口銹	2 A a	灰白	瀬戸・美濃		肥前	199701-B009
	P011	磁器	壺	二ノ丸内堀 近代	SD02 1997-1区	8.2	3.1	3.3	ロクロ	色絵(金、赤、緑)	3 B a	黄白	再興九谷		「征露紀年」? 近代	199701-B037
	P012	磁器	皿	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	15.3	8.1	4.4	ロクロ	染付(型紙摺)	2 A a	灰白		蛇の目回形高台	近代	199701-B003
	P013	磁器	皿	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	13.5	7.1	3.4	ロクロ	染付	3 B a	灰白		蛇の目回形高台	蛇の目釉剥ぎ 近代	199701-B004
	P014	磁器	皿	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	14.2	6.8	3.9	ロクロ	染付	3 B a	黄白	再興九谷	蛇の目回形高台	染付「1」近代	199701-B007
46	P015	磁器	皿	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	14.1	6.8	3.4	ロクロ	染付＋色絵(赤)	2 A a	灰白	瀬戸・美濃	蛇の目回形高台	色絵「1」近代	199701-B016
	P016	磁器	皿	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区		6.6		ロクロ	色絵(赤)	2 A a	灰白		蛇の目回形高台	「酒保」近代	199701-B030
	P017	磁器	皿	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区		6.5		ロクロ	色絵(赤)	2 A a	灰白		蛇の目回形高台	「□(酒)保」近代	199701-B031
	P018	磁器	皿	二ノ丸内堀 近代	SD06 1997-7区	10.3	6.8	2.8	ロクロ	染付＋色絵(緑)	2 B a	灰白	肥前	蛇の目回形高台		199701-B048
	P019	磁器	鉢	二ノ丸内堀 近代	SD02 1997-1区	13.7	6.8	4.8	ロクロ	染付(型紙摺)	2 A a	灰白		蛇の目回形高台	近代	199701-B010
	P020	磁器	鉢	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	15.5	6.3	6.1	ロクロ	染付	3 B a	灰白	再興九谷		近代	199701-B001
	P021	磁器	鉢	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	16.5			ロクロ	染付(型紙摺)	2 A a	灰白			「前赤壁賦」近代	199701-B011
	P022	磁器	鉢	二ノ丸内堀 近代	ST02基盤層 1997-1区		6.5		ロクロ	染付(型紙摺)	2 A a	灰白			「前赤壁賦」近代	199701-B074
	P023	磁器	蓋物蓋	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	8.8		3.3	ロクロ	染付	2 B a	灰白	肥前			199701-B017
	P024	磁器	蓋物身	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	9.4	5.1	4.7	ロクロ	染付	2 B a	灰白	肥前			199701-B018
47	P025	磁器	蓋	二ノ丸内堀 近代	SD06 1997-1区	6.4		2.4	型作り	色絵(印刷、緑)	2 A a	灰白			練歯磨容器 近代	199701-D159
	P026	磁器	身	二ノ丸内堀 近代	SD01 1997-1区	4.2～5.6	2.7～3.6	2.5	型作り	色絵(印刷、緑)	2 A a	灰白			練歯磨容器 近代	199701-B028
	P027	磁器	蓋	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	4.7		1.0	型作り	色絵(印刷、緑)	2 A a	灰白			練歯磨容器 近代	199701-B026
	P028	磁器	蓋	二ノ丸内堀 近代	ST03基盤層 1997-1区	4.7		1.0	型作り	色絵(印刷、緑)	2 A a	灰白			練歯磨容器 近代	199701-B027
	P029	磁器	栓	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区			2.5		白磁	2 A a	灰白			近代	199701-D151
	P030	磁器	鉢	二ノ丸内堀 近代	ST03基盤層 1997-1区	16.1			ロクロ	染付	2 A a	灰白			近代	199701-B042
	P031	硬質陶器	碗	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	(11.8)			ロクロ	染付	I 1A a	灰白			近代	199701-D160
	P032	硬質陶器	碗	二ノ丸内堀 近代	ST02基盤層 1997-1区	11.5			ロクロ	染付(銅版転写)	I 1A a	灰白			近代	199701-B041
	P033	硬質陶器	皿	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	20.0			ロクロ	染付	I 1A a	灰白			近代	199701-D161

第7表　出土遺物観察表 陶磁器2

単位:cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等	産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
47	P034	硬質陶器	皿	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区		11.7		ロクロ	染付	I 1Aa 灰白			近代	199701-B029
	P035	硬質陶器	皿	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	15.9	5.8	4.7	ロクロ	染付	I 1Aa 灰白			裏銘「硬質陶器YN」 近代	199701-B005
	P036	陶器	徳利	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区		7.0		ロクロ	染付	I 2Ab 黄白			「御用酒」 近代	199701-B025
	P037	須恵器	杯	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎掘乱) 1997-2区				ロクロナデ		I 2Ba 灰			古代	199701-D257
	P038	須恵器	甕	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区				タタキ		I 2Ba 灰			古代	199701-D252
	P039	須恵器	甕	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区				タタキ		I 2Ba 青灰			古代	199701-D258
48	P040	磁器	湯呑碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	6.4	3.7	7.0	ロクロ	色絵(銀?)		肥前		完形 近代	199701-B045
	P041	磁器	盃	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	7.4	2.8	3.0	ロクロ	色絵(金、赤、緑)	1Aa 白	再興九谷		裏銘「九谷」近代	199701-B038
	P042	磁器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	11.9	8.1	7.4	型作り	染付	2Aa 白			裏銘「名陶」近代	199701-B043
	P043	磁器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	15.9	10.1	6.9	型作り	染付	1Aa 白			裏銘「名陶」近代	199701-B044
	P044	磁器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	17.4	12.8	4.5	型作り	染付	1Aa 白			裏銘「名陶」近代	199701-B047
	P045	陶器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	7.2	3.6	2.9	ロクロ	灰釉(灰～透明)	I 2Ba 淡橙			外面下半墨書	199701-B040
	P046	硬質陶器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	10.4	6.4	6.1	型作り	染付(銅版転写)	I 1Aa 白			裏銘「硬陶」近代	199701-B046
	P047	硬質陶器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	12.8	10.2	8.3	型作り	染付	I 1Aa 白			裏銘「硬陶」近代	199701-B032
	P048	硬質陶器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	11.6	5.4	5.1	型作り	染付＋色絵(赤、青、黄)	I 1Aa 白			裏銘「硬陶」近代	199701-B034
	P049	硬質陶器	蓋	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-7区	11.6		2.6	ロクロ	色絵(赤、青)	I 1Aa 白			「金大病院」近代	199701-B033
49	P050	陶器	甕?	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-7区		28.6		ロクロ		I 2Ba 暗紫				199701-D004
	P051	土器	焼塩壺	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-4区	(3.3)			型作り?		B群 黄橙 礫状	在地			199701-D156
	P052	土器	焼塩壺	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-4区	3.1	5.6	14.5	型作り?		B群 黄橙	在地		墨書?	199701-D157
	P053	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	8.5			ロクロ	染付	2Ba 白	肥前	腰張形	Ⅲ～Ⅳ期	199701-D228
	P054	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	11.0			ロクロ	染付	2Ba 白	肥前			199701-B065
	P055	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.2			ロクロ	染付	2Ba 灰白	肥前		印判 Ⅳ期	199701-B070
	P056	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.8			ロクロ	染付 口錆	2Ba 白	肥前	半球形	Ⅴ期	199701-B071
	P057	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区		3.2		ロクロ	染付	2Ba 灰白	肥前		Ⅳ～Ⅴ期	199701-B062
	P058	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-4区		3.0		ロクロ	染付	2Ba 白	肥前		五弁花 Ⅳ～Ⅴ期	199701-B072
	P059	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	7.8	3.8	6.7	ロクロ	染付	2Ba 灰白	肥前	筒形	印判五弁花 Ⅳ～Ⅴ期	199701-B058
	P060	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	10.2			ロクロ	染付	2Ba 白	肥前	小広東形	Ⅴ期前	199701-B061
	P061	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	11.0	3.4	5.8	ロクロ	染付	2Aa 白	瀬戸・美濃?	端反形	19c	199701-B060
	P062	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.1	3.6	5.4	ロクロ	染付?	2Ba 灰白			被熱	199701-B059
	P063	磁器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区		4.4		ロクロ	青磁(釉色黄灰 印花文)	3Bb 黄白	中国 龍泉系		15c	199701-D168
50	P064	磁器	皿	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区		6.8		ロクロ	青花	1Ab 白	中国 景徳鎮系			199701-B063
	P065	磁器	皿	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	12.0			ロクロ	染付	2Bb 白	中国 景徳鎮系?	小野E群?		199701-B068
	P066	磁器	皿	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区		5.5		ロクロ	染付	3Ba 黄白	再興九谷?	蛇の目凹形高台	近代	199701-B064
	P067	磁器	皿	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区		5.7		ロクロ	染付	2Ba 白	再興九谷?	蛇の目凹形高台	近代	199701-B067

第８表　出土遺物観察表　陶磁器３

単位：cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
50	P068	磁器	皿	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	15.4			ロクロ	色絵(印刷、緑)	１Ａａ	白			「金口病」	199701-D162
	P069	磁器	皿	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	(36.2)			ロクロ型打	青磁(刻文)	２Ｂｂ	灰白	中国 龍泉系		15c	199701-D069
	P070	磁器	花瓶	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区		5.0		ロクロ	染付	２Ｂａ	灰白	肥前		被熱	199701-B019
	P071	陶器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区		5.7		ロクロ	灰釉(灰～透明)	Ｉ １Ａａ	灰	京・信楽	筒形	18c	199701-D172
	P072	陶器	碗	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区		5.0		ロクロ	灰釉(灰)	Ｉ ２Ａａ	灰白	京・信楽	僵形?		199701-D169
	P073	陶器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	(16.8)			ロクロ	灰釉(灰～透明)	Ⅱ ３Ｂｂ	灰白	瀬戸・美濃			199701-D166
	P074	陶器	鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区		7.8		ロクロ	灰釉(淡緑)・鉄釉(茶褐、黒)	Ｉ ２Ｂａ	灰	瀬戸・美濃			199701-B073
	P075	陶器	平鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	(29.5)				灰釉(灰白)	Ｉ ２Ｂａ	灰	肥前		Ⅰ期	199701-D171
	P076	陶器	擂鉢	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区		10.0		ロクロ		Ｉ ２Ｂａ	赤褐・灰白・灰褐斑状	越前			199701-D167
	P077	陶器	土瓶蓋	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	7.8		2.0	ロクロ	灰釉(灰～透明)	Ｉ １Ｂａ	灰～灰褐				199701-B066
	P078	陶器	瓶?	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区		6.3		ロクロ型打?	鉄釉(黒、外面のみ)	Ｉ ２Ｂａ	白色粒 灰～灰褐			回転糸切	199701-D170
	P079	須恵器	杯B	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区		7.0		ロクロ→ヘラ切り		Ｉ ３Ｂａ	淡赤～灰			被熱?	199701-D250
	P080	土器	壺	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	23.0			輪積み→回転台?		Ｂ群	淡黄灰	在地		近世～近代	199701-D173
51	P081	磁器	碗	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	土羽貼付土～盛土				ロクロ	青花	１Ａａ	白	中国 景徳鎮系			199901-B005
	P082	磁器	碗	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	gトレンチ 盛土 1997-7区				ロクロ	染付＋色絵(外面)	２Ａａ	白	瀬戸・美濃		19c	199901-B010
	P083	磁器	皿	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	gトレンチ 石垣裏込～盛土 1997-7区				ロクロ	青花	３Ｂｂ	明褐灰	中国 漳州系			199901-B006
	P084	磁器	鉢	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	gトレンチ 石垣裏込～盛土 1997-7区				ロクロ型打	青花	１Ａａ	白	中国 景徳鎮系			199901-B009
	P085	陶器	卸皿	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	cトレンチ 黒ボク上 1997-5区				ロクロ	灰釉(淡灰緑)	Ｉ ３Ｂｂ	褐灰	瀬戸・美濃		15c	199901-D001
	P086	土師器	皿	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	cトレンチ 土羽貼付土 1997-5区	8.6		2.4	手づくね		Ｄ群	淡黄灰	在地	Ｂ類	油煙痕	199901-D006
	P087	土師器	皿	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	cトレンチ 石垣裏込 1997-5区	(9.6)		2.6	手づくね		Ｄ群	淡灰	在地	Ｃ2Ｉ1類	油煙痕	199901-D007
	P088	土師器	皿	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	cトレンチ 石垣裏込 1997-5区	(12.4)		1.5	手づくね		Ｃ群	淡黄	在地			199901-D008
	P089	磁器	碗	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	菱櫓付近川原石積周辺 1997-6・7区				ロクロ	染付	２Ｂａ	白	肥前		Ⅳ期	199901-B007
	P090	磁器	碗	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	法面表採	9.8			ロクロ	染付＋色絵(赤、青)	２Ａａ	白	瀬戸・美濃	端反形	19c	199901-B008
	P091	磁器	碗	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	法面表採	7.6			ロクロ	染付	２Ｂａ	白	肥前	筒形	Ⅳ期	199901-B004
	P092	磁器	碗	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	法面	7.8			ロクロ	釉下(茶、緑)＋色絵(赤)	２Ａａ	灰白			20c	199901-B003
	P093	磁器	皿	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	法面	(11.7)	(5.1)	2.2	ロクロ	染付(型紙摺)	２Ｂａ	灰白			近代	199901-B002
	P094	磁器	鉢	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	法面	15.4			ロクロ	染付	２Ｂａ	灰白				199901-B001

第９表　出土遺物観察表　陶磁器４

単位：cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
51	P095	陶器	碗	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	法面		5.6		ロクロ	灰釉(灰～緑灰)	Ⅰ２Ｂａ	灰～淡褐	再興九谷?			199901-D004
	P096	陶器	碗	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	法面	(12.6)			ロクロ	鉄釉(茶褐)	Ⅰ３Ｂｂ	灰	瀬戸・美濃	天目	大窯	199901-D003
	P097	陶器	土錘類	二ノ丸内堀 西郭北岸～中央郭東岸北端	盛櫓付近近代石積埋土 1997-7区		9.3		ロクロ	灰釉(透明)	Ⅰ１Ａｂ	灰黄				199901-D002
	P098	磁器	碗	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		3.7		ロクロ	染付	２Ａａ	白	瀬戸・美濃?		19c?	199701-B051
	P099	磁器	碗	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		3.9		ロクロ	染付	２Ａａ	白	瀬戸・美濃?		19c?	199701-B049
	P100	磁器	碗	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区	9.2			ロクロ	染付	３Ｂｂ	白	肥前	腰張形	Ⅲ～Ⅳ期	199701-B057
	P101	磁器	碗	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		3.9		ロクロ	青磁染付	２Ｂａ	灰白	肥前	筒形	印判五弁花 Ⅳ期	199701-B053
	P102	磁器	碗	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		3.8		ロクロ	染付	２Ｂａ	灰白	肥前	丸形	Ⅳ～Ⅴ期	199701-D164
	P103	磁器	碗	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区	10.9			ロクロ	染付	２Ａａ	灰白	瀬戸・美濃	端反形	19c	199701-B055
52	P104	磁器	皿	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		5.6		ロクロ	青花	１Ａｂ	灰白	中国 景徳鎮系			199701-B056
	P105	磁器	皿	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		5.9		ロクロ	染付	３Ｂａ	灰白	再興九谷		蛇の目釉剥ぎ 近代	199701-B050
	P106	陶器	碗	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		4.9		ロクロ	鉄絵＋灰釉(透明)	Ⅰ１Ａａ	灰白	京・信楽	筒形	18c	199701-B052
	P107	陶器	皿	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区	10.1	6.2	2.3	ロクロ	鉄釉(茶褐～黒)	Ⅰ３Ｂｂ	灰白	瀬戸・美濃		大窯	199701-D165
	P108	陶器	平鉢	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		9.6		ロクロ	鉄絵＋灰釉(灰)	Ⅰ２Ｂａ	淡黒	肥前		胎土目 Ⅰ期	199701-B054
	P109	土器	火鉢	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区		20.0		輪積み→回転台		D群	淡橙	在地			199701-D163
	P110	土器	焙烙壺	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区	3.3			型作り?		C群	淡橙	在地			199701-D158
	P111	土器	焙烙壺	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区	4.5			型作り?		C群	淡橙 縞状	在地			199701-D155
	P112	須恵器	甕?	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区				タタキ		Ⅰ３Ｃａ	暗紫			古代	199701-D249
	P113	須恵器	甕	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣 (2230S・2220W) 1997-2区				タタキ		Ⅰ３Ｃａ	灰			古代	199701-D255
	P114	須恵器	壺	二ノ丸内堀 石垣	南門土橋石垣西面(2230W) 1997-2区				ロクロナデ		Ⅰ２Ｃｂ	灰			古代	199701-D251
	P115	磁器	杯	二ノ丸内堀 内堀横	P05 1997-2区	7.1	3.8	2.2	ロクロ型打	染付	２Ｂｂ	白	肥前			199701-D227
	P116	土器	焙烙壺	二ノ丸内堀	地点不明	3.0	4.5	15.3	型作り?		C群	淡赤褐	在地			199701-D154
53	P117	磁器	碗	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅲ区		3.3		ロクロ	染付	２Ｂａ	白	肥前	浅半球形	Ⅳ期	199804-B006
	P118	磁器	碗	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区		4.4		ロクロ	色絵(青)?	２Ｂａ	灰白	再興九谷		被熱 近代	199701-B036
	P119	磁器	皿	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区	(18.5)			ロクロ	白磁(灰)	３Ｂａ	暗灰	中国 景徳鎮系	小野C群	被熱	199804-D009
	P120	磁器	瓶	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区				ロクロ	青花	１Ａｂ	白	中国 景徳鎮系			199804-B002
	P121	陶器	碗	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅱ区		4.6		ロクロ	灰釉(灰オリーブ)	Ⅰ２Ｂａ	浅黄	肥前		Ⅰ～Ⅱ期	199804-D012

第10表　出土遺物観察表　陶磁器5

単位:cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
53	P122	陶器	碗	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅱ区		4.8		ロクロ	灰釉(灰オリーブ)・鉄泥(外面底部)	Ⅰ 2Aa	灰黄	肥前			199804-D007
	P123	陶器	向付	櫓(長屋)台上面	礎石No.8並ガ 五十間長屋Ⅰ区				タタラ→型作り	鉄絵＋長石釉	Ⅰ 3Bb	淡黄	瀬戸・美濃		志野	199804-B003
	P124	土師器	皿	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区	9.4		2.1	手づくね		B群	鈍い橙	在地			199804-D011
	P125	土師器	皿	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区	10.0		2.9	手づくね		D群	浅黄橙	在地	B類	油煙痕	199804-D010
	P126	土師器	皿	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区	15.0		2.8	手づくね		B群	淡黄橙	在地	C1類	油煙痕	199804-D008
	P127	須恵器	短頸壺	櫓(長屋)台上面	櫓槽 1997-3区	(16.3)			ロクロ		Ⅰ 3Ba	青灰				199701-D259
	P128	磁器	碗	櫓(長屋)台上面	櫓槽古段階 磁盤(根石)ア 根固 1997-3区				ロクロ	染付	2Bb	灰白	肥前		Ⅲ期	199804-B001
	P129	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台取付階段	階段① 近世盛土粗砂層	30.9			ロクロ	鉄泥?	Ⅰ 2Ba	灰	越前			199804-D142
	P130	陶器	擂鉢	二ノ丸階段	二ノ丸階段 東側トレンチ		10.0		ロクロ		Ⅰ 2Ba	鈍赤褐	肥前		Ⅰ期	199804-D141
54	P131	陶器	壺	三ノ丸3次	上層遺構ピット				ロクロ	鉄釉(暗褐)・灰釉(黄灰)	Ⅰ 2Bb	灰白	信楽			199908-D009
	P132	磁器	碗	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土	8.7	3.2	5.7	ロクロ	染付	2Ba	白	肥前	腰張半球形	Ⅳ期	199908-B001
	P133	磁器	碗	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土				ロクロ	染付	2Ba	白	肥前		Ⅳ期	199908-B006
	P134	磁器	碗	三ノ丸3次	SX01 上層	8.3			ロクロ	白磁 口錆	2Ba	白	肥前			199908-D005
	P135	磁器	鉢	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土				ロクロ	染付＋色絵(赤、緑 内面)	2Ba	白	肥前			199908-B003
	P136	磁器	蓋物蓋	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土	7.0		1.4	ロクロ	染付	2Ba	白	肥前		Ⅳ期	199908-B002
	P137	磁器	紅皿	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土	4.9	1.7	2.3	型作り	色絵(赤、緑)	2Ba	白	肥前			199908-B004
	P138	磁器	瓶	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土	8.0			ロクロ	青磁	2Ba	灰白	肥前		Ⅴ期?	199908-D001
	P139	陶器	揺子?	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土	12.6			ロクロ	灰釉(灰～透明)	Ⅰ 2Aa	灰				199908-D007
	P140	土師器	皿	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土	7.6		1.7	手づくね		B群	黄橙	在地		近世後期	199908-D003
	P141	施釉土器	灯明皿	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土	10.0		1.9	ロクロ	鉛釉(灰緑)	B群	淡橙	在地			199908-D002
	P142	土器	鍋?	三ノ丸3次	SX01 暗灰褐色粘砂質土	17.8	17.6	2.7	ロクロ		B群	鈍い黄橙	在地			199908-D006
	P143	土師器	皿	三ノ丸3次	SX03	(11.3)			手づくね		B群	黄橙		B類?		199908-D004
	P144	磁器	皿	三ノ丸3次	北区南半 地山上盛土		(14.1)		ロクロ	染付	2Ba	灰	肥前?			199908-B005
55	P145	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 石垣6段目上面背後	11.0			ロクロ	染付	2Ba	白	肥前		Ⅴ期前	199804-B011
	P146	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土		3.2		ロクロ	染付	2Ba	白	肥前		Ⅳ～Ⅴ期	199804-B013
	P147	陶器	向付	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 石垣I-150後周辺				タタラ→型作り	鉄絵＋長石釉・銅緑釉	Ⅰ 3Ba	淡黄	瀬戸・美濃		磯部	199804-B012
	P148	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土	31.4			ロクロ	錆釉(鉄泥)	Ⅰ 3Ca	白色粗砂 鈍い赤褐	越中瀬戸			199804-D024
	P149	陶器	甕	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 石垣11段目裏込				ねじ立て	鉄泥	Ⅰ 2Ba	淡灰～暗灰 縞状	越前			199804-D026
	P150	陶器	甕	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 石垣10段目裏込				タタキ		Ⅰ 2Ba	暗灰	珠洲			199804-D023
	P151	土師器	皿	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土	10.4		2.0	手づくね		B～E群	鈍い黄橙	在地	C2Ⅰ1a類	油煙痕	199804-D022
	P152	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土Ⅱ区				ロクロ	白泥＋青花	3Bb	淡黄灰	中国 瀬州系			199804-B004
	P153	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台Ⅱ面以上 北半		4.8		ロクロ	青花	1Ab	白	中国 景徳鎮系			199804-B008

第11表　出土遺物観察表　陶磁器6

単位：cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
55	P154	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP9以南		5.1		ロクロ	白泥＋青花	1Ａｂ	褐灰	中国 漳州系		高台内白泥なし	199804-B016
	P155	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面以上 SP9以南		4.2		ロクロ	青花	3Ｂｂ	白	中国 漳州系			199804-B014
	P156	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 南半		5.6		ロクロ	青花	1Ａａ	白	中国 景徳鎮系			199804-B005
	P157	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面 SP9・10間		4.2		ロクロ	染付	2Ｂａ	灰	肥前		Ⅳ期	199804-B018
	P158	磁器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅴ面以上 SP10・sp7間				ロクロ	染付＋色絵(不明)	2Ｂｂ	白	肥前		宝暦期裏込出土か	199804-B017
	P159	磁器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP10以南				ロクロ	青花(釉色淡黄)	3Ｂａ	灰白	中国 漳州系			199804-B035
	P160	磁器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP9以南		8.6		ロクロ	白磁	2Ｂｂ	灰白	中国 景徳鎮系	小野C群		199804-D030
	P161	磁器	盤	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅰ-北Ⅱ区				ロクロ	青磁 劃花文	2Ｂａ	灰	中国 龍泉系			199804-D019
56	P162	陶器	碗	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面 SP10		5.0		ロクロ	陶胎染付	Ⅰ２Ｂａ	灰～暗灰	肥前		Ⅳ期	199804-D036
	P163	陶器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅱ区	9.8			ロクロ	灰釉(淡緑灰)	Ⅰ２Ｂｂ	灰白	瀬戸・美濃		大窯	199804-D013
	P164	陶器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以下 SP9	11.8	7.1	2.7	ロクロ	長石釉	Ⅰ３Ｂｂ	浅黄橙	瀬戸・美濃		志野	199804-D028
	P165	陶器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面直上層 SP9・10間		3.9		ロクロ	鉄絵＋染付＋灰釉(透明)	Ⅰ２Ａａ	橙	京・信楽			199804-B015
	P166	陶器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 北半		7.2		ロクロ	灰釉(淡黄緑) 印花文	Ⅰ２Ｂａ	灰白	越中瀬戸			199804-D002
	P167	陶器	向付	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 南半				タタラ→型作り	鉄絵＋長石釉・銅緑釉	Ⅰ３Ｂｂ	淡黄白	瀬戸・美濃		織部	199804-D015
	P168	陶器	鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 石垣ロ面(2120E)裏込 Ⅰ区		11.6		ロクロ	鉄釉(黒 内面)	Ⅰ２Ｂａ	暗灰～鈍い橙	肥前?		外面底部点状ケズリ	199804-D016
	P169	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以下 北半	29.2			ロクロ	鉄釉(褐)	Ⅰ２Ｂａ	灰黄褐	肥前			199804-D004
	P170	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 南半		8.7		ロクロ	鉄釉(褐)	Ⅰ２Ｂａ	淡赤褐	肥前			199804-D021
	P171	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 石垣ロ 1077・1076間裏込		9.2		ロクロ		Ⅰ２Ｂａ	鈍い赤褐	肥前			199804-D115
	P172	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅰ-北Ⅱ区				ロクロ	鉄泥?	Ⅰ３Ｂｂ	灰・灰白・褐灰 縁状	越前			199804-D005
	P173	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP9以南		13.3		ロクロ	鉄泥	Ⅰ２Ｂａ	灰	越前			199804-D032
	P174	陶器	壺	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面				ロクロ		Ⅰ２Ｃａ	白色粒 暗灰・灰・褐灰	信楽?			199804-D035
57	P175	陶器	甕	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅰ-北Ⅱ区				ロクロ		Ⅰ２Ｃａ	暗灰	越前			199804-D006
	P176	陶器	甕	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP10以南				タタキ		Ⅰ３Ｃｂ	灰	珠洲			199804-D034
	P177	土師器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP9以南	11.8		2.5	手づくね		D群	海綿骨片 橙		B類?	油煙痕	199804-D031
	P178	土師器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅳ区	13.0		2.5	手づくね		B群	淡黄橙		C1類?		199804-D014

第12表　出土遺物観察表　陶磁器7

単位:cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
57	P179	土師器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 II面以下 北半	14.0			手づくね		B群	淡黄白		B類		199804-D003
	P180	土師器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 III面直上層 SP9以南	14.0		2.8	手づくね		E群	鈍い黄橙		C2 I Ia類	油煙痕	199804-D001・D033
	P181	土師器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 III面直上層 SP10以南	15.4		3.2	手づくね		C群	淡黄橙		C1類	油煙痕	199804-D029
	P182	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 寛永期造成土	12.0			ロクロ	青花	3 B a	白	中国 漳州系	森Va類		199804-B010
	P183	磁器	碗	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 寛永期造成土				ロクロ	青花	1 A b	白	中国 景徳鎮系			199804-B009
	P184	陶器	碗	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 寛永期造成土				ロクロ	鉄絵+銅緑釉・長石釉	I 3 B b	灰白	瀬戸・美濃		織部	199804-B007
	P185	陶器	皿	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 IV面以下 SP10以南	15.8			ロクロ	灰釉(淡黄緑) 印花文・波状文	I 3 B b	淡橙	越中瀬戸		山下窯か	199804-D037
	P186	陶器	皿	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 寛永期造成土				ロクロ	焼締(内面降灰)	I 2 C a	黒色・白色粗砂多 暗赤～灰	備前			199804-D018
	P187	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 寛永期造成土				ロクロ	灰釉(黄灰)	I 2 B a	橙	肥前			199804-D020
	P188	陶器	擂鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 寛永期造成土 SP10以南				ロクロ	鉄釉(鉄泥)	I 2 C b	白色粗砂 淡赤褐	越中瀬戸			199804-D027
	P189	土師器	皿	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 寛永期造成土	8.7			手づくね		B群	浅黄橙	在地		油煙痕	199804-D017
	P190	土師器	皿	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 寛永期造成土	11.0		2.3	手づくね		B群	鈍い橙	在地	C2 I 1b類	底部外面 板目圧痕	199804-D025
58	P191	磁器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区				ロクロ	青花	2 B b	白	中国 景徳鎮系	小野H群		199701-D265
	P192	磁器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区	(10.5)			ロクロ	青花	2 B a	白	中国 景徳鎮系	小野E群		199701-D264
	P193	陶器	碗	内堀橋北詰下層	SX01 北 1997-2区	(12.0)			ロクロ	鉄釉(黒)	II 3 B b	灰白～淡褐	瀬戸・美濃	天目	大窯	199701-D262
	P194	陶器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区		3.4		ロクロ	鉄絵+灰釉(灰)	I 2 B a	橙褐	肥前		I 期	199701-D263
	P195	陶器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区	(11.3)			ロクロ	灰釉(濃緑) 刻文	I 3 B a	灰白	越中瀬戸			199701-D261
	P196	陶器	鉢	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区	22.5	4.5	10.1	ロクロ	鉛釉?(緑灰)	II 3 C b	浅黄橙			丸皿(ソギ皿)	199701-D260
	P197	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区	7.5～8.2		2.3	手づくね		B群	浅黄橙	在地	A類?	「の」の字ナデ	199701-D280
	P198	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 南 1997-2区	8.9		2.2	手づくね		E群	浅黄橙	在地	B類	油煙痕	199701-D279
	P199	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 北 1997-2区	9.1		2.2	手づくね		C群	浅黄橙	在地	B類	「の」の字ナデ 油煙痕	199701-D275
	P200	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区	9.2		2.4	手づくね		C群	浅黄橙	在地	B類	「の」の字ナデ? 油煙痕	199701-D274
	P201	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区	9.6～9.8		2.4	手づくね		B群	浅黄橙	在地	B類	「2」の字ナデ	199701-D276
	P202	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 南 1997-2区	11.1		3.1	手づくね		C群	浅黄橙	在地	B類	油煙痕	199701-D278
	P203	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 南 1997-2区	11.5		2.9	手づくね		C群	浅黄橙～橙	在地	B類	「2」の字ナデ 油煙痕	199701-D277
	P204	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央-北 1997-2区	11.6		2.9	手づくね		C群	浅黄橙	在地	B類	「2」の字ナデ 油煙痕	199701-D281
	P205	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 南 1997-2区	11.6		2.8	手づくね		C群	浅黄橙	在地	B類	「2」の字ナデ 油煙痕	199701-D282
	P206	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 南 1997-2区	12.4		2.4	手づくね		B群	淡灰～黄橙	在地	B類	油煙痕	199701-道003
	P207	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央-北 1997-2区	12.6			手づくね		B群	浅黄橙	在地	B類		199701-D270
	P208	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区	13.6		2.4	手づくね		B群	鈍い黄橙	在地	B類		199701-道004

第13表　出土遺物観察表　陶磁器8

単位:cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
58	P209	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 北 1997-2区	14.3		2.2	手づくね		A群	灰白～淡赤褐	能登	B類	「赤かわらけ」	199701-D271
	P210	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央-北 1997-2区	14.9		2.5	手づくね		B群	浅黄橙	在地	B類		199701-D272
	P211	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 南 1997-2区	15.0		2.6	手づくね		B群	浅黄橙	在地	B類	底部内外黒斑	199701-過001
	P212	土師器	皿	内堀橋北詰下層	SX01 中央 1997-2区	17.1			手づくね		A群	鈍い黄橙	能登	B類	「赤かわらけ」	199701-D273
59	P213	磁器	皿	橋爪一ノ門下層	P03 1997-2区	15.6			ロクロ	白磁	２Ｂｂ	白	中国 景徳鎮系	小野C群		199701-D194
	P214	陶器	碗	橋爪一ノ門下層	P04 1997-2区	12.1			ロクロ	鉄釉(黒～褐)	Ｉ３Ｂｂ	灰白	瀬戸・美濃	天目	大窯	199701-D178
	P215	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	P04 1997-2区	9.5		2.3	手づくね		B群	灰～灰白		B類	底部外面板目圧痕	199701-過002
	P216	陶器	皿	橋爪一ノ門下層	P05 1997-2区	9.7			ロクロ	鉄釉(暗紫)	Ｉ２Ｃａ	赤灰	越中瀬戸			199701-D179
	P217	磁器	皿	橋爪一ノ門下層	SD01 1997-2区	11.6			ロクロ	染付	１Ａｂ	白	中国 景徳鎮系	小野E群	漳州	199701-D203
	P218	陶器	壺	橋爪一ノ門下層	SD01 1997-2区				ねじ立て	鉄泥	Ｉ２Ｃａ	灰白・鈍い赤褐 縞状	越前			199701-D204
	P219	須恵器	杯	橋爪一ノ門下層	SB01-P01 1997-2区	14.8			ロクロナデ		Ｉ３Ｃａ	灰				199701-D253
	P220	陶器	皿	橋爪一ノ門下層	SX02 1997-2区		4.8		ロクロ	印花文 底部無釉	Ｉ２Ｃａ	橙	越中瀬戸		内面底部黒斑釉止め	199701-D193
	P221	陶器	鉢	橋爪一ノ門下層	SX02 1997-2区				ロクロ	灰釉(淡黄灰)＋丹鬱(薄緑)	Ｉ３Ｃｂ	灰黄	瀬戸・美濃		黄瀬戸	199701-D189
	P222	陶器	擂鉢	橋爪一ノ門下層	SX02 1997-2区				ロクロ	鉄泥	Ｉ３Ｃｂ	鈍い灰橙 縞状	越前			199701-D190
	P223	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	SX02 1997-2区	11.5		2.6	手づくね		E群	赤色粒 鈍い橙	在地	B類	油煙痕	199701-D191
	P224	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	SX02 1997-2区	11.8		2.8	手づくね		B群	浅黄橙	在地	B類	油煙痕	199701-D176
	P225	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	SX02 1997-2区	12.2		2.3	手づくね		B群	鈍い橙	在地	B類	油煙痕	199701-D192
	P226	須恵器	瓶	橋爪一ノ門下層	SX02 1997-2区				ロクロナデ		Ｉ２Ｂａ	青灰			古代	199701-D256
	P227	磁器	皿	橋爪一ノ門下層	上部 中央東 1997-2区	10.0			ロクロ	白磁	２Ｂａ	淡灰～黄橙	中国 景徳鎮系	小野C群		199701-D188
	P228	須恵器	皿	橋爪一ノ門下層	上部 中央西 1997-2区	(13.7)			ロクロ→ヘラ切り		Ｉ２Ｃｂ	灰	末窯			199701-D254
	P229	磁器	皿	橋爪一ノ門下層	中部 中央東 1997-2区	11.5			ロクロ	青花	１Ａｂ	白	中国 景徳鎮系	小野E群		199701-D197
	P230	磁器	鉢	橋爪一ノ門下層	中部 中央東 1997-2区				ロクロ	染付	２Ｂｂ	白	肥前		IV期?	199701-D198
	P231	陶器	碗	橋爪一ノ門下層	中部 中央東 1997-2区		4.4		ロクロ	鉄釉(黒～褐)外面底部鉄泥	Ｉ２Ｂｂ	灰白	瀬戸・美濃	天目		199701-D196
	P232	陶器	皿	橋爪一ノ門下層	中部 中央東 1997-2区	10.3			ロクロ	灰釉(白濁)＋鉄釉?	Ｉ２Ｂａ	鈍い黄橙	越中瀬戸			199701-D199
	P233	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	中部 中央東 1997-2区	16.8		2.8	手づくね		D群	橙	在地	B類		199701-D200
60	P234	磁器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区		4.2		ロクロ	白磁	２Ｂｂ	白	中国 景徳鎮系	小野C群		199701-D205
	P235	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	11.7		2.4	手づくね		A群	淡橙	能登	B類	「白かわらけ」	199701-D220
	P236	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	12.2			手づくね		A群	橙	能登	B類	「赤かわらけ」	199701-D211
	P237	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	12.3			手づくね		A群	淡橙	能登	B類	「白かわらけ」	199701-D219
	P238	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	12.7			手づくね		A群	橙～淡赤褐	能登	B類	「赤かわらけ」	199701-D216

第14表　出土遺物観察表　陶磁器9

単位:cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
60	P239	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	12.8		2.2	手づくね		A群	橙～淡赤褐	能登	B類	「赤かわらけ」	199701-D212
	P240	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	13.0			手づくね		A群	淡橙	能登	B類	「白かわらけ」	199701-D218
	P241	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	13.2			手づくね		A群	橙～淡赤褐	能登	B類	「赤かわらけ」	199701-D215
	P242	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	13.4			手づくね		A群	橙～淡赤褐	能登	B類	「赤かわらけ」	199701-D214
	P243	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	13.4			手づくね		A群	淡橙	能登	B類	「白かわらけ」	199701-D206
	P244	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	13.4		2.5	手づくね		A群	橙～淡赤褐	能登	B類	「赤かわらけ」	199701-D213
	P245	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	整地土01(下部 中央西) 1997-2区	14.5			手づくね		A群	淡橙	能登	B類	「白かわらけ」	199701-D217
	P246	磁器	碗	橋爪一ノ門下層	下部 中央西 1997-2区	11.6			ロクロ	青花	2 B b	灰白	中国 景徳鎮系	小野C群		199701-D207
	P247	磁器	碗	橋爪一ノ門下層	下部 中央東 1997-2区		5.6		ロクロ	青花	2 B b	白	中国 景徳鎮系	小野D群?		199701-D195
	P248	磁器	皿	橋爪一ノ門下層	下部 東 1997-2区	16.4			ロクロ	白磁	2 B a	白	朝鮮			199701-D180
	P249	陶器	皿	橋爪一ノ門下層	下部 東 1997-2区	10.7			ロクロ	鉄釉(褐)	I 3 C b	灰白	瀬戸・美濃		大窯	199701-D185
	P250	陶器	皿	橋爪一ノ門下層	下部 東 1997-2区		5.4		ロクロ	印花文 鉄釉(茶	I 2 B a	灰	越中瀬戸		底部無釉	199701-D184
	P251	陶器	香炉?	橋爪一ノ門下層	下部 東 1997-2区		(6.9)		ロクロ	鉄釉(黒～茶褐)	I 2 B a	灰	越中瀬戸		三足か	199701-D183
	P252	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	下部 東 1997-2区	8.8		2.5	手づくね		B群	浅黄橙	在地		「2」の字ナデ 油煙痕	199701-D177
	P253	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	下部 東 1997-2区	14.0		2.7	手づくね		B群	浅黄橙	在地		油煙痕	199701-D182
	P254	土師器	皿	橋爪一ノ門下層	下部 東 1997-2区	13.6		3.3	手づくね		D群	浅黄橙	在地		油煙痕	199701-D181
	P255	陶器	碗	橋爪一ノ門下層	西 1997-2区	11.8	4.8	7.4	ロクロ	陶胎染付	I 2 B a	灰	肥前			199701-D221
61	P256	磁器	皿	長屋台下層	V面 SP9・10間	9.6	4.5	2.6	ロクロ	青花	1 A b	灰白	中国 景徳鎮系	小野B1群	漆継	199804-B021
	P257	陶器	碗	長屋台下層	V面 砂層上部 SP9・10間		4.9		ロクロ	灰釉(白濁)	I 2 B a	橙褐	肥前		I 期	199804-D049
	P258	陶器	皿	長屋台下層	V面 SP9以北	10.3	3.6	3.0	ロクロ	灰釉(淡緑灰)	I 2 B b	灰	肥前		胎土目 I 期	199804-D039
	P259	陶器	皿	長屋台下層	V面 SP9以北	11.4	6.6	3.3	ロクロ	灰釉(淡緑灰)	I 2 B b	暗灰	肥前		胎土目 I 期	199804-D040
	P260	陶器	平鉢	長屋台下層	V面 SP9以北	28.5			ロクロ	鉄釉(暗褐)	I 2 B a	灰	肥前		I 期	199804-D042
	P261	陶器	向付	長屋台下層	V面 砂層上部 SP9・10間				ロクロ型打?	鉄絵＋長石釉	I 3 B b	灰黄	瀬戸・美濃		織部	199804-B020
	P262	陶器	把手(耳)	長屋台下層	V面 SP9以北				手づくね	灰釉(緑灰)	I 2 B a	灰～淡褐 縞状	肥前			199804-D041
	P263	陶器	擂鉢	長屋台下層	V面 砂層上部 SP9・10間				ロクロ	鉄泥	II 3 B b	鈍い橙 縞状	越前			199804-D047
	P264	陶器	擂鉢	長屋台下層	V面 砂層上部 SP9以北				ロクロ	鉄泥	I 2 B b	鈍い黄橙～灰白 縞状	越前			199804-D048
	P265	土師器	皿	長屋台下層	V面 SP9以北	7.6		1.5	手づくね		E群	角閃石 灰黄	在地	C2 I 1a類		199804-D043
	P266	土師器	皿	長屋台下層	V面 SP9・10間	12.2			手づくね		B群	灰黄	在地	B類	油煙痕	199804-D052
	P267	土師器	皿	長屋台下層	V面 SP9以北	11.9		2.0	手づくね		E群	鈍い黄橙	在地	C2 I 1a類	油煙痕	199804-D044
	P268	土師器	皿	長屋台下層	V面 SP9以北	13.4			手づくね		A群	鈍い黄橙	能登	B類		199804-D046
	P269	土師器	皿	長屋台下層	V面 砂層上部 SP9以北	13.2			手づくね		A群	鈍い橙	能登	B類	「赤かわらけ」	199804-D053
	P270	土師器	皿	長屋台下層	V面 SP9以北	16.2		2.5	手づくね		E群	淡黄灰	在地	C2 I 1類		199804-D045
	P271	磁器	皿	長屋台下層	V面下部 SP9以北	(23.0)			ロクロ	白泥＋青花	2 B a	灰～淡橙	中国 漳州系			199804-B019

第15表　出土遺物観察表　陶磁器10

単位:cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
61	P272	磁器	皿	長屋台下層	V面下部 SP10以南	13.8			ロクロ	白磁	2Bａ	白	中国	小野C群		199804-D038
	P273	土師器	皿	長屋台下層	V面下部	5.6		1.9	手づくね		B群	灰白・橙等 縞状				199804-D050
	P274	土師器	皿	長屋台下層	V面下部	17.8		3.8	手づくね		B群	海綿骨片 褐灰	在地	C1類	底部外面板目圧痕	199804-D051
62	P275	磁器	碗	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	13.0			ロクロ	青花	2Bｂ	灰白	中国 湖州系	森Va類	漆継	199804-B038
	P276	磁器	碗	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	(9.6)			ロクロ	青花	1Aｂ	白	中国 景徳鎮系			199804-B031
	P277	磁器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	13.4			ロクロ	青花	1Aｂ	白	中国 景徳鎮系	小野B1群		199804-B037
	P278	磁器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	(13.0)			ロクロ	青花	1Aｂ	白	中国 景徳鎮系	小野B群		199804-B028
	P279	磁器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	30.0			ロクロ	白泥＋青花	3Bｂ	淡橙～灰白	中国 湖州系	小野C群		199804-B025
	P280	磁器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	11.8	6.3	2.5		白磁	2Bｂ	白	中国 景徳鎮系	小野C群	漆継	199804-D147
	P281	磁器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	11.8			ロクロ	白磁	2Bｂ	白	中国 景徳鎮系	小野C群		199804-D082
	P282	磁器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 sp5		7.0		ロクロ	白磁	2Bｂ	灰白	中国 景徳鎮系	小野C群	漆継	199804-D098
	P283	磁器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間				ロクロ	青磁 劃花文	2Bｂ	灰白	中国 龍泉系			199804-D095
	P284	磁器	?	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間				ロクロ	青花	1Aｂ	白	中国 景徳鎮系			199804-B030
	P285	陶器	碗	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	10.4			ロクロ	白泥＋透明釉・緑釉(外面) 緑釉(内面)	Ⅱ3Bｂ	橙	関西		軟質施釉陶器	199804-B036
	P286	陶器	碗	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	14.7			ロクロ	鉄絵＋長石釉・銅緑釉	Ⅰ3Bｂ	灰黄	瀬戸・美濃		織部	199804-D148
	P287	陶器	碗	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	(11.0)			ロクロ	鉄釉(黒)	Ⅰ3Bｂ	灰白	瀬戸・美濃	天目	大窯	199804-D056
	P288	陶器	碗	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間		4.1		ロクロ	鉄釉(黒～褐) 櫛描	Ⅰ3Bｂ	黄灰	瀬戸・美濃	天目	大窯	199804-D081
	P289	陶器	小碗	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	6.6	2.8	3.1	ロクロ	鉄釉(黒～暗褐)	Ⅰ2Bａ	灰黄	瀬戸・美濃	小天目		199804-D149
	P290	陶器	小碗?	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	6.8			ロクロ	長石釉	Ⅰ3Bｂ	黄灰	瀬戸・美濃	小天目?		199804-D057
	P291	陶器	杯	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間		3.9		ロクロ	灰釉(灰)	Ⅰ2Bａ	褐灰	肥前		Ⅰ期	199804-D093
	P292	陶器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	10.3	3.6	3.2		灰釉(灰オリーブ)	Ⅰ2Bａ	鈍い黄橙	肥前		胎土目 Ⅰ期	199804-D146
	P293	陶器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	11.2			ロクロ	灰釉(灰)	Ⅰ2Bａ	鈍い黄橙	肥前		胎土目 Ⅰ期	199804-D084
	P294	陶器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 SP9以北		3.8		ロクロ	灰釉(灰～透明)	Ⅰ2Bａ	鈍い橙	肥前		胎土目 Ⅰ期	199804-D096
	P295	陶器	鉢	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	(15.7)	8.1	5.7	ロクロ	鉄絵・鉄釉(暗赤)・緑釉・黄色釉＋透明釉(刻釉)	Ⅱ3Bｂ	灰白	京都?		釉下彩 釉貫入銅箪	199804-B039
	P296	陶器	鉢	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間					鉄絵＋長石釉	Ⅰ3Bｂ	灰白	瀬戸・美濃		志野	199804-D059
	P297	陶器	向付	長屋台下層	VI面 SD01 sp4				ロクロ型打?	鉄絵＋長石釉	Ⅰ3Bｂ	灰白	瀬戸・美濃		志野織部	199804-B033
	P298	陶器	鉢?	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間				ロクロ型打?	鉄絵＋長石釉・緑釉	Ⅰ2Bｂ	灰白	瀬戸・美濃		弥七田織部	199804-B032
63	P299	陶器	擂鉢	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	30.3	14.0	11.7	ロクロ	鉄泥	Ⅱ3Cｂ	灰白～淡橙	越前		漆継	199804-D108
	P300	陶器	擂鉢	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間				ロクロ	鉄泥	Ⅱ3Bｂ	灰白～淡橙 縞状	越前			199804-D080
	P301	陶器	擂鉢	長屋台下層	VI面 SD01 上部 sp5				ロクロ	鉄釉(暗褐)	Ⅰ2Bａ	鈍い橙	肥前			199804-D097
	P302	陶器	壺	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間				ロクロ		Ⅰ1Cａ	灰	信楽			199804-D061
	P303	陶器	瓶	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間		14.8		タタキ	鉄釉?(土灰釉)	Ⅰ2Bａ	明褐灰 縞状	肥前			199804-D085
	P304	陶器	瓶	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	7.5				灰釉(白濁～暗緑)	Ⅰ2Bａ	灰褐	肥前			199804-D094

第16表　出土遺物観察表　陶磁器11

単位:cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
63	P305	陶器	瓶	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間				ロクロ	銅緑釉	I 2B a	灰白	瀬戸・美濃		瓶部	199804-D092
	P306	陶器	壺瓶?	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間		14.8	23.3	タタキ	鉄釉(暗褐～茶褐)	I 2B a	灰	肥前		つまみ径5.6	199804-B023
64	P307	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	6.9		1.7	手づくね		E群	角閃石 浅黄橙		口縁内屈		199804-D075
	P308	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	8.9		2.1～2.7	手づくね		E群	浅黄橙		C2Ⅱ1a類	見込みハケメ状	199804-D074
	P309	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	9.2		2.1	手づくね		E群	灰褐		C2Ⅱ1a類		199804-D086
	P310	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	9.4			手づくね		D群	海綿骨片 灰黄褐		B類		199804-D072
	P311	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9以北	9.7		2.7	手づくね		D群	海綿骨片 灰黄褐		B類		199804-D067
	P312	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	9.7			手づくね		B群	灰黄		B類	油煙痕	199804-D091
	P313	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	11.6		2.1	手づくね		E群	灰黄		C2Ⅱ1a類?	底部外面板目圧痕?	199804-D087
	P314	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	11.8		2.3	手づくね		E群	角閃石 鈍い黄橙		C2Ⅱ1a類	見込み条痕明瞭 油煙痕	199804-D073
	P315	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	12.0		2.6	手づくね		E群	鈍い黄橙		C2Ⅱ1a類	油煙痕	199804-D071
	P316	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	12.4		1.8	手づくね		E群	灰黄		C2Ⅱ1類		199804-D069
	P317	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	12.6		2.0	手づくね		E群	角閃石 淡黄灰		C2Ⅱ1a類		199804-D088
	P318	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	12.8		2.4	手づくね		E群	角閃石 海綿骨片? 灰黄		C2Ⅱ1a類	油煙痕	199804-D063
	P319	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	13.0		2.0	手づくね		E群	鈍い黄橙		C2Ⅱ1a類		199804-D068
	P320	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	13.8		2.0	手づくね		B群	鈍い黄橙		B類?	油煙痕	199804-D090
	P321	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	14.1		2.2	手づくね		E群	角閃石 灰黄		C2Ⅱ1a類	油煙痕	199804-D062
	P322	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	14.2		1.9	手づくね		E群	淡黄		C2Ⅱ1類		199804-D076
	P323	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	14.3		2.1	手づくね		E群	淡灰黄		C2Ⅱ1a類		199804-追D005
	P324	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	(14.5)		2.2	手づくね		E群	黄橙		C2Ⅱ1a類		199804-D066
	P325	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	14.7			手づくね		E群	灰黄		C2Ⅱ1a類?	底部外面板目圧痕?	199804-D070
	P326	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	14.7		2.0～2.9	手づくね		E群	灰黄		C2Ⅱ1a類		199804-D089
	P327	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SD01	15.4		2.5	手づくね		E群	鈍い黄橙		C2Ⅱ1a類	油煙痕	199804-D065
	P328	土器	台	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	8.0	7.8	3.0	ロクロ		E群	鈍い橙			受部径13.3	199804-D064
	P329	土器	焼塩壺	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	4.8					E群	灰黄			粘土紐剥離痕	199804-D077
	P330	土器	焼塩壺	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	4.8					E群	灰黄			粘土紐剥離痕	199804-D079
	P331	土器	焼塩壺	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	4.0					E群	鈍い黄橙			粘土紐剥離痕	199804-D078
65	P332	陶器	蓋	長屋台下層	VI面 SK01 上部	10.0			ロクロ	銅緑釉＋長石釉(内面) 刻文	I 2B b	灰黄	瀬戸・美濃			199804-B022
	P333	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SK01	15.2			手づくね		E群	鈍い黄		C2Ⅱ1類	油煙痕	199804-D112
	P334	土器	焼塩壺	長屋台下層	VI面 SK01	4.4					B群	暗灰				199804-D054

第17表　出土遺物観察表　陶磁器12・ガラス容器

単位：cm

図版	番号	種別	器種	地区	出土地点	口径	底径	器高	成形・整形	釉薬・装飾等	胎土・色調等		産地	形状特徴	特記事項	ID(実測番号)
65	P340	陶器	壺	長屋台下層	VI面 SP9以北	43.7			ねじ立て	鉄泥	Ⅱ 3C b	鉢い橙	越前			199804-D107
	P341	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SP9以北	12.3		2.2	手づくね		B群	浅黄橙		B類		199804-D101
	P342	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SP9以北	18.6			手づくね		B群	海綿骨片 灰白		B類		199804-D102
66	P343	磁器	碗	長屋台下層	VI面	11.9			ロクロ	青花	2B b	灰白	中国 漳州系	森Va類	漆継	199804-B040
	P344	磁器	碗	長屋台下層	VI面 SP10・sp7間	12.8			ロクロ	青花	2B b	白	中国 漳州系			199804-B026
	P345	磁器	皿	長屋台下層	VI面				ロクロ	青花	1A a	白	中国 景徳鎮系		被熱	199804-B027
	P346	磁器	皿	長屋台下層	VI面 SP9・10間	11.5	6.0	2.9	ロクロ	白磁	2B b	灰白	中国 景徳鎮系	小野C群		199804-D055
	P347	磁器	皿	長屋台下層	VI面 南端	11.2			ロクロ	白磁	2B b	灰白	中国 景徳鎮系	小野C群		199804-D060
	P348	磁器	皿	長屋台下層	VI面		(7.6)		ロクロ	青磁	1A b	白	中国 景徳鎮系	小野D群?	外面底部白磁(裏白)	199804-D058
	P349	陶器	碗	長屋台下層	VI面 SP9	7.8	4.2	4.9	ロクロ	鉄絵＋灰釉(灰)	Ⅰ 2Ba	鉢い橙	肥前		Ⅰ期	199804-B034
	P350	陶器	碗	長屋台下層	VI面 SP10・sp7間				ロクロ	鉄釉(黒)・長石釉	Ⅰ 3B b	灰白	瀬戸・美濃		黒織部香茶碗	199804-D150
	P351	陶器	擂鉢	長屋台下層	VI面 SP9・10間		10.9		ロクロ	鉄釉(鉄泥)	Ⅰ 2C a	灰黄橙	越中瀬戸			199804-D111
	P352	陶器	把手	長屋台下層	VI面 SP9・10間				手づくね		Ⅰ 2Ba	赤褐				199804-D114
	P353	土師器	皿	長屋台下層	VI面 SP10・sp7間	(16.0)					E群	灰黄		C2Ⅰ1a類?	内外面金箔	199804-D144
	P354	土器	台	長屋台下層	VI面	7.8		3.3	ロクロ		E群	鉢い褐			受部径12.7	199804-D113
	P355	土器	焼塩壺	長屋台下層	VI面 SP9・10間	3.8					E群	鉢い橙				199804-D109
	P356	磁器	碗	長屋台下層	VI面下部 sp4下部整地土	10.8			ロクロ	青花	Ⅰ 2B b	白	中国 景徳鎮系			199804-B029
	P357	磁器	皿	長屋台下層	VI面下部 SP9・10間	11.8			ロクロ	染付	Ⅰ 1A b	白	中国 景徳鎮系	小野E群	漆継	199804-B024
	P358	磁器	皿	長屋台下層	VI面下部 sp4下部整地土	11.4			ロクロ	白磁	Ⅰ 2B b	白	中国 景徳鎮系	小野C群		199804-D083
	P359	陶器	壺	長屋台下層	VI面下部 SP9・10間				ロクロ	鉄釉(茶褐)＋灰釉(白濁～暗灰)	Ⅰ 2B b	灰	瀬戸・美濃			199804-D110
	P360	土製品	土錘	長屋台下層	VI面下部 SP9・10間	長4.1	幅3.4	厚3.4			B群	鉢い橙				199804-D106
67	G001	ガラス	牛乳瓶	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区		4.9		型吹き			気泡あり				199701-B020
	G002	ガラス	牛乳瓶	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	2.0			型吹き			気泡あり				199701-D150
	G003	ガラス	ビール瓶	二ノ丸内堀 近代	SD02 1997-1区	2.2										199701-D153
	G004	ガラス	ビール瓶	二ノ丸内堀 近代	SD02 1997-1区		6.6									199701-D152
	G005	ガラス	ラムネ瓶	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	(2.3)			型吹き			気泡あり				199701-B021
	G006	ガラス	ラムネ瓶	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	2.4			型吹き			気泡あり				199701-B023
	G007	ガラス	ラムネ瓶	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区		4.5		型吹き			気泡あり				199701-B024
	G008	ガラス	ラムネ瓶	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区		3.6		型吹き			気泡あり	イギリス			199701-B022

第18表　出土遺物観察表　瓦1

単位:cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
69	T001	軒丸	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎攪乱) 1997-2区	燻	巴Ⅱ-1b?	(15.3)	(10.9)	(7.5)	1.5	珠径0.6								Bc2 灰白		199701-D080
	T002	軒丸	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	燻	巴(右巻)				2.4	珠径0.8								Ba2w 灰白		199701-D020
	T003	軒丸	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	燻	梅鉢Ⅰ	(17.2)	11.6		3.0	花弁径2.4								Ba1 灰白		199701-D129
	T004	軒丸	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬	梅鉢Ⅲ	16.0	11.7		3.0	花弁径3.0 花芯径2.2						2.8		Ba1w にぶい黄橙、釉調 黒	八幡	199701-D041
	T005	軒丸	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬	梅鉢Ⅲ	16.2	12.0		3.3	花弁径3.0 花芯径2.2								B2w 橙、釉調 黒	八幡?	199701-D053

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	体部厚さ	胎土	特記事項	実測番号
69	T006	軒平	二ノ丸内堀 近代	SD06 1997-1区	燻	三葉Ⅲ			4.0			2.7	4.3	1.7	2.6		2.2	Cb2 灰白		199701-D030

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
69	T007	軒桟(小丸)	二ノ丸内堀 近代	SD02 1997-1区	燻	菊	8.4	6.2		1.6									C2 灰黄		199701-D283

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	瓦当 a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	体部厚さ	胎土	特記事項	実測番号
69	T008	軒桟	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	釉薬	玉Ⅱ				7.4		2.8	5.0	3.2	1.8			B2 にぶい褐色、釉調 黒	「〇八」刻印、八幡	199701-D029
	T009	軒桟	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	釉薬	玉Ⅲ				6.4		2.5	4.3	2.8	2.2	3.0	1.9	Bc にぶい橙、釉調 黒	八幡	199701-D023
	T010	軒桟	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬	菊Ⅰ				6.2		2.6	5.1	3.5	2.1	2.5	1.9	B2 橙、釉調 紫		199701-D050
	T011	軒桟	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	釉薬	菊Ⅱ						2.6	5.1		2.0			Ba2 にぶい橙、釉調 紫系(茶色)		199701-D139
	T012	軒桟	二ノ丸内堀 近代	ST03基盤層 1997-1区	釉薬	菊Ⅳ						2.8	4.2	2.5	1.9		2.0	Ab2w 橙、釉調 紫		199701-D146
	T013	軒桟	二ノ丸内堀 近代	ST03基盤層 1997-1区	釉薬	桜						3.2	5.0	3.1	1.7		1.9	A2 にぶい橙、釉調 黒褐(灰)		199701-D147
	T014	軒桟	二ノ丸内堀 近代	SD02 1997-1区	釉薬	桜						2.6	4.5	2.4	1.6	2.7	2.1	Bc2 にぶい橙、釉調 紫系(茶色)		199701-D022・D027

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法	胎土	特記事項	実測番号
69	T015	小丸付き軒桟	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬	小丸:梅鉢Ⅲ 軒平:三田類	小丸a8.9 b6.8 d1.9 花弁1.8 花芯1.4 軒平瓦当e13.6 g4.3 f2.3 h2.3 i1.6 j2.6 体部h4.1 g3.5 厚1.9	B1 黄橙、釉調 黒系(濃緑)	孔径0.4	199701-D051

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
70	T016	丸	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	燻			3.3		9.1	2.9		C2 灰白	コビキB、刺縫痕、紐痕		199701-D018
	T017	丸	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎攪乱) 1997-2区	燻					8.5	2.3	5.8	B2 灰白	コビキB、紐痕		199701-D076
	T018	丸	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	燻		18.0	3.6	15.0	8.0	2.0	4.0	A2 灰	コビキB?、刺縫痕、紐痕	孔径1.6	199701-D045
	T019	丸	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎攪乱) 1997-2区	燻			3.7		9.1	2.8	7.2	A2 灰白、黄灰も混じる	刺縫痕、指オサエ	刻印	199701-D077
	T020	丸	二ノ丸内堀 近代	ST02基盤層 1997-1区	釉薬						2.1		B2 にぶい橙、釉調 黒	コビキB	「〇へ」刻印	199701-D137
71	T021	丸	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬			4.2		5.3	1.7	2.3	B1 淡黄橙、釉調 紫系?	コビキB、棒状圧痕	孔径0.5、全面施釉	199701-D043
	T022	丸	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬		14.1	2.6	12.0	6.6	1.8	4.2	B2 橙、釉調 紫		玉縁部を除く表面施釉	199701-D052
	T023	丸	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬		14.6			6.9	1.7		Bc2 淡黄橙、釉調 黒系(濃緑)	コビキB		199701-D131
	T024	丸	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	釉薬								B2 にぶい橙、釉調 黒	コビキB	孔径0.9	199701-D026
	T025	丸	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	釉薬						1.8		Bc2 橙、釉調 紫	棒状圧痕	孔径0.9	199701-D143

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
71	T026	平	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎攪乱) 1997-2区	燻				1.5	2.3	Ba2 灰白		199701-D078
	T027	平	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬				2.5	1.8	A1w 橙、釉調 紫系?	「〇八」刻印	199701-D128

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	h	i	胎土	特記事項	実測番号
72	T028	桟	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	燻									2.0	Ba1 灰		199701-D130
	T029	桟	二ノ丸内堀 近代	ST03基盤層 1997-1区	燻									2.0	B1 灰白	「一」刻印	199701-D145
	T030	桟	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎攪乱) 1997-2区	燻										B1 黄灰		199701-D081

第19表　出土遺物観察表　瓦2

単位:cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部)									胎土	特記事項	実測番号
						a	b	c	d	e	f	g	h	i			
72	T031	栓	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	軸裏									1.8	B1 にぶい橙、軸調 黒	「○カ」刻印	199701-D024
	T032	栓	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	軸裏	31.2	32.4					2.5	3.8	2.0	Ba2w 橙、軸調 紫系(灰)	「○」刻印	199701-D042
	T033	栓	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	軸裏							2.5	3.2	2.0	Ba1 にぶい橙、軸調 紫系(灰)		199701-D021
	T034	栓	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	軸裏									2.0	Ab2w 橙、軸調 紫系(灰)	「○大」刻印	199701-D144
	T035	栓	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	軸裏							2.6		1.9	Ch2 橙、軸調 黒		199701-D028

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法	胎土	特記事項	実測番号
72	T036	鬼瓦	二ノ丸内堀 近代	SB01(大字校舎視点) 1997-2区	焼	珠径0.5 瓦当径17.5 文様区径13.6 内区径9.5 珠文径1.0	B2w 灰白	巴右巻	199701-D074
	T037	鬼瓦?	二ノ丸内堀 近代	SB01(大字校舎視点) 1997-2区	焼		Bc2 灰白		199701-D079
	T038	鬼瓦?	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	軸裏	厚1.8	B2 にぶい橙、軸調 黒		199701-D044
73	T039	棟瓦	二ノ丸内堀 近代	SB01(大字校舎視点) 1997-2区	焼		B1 灰白	刻印	199701-D082
	T040	棟瓦	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	軸裏	厚1.8	B2w 橙、灰福在、軸調 紫系(茶色)		199701-D025
	T041	棟瓦	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	軸裏	厚2.0	B2 にぶい橙、軸調 黒	「○カ」刻印、孔径0.6	199701-D149
	T042	熨斗	二ノ丸内堀 近代	SB01(大字校舎視点) 1997-2区	焼	幅12.5、厚2.0	Bc2w 灰		199701-D075
	T043	熨斗	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	軸裏	全長22.8 厚1.7 幅24.0	B2w 灰、軸調 黒	未分割?	199701-D049
	T044	谷丸瓦	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	軸裏		B2 にぶい橙、軸調 黒系(濃緑)		199701-D142
	T045	棟込?	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	焼	厚1.1	Ch2 灰白		199701-D019
	T046	腰瓦	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	焼	全長26.8 厚2.2	B2w オリーブ黒	縦長回	199701-D046
	T047	腰瓦	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	焼	厚2.3	Ba1w 橙	櫛目	199701-D141
	T048	腰瓦	二ノ丸内堀 近代	SD06 1997-1区	焼	厚2.4	B2w オリーブ黒・にぶい褐・灰		199701-D031
	T049	腰瓦	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	焼	厚2.0	Ba1 黄灰・にぶい黄橙	側辺中央凹面不明瞭	199701-D033

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当)					寸法(体部)							胎土	特記事項	実測番号
							a	b	c	d	珠文径他	a	b	c	d	e	f	g			
74	T050	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	焼	巴Ⅱ-1b	(15.0)	(11.0)	(9.5)									2.4	B1 灰白		199701-D102
	T051	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-4区	焼	巴Ⅱ-2b	15.0	11.0	7.4	2.3	珠径0.5								Ch2 灰白	巴文の尾翼がる	199701-D047
	T052	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	焼	巴Ⅱ-2b	(14.8)	(11.0)	7.2	2.1	珠径0.6								Ba2 灰白		199701-D133
	T053	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	焼	巴Ⅲ-1a													Ba2w 灰白		199701-D244
	T054	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	焼	巴Ⅲ-1a	15.4	10.8	7.5	2.3									Bc2w 黒		199701-D085
	T055	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	焼	巴Ⅲ-1a												2.2	Bc2 灰白		199701-D101
	T056	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	焼	巴Ⅲ-1b	14.6	10.7	7.0	1.8									C2 灰白	巴文の尾翼がる	199701-D243
	T057	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	焼	巴Ⅲ-2	17.9	13.9	(10.8)	2.3	珠径0.9							2.6	A2w 黄灰		199701-D083
	T058	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	焼	巴(右巻)	(15.6)	(11.2)	(9.8)	2.7									Ba1 灰黄		199701-D239
	T059	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	焼	梅鉢1	(16.3)	(11.0)			花弁径2.4								C2w 灰白		199701-D115
	T060	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	焼	梅鉢Ⅱ-2	(18.1)	(14.1)			花弁径3.2								Ch2 灰白		199701-D238
	T061	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	鉄錆	巴(右巻)	16.2	12.8										2.3	C1 灰褐、軸調 灰赤	越前	199701-D084
75	T062	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-4区	軸裏	梅鉢Ⅲ	16.3	11.9		2.8	花弁径3.0 花芯径2.2							2.0	C1w 暗赤褐、軸調 黒	孔径1.2	199701-D001
	T063	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	軸裏	梅鉢Ⅲ	14.9	10.9		2.4	花弁径2.6 花芯径1.9								Ab2w 灰色系、軸調 黒		199701-D002
	T064	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-6区	軸裏	梅鉢Ⅲ	16.5	11.4		2.8	花弁径2.8 花芯径2.1								Ba2w 橙、軸調 黒系(暗灰)		199701-D003
	T065	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	軸裏	梅鉢Ⅲ	16.1	11.4		2.7	花弁径2.7 花芯径2.4							2.0	B1w 淡黄橙、軸調 黒	孔径1.6、八幡	199701-D090
	T066	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部	軸裏	梅鉢Ⅲ	15.9	10.7			花弁径2.6 花芯径1.7								Ba2 橙、軸調 黒	瓦当孔径0.5	199701-D089
	T067	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-4区	軸裏	梅鉢Ⅲ	15.0	10.6										1.8	B2w 黒色系、軸調 黒		199701-D174
	T068	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	軸裏	梅鉢Ⅲ	(16.2)	(12.2)		2.8	花弁径3.5								C2w にぶい橙、軸調 黒		199701-D124

第20表　出土遺物観察表　瓦３

単位:cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	体部厚さ	胎土	特記事項	実測番号
75	T069	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 上居 1997-4区	燻	梅鉢 1-2				4.9		3.1	4.6	0.6			3.2	Cb1w 褐灰		199701-D111
	T070	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 上居 1997-4区	燻	梅鉢				4.6		2.1	2.4	1.8	1.9		2.3	C2 灰		199701-D108
	T071	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻	三葉葵						2.8	4.4	1.5	2.0		1.8	Cb2w 灰白		199701-D094
	T072	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻	三葉											1.4	Cb2 灰白	刻印	199701-D096
	T073	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	燻	巴下型五葉				6.7							2.2	Bc2w 灰		199701-D109
	T074	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-4区	燻	花文Ⅱ											2.2	C2 灰		199701-D113
	T075	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻	花文									1.8			Bl2 灰白		199701-D248
	T076	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻	花文				2.9					2.3			Bc2 灰白		199701-D247
	T077	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻	梅鉢 1-2						2.8	4.8		1.9			Cb1 灰		199701-D093
	T078	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-1区	釉薬	玉Ⅱ			6.5			2.8	4.9	3.2	2.3	2.6	2.0	Cb2w にぶい橙, 釉調 黒	押平瓦か?	199701-D140
	T079	軒平	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-5区	釉薬	玉Ⅲ類	27.0	26.0	8.2	6.4	12.4	2.8	5.0	3.2	1.8	2.6	1.7	Bl2 にぶい橙, 釉調 黒	「○八」刻印	199701-D088

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	寸法(体部) e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
75	T080	軒桟瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻	巴(左巻)	11.6	9.4	7.8	2.0	磨滅0.8			Cb2 灰白		199701-J001
	T081	軒桟瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻	菊	(8.6)							Bc2 灰白		199701-J002

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
76	T082	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻		16.1		12.4	7.3	2.2	4.5	Cb2 黄灰	コビキB, 斜縫痕	孔径1.1	199701-D099
	T083	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻			4.7		6.5	2.0	5.7	Cb1 灰白	コビキB, 斜縫痕, 棒状圧痕		199701-D125
	T084	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻		15.7	3.3	12.6	7.5	2.5	5.1	Cb2 灰	斜縫痕, 粗痕	孔径1.2	199701-D100
	T085	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻		14.6	3.4	12.0	7.1	2.0	4.4	Cb1w 灰	コビキB, 斜縫痕		199701-D241
	T086	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻		14.3			7.3	2.3	7.3	Bl2 灰白	コビキB		199701-D134
	T087	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻		16.0	3.3		7.5	2.2	4.4	C2 灰白	コビキB, 斜縫痕, 粗痕	孔径1.4	199701-D086
	T088	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻						2.3		Cb2 灰白	コビキB, 粗痕		199701-D240
	T089	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻		16.3	3.7		7.1	2.2	4.4	C2 灰白	コビキB, 粗痕		199701-D087
	T090	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻						2.0		Bc2 灰白			199701-D245
77	T091	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻		17.1	3.4		8.1	2.4	4.9	B1 オリーブ黒-灰	斜縫痕		199701-D091
	T092	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	燻			3.7		9.1	2.1	4.5	Cb2 灰	斜縫痕	「○上?」刻印	199701-D119
	T093	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻			4.0	14.1	8.5	2.4	5.1	Cb2 灰	コビキB, 棒状圧痕		199701-D126
	T094	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	燻					9.0	1.9		Ba1w 灰白	コビキB		199701-D114
	T095	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	燻					8.0	2.2	3.9	B1 灰-橙-明褐	コビキB, 斜縫痕		199701-D120
	T096	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	燻		17.0	4.5	13.3	8.5	2.1	5.1	Bl2 灰白	コビキB, 斜縫痕		199701-D118
	T097	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻	31.0		3.7			2.0		C1 にぶい褐, 灰も混じる	斜縫痕	「○松」刻印	199701-D242
	T098	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	釉薬			3.5		7.5	2.4	4.8	Ba2 にぶい赤褐, 釉調 黒		孔径1.9	199701-D123

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
78	T099	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 下居 1997-2区	燻					2.2	Bc1 灰		199701-D104
	T100	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					1.8	Cb2 灰白		199701-D230
	T101	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.5	Cb1 灰白		199701-D231
	T102	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.1	C1 灰白	刻印	199701-D232
	T103	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.1	C2 灰白		199701-D234
	T104	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.2	Cb2 灰黄		199701-D235
	T105	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.4	Cb1 灰		199701-D236
	T106	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.2	Cb2 灰白		199701-D237
	T107	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.1	Bc1 灰白		199701-D246
	T108	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.2	Cb2 灰白	孔径1.1	199701-D233
	T109	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-2区	燻					2.1	Bc1 灰白	「○八」刻印	199701-D229
	T110	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	燻					1.8	Bl2w 灰白	「□上」刻印	199701-D122

第21表　出土遺物観察表　瓦4

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	h	i	胎土	特記事項	実測番号
79	T111	桟	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻									1.9	B1 灰白		199701-D098
	T112	桟	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻									1.8	B1 灰		199701-D095
	T113	桟	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻			4.4						2.1	B1 灰		199701-D116
	T114	桟	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	釉薬	31.5	31.7			4.9	4.0	3.6	3.7	2.1	Ba1w 橙、釉調 紫		199701-D107

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法	胎土	特記事項	実測番号
79	T115	鬼瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	燻		B2w 灰		199701-D117
	T116	熨斗?	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	燻	厚1.9	B1w 黄灰		199701-D112
	T117	棟瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	釉薬	全長26.2 全幅22.1 厚1.8 孔径0.8	B2 橙、釉調 紫系(茶色)		199701-D106
	T118	熨斗	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	釉薬	全長24.2 高12.2 厚1.8	B2 にぶい橙、釉調 紫系(茶色)	孔径0.8(貫通していない)	199701-D105
80	T119	棟込	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	燻	高5.3、厚2.1	B1 灰白		199701-D148
	T120	棟込	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻	厚1.8	C2 灰白		199701-D092
	T121	棟込	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	鉄泥	全長13.8 高8.4 厚2.3	B1 橙、釉調 茶色	越前	199701-D103
	T122	腰瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-7区	燻	厚2.3	Cb1w 灰白	「昭和廿三年度修繕」「瓦又」刻印	199701-D175
	T123	腰瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	燻	厚2.6	B2 にぶい橙	縦長凹	199701-D121
	T124	腰瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻	全長28.1 厚2.2	?(完形のため胎土の詳細不明) 灰	円形凹B	199701-D097
	T125	腰瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻	全長28.7 厚2.4	Cb2 灰白	円形凹B	199701-D135
	T126	腰瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	燻	全長28.1 厚2.2	B2w 灰	縦長凹	199701-D048
	T127	腰瓦	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	燻	全長28.9 厚3.0	Ba2 灰	縦長凹	199701-D110

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
81	T128	丸	二ノ丸内堀 西部北岸～中央部東岸北端	gトレンチ 石垣裏込 1997-7区	釉薬						1.6		Ba2 橙、釉調 黒系(灰)	布縫痕	玉縁部を除く表面施釉	199901-D005

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
81	T129	平	二ノ丸内堀 西部北岸～中央部東岸北端	bトレンチ 土羽貼付土 1997-5区	燻					2.0	Ab1w 灰白		199901-D009

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	体部厚さ	胎土	特記事項	実測番号
81	T130	軒平	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	燻	梅鉢II-1						3.0	5.2		2.0			Cb1 灰白		199701-D038

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
81	T131	丸	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	燻		16.5	3.9	13.5	7.1	1.8	4.3	Cb2 灰黄	コビキB、布縫痕、糸痕、指オサエ		199701-D040
	T132	丸	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	釉薬		15.4	3.6	12.7	7.2	1.9	4.5	A2 にぶい橙、釉調 茶	布縫痕	表面施釉	199701-D127

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	h	i	胎土	特記事項	実測番号
81	T133	桟	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	燻									1.9	B1 灰白		199701-D037

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法	胎土	特記事項	実測番号
81	T134	鬼瓦	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	燻		Cb2 灰白		199701-D136
	T135	腰瓦	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	燻	厚2.4	Cb1 灰白	二つ巴刻印、円形凹A	199701-D039
	T136	鬼瓦?	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	釉薬		B2 にぶい橙、釉調 黒		199701-D036

第22表　出土遺物観察表　瓦５

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
82	T137	軒丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	巴Ⅰ-1	16.4	11.5	7.6	2.2	珠径0.9						2.2		C1 灰白		199701-D060
	T138	軒丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	巴Ⅱ-1b	15.3	11.0	7.5	2.1	珠径0.7						2.3		Cb1 灰白		199701-D058
	T139	軒丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	巴Ⅱ-2b	14.8	10.8	7.2	2.1	珠径0.4								C2 灰白	巴文の尾繋がらない	199701-D138
	T140	軒丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	巴Ⅲ-1a	17.9	13.4	9.5	2.1	珠径0.6								Bc2 灰白		199701-D061

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
82	T141	軒丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	巴Ⅲ-2a	15.3	11.2	7.6	2.6	珠径0.7								Bc2 灰白		199701-D132
	T142	軒丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	梅鉢				2.5									C2 灰白		199701-D066
	T143	軒丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	鉄泥	巴(右巻)	16.6	13.3	8.6	2.4	珠径0.5								C2 灰色系、釉調 茶	越前	199701-D056
	T144	軒丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	釉薬	梅鉢Ⅲ	16.0	11.6		3.3	花弁径2.8 花芯径2.2								B2 褐灰、釉調 黒系(濃緑?)	八幡	199701-D054

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	体部厚さ	胎土	特記事項	実測番号
82	T145	軒平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	桐文			2.9			2.9	2.0	3.0	1.7		1.9	C2 灰白		199701-D073
	T146	軒平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	三葉Ⅲ												B2 橙、灰白も混ざる		199701-D057
	T147	軒平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	三葉Ⅴ系統						2.2	3.9	1.4			2.1	Cb1 灰白・黄灰	河北門分類三葉文Ⅴに類似	199701-D072
	T148	軒平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	花文Ⅲ						2.5	4.4	2.0	2.5		1.9	B2w 灰		199701-D070
	T149	軒平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	垂下型五葉						2.8	4.5	1.8	2.4	1.8	2.0	C1 灰白、橙も混じる		199701-D071

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
83	T150	丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻			3.0		8.3	2.2	5.0	Cb2 灰白	コビキB、紐痕		199701-D063
	T151	丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻			3.5	12.0	6.9	1.9	3.9	C1 灰・灰白・にぶい橙	コビキB、刺縫痕、紐痕		199701-D065
	T152	丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻			4.3		8.4	2.5	4.7	A2w 灰	刺縫痕、棒状圧痕		199701-D064
	T153	丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	鉄泥		15.0	5.0	12.3	7.3	2.1	5.0	C1 灰色系、釉調?(多色混在)	コビキB、刺縫痕、紐痕	孔径1.9、越前、玉縁を除く表面施釉	199701-D055

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
83	T154	平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻					2.4	Cb2 灰		199701-D068
	T155	平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻				3.1	2.2	A1 灰白		199701-D069

第23表　出土遺物観察表　瓦６

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法	胎土	特記事項	実測番号
83	T156	鳥伏間	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-25K	焼	巴文 文様区径10.8 珠文径0.9	Cb2 灰	巴Ⅱ-1a	199701-D062
	T157	鳥伏間	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-25K	焼	巴文 瓦当径15.5 文様区径11.1 珠文径0.9	Cb2 灰白	「○＝」刻印、巴Ⅱ-2b	199701-D059
	T158	輪込	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-25K	焼	厚1.6	B1 灰白、褐も混ざる		199701-D067

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
84	T159	丸	二ノ丸内堀 石垣	南門土橋石垣西面(2230W) 1997-25K	焼				8.5	2.9			B2 灰	コビキA		199701-D035

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
84	T160	平	二ノ丸内堀 石垣	南門土橋石垣西面(2230W) 1997-25K	釉薬				1.9	Ab2w にぶい褐色、釉調 紫			199701-D032
	T161	平	二ノ丸内堀 石垣	南門土橋石垣西面(2230W) 1997-25K	釉薬				1.8	Cb2w 暗灰、釉調 黒	孔径0.4		199701-D034

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
84	T162	軒丸	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P05 1997-25K	焼	巴Ⅱ-1b	(15.1)	(11.0)	7.4	2.1									Cb2 灰白		199701-D225

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
84	T163	丸	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P05 1997-25K	焼						1.9		Bc2w 灰白			199701-D226
	T164	丸	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P06 1997-25K	焼			3.5			2.2		Bc2 灰白	コビキB、刺毬痕		199701-D222

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
84	T165	平	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P05 1997-25K	焼					1.8	Bc1 灰白		199701-D224
	T166	平	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P06 1997-25K	焼					2.0	B1 灰白		199701-D223

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
85	T167	軒丸	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区	焼	巴Ⅱ-1a	(16.2)	(11.6)	(9.6)	2.3	珠径0.4								B2w にぶい黄橙		199804-D126
	T168	軒丸	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区	焼	巴Ⅲ-1a	(17.4)	(13.4)	(11.0)	2.9	珠径0.6								Ba2w 灰白		199804-D134
	T169	軒丸	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅲ区	焼	巴(右巻)	(16.2)	(12.2)	(9.6)	3.0	珠径0.5								C1 灰黄		199804-D127

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	体部厚S	胎土	特記事項	実測番号
85	T170	軒桟	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	釉薬	玉						2.4	4.3	2.6	2.0		1.8	Bc2 にぶい橙、釉調 黒	「○方」刻印	199804-D133

図版	番号	器種	区名	出土地点	表面処理	寸法	胎土	特記事項	実測番号
85	T171	鬼瓦	櫓(長屋)台上面	橋爪門続櫓	焼	厚5.7	Cb2 にぶい黄橙	雛目	199804-D132

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
85	T172	軒丸	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 整地土	焼	巴(右巻)													B2 灰白		199804-D137

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	体部厚S	胎土	特記事項	実測番号
85	T173	軒平	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 整地土	焼	三葉Ⅲ											1.8	C2 灰白		199804-D136
	T174	軒平	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 整地土	焼	三葉Ⅳ											1.8	2.5	C1 浅黄		199804-D135
	T175	軒平	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 整地土	焼	三葉											1.9		C2 灰白		199804-D129
	T176	軒平	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 整地土	焼	三葉											1.8		C2 灰白		199804-D130
	T177	軒平	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 整地土	焼	花文											1.9		Cb2 浅黄		199804-D128

第24表　出土遺物観察表　瓦 7

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法	胎土	特記事項	実測番号
85	T178	軒瓦	二ノ丸階段		焼	厚1.8	B1 灰白	横目、雲母多い	199804-D125
	T179	熨斗瓦	三ノ丸3次	南西区ピット	釉薬	厚1.8	B1 橙、釉調 黒系	孔径0.5	199908-D008

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	体部厚S	胎土	特記事項	実測番号
85	T180	軒平	三ノ丸3次	北区南半 地山上盛土	焼	二葉?											2.3	C2 灰白		199908-D010
86	T181	軒平	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土	焼	飾文											B2 橙		被熱、赤化	199804-D151
	T182	軒平	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 III面直上層 SP10以南	焼	飾文						2.3	4.0	2.4	2.2		C2 浅黄			199804-D116
	T183	軒平	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 ロ1576裏込	焼	三葉 II						2.8	4.4	1.2	2.5		2.9	A2w 浅黄		199804-D120

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法	胎土	特記事項	実測番号
86	T184	腰瓦	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 玄関際造成土 黒区	焼	厚2.2	Ba2 灰白		199804-D118
	T185	腰瓦	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 III～IV面 SP9・10間	焼	厚2.4	Ba2w 灰白、に ぶい 橙も混じる	方形回	199804-d003

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
86	T186	軒丸	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 宮永期造成土	焼	巴(右巻)	(16.9)	(12.6)	(9.7)	3.0	珠径0.3								Ba2 灰白		199804-D124
	T187	軒丸	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宮永期造成土 SP9	焼	巴(左巻)	(16.9)	(10.9)	(9.7)		珠径0.4						2.3		Cb2w 灰		199804-D119

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
86	T188	丸	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 宮永期造成土	焼			4.6		7.8	2.6	4.6	B2 灰白	コビキA		199804-D117
	T189	丸	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台	焼						2.5		B2w 灰白	コビキB		199804-D121
	T190	丸	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 宮永期造成土	焼		8.2				2.3	5.3	B2 灰白	斜縫痕、粘痕		199804-D122

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
86	T191	平	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 宮永期造成土	焼					2.0	Ch1 灰白		199804-D123
87	T192	平	内堀櫓北詰下層	SX01 北 1997-2区	焼					2.3	Ch2 にぶい黄		199701-D267
	T193	平	内堀櫓北詰下層	SX01 北 1997-2区	焼					2.6	Ch2 灰白		199701-D266
	T194	平	内堀櫓北詰下層	SX01 中央 1997-2区	焼					2.0	Ch2 灰黄		199701-D269
	T195	平	内堀櫓北詰下層	SX01 中央 1997-2区	焼					2.5	Ch2 灰白		199701-D268

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
87	T196	軒丸	櫓爪一ノ門下層	上部 中央西 1997-2区	焼	巴III-2													B2w 灰白		199701-D210

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
87	T197	丸	櫓爪一ノ門下層	上部 中央東 1997-2区	焼						2.0		C1 灰白	コビキB、斜縫痕		199701-D201
	T198	丸	櫓爪一ノ門下層	上部 中央西 1997-2区	焼						2.7		B2 灰白	コビキA		199701-D209

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法	胎土	特記事項	実測番号
87	T199	腰瓦	櫓爪一ノ門下層	上部 中央西 1997-2区	焼	長330.5 厚2.6	Ch1 灰白	円形回A	199701-D208

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
87	T200	丸	櫓爪一ノ門下層	下部 1997-2区	焼						1.9		C2 灰白			199701-D186
	T201	丸	櫓爪一ノ門下層	下部 東 1997-2区	焼						1.8		Bc2w 灰			199701-D187

第25表　出土遺物観察表　瓦８

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
87	T202	平	橋爪一ノ門下層	下部 中央東 1997-2区	焼					2.5	Ch1 灰白		199701-D202

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	瓦当	寸法(瓦当) a	b	c	d	珠文径他	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	特記事項	実測番号
87	T203	軒丸	橋爪一ノ門下層	西 1997-2区	焼	巴					1.8 珠径0.5								C2 灰		199701-D014

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
87	T204	丸	橋爪一ノ門下層	西 1997-2区	焼						2.9		Ba1 灰			199701-D015
	T205	丸	橋爪一ノ門下層	西 1997-2区	焼					7.5	2.5		Ch2 暗灰	ヨビキB		199701-D017

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
87	T206	平	橋爪一ノ門下層	西 1997-2区	焼					2.7	Ba1 灰・灰オリーブ		199701-D016

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
88	T207	丸	長屋台下層	V面下部 SP9以北	焼						2.4		B2 灰白	ヨビキB		199804-D138
	T208	丸	長屋台下層	V面下部 SP9以北	焼						2.1		Ch2w 灰	ヨビキB		199804-D139

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
88	T209	平	長屋台下層	V面下部 SP9以北	焼					2.2	Ba1w 灰	黒痕	199804-D140

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	f	g	胎土	内面調整	特記事項	実測番号
88	T210	丸	長屋台下層	VI面 SX02	焼			5.3		7.7	2.6	5.1	B2 灰白	ヨビキA	孔径1.8	199804-D145

図版	番号	器種	地区	出土地点	表面処理	寸法(体部) a	b	c	d	e	胎土	特記事項	実測番号
88	T211	平	長屋台下層	VI面 南端	焼					2.2	Bc2 灰黄	墨書	199804-D143

第26表　出土遺物観察表　瓦９　拓本刻印

単位：cm

図版	番号	器種	区名	出土地点	表面処理	瓦当	寸法	胎土分類	刻印種類	特記事項	実測番号
89	T212	丸	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	燻		玉縁高4.3	B2 灰白	「○上」陽刻	刺縫痕	199701-D297
	T213	丸	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎攪乱) 1997-2区	燻		玉縁高4.9 体部厚2.2	B1 灰白～にぶい黄橙	笠? 陰刻	コビキB、棒状圧痕	199701-D322
	T214	丸	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎攪乱) 1997-2区	燻			Ba2 灰白～にぶい黄橙	馬蹄? 陰刻	刺縫痕	199701-D323
	T215	平	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	燻		体部厚1.5	B2w 褐灰	「○?」陽刻、「六」に類似		199701-D317
	T216	平	二ノ丸内堀 近代	ST01基盤層 1997-1区	燻		体部厚1.7	Bc2 にぶい黄橙	「○一」陰刻		199701-D298
	T217	桟	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	釉薬		体部厚1.8	B2 橙、釉調 黒	「○カ」陰刻		199701-D319
	T218	桟	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬		桟部弧深2.9 体部厚1.7	B1 橙、釉調 黒	「○カ」陰刻		199701-D308
	T219	桟	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	釉薬		体部厚1.9	A2w 褐灰 釉調 黒	「○八」陰刻		199701-D320
	T220	桟?	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	釉薬		体部厚1.8	C2 にぶい黄橙、釉調 黒系(深緑)	「○カ」陰刻		199701-D318
	T221	腰	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	燻		体部厚1.8	Cb2 灰白	「○×」陽刻	円形凹A	199701-D316
	T222	腰	二ノ丸内堀 近代	SB01(大学校舎攪乱) 1997-2区	燻		体部厚2.2	Bc1 灰白	二つ巴陰刻		199701-D324
	T223	軒丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	釉薬(高温)	梅鉢Ⅲ	花弁径3.4	B2w 褐灰、釉調 黒	「○□」陰刻		199701-D321
	T224	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	燻		玉縁長5.1 体部厚2.1	C2 灰白	「□上」陰刻	刺縫痕	199701-D296
	T225	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻		玉縁高3.4 体部厚2.8	B2 灰白	四菱		199701-D313
	T226	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻		体部厚2.0	C2 灰白	「○上」陰刻	刺縫痕	199701-D314
	T227	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻		体部厚2.0	B2 にぶい黄橙	「○上」陰刻	刺縫痕	199701-D284
90	T228	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	燻		玉縁高3.7 体部厚1.9	Bc1 灰白	「○」陰刻	刺縫痕、棒状圧痕	199701-D309
	T229	丸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	燻		体部厚1.9	Bc1 灰	「○」陰刻	刺縫痕	199701-D310
	T230	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	燻		体部厚2.0	Bc2 灰白・黄橙	「□上」陰刻		199701-D290
	T231	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	燻		体部厚1.9	Bc2 灰白	「□上」陰刻		199701-D291
	T232	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	燻		体部厚1.8	Bc1 浅黄橙	「□上」陰刻		199701-D292
	T233	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	燻		体部厚1.9	B1w 浅黄橙	「□上」陰刻		199701-D294
	T234	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	燻		体部厚2.1	C1 灰白	「□上」陰刻		199701-D300
	T235	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	燻		体部厚1.8	B2 灰白	「○×」陽刻		199701-D293
	T236	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	燻		体部厚2.0	Cb1 灰白	一陰刻		199701-D295
	T237	平	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	燻		体部厚1.7	Cb2 褐灰	団扇? 陰刻		199701-D301
	T238	平?	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	釉薬		体部厚1.7	B2 橙、釉調 黒	「○二」陰刻		199701-D303
	T239	平?	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	釉薬		体部厚1.5	B1w にぶい橙、釉調 黒	「○カ」陰刻		199701-D302
	T240	平?	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	釉薬		体部厚1.8	B1 橙、釉調 黒系?(赤み)	「○カ」陰刻		199701-D305
	T241	面戸	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	釉薬			B2w にぶい橙、釉調 黒	「○カ」陰刻		199701-D304
	T242	腰	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻		体部厚2.3	Bc1 灰黄	二つ巴陰刻		199701-D299
	T243	腰	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	燻		体部厚2.2	Bc1 灰白	二つ巴陰刻	円形凹A	199701-D315
91	T244	軒平	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	釉薬	玉Ⅱ	瓦当厚4.9 文様区厚2.8 顎厚1.7 顎高2.9 体部厚1.8	B2w 橙、釉調 黒	「○八」陰刻		199701-D307
	T245	平?	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	釉薬		体部厚1.6	B2w 橙、釉調 黒系?(赤み)	「○カ」陰刻		199701-D306
	T246	腰	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	燻		体部厚2.3	B1 灰白	二つ巴陰刻	円形凹A	199701-D311
	T247	腰	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	燻		体部厚2.3	Bc1 灰白	二つ巴陰刻		199701-D312

第27表　出土遺物観察表　瓦10　拓本刻印

単位：cm

図版	番号	器種	区名	出土地点	表面処理	瓦当	寸法	胎土分類	刻印種類	特記事項	実測番号
91	T248	軒平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	三葉苗	左周縁4.0 顎厚2.1 顎高1.6 体部厚2.1	Ba2w 褐灰	「○上」陽刻		199701-D289
	T249	軒平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻	三葉	体部厚2.0	Ab2w 褐灰	(形状不詳)陽刻	上面にスジ痕	199701-D287
	T250	丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻		体部厚2.2	Ch2 灰白	「□上」陽刻	刺縫痕	199701-D285
	T251	丸	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻		体部厚2.0 玉縁部4.5	B2w 褐灰・黄橙	「○菊」陰刻	刺縫痕	199701-D286
	T252	平	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	燻		体部厚2.4	B2w にぶい黄橙	「○上」陽刻		199701-D288
	T253	丸	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区	燻		体部厚2.1 玉縁長3.7	B2w 灰白	(形状不詳)陽刻	刺縫痕	199804-D174
	T254	丸	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	釉薬		玉縁長3.1 体部厚2.0 体部高8.0 玉縁高5.4	Ba2w 褐灰、釉調 黒系(濃緑)	「○八」陰刻	刺縫痕、棒状圧痕	199804-D217
	T255	塼	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ区	燻		体部厚1.9	Ch1 灰白	「□上」陽刻		199804-D169
	T256	塼	櫓(長屋)台上面	不明	燻		体部厚2.0	Ba2 褐灰・にぶい黄橙	「○堺」陰刻		199804-D224
	T257	軒桟?	櫓(長屋)台上面	表採	釉薬		体部厚1.9	C2w 明赤褐、釉調 黒	「特式／金一田標／字部」左右欠損		199804-D189
	T258	丸	櫓(長屋)台上面	五十間長屋 南半 二ノ丸側近代盛土	燻		体部厚2.2	B2 灰白	「○？」陰刻、部分欠	刺縫痕	199804-D221
	T259	桟	櫓(長屋)台上面	菱櫓 北西角付近(櫓底含む)	釉薬		体部厚1.8	Bc2 にぶい黄橙、釉調 黒	「○□」陰刻		199804-D193
	T260	熨斗	櫓(長屋)台上面	菱櫓 北西角付近(櫓底含む)	釉薬		厚2.4	Bc2 橙、釉調 黒	「○カ」陰刻		199804-D192
92	T261	丸	二ノ丸階段		燻		体部厚2.0	Ch2 灰白・にぶい黄橙	「○車輪形」陰刻	刺縫痕	199804-D218
	T262	丸	二ノ丸階段		釉薬		体部厚2.0	C1w 褐灰・橙、釉調 黒	「○」陰刻	棒状圧痕	199804-D175
	T263	塼	櫓(長屋)台内部	犠爪門続櫓台 石垣6段目上面背後	燻		体部厚2.2	B2 灰白	「□上」陰刻		199804-D202
	T264	平	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 南半	燻		体部厚2.0	B2 灰白	「○×」陽刻		199804-D227
	T265	塼	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 北半	燻		体部厚1.9	Ch2 灰白	「□上」陰刻		199804-D229
	T266	塼	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 南半	燻		体部厚2.3	B2 浅黄橙	「□上」陽刻	円形囲A	199804-D197
	T267	塼	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 南半	燻		体部厚2.2	Ba2w 灰黄褐	「○堺」陰刻	最長囲	199804-D154
	T268	塼	櫓(長屋)台内部	菱櫓～五十間長屋台 石垣2段目裏込	燻		体部厚1.9	B1 にぶい黄橙	「○堺」陰刻		199804-D196
	T269	塼	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期以前盛土	燻		体部厚2.1	Ch1 にぶい黄橙	「○堺」陰刻		199804-D172

第28表　出土遺物観察表　瓦11　拓本瓦当

単位：cm

図版	番号	器種	区名	出土地点	表面処理	瓦当	寸法	胎土分類	特記事項	実測番号
93	T270	軒丸	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅲ区	釉薬(高温)	巴(右巻?)	瓦当厚2.2、珠文径1.3	Ab2 明赤褐、釉調 黒		199804-D163
	T271	軒丸	櫓(長屋)台上面	五十間長屋	釉薬(高温)	巴(左巻)	瓦当厚2.5、珠文径1.2	Ba2w 暗灰黄・橙、釉調 黒?(赤み)	卯辰	199804-D223
	T272	軒平	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅲ区	釉薬(高温)	梅鉢	瓦当厚5.2 文様区厚3.1 顎厚2.4 顎高3.2 体部厚1.9	Ba2 橙、釉調 黒系?(赤み、緑)		199804-D166
	T273	小丸付軒桟	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅱ区	釉薬(高温)	梅鉢Ⅲ	瓦当径9.0 文様区6.2 瓦当厚1.9 花弁径1.7 花芯径1.4 顎厚2.1	B2w 褐灰・橙、釉調 黒		199804-D170
	T274	軒丸	櫓(長屋)台上面	排土	釉薬(高温)	梅鉢Ⅲ	文様区径11.5 瓦当厚2.8 花弁径3.3 花芯径2.5	Ba2w 濃い橙、釉調 黒	卯辰	199804-D222
	T275	軒平	櫓(長屋)台上面	五十間長屋 南半 二ノ丸側近代盛土	釉薬	菊	体部厚1.7	B2w 明赤褐、釉調 紫	卯辰	199804-D219
	T276	軒丸	櫓(長屋)台上面	菱櫓 北西角付近(撹乱含む)	燻(被熱)	梅鉢(有軸)	花弁径3.5	B2 橙		199804-D179
	T277	軒丸	櫓(長屋)台上面	菱櫓 北西角付近(撹乱含む)	釉薬(高温)	梅鉢	体部厚1.9 花弁径3.2	B2 橙、釉調 紫		199804-D178
	T278	軒丸	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 撹乱	燻	巴(右巻)	瓦当厚2.0 珠文径0.7	B1 灰白		199804-D164
	T279	軒丸	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 撹乱	燻	巴(右巻)	瓦当厚2.3 珠文径0.6	Cb2 灰白		199804-D165
	T280	軒丸	櫓(長屋)台取付階段	階段③ 整地土	燻	巴(右巻)	瓦当厚2.5 珠文径0.6	B2 灰白		199804-D173
	T281	軒丸	二ノ丸階段		燻	巴(右巻)		B2 灰白～にぶい黄橙		199804-D167
	T282	軒丸	二ノ丸階段		釉薬(高温)	梅鉢(有軸)	体部厚2.0 花弁径3.3	Ba2w 橙、釉調 黒		199804-D162
	T283	軒桟	二ノ丸階段		釉薬(高温)	桜	体部厚1.8	B2w 橙、釉調 紫系(茶?)		199804-D171
	T284	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣15段目裏込	燻	巴Ⅲ-1a	珠文径0.8 体部厚2.3	A2w 灰黄橙		199804-D205
	T285	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 文化期造成土	燻(被熱)	巴Ⅲ-2		B2w 暗灰		199804-D215
	T286	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣15段目南辺裏込	燻	巴Ⅳ		B2 灰白	巴平ら	199804-D208
	T287	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣6段目上面背後	燻(被熱)	巴(右巻)	珠文径0.7	B2w 黒		199804-D201
	T288	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣11段目裏込	燻	巴(右巻)	珠文径0.8	B2w 灰白		199804-D213
	T289	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣12段目裏込	燻	巴(右巻)		Bc2 灰白		199804-D210
	T290	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣13-14段目裏込	燻	巴(右巻)	珠文径0.7	Cb2w 褐灰	裏ナデ強	199804-D203
	T291	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣15段目南辺裏込	燻	巴(右巻)	珠文径0.9 体部厚2.1	B2 灰白		199804-D207
	T292	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 文化期造成土	燻	巴(左巻)		B2 灰白		199804-D200
	T293	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣15段目裏込	燻	巴(左巻)		B2 橙		199804-D206
	T294	軒丸	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣15段目裏込	燻	巴	珠文径0.7	Bc2 灰白		199804-D204
	T295	軒平	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 石垣11段目裏込	燻	桐	体部厚2.4	Bc1 浅黄橙		199804-D209
	T296	軒平	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 文化期造成土	燻	三葉Ⅰ	左周縁4.3 体部厚2.2	Cb2 浅黄橙		199804-D216
	T297	軒平	櫓(長屋)台内部	鉄爪門続櫓台 文化期造成土	燻	三葉Ⅲ?	体部厚2.3	Cb2 浅黄橙		199804-D199
94	T298	軒丸	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層	燻	巴Ⅱ-1a	瓦当厚2.2 珠文径0.9	B2 灰白～にぶい黄橙		199804-D188
	T299	軒丸	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 石垣3段目裏込 北半	燻	巴Ⅱ-1b	珠文径0.8	B2 灰白～にぶい黄橙		199804-D230
	T300	軒丸	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 石垣3段目裏込 北半	燻	巴(右巻)	珠文径0.8	B2 灰白～にぶい黄橙		199804-D231
	T301	軒丸	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 石垣3段目裏込 北半	燻	巴(右巻)	瓦当厚2.6 珠文径0.7	B2 灰白		199804-D232
	T302	軒丸	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 裏込 北半	燻	巴(右巻)	体部厚2.1 珠文径0.7	Bc2 灰黄橙		199804-D234
	T303	軒丸	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以上 北半	燻	巴(右巻)	瓦当厚2.7 珠文径1.0	B2 灰白～にぶい黄橙		199804-D187
	T304	軒丸	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面 宝暦期造成土	燻	巴(右巻)		B2 灰白		199804-D228

第29表　出土遺物観察表　瓦12　拓本瓦当

単位：cm

図版	番号	器種	区名	出土地点	表面処理	瓦当	寸法	胎土分類	特記事項	実測番号
94	T305	軒丸	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 I区 宝暦期造成土	燻	巴(右巻)	体部厚2.3 珠文径0.7	B2 灰白		199804-D168
	T306	軒丸	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 南半	燻	巴	珠文径0.7	B2w 灰白		199804-D226
	T307	軒丸	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 IV面直上層 SP10以南	燻	巴	珠文径0.7	B1w 灰白		199804-D155
	T308	軒丸	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 SP10	燻	巴	体部厚2.1 珠文径0.9	B2 灰白	ナデ	199804-D220
	T309	軒丸	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期石垣裏込	燻	巴		A2 灰白	裏ナデ強	199804-D194
	T310	軒丸	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期石垣裏込	釉薬	巴(右巻)	珠文径0.6	B2 褐灰，釉調 黒	混入か・	199804-D195
	T311	軒平	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期石垣裏込・盛土 北半	燻	三葉V	文様区厚2.0 右周縁5.5 顎厚1.9 体部厚1.7	B1w 暗灰		199804-D233
	T312	軒平	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 II面以上 北半	燻	三葉	顎厚1.6	B2 灰白		199804-D186
	T313	軒平	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 石垣3段目 南半	燻	梅鉢	文様区厚2.6 左周縁5.1 顎厚1.8 顎高3.4 体部厚2.0	B1 灰白		199804-D198
	T314	軒丸	檜(長屋)台内部	菱櫓～五十間長屋台 石垣4段目裏込	燻	巴(右巻)	体部厚1.9 珠文径0.6	Ch2w 灰黄橙		199804-D176
	T315	軒丸	檜(長屋)台内部	橋爪門続櫓台 石垣4段目 裏水期造成土	燻	巴(右巻)		B2 灰白		199804-D185
	T316	軒丸	檜(長屋)台内部	橋爪門続櫓台 裏水期造成土	燻	巴(左巻)		Ch2 灰白		199804-D160
	T317	軒丸	檜(長屋)台内部	橋爪門続櫓台 裏水期造成土	燻	巴	珠文径0.8	Ch2 黄橙		199804-D157
	T318	軒丸	檜(長屋)台内部	橋爪門続櫓台 裏水期造成土	燻	巴	体部厚2.2 珠文径0.6	B2 灰白		199804-D158
	T319	軒平	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 裏水期造成土 南半	燻	三葉 I	瓦当厚4.4 文様区厚2.6 顎厚1.9 顎高1.9 体部厚2.6	B2w 黄灰・にぶい黄橙		199804-D191
	T320	軒平	檜(長屋)台内部	裏水期造成土	燻	三葉III	瓦当厚4.4 文様区厚2.6 左周縁3.5 顎厚2.3 顎高1.7 体部厚3.0	Ba2w 褐灰		199804-D190
	T321	軒平	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 裏水期石垣裏込 SP9・10間	燻	三葉III	瓦当厚4.5 文様区厚2.8 左周縁1.3 体部厚1.8 顎厚1.8 顎高2.0	B2w 灰白	布目ナデ幅広	199804-D183
	T322	軒平	檜(長屋)台内部	橋爪門続櫓台 裏水期造成土	燻	三葉III？		B2 灰白		199804-D159
	T323	軒平	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 裏水期石垣裏込 SP9・10間	燻	不明	体部厚2.4	Bc2 浅黄橙	布目（上面）	199804-D182
	T324	鬼瓦	檜(長屋)台内部	五十間長屋台 裏水期造成土 南半	燻			Ch2 褐灰		199804-D192
	T325	軒丸	檜(長屋)台内部	法面	燻	巴(左巻)	珠文径0.6	Ch2 灰白	裏面ナデ強	199804-D225
	T326	軒丸	檜(長屋)台内部	菱櫓台 石垣3段目裏込(近代)	釉薬(高温)	巴(左巻)	瓦当厚2.5 珠文径1.1	Cb1w にぶい橙，釉調 黒		199804-D181
	T327	軒谷平	檜(長屋)台内部	菱櫓台 石垣4段目裏込(近代)	釉薬(高温)	梅鉢	顎厚1.9	B2w 橙・明褐灰，釉調 紫黒？		199804-D184
	T328	軒桟	檜(長屋)台周辺	菱櫓西面下	釉薬	花文	体部厚2.0 右周縁6.8	B1w 褐灰，釉調 黒		199804-D180
	T329	軒丸	檜(長屋)台周辺	続櫓東面根石確認トレンチ	燻	巴II-1a	珠文径0.8	B2 灰白～にぶい黄橙		199804-D211
	T330	軒丸	檜(長屋)台周辺	続櫓東面根石確認トレンチ	燻	巴(右巻)	珠文径0.7	B2 灰白		199804-D212
	T331	軒丸	檜(長屋)台周辺	続櫓台東面 根石上部整地土	燻	巴(右巻)	珠文径0.8	B2w 褐灰		199804-D214
	T332	軒丸	長屋台下層	V面 SP9・10間	燻	巴	瓦当厚2.5 珠文径0.8	B2 灰白		199804-D177

第30表　出土遺物観察表　木製品1

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	最大長	最大幅	最大厚	装飾・墨書・加工等	特記事項	ID(実測番号)
95	W001	漆器椀	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間		底径7.1		内外面赤色漆	ケヤキ 4章2・3節試13	199804-W020
	W002	漆器椀	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間				内外面黒色漆、外面のみ赤色漆で草花文	トチノキ 4章2・3節試14	199804-W019
	W003	漆器椀	長屋台下層	VI面 SD01 sp4		底径7.3		内外面黒色漆、内外面に赤色漆で文様、高台内中央に×印	ブナ属 4章2・3節試15	199804-W028
	W004	漆器指物部材?	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	2.8	4.1	0.5	内外面赤色漆	スギ 4章2・3節試16	199804-W017
	W005	漆器椀	長屋台下層	VI面 SX02				内外面黒色漆、外面のみ赤色漆で木瓜文	ブナ属 4章2・3節試12	199804-W014
	W006	漆器椀	長屋台下層	VI面 SP10・sp7間	口径11.5	底径5.0	器高3.4	内外面赤色漆	ケヤキ 4章2・3節試11	199804-W005
	W007	漆器皿	長屋台下層	VI面 下部 SP9・10間	口径24.5	底径15.4	器高2.3	内外面赤色漆	欅礼材 4章2・3節試17	199804-W018
	W008	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	5.8	4.5	0.8	繰札?、表裏墨書「放生津大工豊左衛門」「放生津二口門」		199701-W079
	W009	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	35.1	13.4	1.2			199701-W083
	W010	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	20.6	3.3	0.4	墨書「口方」、穴		199701-W080
	W011	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	10.1	3.3	0.6	墨書「但五朱、富田市佐(太?)」		199701-W071
	W012	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	49.3	7.7	0.9	墨書「(四菱)定盤」		199701-W077
	W013	板材(墨印)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	15.2	4.4	0.7			199701-W081
	W014	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	14.1	1.8	0.4	墨?「△」		199701-W072
	W015	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	3.3	18.4	0.2			199701-W070
96	W016	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	19.2	4.4	0.5	表裏に墨書		199701-W074
	W017	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	39.2	2.6	0.5	表裏に墨書「一尺口六寸三歩? 此物ニ御渡シ可被下候」		199701-W075
	W018	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	9.8	2.0	0.3	表裏に墨書		199701-W076
	W019	板材(墨書)	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-7区	31.8	12.5	1.3			199701-W073
	W020	板材(墨書)	長屋台下層	VI面 SD01 sp4	11.6	3.4	0.1	表面に墨書		199804-W015-1
	W021	板材(墨書)	長屋台下層	VI面 SD01 sp4	21.8	8.0	0.1	表裏に墨書		199804-W015-2
	W022	板材(墨書)	長屋台下層	VI面 SX02	10.2	3.2	0.6	表面に墨書		199804-W024
	W023	板材(墨書)	長屋台下層	VI面 SP9以北	6.2	1.1	0.3	表裏に墨書		199804-W022
	W024	櫛	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	4.3	8.8	0.8		イスノキ 4章2・3節試1	199701-W004
	W025	櫛	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	4.3	4.6	1.1		イスノキ 4章2・3節試6	199804-W021
	W026	下駄	長屋台下層	V面 砂層上部 SP9以北	21.5	8.8	3.5		スギ 歯を除いた最大厚1cm 4章2・3節試3	199804-W003
	W027	下駄	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	21.7	9.8	2.8		スギ 歯を除いた最大厚1.9cm 4章2・3節試4	199804-W027
	W028	下駄	長屋台下層	VI面 SD01 sp1	19.1	8.1	3.0		スギ 歯を除いた最大厚1.25cm 4章2・3節試5	199804-W012
	W029	草履?	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9以北	16.4	8.1	1.2	表面に0.9×0.9の穴2ヶ		199804-W100
97	W030	箸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.7	0.6	0.7			199701-W064
	W031	箸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.9	0.6	0.5			199701-W065
	W032	箸	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.9	0.6	0.6			199701-W066
	W033	箸	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P06 1997-2区	15.5	0.7	0.7			199701-W027
	W034	箸	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P06 1997-2区	9.7	0.7	0.4			199701-W028
	W035	箸	長屋台下層	VI面 SD01上部 SP9・10間南	24.6	0.8	0.4			199804-W074
	W036	箸	長屋台下層	VI面 SD01上部 SP9・10間南	22.1	0.6	0.5			199804-W075
	W037	箸	長屋台下層	VI面 SD01上部 SP9・10間南	21.9	0.6	0.5			199804-W076
	W038	箸	長屋台下層	VI面 SD01上部 SP9・10間南	25.7	0.6	0.5			199804-W077

第31表　出土遺物観察表　木製品２

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	最大長	最大幅	最大厚	装飾・墨書・加工等	特記事項	ID(実測番号)
97	W039	箸	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	30.0	0.7	0.6			199804-W048
	W040	箸	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	18.5	0.8	0.6			199804-W049
	W041	箸	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	17.5	0.8	0.8			199804-W050
	W042	箸	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	20.3	0.6	0.5			199804-W051
	W043	箸	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	23.2	0.8	0.6			199804-W052
	W044	折敷	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	18.8	4.3	0.6	側面に釘、表面に穴		199804-W085
	W045	折敷	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	12.8	12.3	0.5			199804-W032
	W046	折敷	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	28.8	23.0	0.5	表面に釘穴		199804-W040
	W047	折敷	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	16.3	3.4	0.7	側面に釘穴2ヶ、表面に穴		199804-W053
	W048	折敷	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	6.8	5.6	1.3			199804-W057
	W049	折敷?	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	8.9	4.6	0.8			199804-W079
	W050	折敷	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	28.8	6.7	1.1			199804-W080
	W051	折敷?	長屋台下層	VI面 SK01	13.8	3.6	1.1			199804-W004
	W052	折敷	長屋台下層	VI面 SX01	41.4	8.1	0.8	表面に釘穴5ヶ、側面に穴5ヶ		199804-W098
	W053	折敷	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	16.5	2.9	0.3			199804-W011
	W054	薬師板?	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間南	16.3	2.3	0.3			199804-W073
98	W055	円形板(曲物蓋)	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	13.5	13.2	0.9	釘?、穴		199701-W015
	W056	円形板(曲物蓋)	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	13.6	13.6	0.6	釘?		199701-W013
	W057	円形板	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	7.5	5.2	0.3			199701-W014
	W058	円形板	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	12.0	6.3	1.3			199701-W053
	W059	円形板(曲物底)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	11.7	10.0	2.5	穴2ヶ		199701-W054
	W060	円形板	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	14.6	8.5	3.5			199701-W010
	W061	円形板	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	14.2	7.2	3.9			199701-W030
	W062	円形板	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-7区	20.5	20.4	2.8			199701-W012
	W063	円形板	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	7.1	7.2	0.7			199804-W038
	W064	円形板	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	6.8	3.4	0.4			199804-W056
	W065	円形板	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	7.0	7.8	0.7			199804-W083
	W066	円形板	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	10.8	11.1	0.7			199804-W058
	W067	円形板(曲物底)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	16.7	14.8	0.8	側面に木穴		199804-W026
	W068	円形板(桶底)	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	27.4	11.9	0.8	表面に一部焦げ		199804-W093
	W069	円形板	長屋台下層	VI面 SX01	12.8	7.8	0.6			199804-W099
	W070	円形板(樽蓋)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	(31.0)	(6.2)	1.5	木釘遺存、表面に2.2×2.5の穴		199804-W065
	W071	円形板	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	20.9	4.9	1.5			199804-W041
99	W072	円形板(桶底)	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	25.1	5.0	0.8	側面に木釘3ヶ		199804-W089
	W073	円形板(桶底)	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	37.5	10.4	1.9	側面に釘穴		199804-W094
	W074	栓	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	4.6	3.7	3.3			199804-W060
	W075	柄杓	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	杓直径13.4	杓高3.6.2	柄長34.8			199804-W013
	W076	籠状製品	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区						199701-Z003
	W077	容器?(竹)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	口径10.6	底径10.3	高さ10.5 上部厚み0.45			199701-W003-2
	W078	花入れ?(竹)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	24.6	2.5	0.4			199701-W021
	W079	不明(竹)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.9	2.7	0.6			199701-W022
	W080	不明(竹)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	82.9	5.1	0.5			199701-W045
	W081	花入れ?(竹)	長屋台下層	V面 SP9以北	14.1	3.2	0.4	一方を斜めに切る		199804-W096

第32表　出土遺物観察表　木製品３

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	最大長	最大幅	最大厚	装飾・墨書・加工等	特記事項	ID（実測番号）
100	W082	柄	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	14.5	2.7	2.7			199701-W024
	W083	柄（小刀）	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.2	1.3	0.9		アスナロ 4章2・3節試2	199701-W026
	W084	柄	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 下部 SP9・10間	8.2	3.8	0.7	表面に穴		199804-W039
	W085	把手	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	18.8	2.7	2.7			199701-W023
	W086	把手	長屋台下層	Ⅵ面 SP9以北	37.5	4.2	3.1			199804-W097
	W087	脚	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 下部 SP9・10間	22.9	7.3	1.0	釘穴		199804-W042
	W088	不明（板状）	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	56.4	9.6	0.8			199701-W056
	W089	不明（棒状）	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.2	1.5	0.8			199701-W025
	W090	不明（角棒状）	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	17.2	1.1	1.0	焦げ		199701-W067
	W091	不明（板状）	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 上部 SP9・10間	12.1	2.7	0.2			199804-W016
	W092	不明（棒状）	長屋台下層	Ⅴ面下部 SP9・10間	7.9	1.0	0.9	三か所に木釘		199804-W023
	W093	不明（板状）	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 上部 SP9・10間	7.6	5.0	0.9	表面刻線で装飾		199804-W092
	W094	不明（板状）	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 上部 SP9・10間南	10.8	7.5	1.1	表面刻線で装飾		199804-W008
	W095	不明（板状）	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 上部 SP9・10間	10.0	3.9	1.3	切り欠きあり		199804-W091
	W096	丸鑽棒	長屋台下層	Ⅵ面 SP9以北	13.6	1.2	1.1	先端焦げ		199804-W006
	W097	丸鑽板	長屋台下層	Ⅵ面 SP9以北	3.8	1.4	1.3	穴部分焦げ		199804-W007
	W098	人形	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 SP9以北	20.0	2.0	1.5			199804-W010
	W099	人形	長屋台下層	Ⅵ面 SP10・sp7間	11.0	2.5	2.3			199804-W025
	W100	船形	長屋台下層	Ⅵ面 SX01	20.3	5.4	1.6			199804-W009
	W101	繭形	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 SP9・10間	22.5	9.0	1.4	表面に1.2×1.2の穴		199804-W084
	W102	刀形?	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 下部 SP9・10間	28.5	2.3	0.3			199804-W046
	W103	刀形?	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 上部 SP9・10間南	30.2	2.8	1.0			199804-W071
101	W104	欄干（親柱）	二ノ丸内堀 内堀橋	橋脚周辺 1997-2区	92.4	18.1	19.3	片面2か所に方形穴	ケヤキ 4章1節試2	199701-Z001
	W105	橋脚	二ノ丸内堀 内堀橋	P04 1997-2区	70.6	28.4	28.9		ツガ類 4章1節試1	199701-Z002
	W106	杭	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	39.7	2.7	1.9			199701-W036
	W107	杭	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	15.7	2.8	2.3			199701-W037
	W108	杭	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	41.4	2.7	2.1			199701-W038
	W109	杭	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	34.1	2.4	1.5			199701-W039
	W110	杭	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	45.8	3.8	1.7			199701-W040
102	W111	杭	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	40.8	2.9	2.7			199701-W046
	W112	杭	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	62.6	3.8	1.7			199701-W047
	W113	丸太	長屋台下層	Ⅴ面 木組遺構	61.9	11.3	6.2			199804-W030
	W114	杭	長屋台下層	Ⅴ面	63.4	10.0	5.6		調査区北側	199804-W029
	W115	丸太（柱?）	長屋台下層	Ⅵ面 sp1以北	48.7	9.9	8.0		SD01西岸に敷設	199804-W031
	W116	丸太（柱?）	長屋台下層	Ⅵ面	65.5	11.0	11.6			199804-W002
	W117	丸太（柱?）	長屋台下層	Ⅵ面 SP9以北	70.1	13.0	11.6		SD02付近に敷設	199804-W001
103	W118	部材・端材（板状）	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	30.1	10.5	0.3			199701-W019
	W119	部材・端材（板状）	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	38.5	7.6	0.5			199701-W020
	W120	部材・端材（角状）	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	30.8	4.1	2.1			199701-W017
	W121	部材・端材（角状）	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	30.4	4.2	2.4			199701-W018

第33表　出土遺物観察表　木製品４

単位：cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	最大長	最大幅	最大厚	装飾・墨書・加工等	特記事項	ID（実測番号）
103	W122	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	24.6	2.8	1.5	墨痕、貫通していない穴?		199701-W082
	W123	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	49.3	17.6	1.6	穴5ヶ		199701-W078
	W124	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	29.7	6.2	0.4			199701-W007
	W125	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	32.2	8.6	0.4			199701-W009
	W126	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.3	11.8	3.4			199701-W011
	W127	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	19.0	3.9	0.8			199701-W042
104	W128	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	28.9	13.0	1.6			199701-W057
	W129	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	30.2	4.3	0.4			199701-W061
	W130	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	29.6	5.0	0.3			199701-W062
	W131	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	23.7	9.4	1.9			199701-W055
	W132	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	24.0	7.1	2.3			199701-W069
	W133	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	127.4	27.2	6.2			199701-W052
	W134	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	43.1	11.4	1.4			199701-W034
	W135	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-5区	40.9	8.6	1.8			199701-W035
	W136	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	17.3	2.3	0.5			199701-W003-1
	W137	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	30.2	19.0	3.3			199701-W031
105	W138	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	33.1	18.1	2.0			199701-W032
	W139	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	21.4	6.6	1.6			199701-W060
	W140	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	39.2	10.4	0.3			199701-W048
	W141	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	39.0	10.5	0.4			199701-W049
	W142	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	39.6	4.0	0.3			199701-W050
	W143	部材・端材(板状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面	29.6	5.0	0.3			199701-W006
	W144	部材・端材(棒状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	39.2	1.8	1.2	穴4ヶ		199701-W058
	W145	部材・端材(棒状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	26.6	2.8	2.5			199701-W063
	W146	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	65.8	8.2	4.4			199701-W041
	W147	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	38.0	6.1	4.9			199701-W043
	W148	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.5	2.8	2.6			199701-W005
	W149	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	31.3	4.4	1.8			199701-W068
106	W150	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	39.6	8.0	8.0			199701-W033
	W151	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	11.5	2.9	3.4	釘?		199701-W059
	W152	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	12.6	6.0	5.7			199701-W051
	W153	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	19.8	13.5	13.4			199701-W044
	W154	部材・端材(丸太状)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	8.6	8.0	10.8			199701-W029
	W155	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 内堀橋	P03	17.4	2.5	1.5	穴(2.0×1.1)		199701-W016
	W156	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 内堀橋	P04 W1	39.5	10.8	7.9			199701-W001
	W157	部材・端材(角状)	二ノ丸内堀 内堀橋	P04 W2	38.7	11.1	8.2			199701-W002

第34表　出土遺物観察表　木製品5

単位:cm

図版	番号	器種	地区	出土地点	最大長	最大幅	最大厚	装飾・墨書・加工等	特記事項	ID(実測番号)
107	W158	付札?	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間南	36.6	5.1	0.4			199804-W072
	W159	不明(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	47.7	7.2	2.1	一方に穴		199804-W095
	W160	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	12.6	2.9	1.4	楔?		199804-W068
	W161	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 sp2	13.8	12.3	1.5	表面に木釘		199804-W034
	W162	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	10.3	3.8	1.1	表面に金属釘		199804-W045
	W163	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 sp2	21.8	7.6	0.8			199804-W033
	W164	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	11.1	9.3	1.3			199804-W036
	W165	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	5.5	5.3	2.0			199804-W054
	W166	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	6.9	4.2	0.6			199804-W043
	W167	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	6.7	3.8	0.7			199804-W044
	W168	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間南	7.3	4.1	0.6			199804-W078
	W169	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	8.2	4.9	0.7			199804-W081
	W170	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	7.3	4.1	0.8			199804-W082
	W171	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	34.2	5.5	0.4			199804-W061
	W172	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	30.1	6.7	0.4			199804-W037
	W173	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	24.1	7.1	0.4	表面に木釘		199804-W062
108	W174	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	21.2	5.6	0.4	表面に穴		199804-W063
	W175	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	15.7	4.9	0.4	表面に穴		199804-W064
	W176	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	19.0	3.8	0.4			199804-W101
	W177	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	25.0	3.2	0.4			199804-W070
	W178	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 sp4	21.7	4.0	0.3			199804-W035
	W179	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	5.6	5.8	3.6			199804-W090
	W180	部材・端材(棒状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	24.9	0.8	0.7			199804-W069
	W181	部材・端材(棒状)	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	11.8	1.0	0.6			199804-W047
	W182	部材・端材(棒状)	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	15.1	1.4	0.5			199804-W059
	W183	部材・端材(棒状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	17.6	3.4	2.7			199804-W066
	W184	部材・端材(棒状)	長屋台下層	VI面 SD01 SP9・10間	9.5	3.0	2.4			199804-W067
	W185	部材・端材(丸太状)	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	8.0	4.9	4.7	煤?付着		199804-W055
	W186	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SK01	25.5	7.6	0.6			199804-W086
	W187	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SK01	11.1	2.5	0.3			199804-W087
	W188	部材・端材(板状)	長屋台下層	VI面 SK01	18.3	6.8	1.4			199804-W088

第35表　出土遺物観察表　金属製品 1

図	番号	種別	器種	区名	出土地点	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
109	M001	銅系・竹?	煙管	二ノ丸内堀 近代	SD07 1997-2区	13.8	0.9	0.1	6.6	199701-W008	吸口、羅宇(吸口長4.7cm、幅0.9cm)
	M002	銅系	煙管	長屋台下層	V面 砂層上部 SP9以北	3.5	1.7	0.6	5.8	199804-M001	雁首 真鍮 4章5節試1
	M003	銅系	煙管	長屋台下層	V面下部 SP9・10間	2.4	1.1	0.1	1.7	199804-M013	肩 銅 4章5節試3
	M004	銅系	煙管	長屋台下層	VI面 SP9・10間	1.6	1.7	0.6	3.1	199804-M012	雁首(火皿) 青銅 4章5節試2
	M005	銅系	煙管	長屋台下層	VI面	2.1	1.0	0.1	2.0	199804-M014	肩 真鍮 4章5節試4
	M006	銅系	煙管	長屋台下層	VI面 SP9・10間	16.6	1.3	0.8	19.3	199804-M011	吸口(肩と一体成形)、羅宇 銅 4章5節試5
	M007	銅系	柄鏡	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺	全長19.5(柄長4.7+)	面径14.8	0.3	196.6	199701-M115	藤原周重銘 蓬萊鏡 銅・鉛合金 4章5節試13
110	M008	銅系	銭	二ノ丸内堀 近代	SD01基盤層 1997-1区	2.8		0.1	6.2	199701-M101	一銭銅貨　明治21年(1888)
	M009	銅系	銭	二ノ丸内堀 近代	SW02裏込 1997-1区	2.4		0.1	1.9	199701-M095	元豊通宝
	M010	銅系	銭	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	2.4		0.1	1.9	199701-M099	光緒通寳
	M011	銅系	銭	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-7区	2.5		0.1	2.3	199701-M096	景祐元寳
	M012	銅系	銭	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸西面石垣南端(2220W) 1997-2区	2.4		0.1	3.0	199701-M098	寛永通宝(古寛永) 石垣2220W南端前面出土
	M013	銅系	銭	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸西面石垣南端(2220W) 1997-2区	2.5		0.1	3.5	199701-M097	寛永通宝(文銭) 石垣2220W南端前面出土
	M014	銅系	銭	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸西面石垣南端(2220W) 1997-2区	2.5		0.2	3.7	199701-M102	寛永通宝(古寛永) 石垣2220W南端前面出土
	M015	銅系	銭	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸西面石垣南端(2220W) 1997-2区	2.5		0.1	3.6	199701-M094	寛永通宝(古寛永) 石垣2220W南端前面出土
	M016	銅系	銭	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸西面石垣南端(2220W) 1997-2区	2.6		0.2	4.2	199701-M093	寛永通宝(文銭) 石垣2220W南端前面出土
	M017	銅系	銭	二ノ丸内堀 石垣	三ノ丸南面～西面石垣(2230S・2220W) 1997-2区	2.4		0.2	3.3	199701-M100	紹聖元寳
	M018	銅系	銭	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	2.5		0.1	3.2	199701-M103	寛永通宝 享保11(1726)初鋳
	M019	銅系	銭	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	2.4		0.1	2.7	199701-M104	寛永通宝 正徳4(1714)初鋳
	M020	銅系	銭	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	2.5		0.1	3.0	199701-M105	寛永通宝 明暦2(1656)初鋳
	M021	銅系	銭	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	2.3		0.1	1.9	199701-M106	寛永通宝 元禄10(1697)初鋳
	M022	銅系	銭	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	2.3		0.1	3.0	199701-M107	寛永通宝 享保11(1726)初鋳
	M023	銅系	銭	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区	2.3		0.1	2.2	199701-M108	寛永通宝
	M024	銅系	銭	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区	2.4		0.1	2.5	199701-M109	寛永通宝
	M025	銅系	銭	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区	2.2		0.1	2.6	199701-M110	寛永通宝
	M026	銅系	銭	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区	2.3		0.1	2.9	199701-M111	寛永通宝
	M027	銅系	銭	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区	2.5		0.2	3.3	199701-M112	寛永通宝
	M028	鉄・銅系	銭	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区	2.4		0.3	4.2	199701-M113	2枚重ね
	M029	銅系	銭	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区	2.9		1.1	19.1	199701-M164	7枚重ね(M023～M028検出時の状態)
	M030	銅系	銭	長屋台下層	V面下部 SP9・10間	2.4		0.1	1.9	199804-M008	元豊通宝
	M031	銅系	銭	長屋台下層	V面 SP9以北 木組北	2.3		0.1	1.6	199804-M009	元豊通宝
	M032	銅系	銭	長屋台下層	V面 SP9以北 木組北	2.3		0.1	2.6	199804-M010	聖宋元寳
	M033	銅系	銭	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	2.3		0.1	2.8	199804-M004	祥符元寳
	M034	銅系	銭	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9以北	2.4		0.1	3.3	199804-M005	熙寧元寳
	M035	銅系	銭	長屋台下層	VI面 SD01 上部 SP9・10間	2.3		0.1	2.2	199804-M006	元祐通寳
	M036	銅系	銭	長屋台下層	VI面	2.2		0.1	2.6	199804-M007	洪武通宝
111	M037	鉄	銃剣	二ノ丸内堀 本体	内堀 1997-4区	53.4	9.5、刀身幅2.9	1.2	610.0	199701-M114	
	M038	鉄	刀	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	60.4 刃長49.5	2.7	0.6	410.0	199701-M117	ハバキ(銅合金)付着

第36表　出土遺物観察表　金属製品２

図	番号	種別	器種	区名	出土地点	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
111	M039	銅系	刀側切羽	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	4.0	2.4	0.1	3.9	199701-M118	切込あり 銅 4章5節試14
	M040	銅系	柄側切羽	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	4.0	2.3	0.1	3.5	199701-M119	銅 4章5節試15
	M041	木質・漆	鞘	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋周辺 1997-2区	53.4	4.0	2.2		199701-M121	黒色漆 モクレン属 4章2・3節試9
	M042	鉄・木質・漆 銅系	刀	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P05北 1997-2区	74.6	3.8	2.2		199701-M120	鞘(黒色漆 モクレン属)に収められた状態で出土 4章2・3節試10
112	M043	銅系	小柄	橘爪一ノ門下層	P04 1997-2区	9.5	1.4	0.6	22.1	199701-追M001	素文 銅・錫等合金? 4章第5節試6
	M044	銅系	小柄	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 上部 SP9・10間南	10.0	1.5	0.7	14.9	199804S-M002	高彫、猪の金銀(金・銀合金、銀)装飾 銅・鍍銀 4章5節試7
	M045	銅系	小柄	長屋台下層	Ⅵ面 SD01 下部 SP9・10間	9.7	1.5	0.6	14.5	199804S-M001	節状の文様 銅 4章5節試8
	M046	銅系	小柄	長屋台下層	Ⅵ面	7.8	1.5	0.5	17.2	199804-M100	素文 銅 4章5節試9
	M047	鉄	鏃	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	11.8	1.1/0.5	1.0/0.5	13.5	199804-M040	鑿頭形 幅と厚さについては鏃身と茎部を計測
	M048	鉄	鏃	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	9.7	1.0/0.4	0.9/0.3	11.8	199804-M041	鑿頭形 幅と厚さについては鏃身と茎部を計測
	M049	鉄	鏃	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	7.8	1.1/0.5	0.9/0.4	13.6	199804-M042	鑿頭形 幅と厚さについては鏃身と茎部を計測
	M050	鉄	鏃	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	14.3	0.9/0.5	0.9/0.5	14.5	199804-M043	鑿頭形 幅と厚さについては鏃身と茎部を計測
	M051	鉄	鏃	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	8.5	1.0/0.3	1.1/0.3	9.2	199804-M044	鑿頭形 幅と厚さについては鏃身と茎部を計測
	M052	鉄他	銃弾?	櫓(長屋)台内部	橋爪門続櫓台 寛永期造成土	2.9	2.9	2.9	82.2	199804-M024	鉄主体 4章5節試20
113	M053	鉄・木質	金鎚	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	柄長29.45	柄幅2.1、頭幅2.1	頭厚2.0	223.9	199701-M122	
	M054	鉄	矢？	櫓(長屋)台内部	橋爪門続櫓台 上面栗石	24.2	2.7	2.4	760.0	199804-M027	
	M055	鉄	矢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 ロ1187・1185間	15.5	4.0	2.7	920.0	199804-M029	
	M056	銅系	銅板	二ノ丸内堀 近代	SD06 1997-2区	35.8	28.7	0.1	347.5	199701-M092	
	M057	銅系	銅板	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	46.0	6.7	0.1	145.6	199701-M091	
	M058	銅系	銅板	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-2区	43.1	24.7	0.1	1100.0	199701-M090	
114	M059	鉛	鉛瓦(軒丸)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	瓦当径12.9、文様区径8.9、花弁径2.4、花芯径1.9、上幅6.8、下幅3.8		0.3		199701-M116	梅鉢Ⅱ-2、木型付き
	M060	鉛	鉛瓦(軒丸)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	花弁径2.3、花芯径1.9、上幅6.7		0.3	658.3	199701-M009	梅鉢Ⅱ-2、木型付き
	M061	鉛	鉛瓦(軒丸)	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-6区	瓦当径12.0、文様区径8.7、花弁径2.2、花芯径1.8、上幅7.4、下幅3.2	文様区径8.7	0.2	1050.0	199701-M008	梅鉢Ⅱ-2、木型付き
	M062	鉛	鉛瓦(軒丸)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	花弁径3.1、花芯径2.1		0.1	177.3	199701-M053	梅鉢Ⅱ-2
	M063	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.0	(15.0)	0.2	89.4	199701-M006	軒丸瓦当裏
	M064	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	6.6	12.2	0.2	124.2	199701-M007	軒丸瓦当裏
	M065	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	5.5	12.8	0.2	83.1	199701-M054	軒丸瓦当裏
	M066	鉛	鉛瓦(軒平)	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	瓦当厚2.8+	瓦当幅6.0+	0.7	38.6	199701-M016	非対称唐草
	M067	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-2区	25.6	19.3	0.3	1200.0	199701-M004	
	M068	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	26.0	3.7	0.1	73.7	199701-M055	
	M069	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	25.0+	5.2	0.2	330.4	199701-M010	
	M070	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	本体19.1+	5.4	0.2	190.4	199701-M011	
	M071	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	6.9	5.8	0.2	91.1	199701-M012	
	M072	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.2	5.9	0.2	105.7	199701-M013	
	M073	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.3	6.1	0.2	122.6	199701-M014	
	M074	鉛	鉛瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	6.7	9.0	0.2	61.1	199701-M015	

第37表　出土遺物観察表　金属製品３

図	番号	種別	器種	区名	出土地点	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
114	M075	銅	銅瓦片	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	6.3	10.6	0.2	118.1	199701-M005	
115	M076	銅	銅瓦片	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅱ面以下	8.7	5.8	0.8	81.0	199804-M105	
	M077	銅系・木質	銅瓦木型	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP10以南	4.3	1.6	高さ1.5	3.5	199804-M069	釘付属(長さ2.5 幅・厚1.1/0.4)
	M078	鉄	金具	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	34.2	4.1	2.8	900.0	199701-M148	
	M079	鉄	金具	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	10.9+	3.9	0.2	45.3	199701-M150	
	M080	銅	金具	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅱ区	4.6	1.1/0.6	1.1/0.6	3.1	199804-M071	幅と厚さについては頭部と胴部を計測
	M081	銅	金具	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	4.0	2.7	1.9	13.8	199804-M070	銅・鉛合金 4章5節試18
	M082	銅	金具	櫓(長屋)台上面	菱櫓古段階 礎盤(根石)ア 東側焼土層 1997-3区	4.6	4.2	1.9	10.6	199804-M055	
	M083	鉄	金具	櫓(長屋)台上面	菱櫓古段階 礎盤(根石)イ 東側焼土層 1997-3区	8.2	0.6	1.0	30.4	199804-M056	木質遺存、木(幅2.5×厚0.6)
	M084	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	12.1	3.5/0.6	1.4/0.6	20.2	199701-M084	幅と厚さについては頭部と胴部を計測、以下同じ
	M085	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	14.0	1.9/0.5	1.3/0.7	24.4	199701-M019	
	M086	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.6	2.1/0.6	1.6/0.6	26.9	199701-M025	
	M087	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.5	1.8/0.6	1.3/0.6	28.4	199701-M024	
	M088	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.3	2.0/0.5	1.2/0.7	22.9	199701-M026	銅 4章5節試17
	M089	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.0	1.8/0.6	1.4/0.6	24.0	199701-M023	
116	M090	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.8	1.7/0.7	1.5/0.7	21.5	199701-M027	
	M091	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.8	1.7/0.6	1.2/0.6	17.9	199701-M022	
	M092	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.8	1.6/0.6	1.3/0.6	18.0	199701-M018	
	M093	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.8	1.5/0.6	1.2/0.7	20.6	199701-M042	
	M094	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.8	1.5/0.6	1.3/0.8	20.0	199701-M028	
	M095	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.6	1.5/0.5	1.2/0.7	17.8	199701-M029	
	M096	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	9.0	1.5/0.5	1.0/0.6	16.0	199701-M031	
	M097	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.9	1.5/0.6	1.3/0.6	16.3	199701-M030	
	M098	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.9	1.3/0.5	1.2/0.7	15.6	199701-M032	
	M099	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.7	1.6/0.5	1.4/0.6	15.9	199701-M034	
	M100	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.7	1.4/0.6	1.3/0.5	15.5	199701-M037	
	M101	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.6	1.8/0.5	1.2/0.5	16.9	199701-M035	
	M102	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.6	1.7/0.6	1.7/0.7	17.9	199701-M036	
	M103	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.5	1.8/0.6	1.3/0.6	15.9	199701-M039	
	M104	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.4	1.4/0.5	1.4/0.7	15.5	199701-M038	
	M105	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.3	1.4/0.5	1.3/0.7	14.7	199701-M033	
	M106	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.8	1.6/0.6	1.3/0.6	14.6	199701-M041	
	M107	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.8	1.6/0.6	1.3/0.6	14.8	199701-M020	
	M108	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.8	1.8/0.5	1.3/0.7	15.0	199701-M017	
	M109	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.7	1.9/0.5	1.3/0.7	14.9	199701-M021	
	M110	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.3	1.7/0.5	1.5/0.7	13.2	199701-M040	
117	M111	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.7	0.9/0.3	0.9/0.4	3.4	199701-M060	
	M112	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.3	1.0/0.4	1.0/0.3	2.6	199701-M083	
	M113	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.2	0.7/0.3	0.7/0.3	1.8	199701-M082	
	M114	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.1	0.9/0.3	0.9/0.4	2.7	199701-M081	
	M115	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.1	0.9/0.4	0.9/0.4	3.1	199701-M079	
	M116	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.1	0.8/0.3	0.8/0.3	1.9	199701-M080	
	M117	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.1	0.8/0.3	0.9/0.3	2.8	199701-M077	
	M118	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.0	1.1/0.4	1.0/0.3	2.7	199701-M052	

第38表　出土遺物観察表　金属製品４

図版	番号	種別	器種	区名	出土地点	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
117	M119	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	4.0	0.9/0.4	0.9/0.3	2.6	199701-M076	
	M120	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.9	1.0/0.3	1.0/0.3	1.8	199701-M071	
	M121	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.9	1.0/0.4	1.1/0.3	2.6	199701-M072	
	M122	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.9	0.9/0.3	0.8/0.3	1.8	199701-M073	
	M123	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.9	0.9/0.3	0.9/0.4	2.7	199701-M078	
	M124	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.9	0.9/0.3	0.9/0.3	2.2	199701-M074	
	M125	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.9	0.9/0.3	0.9/0.3	2.2	199701-M075	
	M126	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.9	0.8/0.3	0.9/0.3	2.0	199701-M070	
	M127	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.7	0.9/0.4	0.8/0.3	1.8	199701-M067	
	M128	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.7	0.8/0.3	0.8/0.3	2.2	199701-M069	
	M129	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.7	1.0/0.4	1.0/0.3	2.7	199701-M063	
	M130	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.6	0.9/0.3	0.9/0.4	2.0	199701-M066	
	M131	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.5	0.9/0.4	0.8/0.3	1.8	199701-M065	
	M132	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.4	0.8/0.4	0.8/0.4	1.7	199701-M064	
	M133	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.5	1.1/0.4	1.0/0.4	2.6	199701-M068	
	M134	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.4	1.2/0.6	1.1/0.3	2.2	199701-M062	
	M135	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.4	0.8/0.3	0.8/0.4	2.2	199701-M061	
	M136	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.3	0.8/0.4	0.8/0.4	1.8	199701-M089	
	M137	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.2	1.0/0.4	1.0/0.3	2.0	199701-M059	
	M138	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.1	0.8/0.3	0.8/0.3	1.2	199701-M088	
	M139	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.1	0.7/0.4	0.7/0.3	1.5	199701-M087	
	M140	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.0	0.9/0.3	0.9/0.3	1.4	199701-M057	
	M141	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	3.0	0.9/0.3	0.9/0.3	1.8	199701-M058	
	M142	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.9	0.8/0.4	0.7/0.3	1.4	199701-M056	
	M143	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.9	0.7/0.2	0.7/0.3	1.2	199701-M051	
	M144	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.7	0.9/0.4	0.8/0.3	1.4	199701-M049	
	M145	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.7	0.7/0.3	0.8/0.3	1.6	199701-M047	
	M146	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.5	0.7/0.3	0.7/0.2	0.8	199701-M046	
	M147	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.5	0.6/0.2	0.6/0.2	0.8	199701-M050	
	M148	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.4	0.9/0.3	1.0/0.3	1.4	199701-M048	
	M149	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.3	0.8/0.3	0.7/0.3	0.7	199701-M045	
	M150	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.3	0.8/0.3	0.8/0.3	1.1	199701-M086	
	M151	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.2	1.8/0.3	0.7/0.2	0.8	199701-M043	
	M152	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	2.1	0.7/0.3	0.7/0.3	0.9	199701-M044	
	M153	銅系	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	1.6	0.7/0.2	0.5/0.2	0.4	199701-M085	
118	M154	銅系	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	3.6	1.0/0.3	1.0/0.4	3.4	199804-M072	
	M155	銅系	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅲ区	3.6	0.9/0.3	0.9/0.2	2.3	199804-M074	
	M156	銅系	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ-Ⅳ区	2.7	1.1/0.3	1.0/0.2	2.5	199908-M001	
	M157	銅系	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋Ⅰ-Ⅳ区	2.5	0.8/0.3	0.8/0.3	1.1	199804-M073	
	M158	銅系	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋古段階 礎盤(根石)オ 上面 北Ⅱ区	3.7	0.7/0.5	1.0/0.3	2.6	199804-M057	
	M159	銅系	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋古段階 礎盤(根石)オ 上面 北Ⅱ区	2.8	0.8/0.4	0.7/0.3	1.6	199804-M058	
	M160	銅系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	9.8	1.5/0.7	2.1/0.5	20.3	199804-M066	
	M161	銅系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	9.5	1.4/0.6	1.7/0.5	20.1	199804-M064	
	M162	銅系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	9.1	1.4/0.6	1.8/0.4	20.0	199804-M065	

第39表　出土遺物観察表　金属製品５

図版	番号	種別	器種	区名	出土地点	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
118	M163	鍛系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	5.3	0.9/0.3	1.0/0.3	3.9	199804-M067	
	M164	鍛系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	4.0	1.1/0.3	1.1/0.4	3.2	199804-M062	
	M165	鍛系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	4.0	1.0/0.3	0.9/0.4	2.7	199804-M063	
	M166	鍛系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	3.2	0.8/0.3	0.7/0.2	1.7	199804-M068	
	M167	鍛系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	2.6	1.0/0.3	0.7/0.3	1.4	199804-M061	
	M168	鍛系	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 SP10以南	2.6	0.8/0.3	0.8/0.2	1.2	199804-M060	
119	M169	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	14.5	1.5/0.6	0.8/0.6	19.5	199701-M163	
	M170	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.6	2.0/0.5	0.8/0.4	6.4	199701-M159	
	M171	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	6.1	1.5/0.6	1.1/0.6	9.2	199701-M156	
	M172	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	5.6	1.7/0.4	1.0/0.4	4.3	199701-M158	
	M173	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	5.3	1.5/0.6	1.1/0.6	5.6	199701-M154	
	M174	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	5.0+	1.6/0.4	1.1/0.4	4.8	199701-M157	
	M175	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	10.8	1.7/0.7	1.6/0.8	35.2	199701-M162	
	M176	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	8.3+	2.2/0.7	2.2/0.7	52.7	199701-M160	
	M177	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.7+	2.5/0.7	2.3/0.7	44.3	199701-M161	
	M178	鉄	釘	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	7.3+	1.7/0.7	1.7/0.7	25.0	199701-M155	
	M179	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	11.55+	1.6/0.7	1.0/0.6	19.7	199804-M035	
	M180	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	8.6	1.6/0.5	0.7/0.4	6.6	199804-M034	
	M181	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	7.9	1.3/0.4	0.7/0.5	6.6	199804-M031	
	M182	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	7.1	1.4/0.5	0.7/0.5	4.7	199804-M032	
	M183	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	6.2	1.3/0.4	0.4/0.3	3.1	199804-M030	
	M184	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	6.15+	1.1/0.6	0.6/0.4	5.3	199804-M033	
	M185	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	5.7	1.0/0.4	0.5/0.3	2.7	199804-M037	
	M186	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	5.7	0.8/0.5	0.5/0.3	3.0	199804-M038	
	M187	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	5.1	1.0/0.5	0.5/0.4	2.9	199804-M036	
	M188	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋北Ⅰ区	4.1	0.9/0.4	0.9/0.4	2.8	199804-M039	
120	M189	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	14.7	2.0/0.7	1.3/0.5	31.8	199804-M053	
	M190	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	13.9	2.0/0.7	0.9/0.5	21.4	199804-M054	
	M191	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	五十間長屋古段階 礎盤(根石)オ 上面 北Ⅱ区	11.2	2.1/0.7	1.0/0.6	24.1	199804-M059	
	M192	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	8.5	1.5/0.4	0.6/0.3	7.0	199804-M052	
	M193	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	6.1	1.1/0.4	0.4/0.4	4.1	199804-M046	
	M194	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	5.6	1.1/0.4	0.6/0.4	4.2	199804-M049	
	M195	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	5.5	1.2/0.4	0.5/0.4	3.1	199804-M045	
	M196	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	5.5	1.0/0.4	0.4/0.3	2.9	199804-M047	
	M197	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	4.2	0.9/0.4	0.5/0.3	2.3	199804-M048	
	M198	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	9.3	1.9/0.6	2.0/0.7	30.4	199804-M051	
	M199	鉄	釘	櫓(長屋)台上面	差櫓古段階 礎盤(根石)ア 上面検土 1997-3区	7.7	2.3/0.8	1.9/0.7	20.9	199804-M050	
	M200	鉄	釘	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 意永期石垣裏込 SP10・sp7間	6.0	0.9/1.0	1.0	11.4	199804-M020	
	M201	鉄	釘	長屋台下層	V面 砂層上部 SP9以北	8.9	1.0/0.7	1.0/0.8	11.8	199804-M023	
	M202	鉄	釘	長屋台下層	V面 SP9-10間	7.4	1.2/0.6	0.5/0.4	5.8	199804-M022	
	M203	鉄	釘	長屋台下層	V面 SP9-10間	5.4	1.3/0.5	0.7/0.4	2.9	199804-M021	
	M204	鉄	釘	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9-10間	10.1	1.4/0.7	0.9/0.5	6.6	199804-M017	
	M205	鉄	釘	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9-10間	9.0	1.4/0.9	0.8/0.6	10.9	199804-M018	
	M206	鉄	釘	長屋台下層	VI面 SX01 下部	6.2	0.9/0.6	0.7/0.6	3.6	199804-M019	

第40表　出土遺物観察表　金属製品6

図版	番号	種別	器種	区名	出土地点	全長(cm)	全幅(cm)	胴長・外(cm)	胴長・内(cm)	胴幅(cm)	胴厚(cm)	釘長1(cm)	釘長2(cm)	釘幅(cm)	釘厚(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
121	M207	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	65.3	16.9	63.1	58.4	2.3	1.1	14.0	7.3	1.4	1.0	1350.0	199701-M001	
	M208	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-5区	63.7	18.8	62.3	59.2	1.8	1.1	16.4	5.6	1.8	0.8	1110.0	199701-M002	
	M209	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	22.1	7.0	21.4	18.5	2.0	1.2	4.9	5.0	1.6	1.0		199701-M127	
	M210	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	21.6	5.5	(21.3)	18.8	1.6	1.1	(4.1)	(4.4)	1.0	0.9	238.6	199701-M130	
	M211	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	21.4	6.2	21.0	18.4	1.6	0.7	4.3	4.4	1.2	0.6	170.0	199701-M129	
	M212	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	21.3	5.8	21.3	16.8	1.9	1.3	4.1	3.9	1.0	1.0		199701-M152	
	M213	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	20.6	8.0	19.6	18.0	1.9	1.6	5.7	6.0	1.1	1.4	450.0	199701-M128	
	M214	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	18.5	4.3	18.4	15.3	1.4	0.7	3.3	3.0	0.9	0.6	102.5	199701-M125	
	M215	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	18.0	(6.1)	(17.0)	15.4	1.6	1.4	(4.6)	(4.1)	1.1	1.1	180.1	199701-M151	
	M216	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	16.7	4.8	(16.0)	13.8	1.3	0.7	3.3	3.2	1.4	0.6	111.1	199701-M124	
	M217	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	16.7	4.5	16.3	14.3	1.2	0.6	3.3	3.7	1.2	0.6	88.9	199701-M123	
	M218	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	15.2	6.0	13.8	12.4	1.5	0.8	4.4	4.7	1.2	0.7	117.4	199701-M126	
	M219	鉄	鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	10.3	(2.5)	(10.1)	9.2	2.4	0.5	(2.1)	(2.0)	0.3	2.0	44.4	199701-M149	
	M220	鉄	鎹	二ノ丸内堀 西部北岸～中央部東岸北端	菱櫓付近近代石積埋土 1997-7区	14.0	4.2	13.4	11.0	0.9	0.8	3.2	2.6	0.9	0.9	520.0	199901-M001	
	M221	鉄	鎹	二ノ丸内堀 内堀橋	内堀橋P05 1997-2区	14.4	(3.9)	(13.9)	12.4	1.2	0.5	(2.7)	(2.6)	0.8	0.6	48.3	199701-M153	
122	M222	鉄	鎹	櫓(長屋)台上面	菱櫓古段階 礎盤(根石)ア上面焼土 1997-3区	21.1	9.2	20.0	17.3	2.0	0.9	6.2	7.0	1.1	0.9	298.7	199804-M101	
	M223	鉄	鎹	櫓(長屋)台上面	菱櫓古段階 礎盤(根石)ア上面焼土 1997-3区	19.4	5.6	18.6	16.8	1.9	1.2	3.3	3.7	1.0	1.0	218.7	199804-M102	
	M224	鉄	鎹	櫓(長屋)台上面	菱櫓古段階 礎盤(根石)ア上面焼土 1997-3区	17.6	5.4		15.0	1.6	1.1	3.9		0.8	0.5	150.9	199804-M104	4章5節試24
	M225	鉄	鎹	櫓(長屋)台上面	菱櫓古段階 礎盤(根石)ア上面焼土 1997-3区	16.7	5.6	16.2	13.4	1.7	1.1	4.0	4.2	0.8	0.8	174.5	199804-M103	
	M226	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	24.7	8.7	24.1	23.0	3.6	0.8	5.4		1.1	0.8	347.7	199701-M147	
	M227	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	20.0	(7.6)	(11.5)	18.4	3.5	0.5	(4.7)		1.3	0.8	205.6	199701-M139	
	M228	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	17.1	3.7	17.0	15.5	2.7	0.7	1.5		0.8	0.3	110.5	199701-M143	
	M229	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	16.8	5.1	16.7	14.5	2.5	0.6	3.0		0.7	0.4	123.5	199701-M140	
	M230	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	16.4	5.0	16.2	14.2	2.7	0.6	2.7		0.9	0.5	141.5	199701-M138	
	M231	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	16.2	(3.8)	(15.0)	14.5	2.7	0.3	(2.1)		0.8	0.6	68.8	199701-M146	
	M232	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	15.6	6.5	15.5	13.6	2.7	0.7	3.9		0.9	0.7	127.5	199701-M144	
	M233	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	15.4	3.9	15.4	13.4	2.1	0.5	2.0		0.8	0.6	71.0	199701-M141	
	M234	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	15.1	(3.9)	(14.7)	14.0	2.0	0.7	(2.1)		0.7	0.6	111.3	199701-M142	
	M235	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.6	(5.3)	(13.3)	12.0	2.5	0.5	(3.5)		1.0	0.4	71.0	199701-M133	
	M236	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	13.2	4.8	13.1	10.7	1.9	0.4	3.0		0.7	0.5	54.5	199701-M137	
	M237	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	12.9	5.0	12.4	11.8	2.0	0.6	3.2		0.7	0.5	74.2	199701-M134	
	M238	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	12.8	5.5	12.4	11.8	2.3	0.7	3.2		0.9	0.9	93.1	199701-M145	
	M239	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	12.4	(5.0)	(11.4)	11.0	2.6	0.4	(2.6)		0.8	0.5	82.7	199701-M136	
	M240	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	12.1	(5.4)	(11.5)	10.3	2.3	0.4	(3.4)		1.0	0.5	64.0	199701-M132	
	M241	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	11.2	(4.2)	(10.8)	9.5	2.2	0.4	(2.4)		0.8	0.4	49.7	199701-M131	
	M242	鉄	目鎹	二ノ丸内堀 本体	内堀 下部 1997-2区	11.5	(4.6)	(11.1)	9.9	2.3	0.4	(2.8)		1.0	0.5	68.2	199701-M135	

第41表　出土遺物観察表　金属製品 7

図版	番号	種別	器種	区名	出土地点	全長(cm)	全幅(cm)	胴長・外(cm)	胴長・内(cm)	胴幅(cm)	胴厚(cm)	釘長1(cm)	釘長2(cm)	釘幅(cm)	釘厚(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
123	M243	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 イ93上	23.7	7.4	23.2	19.8	1.9	1.2	5.2	5.4	1.1	0.9	400.0	199804-M146	刻印「連結○・□」
	M244	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト146	23.3	8.4	23.0	18.2	1.9	1.5	6.3	6.7	1.2	0.9	455.0	199804-M118	刻印「連結○」
	M245	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト角141(へ角75)上	23.1	7.9	22.5	18.5	1.7	1.5	6.0	4.9	1.0	0.9	425.0	199804-M129	再利用、刻印「○」
	M246	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト93上	22.8	8.2	21.8	18.8	1.7	1.5	6.1	6.0	1.1	1.0	485.0	199804-M126	再利用、刻印「○」
	M247	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ77上	22.6	9.0		19.5	2.1	1.5		6.7	1.0	1.1	530.0	199804-M142	再利用、刻印「○・不明」
	M248	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト106上	22.5		21.6	19.2	2.1	1.6			1.3	1.5	480.0	199804-M127	再利用、刻印「連結○」
	M249	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト21上	22.2	8.6	19.6	18.8	1.7	1.5	7.1	6.9	0.9	0.9	425.0	199804-M114	刻印「連結○」
	M250	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ127上-2	22.2	7.6	21.7	17.5	2.0	1.4	6.2	5.6	0.8	1.1	420.0	199804-M131	刻印「連結○」
	M251	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ24上	22.0			18.5	1.8	1.1			0.9	0.9	300.0	199804-M110	刻印「連結○」
	M252	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ角150(イ角198)上	21.8	9.7	21.1	18.5	2.2	1.5	7.2	7.0	0.8	1.0	510.0	199804-M133	刻印「連結○」
	M253	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト134	21.7	7.1		18.8	2.0	1.1	5.0		0.9	0.7	340.0	199804-M128	刻印「連結○」
	M254	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 チ251 4、5石目	21.6	6.7		18.4	2.0	1.2		4.8	1.0	0.9	350.0	199804-M151	再利用、刻印「不明」
	M255	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト209・210間の上	21.6	8.2	20.3	18.5	2.0	1.5	6.5	6.3	0.8	0.6	455.0	199804-M130	再利用、刻印「連結○」
	M256	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ118後の河原石上	21.6	7.8	21.5	17.6	1.9	1.7	5.8	6.2	0.8	0.8	465.0	199804-M144	再利用、連結○
124	M257	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 チ544・チ角545の間	21.5	8.2	20.5	18.4	1.9	1.2	5.3	5.9	0.9	0.9	420.0	199804-M155	刻印「連結○・不明」
	M258	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ24・22上	21.5	5.6		17.1	1.8	1.1		3.9	1.1	1.0	275.0	199804-M109	再利用、刻印「連結○」
	M259	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ62上	21.4	7.7		17.2	1.9	1.2		6.2	1.1	1.1	350.0	199804-M134	刻印「連結○・○」
	M260	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ角121(イ角164)上	21.2	5.9	19.9	18.5	1.7	1.2	4.4	3.8	1.0	0.9	395.0	199804-M137	刻印「連結○」
	M261	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ34上	21.2	9.2	20.4	17.6	2.2	1.4	7.0	5.9	1.0	0.8	490.0	199804-M111	再利用、刻印「連結○?」
	M262	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ147上	21.1	7.9	19.6	18.0	2.0	1.4	5.6	5.3	1.2	1.0	410.0	199804-M132	刻印「不明」
	M263	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ11上	21.0	5.7		17.6	1.8	1.2		4.7	1.1	0.9	285.0	199804-M108	再利用、刻印「連結○」
	M264	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ角50(イ角40)上	21.0	9.1	18.8	17.2	1.9	1.3	6.7	6.3	1.1	1.2	450.0	199804-M112	再利用、刻印「○2つ」
	M265	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト85後	21.0	7.7	20.7	16.8	1.8	1.3	5.9	5.9	1.1	1.1	340.0	199804-M125	再利用、刻印「連結○」
	M266	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ47上	20.9	8.7	19.5	17.4	2.0	1.4	6.7	6.7	0.9	1.1	470.0	199804-M141	再利用、刻印「連結○」
	M267	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ角74(イ角92)上	20.8	8.5	18.6	17.6	1.7	1.5	6.6	6.8	1.0	0.8	420.0	199804-M135	刻印「連結○2つ・□」4章5節試22
	M268	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ角36(ト角91)上	20.4	6.4	20.1	16.5	1.9	1.1	4.1	3.5	1.3	0.9	265.0	199804-M106	再利用、刻印「連結○」
	M269	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト角193(へ角93)上	20.3	8.7	19.8	16.0	1.9	1.2	6.8	6.9	1.0	1.0	350.0	199804-M119	再利用、刻印「連結○」
	M270	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 チ326上	19.9			16.1	2.0	1.4			1.2	1.0	370.0	199804-M152	刻印「連結○?」
125	M271	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト108上	19.8	7.8	19.5	15.4	1.7	1.6	5.7	5.6	1.2	0.9	380.0	199804-M116	刻印「連結○」
	M272	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト135上の介石上	19.7	7.2	18.1	15.9	2.4	2.2			1.6	1.2	340.0	199804-M117	刻印「連結○」
	M273	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 チ433上	19.5	6.3	18.9	17.0	1.8	1.0	4.6	4.8	0.9	0.7	245.0	199804-M154	刻印「不明」
	M274	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 チ346上	19.5	6.1	19.0	16.3	1.9	1.1	4.0	4.2	1.0	0.8	260.0	199804-M153	再利用、刻印「連結○・□」
	M275	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト279上	19.1			15.9	1.9	1.1			0.9	0.9	285.0	199804-M122	刻印「連結○・□」
	M276	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト114上取り上げNo.3/3	19.1	7.0	18.4	16.2	1.7	1.1	5.0	4.8	0.9	0.6	265.0	199804-M148	再利用、刻印「連結○」
	M277	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 イ24上	19.1	6.4	17.8	15.7	1.9	1.2	4.1	4.6	1.2	1.2	285.0	199804-M138	刻印「一」
	M278	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト14上	18.9	7.6	16.9	15.7	2.0	1.3	5.6	5.4	0.9	0.7	340.0	199804-M113	再利用、刻印「連結○・□」
	M279	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト217上	18.7	7.7	15.6	15.4	1.9	1.4	5.6	5.8	0.9	0.8	350.0	199804-M121	再利用、刻印「連結○・□」
	M280	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 ト108上	18.6	8.0	16.7	15.3	1.8	1.3	5.3	5.8	1.3	1.3	365.0	199804-M115	刻印「連結○・□」
	M281	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 チ220上	18.5	8.6	17.5	15.9	1.8	1.3	6.2	6.2	0.8	0.9	315.0	199804-M150	再利用、刻印「連結○」
	M282	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ10上南	18.4	6.2	17.6	16.1	1.5	1.0	4.3	4.3	0.7	0.7	205.0	199804-M136	刻印「連結○・○十」
	M283	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 チ141上	18.2	6.5	17.6	15.5	1.7	1.0	4.6	4.8	0.9	0.8	220.0	199804-M149	再利用、刻印「連結○・□」
	M284	鉄	敷金(鎹)	櫓(長屋)台内部	続櫓 へ62上	18.2	7.9	16.0	15.0	1.8	1.3	5.8	5.0	0.9	0.9	345.0	199804-M107	刻印「連結○・□」

第42表　出土遺物観察表　金属製品８

図版	番号	種別	器種	区名	出土地点	全長 (cm)	全幅 (cm)	胴長・外 (cm)	胴長・内 (cm)	胴幅 (cm)	胴厚 (cm)	釘長1 (cm)	釘長2 (cm)	釘幅 (cm)	釘厚 (cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
126	M285	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 イ角75(へ角64)上	18.2	6.0	17.8	15.2	2.0	1.0	3.8	4.3	0.9	0.8	260.0	199804-M145	刻印「連結○・二重丸」
	M286	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 ト角193(へ角93)上	17.6	7.5	16.9	14.8	1.9	1.2	5.0	5.2	0.9	0.8	285.0	199804-M120	刻印「連結○?」
	M287	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 ト114上 取り上げNo.2/3	17.3	7.7	16.3	13.8	2.0	1.1	5.7	5.9	1.0	1.2	340.0	199804-M147	刻印「連結○、○十?」
	M288	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 イ179	16.9	4.1	16.5	13.9	1.2	0.9	3.1	3.8	0.7	0.8	120.0	199804-M156	
	M289	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 ト13	10.75+	5.9			1.7	1.0	4.1		1.0	0.8	140.0	199804-M123	
	M290	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 へ角74(イ角92)上	10.7+	6.0			1.8	1.0		4.2	0.8	0.7	120.0	199804-M140	
	M291	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 へ角74(イ角92)上	9.1+	6.3			1.7	1.0		4.6	0.9	0.7	120.0	199804-M139	再利用、刻印「□?」
	M292	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 へ114上				17.5	2.0	1.2			1.2	1.0	300.0	199804-M143	再利用、刻印「不明」
	M293	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	続槽 ト62上		7.6		17.8	1.8	1.5	5.5		1.1	1.3	410.0	199804-M124	
	M294	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	五十間長屋北 ヌ-81上	24.3	7.4	23.4	20.9	1.9	1.1	5.0	4.8	1.1	0.9	374.5	199804-M097	
	M295	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ202上	24.3	9.0	23.0	20.9	2.1	1.4	6.3	4.6	1.5	0.9	504.5	199804-M091	刻印?「魚?」
	M296	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ202上	23.5	8.5	23.4	18.6	2.2	1.5	6.0	6.2	1.3	1.0	454.3	199804-M092	
	M297	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 オ94上	23.3	8.5	20.4	18.0	2.2	1.1	6.5	6.0	1.4	0.9	325.9	199804-M095	
	M298	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ角203(ホ角73)上	23.3	8.4	22.7	18.0	2.1	1.5	6.2	6.1	1.1	1.0	515.9	199804-M157	4章4節試2
	M299	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ホ100上	23.1	8.5	22.0	19.0	2.5	1.5	6.1	5.5	1.5	1.4	473.7	199804-M084	
127	M300	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ホ100上	22.0	8.0	21.0	18.8	1.8	1.2	5.9	6.5	1.2	1.0	364.4	199804-M086	
	M301	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	五十間長屋北 ヌ-174上	21.6	8.1	20.7	17.0	2.1	1.5	5.8	5.6	1.1	1.1	411.8	199804-M099	
	M302	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ル-角11(オ角58)上	21.5	6.8	20.6	18.5	1.2	1.9	5.6	5.2	1.1	1.7	261.2	199804-M094	
	M303	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ホ100上	21.4	7.9	20.9	17.4	2.0	1.7	5.4	5.0	1.2	1.0	336.7	199804-M085	
	M304	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ角203(ホ角73)上	20.1	9.2	18.7	16.6	1.8	1.2	6.7	6.2	1.2	0.8	344.5	199804-M090	
	M305	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ139上	19.3	8.4	17.9	15.6	2.1	1.3	5.7	5.7	1.3	1.0	341.6	199804-M089	4章5節試23
	M306	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	五十間長屋北 ヌ-172上	18.8	6.8	18.3	15.0	1.8	1.2	4.9	4.4	1.1	1.0	257.3	199804-M098	
	M307	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ角99(ホ角27)上	18.6	5.3	18.2	16.1	1.4	0.8	3.3	3.7	0.8	0.7	127.8	199804-M087	
	M308	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ角99(ホ角27)上	17.6	5.5	16.7	15.2	1.2	1.1	3.7	3.5	0.9	0.8	147.2	199804-M088	
	M309	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	菱槽 ル-角11(オ角58)上	19.6	8.6	19.0	16.7	1.7	1.3	6.0	5.4	0.9	1.0	252.8	199804-M093	
	M310	鉄	敷金(鎹)	槽(長屋)台内部	五十間長屋北 ツ59上	15.5	5.8	15.0	13.0	1.6	1.4	3.9	3.7	11.0	0.7	140.3	199804-M096	刻印?「□?」

第43表　出土遺物観察表　金属製品９

図版	番号	種別	器種	区名	出土地点	計測1(cm)	計測2(cm)	計測3(cm)	計測4(cm)	計測5(cm)	計測6(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
128	M311	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ202上	13.7	13.4	18.0	18.2	3.5	0.9	3960.0	199804-M081	
	M312	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ角203上	13.4	12.5	16.0	16.0	3.3	0.4	3630.0	199804-M079	
	M313	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	五十間長屋北 刈174上	14.3	12.5	15.0	15.2	3.7	0.6	3755.0	199804-M082	
	M314	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ98上	14.0	12.9	15.0	15.0	3.4	0.5	3300.0	199804-M075	
	M315	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 ホ70上	13.3	13.2	14.5	14.6	3.2	0.5	3185.7	199804-M158	4章第4節試1
	M316	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽（東北隅)3石目 天ニ-18②	13.5	12.9	13.6	13.5	2.2	0.1	2300.0	199804-槽M002	
	M317	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 5石目 ホ41-1	12.4	12.15	12.3	12.4	2.6	0.5	2100.0	199804-槽M001	
	M318	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ角99・ホ角27上	9.5	8.8	13.8	13.8	2.2	0.6	1615.0	199804-M076	
	M319	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 ル12上	9.3	8.4	12.7	12.8	1.9	0.5	1320.0	199804-M080	
129	M320	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 ニ角203上	9.2	9.5	12.0	12.0	2.2	0.5	1090.0	199804-M078	
	M321	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	菱槽 ホ43上	9.0	8.6	12.4	12.0	2.0	0.5	1250.0	199804-M077	
	M322	鉄	鉄金(楔形)	槽(長屋)台内部	五十間長屋南 ロ396上	4.5	4.7	8.0	8.3	1.4	0.5	245.0	199804-M083	

図版	番号	種別	器種	区名	出土地点	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	ID(実測番号)	特記事項
129	M323	鉄	バネ状製品	槽(長屋)台内部	鐘爪門続槽台 チ134後下	5.5	6.1	0.6	60.3	199804-M025	
	M324	鉄	バネ状製品	槽(長屋)台内部	鐘爪門続槽台 チ517後北東周辺	5.2	4.9	0.8	68.9	199804-M026	4章5節試21
	M325	鉄	バネ状製品	槽(長屋)台内部	鐘爪門続槽台 チ542下	4.7	5.0	0.7	52.2	199804-M028	
	M326	鉛系	円板状製品	長屋台下層	V面以下 SP9・10間	2.6	2.8	0.3	10.9	199804-M003	鉛・錫合金 4章5節試11
	M327	銅系	棒状製品	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9・10間	8.3	0.6	0.3	3.6	199804-M015	銅 4章5節試10
	M328	鉛系	円板状製品	長屋台下層	VI面 SX02	2.5	2.5	0.2	10.3	199804-M002	中央に孔 鉛 4章5節試12
	M329	鉄	棒状製品	長屋台下層	VI面 SD01 下部 SP9以北	7.0	1.3	0.3	7.7	199804-M016	

第44表　出土遺物観察表　石製品1

図版	番号	器種	地区	出土地点	寸法	石質	ID(実測番号)	特記事項
130	S001	硯	二ノ丸内堀 本体	内堀 上部 1997-1区	長12.4cm 幅6.1cm 厚2.0cm 重量313.5g	粘板岩(灰)	199701-S001	「本多由雄」刻書
	S002	硯	二ノ丸内堀 西部北岸～中央部東岸北端	土羽貼付土～盛土	厚0.8cm 重量138g	粘板岩(灰)	199901-S001	刻書、墨付着、「□□分」、タール状付着物
	S003	硯	櫓(長屋)台内部	五十間長屋北Ⅱ区	厚1.7cm 重量34.0g	粘板岩(黒灰)	199804-S046	
	S004	硯	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP10以南	重量15.1g	粘板岩(灰)	199804-S048	
	S005	硯	長屋台下層	VI面 sp7以南	厚0.4cm 重量7.0g	粘板岩(黒灰)	199804-S003	黒色付着物(墨?)
	S006	砥石	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅲ面直上層 SP10以南	厚2.3cm 重量95.0g	粘板岩?(淡赤褐)	199804-S047	右側面顔料?
	S007	砥石	長屋台下層	VI面 SD01上部 SP9・10間	最大幅3.5cm 重量36.0g	粘板岩?(淡黄緑)	199804-S002	側面擦目
131	S008	石臼(下臼)	二ノ丸内堀 石垣	五十間長屋台石垣東面(2120E) 1997-2区	最大幅31.0cm 最大厚7.5cm 重量2.4kg	火山礫凝灰岩B(緑)	199701-S004	反時計方向目
	S009	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 13段目裏込	最大高11.2cm 最大幅30.6cm 挽き手孔幅2.9cm 挽き手深5.4cm 重量4.25kg	凝灰角礫岩F(桑山石 暗黄褐)	199804-S021	反時計方向目
	S010	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 14段目(石垣)-244間辺)裏込	最大高12.7cm 最大幅34.5cm 重量3.1kg	火山礫凝灰岩B(淡緑灰)	199804-S040	反時計方向目
	S011	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 14段目裏込	最大高12.7cm 最大幅32.4cm 挽き手孔幅3.4cm 挽き手孔深4.6cm 重量6.3kg	火山礫凝灰岩B(淡緑灰)	199804-S041	反時計方向目、目の摩耗著しい
	S012	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土	最大高8.3cm 最大幅28.2cm 挽き手孔幅2.1cm 挽き手深4.0cm 重量1.3kg	火山礫凝灰岩B(淡緑灰)	199804-S019	煤付着、目の摩耗著しい
	S013	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 I-215押石2	最大幅41cm 重量2.55kg	火山礫凝灰岩B(淡緑灰)	199804-S005	反時計方向目、
	S014	石臼(下臼)	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 13～14段目裏込	最大高8.8cm 最大幅29.9cm 重量4.25kg	火山礫凝灰岩C1(緑)	199804-S042	側面被熱、目の摩耗著しい
132	S015	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 北半	最大幅21.8cm 重量500g	火山礫凝灰岩B(淡黄緑灰)	199804-S044	側面研磨
	S016	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 ㅁ1471周辺裏込	重量1.45kg	安山岩?(淡灰褐)	199804-S032	反時計方向目
	S017	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土	最大幅30.6cm 挽き手孔深4.0cm 重量3.3kg	安山岩(戸室石 青)	199804-S033	反時計方向目
	S018	石臼(下臼)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 3段目裏込	最大高8.9cm 最大幅29.7cm 重量1.8kg	火山礫凝灰岩A4(淡緑)	199804-S031	
	S019	石臼(下臼)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 ㅁ1050周辺裏込	最大高8.9cm 最大幅33.0cm 重量2.6kg	火山礫凝灰岩B(淡緑灰)	199804-S029	
	S020	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 裏文期造成土(栗石) 北Ⅰ区	最大高12.2cm 最大幅30.6cm 挽き手孔幅3.1cm 挽き手孔深4.0cm 重量2.6kg	凝灰角礫岩F(桑山石 黒灰・茶褐)	199804-S037	
	S021	石臼(下臼)	櫓(長屋)台内部	菱櫓台 6段目裏込	最大幅27.0cm 重量3.3kg	安山岩?(黒褐) 緻極少	199804-S038	反時計方向目
	S022	石臼(上臼)	櫓(長屋)台内部	菱櫓台 裏文期造成土(栗石) 南	最大幅27.0cm 挽き手孔幅2.4cm 挽き手孔深4.3cm 重量2.65kg	火山礫凝灰岩A4(淡緑)	199804-S036	反時計方向目
	S023	石臼(下臼)	櫓(長屋)台内部	詳細地点不明	最大高15.45cm 最大幅35.1cm 重量13.3kg	火山礫凝灰岩B(淡緑灰)	199804-追S001	反時計方向目
133	S024	茶臼	二ノ丸内堀 本体	内堀 底面 1997-2区	最大径38.2cm 最大高11.1cm 底径29.0cm 重量3.35kg	安山岩(暗黄灰～灰褐) 白色粒多い	199701-S005	外面丁寧な横方向の研磨痕
	S025	茶臼	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 3段目裏込 南半	最大高12.4cm 底径31.3cm 重量7.9kg	凝灰角礫岩F(桑山石 暗黄褐～淡褐)	199804-S027	反時計方向目、外面研磨
	S026	茶臼	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅱ区	最大高10.0cm 底径27.3cm 重量4.25kg	火山礫凝灰岩D(淡赤褐～淡褐)	199804-S007	
	S027	茶臼	櫓(長屋)台内部	菱櫓古段階 礎盤(根石)ノ周辺栗石	最大高11.3cm 底径29.3cm 重量6.45kg	安山岩(暗黄灰～灰褐) 白色粒多い	199804-S026	反時計方向目(八分画?)、外面丁寧な横方向の研磨痕
134	S028	石鉢	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 12段目裏込	重量1.0kg	火山礫凝灰岩A2(淡緑)	199804-S017	方形
	S029	石鉢	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 14段目裏込	(口径51.8cm) 重量3.1kg	火山礫凝灰岩C2(淡黄灰)	199804-S043	
	S030	石鉢	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 14段目裏込	底径27.4cm 重量15.55kg	火山礫凝灰岩C2(褐灰)	199804-S010	外面ツル、内面ツル+チョウナ?
	S031	石鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 ㅁ303周辺裏込	底径27.8cm 重量8.55kg	火山礫凝灰岩C1(褐灰)	199804-S028	外面ツル、内面ツル+チョウナ?
	S032	石鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 SP10	底径23.5cm 重量7.1kg	火山礫凝灰岩C1(淡黄褐灰)	199804-S011	外面ツル、内面ツル+チョウナ+平滑調整?
	S033	石鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 宝暦期造成土 Ⅱ区	重量200g	火山礫凝灰岩A1(淡褐灰)	199804-S045	内部仕切り有り
	S034	石鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 Ⅳ面相当 宝暦期造成土 SP10以南	孔径9.1cm 最大高8.8cm 最大幅13.2cm 重量1.5kg	安山岩(戸室石 赤)	199804-S006	作り出し三脚
	S035	石鉢	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 ﾘ44・46間辺裏込	(口径49.5cm) 重量2.75kg	火山礫凝灰岩A4(淡青灰)	199804-S039	外面ツル、内面ツル+チョウナ

第45表　出土遺物観察表　石製品2

図版	番号	器種	出土地区	出土地点	法量	石質	ID(実測番号)	特記事項
135	S036	行火の蓋	長屋台下層	VI面 SP9以北	最大長16.0cm 厚4.1cm 重量600g	軽石凝灰岩G(灰白)	199804-S001	
	S037	砥材	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土	重量2.05kg	軽石凝灰岩H(鷹巣石 灰白)	199804-S020	全体的に火を受けている
	S038	砥材	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 4段目裏込	重量650g	軽石凝灰岩H(鷹巣石 淡赤褐～灰白)	199804-S030	上部に鉛?
	S039	砥材	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 チB4周辺裏込	最大長14.9cm 重量1.75kg	軽石凝灰岩H(鷹巣石 淡黄白)	199804-S035	タール状のもの部分的に付着、自然釉のような光沢、火を受けている
	S040	砥材	地点不明		遺存長37.5cm 遺存幅22.3cm 遺存高14.1cm 重量10.75kg	軽石凝灰岩H(鷹巣石 灰白)	199804-S014	主面平滑調整、弧状側面チョウナ、裏面ツル
136	S041	板状部材	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 北面11段目裏込	最大厚7.5cm 重量2.65kg	軽石凝灰岩J(淡青緑灰)	199804-S008	両面ツル痕
	S042	板状部材	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土	最大厚6.9cm 重量3.3kg	軽石凝灰岩H(鷹巣石 淡黄緑白)	199804-S023	主面平滑調整、裏面ツル
	S043	板状部材	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土	最大厚6.15cm 重量1.95kg	軽石凝灰岩H(鷹巣石 淡黄緑白)	199804-S024	主面ツル+チョウナ+平滑調整、主面ツル
	S044	板状部材	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 文化期造成土	最大厚8.6cm 重量5.0kg	軽石凝灰岩H(鷹川石 淡赤褐～黄白)	199804-S025	主面点状ノミ、平滑調整、裏面ツル
	S045	石玉?	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 13～14段目裏込	重量550g	火山礫凝灰岩A(青緑)	199804-S018	主面ツル+平滑調整?、裏面ツル
137	S046	不明	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 6段目上面青後	最大長10.0cm 重量6.05kg	安山岩(戸室石 赤)	199804-S009	礎石ないし石垣転用鉢?
	S047	礎石	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台	幅21.8cm 高21.9cm ほぞ孔幅3.6cm ほぞ孔深1.5cm 重量11.35kg	安山岩(戸室石 赤)	199804-S016	上面平滑調整、側面コタタキ、下面ツル
	S048	礎石	地点不明		上幅13.8cm 下幅19.8cm 高15.9cm ほぞ孔幅4.0cm ほぞ孔深2.7cm 重量9.0kg	安山岩(戸室石 赤)	199804-S015	上面・側面上部平滑調整、側面下部・下面ツル
	S049	墨書石	櫓(長屋)台内部	櫓爪門続櫓台 陥没坑流入土	重量950g	(凝石)	199804-S022	
138	S050	石垣材残欠	櫓(長屋)台内部	地点不明	重量5.3kg	安山岩(戸室石 赤)	199804-S012	刻印
	S051	石垣材	櫓(長屋)台内部	地点不明	遺存長29.0cm 遺存幅20.2cm 遺存高10.5cm 重量11.5kg	安山岩(戸室石 赤～青)	199804-S013	刻印「▽・」、被熱痕
	S052	石垣材残欠	櫓(長屋)台内部	表採	重量500g	安山岩(戸室石 青)	199804-S004	朱書(ベンガラ)
	S053	五輪塔水輪	櫓(長屋)台上面	菱櫓 1997-3区	長20.3cm 幅19.1cm 厚15.6cm 側面孔最横6.6cm×7.5cm 深5.5cm 重量7.9kg	火山礫凝灰岩E(黄褐場～黄灰白)	199701-S003	側面にホゾ状の穴、転用か
139	S054	文字刻石(継始刻石)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 角ハ1青後	1辺15.0～16.0cm 重量7.4kg	安山岩(戸室石 赤)	199804-N001	銘:上面「宝暦十三年癸未 継始 六月廿五日」(1763) 下面「継始」 上面平滑調整 他面ツル+チョウナ
	S055	文字刻石(継始刻石)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 角ハ1青後	1辺15.0～16.5cm 重量7.3kg	安山岩(戸室石 青)	199804-N002	銘:上面「宝暦十三年癸未 継始 六月廿五日」(1763) 下面「継始」 上面平滑調整 他面ツル+チョウナ
140	S056	文字刻石(御用刻石)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 ロ0922後	幅45.2cm 長78.2cm (厚30cm)	(川原石)	199804-追S002	刻印「○に十」「御用」
	S057	文字刻石(御用刻石)	櫓(長屋)台内部	五十間長屋台 ロ1147後	幅42.2cm 長50.2cm (厚25cm)	安山岩(戸室石 赤)	199804-追S003	刻印「○に十」「御用」

火山礫凝灰岩		
A1	1mm以上の粗砂・礫はとんど見られない　硬質　淡褐灰色	笏谷石・滝が原石他
A2	1mm以上の粗砂・礫はとんど見られない　硬質　淡緑色	
A3	1～2mmの粗砂若干目立つ　青緑色	
A4	1～2mmの粗砂若干目立つ　淡緑・淡青色	
B	1cm以下の沢白・灰褐・緑色粗砂・礫多く混じる　淡緑灰色等	
C1	1cm以上の沢白・灰褐・緑色礫多く混じる　淡緑灰・淡青褐・褐灰色	
C2	1～2cm以上の沢白色礫極めて多く混じる　褐灰色	
D	1cm以下の黒・灰白色粗砂・礫多く混じる　淡赤褐～淡褐色	
E	1cm以下の粗砂・礫多く混じる　黄橙褐～黄灰白色	

凝灰角礫岩		
F	1cm以上の黒色礫多く混じる　暗黄褐色等	桑山石
軽石質凝灰岩		
G	粗砂・礫はとんど見られない　灰白色	
H	黒色不定形粗砂・礫目立つ　灰白色	鷹巣石
I	粗砂・礫はとんど見られない　灰白色+淡赤褐色	鶴川石
J	粗石分多く混じる　淡青緑灰色	